

ヲ設ケマシタ、其種鶏場ヲ設置シテ農村ニ養鶏ヲ獎勵致シマシタ結果、現在此二千万圓ノ輸入ヲ防遏致シマシテ、却テ輸出ノ現狀デアリマス、又先年小麥ノ輸入ヲ妨グ爲二百五十万圓ヲ使ツテ、三百万石ノ増産計畫ヲ爲シマシタ所、五年足ラズシテ三百万石ノ増産ヲ見ルコトガ出來マシタ、先刻ハ此三百万石増産致シタ爲ニ、一方デハ却テ他ノ農産品ノ輸入ヲ來シテ居ルデハナイカト云フ御質問モアツタヤウデアリマスルガ、是ハ或ハ養鶏ノ飼料費等ハ増加致シタカモ知レマセヌガ、小麥ダケハ完全ニ征服スルコトガ出來タノデアリマス、今ヤ庶政一新ノ際、政府ニ於テ此確乎不動ノ指導方針ヲ立テラレタナラバ、此農村問題ハ解決ガ出來ルト思ヒマス、産業立國ノ大方針ノ下ニ以上私ガ申シマシタル所ノ重要問題ノ解決ニ勇往邁進セラレンコトヲ要望シテ已マナイ次第デアリマスルガ、之ニ對スル所ノ、當局ハ果シテ、此大方針ヲ遂行スル所ノ勇氣ガアルカ否ヤ、是ハ廣田總理大臣ニ特ニ御願シテ置ク次第デアリマス、以上私ノ質問ニ對シマシテハ、總理大臣又所管大臣ヨリ曩ニ申上ゲマシタ通り、率直簡明ニ御答辯下サランコトヲ特ニ切望致ス次第デアリマス

廣田内閣總理大臣ノ應答

只今三善君ヨリ農林ニ關スル各種ノ適切ナル問題ニ付テ御質問ヲ承リマシタ、其中ニ滿洲ノ米作ノコトニ付テ、特ニ御質問ニ相成ツタノデアリマスルガ、御承知ノ通り滿洲ト日本トハ經濟上共存共榮ノ政策ヲ執ツテ參ルコトニナツテ居リマシテ、如何ナル事業ヲ滿洲ト興スコトガ適當デアリヤト云フ點ニ付キマシテハ、過去ニ於テモソレハ協議ヲ致シテ居ルコトモアリマシテ、現在ノ打合セノ結果ニ依リマス、滿洲國ニ於テハ米ノ生産ヲ助長スル政策ハ執ツテ居ラナイト承知致シテ居リマス、尙ホ只今御述ベニナリマシタ各種ノ問題ニ付キマシテハ、ソレゾレ關係大臣ヨリ答辯スルコトト存ジマスガ、非常ニ重要ナルコトデ、出來ルダケ實行シ得ルヤウニ研究シテ參リタイト思ッテ居ルノデアリマス

馬場大藏大臣ノ應答

三善君ノ御尋ノ中デ大藏省關係ノコトニ付キマシテ、御答ヲ申上ゲマス、其前ニ私退席ヲ致シテ居リマシテ、開漏ラシタ點ガアルカモ知レマセヌガ、農家ノ負債整理ノコトモ御質問ガ私ニアツタヤウニ存ジマスルガ、是ハ殊ニ困難ナ問題デアリマス、現在ト致シマシテハ農村負債整理組合ヲ作リマシテ、之ニ對シテ預金部ノ低利資金ヲ供給致シテ、農家ノ負債整理ヲ進捗セシメテ居ルノデアリマスルガ、是ハ御承知ノ通り預金部デハ低利資金ノ供給ヲ致スベク待構ヘテ居ルニモ拘ラズ、實際ハ農村ニ於テノ負債整理組合ガ思フヤウニ設立致サレマセヌ、又設立致サレマシテモ、容易ニ資金ノ配給ガ出來ナイヤウナ事情ニアルヤウデアリマス、之ニハ色々ノ點ガアルト思ヒマス、私就任以來聞キ及ブ所ニ依リマス、此負債整理組合ノ指導ト云フコトニ付テ今日迄ハ非常ニ缺點ガアルヤウニ思ハレルノデアリマス、此點ハ今後此農村ノ負債整理ノ組合ノ指導ニ付キマシテ、十分府縣其他ノ當局ニ於キマシテ力ヲ致サナケレバ容易ニ進ムマイト存ジマス、ソレハ私共事實ヲ段々ニ調べテ見テ、隨分此負債整理組合ノ現狀ニハ驚キ入ツタモノガ多數アルノデアリマス、併ナガラソレニ致シマシテモ、農家ノ負債整理ハ此負債整理組合ダケデ果シテ行クカドウカ、是非常ニムヅカシイ問題ト存ジマス、農林省ニ於カレマシテモ色々今研究サレテ居ルヤウデアリマス、現ニ今回法律案ハ出テ居リマスガ、是ハ年限ノ延長ダケデアリマシテ、多分次ノ議會ニ農林省カラ適當ナ改正案ガ出ルデアラウト私ハ存ジテ居リマス、ソレカラ農村ノ負擔輕減問題ハ是ハ昨日私ガ此處デ述ベマシタ通り、ドウシテモ致サネバナラヌ問題デアリマス、此事ハ可ナリ研究サレテ居ル問題ナンデアリマス、併ナガラ私昨日申シマシタ通り、此事ヲ致シマスノニハ、中央地方ヲ通ジマシタ税制整理ニ依ルノ外ハ——依ルノ外ハデアリマセヌ、ソレヲ先ヅ致シテ掛ラネバナラヌト思フノデアリマス、今日迄ノ税制ニ依リマシテ農家ノ負擔ノ輕減ヲ圖ツテ行クト云フコトハ、餘程其處ニ衝突矛盾ガアルヤウデアリマス、勿論臨機ノ處置ト致シマシテ、臨時ノ財政補助金ヲ出シマスコトハ、是ハ現ニ此處ニ案ガ出テ居リマスガ、是デ固ヨリ不足デアラウト思ヒマス、思ヒマスガ、差掛ツテ現ニ税制ノ整理ニ著手致シテ居リマス、私ハ來年度ニ於テハ、即チ本年ノ通常議會ニ於テハ、案ヲ具シテ此處ニ提案出來ルト目下鋭意調査中デアリマスガ、萬



一ニモ中央地方ヲ通ジタ税制ニ付テ一貫シタ完全ナル案ガ出来マセヌヤウナ場合ガアリト致シ  
マスレバ、其時ハ此財政ノ補給金ト申シマスカ、補助金ト申シマスカ、云フモノヲ増スコトハ當  
然ナンデアリマス、唯此處ニ出シマシタノハ、現ニ左様致サウト云フ際デアリマスルカラ、コ  
一年間ダケハ此儘デ我慢ヲシテ戴キタイ、直チニ實行トカ考慮トカデアリマセヌ、現ニ調査ニ  
着手シテ居リマス、此幕ノ議會ニハ是非共出シタイト存ジテ居ルノデアリマス、決シテ此問題ヲ  
普通ノ場合ノ如ク調査研究ト云フノデアリマセヌカラ、左様ニ御諒承ヲ願ヒマス

潮内務大臣ノ應答

地方財政ノ補給金ノコトニ付テ御答ヲ申上ゲマスガ、大體ハ只今大藏大臣ノ御答辯ノ通りデゴ  
ザイマス、私共モ此二千万圓ヲ以テマシテ今日ノ窮乏町村ノ補給ノ爲ニ満足スベキ額トハ考  
テ居リマセヌケレドモ、差當リ本年度ノ臨時應急ノ施設ト致シマシテハ、町村稅總額ノ約一割位  
ニ當ルノデゴザイマスルカラ、之ヲ補給シテ、將來ノコトハ出来得ルダケ次ノ議會マデニ恆久的  
ノ策ヲ立テタイト思ッテ居ルノデアリマス、之ニ依リマシテ凡ソドウシテモ此補給金ヲ支給シ  
ナケレバナリマセヌト思ヒマスルノガ、全國ノ約半數ノ町村デアラウト思ヒマス、而モ御述ベニ  
ナリマシタ中ニ教育費ノ關係ナドモゴザイマスノデ、只今申上ゲマシタ全國約半數ト云フ町村  
以上ニ、ドウシテモ此教育費ノ關係、或ハ其他災害ノ關係デゴザイマストカ、色々特殊ノ關係ヲ  
見マシテ按排シ、交付スル必要ノアル町村モ殖エテ來ルダラウト思ヒマス、左様ニ致シマスレバ  
此二千万圓全額ガ、積極的ノ減稅ニ本年度充テラレヌ部分モ起ラウカト思ヒマスケレドモ、是ハ  
洵ニ遺憾デハゴザイマスガ、教育費其他ノ特別ノ事由ノアル町村ヲ救濟セザル譯ニ參リマセヌ  
ノデ、其邊ヲ斟酌致シマスルト、先ヅ十分トハ申サレヌガ、暫ク是デ我慢ヲシテ戴クト云フヨリ  
外ハナカラウト思ッテ居リマス

永田拓務大臣ノ應答

只今三善君ヨリ米穀ノ問題ニ付テ内地ト外地トノ關係ニ關シ何か旨イ方法ガナイカ、率直ニ申  
述ベロト云フコトデゴザイマシタガ、此問題ハ洵ニ困難ナ問題デアリマシテ、ドウモ私ノ智慧デ  
ハ餘リ旨イ方法ガゴザイマセヌ、御承知ノ通り極ク大摺ミニ考ヘテ見マシテ、内地デハ約一年ニ  
ハ七千万石消費スルトナツテ居リマス、サウシテ生産ノ統計ハ凡ソ六千万石デ、年々一千万  
石足リナイト云フヤウナコトニナツテ居リマスガ、之ニ對シテ朝鮮デハ先ヅ普通ニ一千七八百萬  
石出來ル、其中約八百万石ハ内地ニ移入シテ來ル、臺灣デハ凡ソ八九百万石出來ル、其中四五  
万石ハ何時モ移入シテ來ル、是ガ先ヅ普通ノ狀態デアリマシテ、此普通ノ狀態カラ見マスルト、  
内地ニ於テハ凡ソ一年ニ五百万石餘計ニナツテ來ルヤウナ計算ニナリマス、併ナガラ斯ウ云フ風  
ニ確定シテ何時モアルモノナラバ、物事が致シ易ウゴザイマスケレドモ、御承知ノ通り昭和八年  
ニハ七千万石以上内地デ米ガ出來タカト思ヒマスルト、其前ノ年ニハソレヨリモ一千九百万石モ  
先ヅ不作デアッタ、斯ウ云フヤウナコトニナルノデ、サウシマスルト、臺灣ヤ朝鮮カラモットウ  
ト持ッテ來ナクチャ足ラヌト云フヤウナ現狀ニナリマシテ此關係ガ非常ニ微妙ナ影響ヲ互ニ持ッ  
ノデアリマスルカラ、強チニ内地ノコトバカリヲ考ヘ、外地ヲ律スルト云フコトモ出來ナイノデ  
アリマス、朝鮮カラ申シマスレバ、彼ノ米騒動ノアリマシタ後ヲ承ケマシテ、朝鮮デハ産米增收  
計畫ヲ致シマシテ、是ナラバ内地ガ困ツタ時分ニ、内地ノオ役ニモ立タウト云フ譯デ、産米增收計  
畫ヲヤツテ居リマスルト云フト、今度ハ内地デハソソナニ米ヲ作ッテ吳レテハ困ルト云フヤウナ譯  
合デアリマシテ、遂ニ産米增收計畫ヲ中途デ打切ッテ、サウシテマダソレデモ米ガ多過ギルカラ、  
米ヲ作ルコトヲ止メテ、他ノ物ヲ作レ、斯ウ云フコトヲ言付ケテ、代作ノコトヲ考ヘテ居リマス、  
其代リニ何ヲ作ルカト言ヘバ、今デハ主トシテ棉ヲ作ルコトヲ獎勵シ、ソレカラ薩摩薯、馬鈴薯、  
豆ト云ッタヤウナ物ヲ作レト云フコトヲ強ヒテ居リマスルガ、倍テ其米ヲ作ル方ガヤハリ勘定ガ  
良イノデアリマシテ、一反ニ付テ、統計ニ依リマス、棉ヲ作ルヨリモ米ヲ作ル方ガ二十一圓位  
都合ガ好イト、斯ウ云フ譯デアリマシテ、斯ウ云フ際ニ強ヒテ代作ヲシロト云フコトヲ命ズル  
モ、中々心苦シイ譯デアリマス、斯ウ云フ心持ニ付テ朝鮮ノ方ノ側カラ申シマスレバ、内地ノ都合



バカリテ朝鮮ヲ律シテ貫ツテハ困ルト云フ心持ニナルノモ、是亦已ムヲ得ナイ氣持デアルト云フコトヲ、御諒解ヲ願ヒタイノデアリマス、又臺灣ニ於キマシテモ、ヤハリ餘リ澤山作ツチャイカヌト云フノデ、此頃ハ既ニ——昨年ハ八十二万石程、米ノ代作ヲ命ジマシタノデ、此爲ニ臺灣ノ人トシテハ、米ヲ作ル方ガ利益デアアルニモ拘ラズ、代作ニ依ツテ八十二万石程、先ヅ作ラズニ濟ンデ居ルヤウナコトデアリマス、斯ウ云フヤウナ工合デ、中々代作ト云フコトモ容易ナラヌノデアリマスルガ、併シ私ハ敢テ斯ウ云フ場合ニ朝鮮ヤ臺灣ガ内地ノ犠牲ニナッタトハ申シマセヌ、朝鮮ヤ臺灣ノ今日ノ發達ト云フモノハ、全ク内地ガ斯ノ如ク非常ナル發達ヲスレバコソ、朝鮮ヤ臺灣ニ於テ米ヲ作ツテモ賣レルノデアリマス、ダカラ内地ガ盛ニナルト云フコトハ、即チ朝鮮ヤ臺灣ガ盛ニナル所以デアルト考ヘマス、ダカラ唯當座勘定テ内地ノ犠牲ニナッタト云フヤウナ、サウ云フ近視眼的ノ考ヘ方ト云フモノヲスベキモノデナイ、是ハヤハリ内地モ外地モ一ツノ眼デ全部ヲ見テ、總テノコトヲ考ヘテ行クト云フ外ハナイノデアリマス、サウ云フ都合デアリマスルカラ、ドウカ諸君ニ於カレマシテモ、米ノ問題ハ唯外地カラ入ッテ來ル移入ヲ管理シロ、移入ヲ制限シロ、斯ウ云フコトダケデアリマス、餘リニ利害相反スル如キ觀察ヲ爲サラナイヤウニ、ドウカ希望言葉ガ過ギマスカラ取消シマス、餘リニ利害相反スル如キ觀察ヲ爲サラナイヤウニ、ドウカ希望致シマス、サウ云フ風ニ此豊作ト凶作ニ依ツテ、微妙ナル關係ガ起ルノデゴザイマスカラシテ、之ヲ如何ニ處置スベキカト云フ時分ニハ、ヤハリ過剰米ガアッタ時分ニ之ヲ相當ニ自治管理スル、此方法ハ私ハ是ハ完全無缺ノ——之ヲヤレバ何處ニモ苦情ガ起ラヌ、又ヤリ易イ方法ダト、決シテサウハ實ハ思ッテ居ラスノデアリマス、中々此方法モ相當困難ガ伴フト實ハサウ思ヒマス、サウ思ヒマスケレドモ、儲テ然ラバ米ノ專賣マデ行クカドウカト云フ言ヘバ、サウモ行キマセヌカラ、ドウカ此際ニハ米穀自治管理、斯ウ云フコトヲヤツテ見ルト云フコト以外ニ、ヤリヤウガナイダラウト思ヒマスカラ、此方法デアリマスカラ、宜シク願ヒマス

島田農林大臣ノ應答

三善君ノ御尋ノ中、農村負債整理組合法ノ事柄ニ付テハ、只今大藏大臣ノ御話モアリマシタガ、農漁山村ノ住民ノ莫大ナ負債ヲ、ドウ云フ風ニ處置シテ行クカト云フコトハ、是ハ農村振興更生ノ途上ニ於ケル根本ノ大問題デアアル、此大キナ問題ノ解決トシテハ、現行ノ負債整理組合法ノ規模ハ餘リニ小サイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、此事ニ付キマシテハ、吾々ハ豫テ考ヘ、又主張シテ居ル事柄モアリマスガ、取敢ズ差向ト致シマシテハ、先刻大藏大臣ガ申サレタヤウニ、現行ノ負債整理組合法ノ年限ヲ一應延バヌノ意味ノ法案ヲ、此議會ニ提出ヲ致シマシテ、根本ノ事柄ニ付テハ、次ノ議會マデニ考慮立案ヲ致シマシテ、協賛ヲ得ルヤウナ途ヲ立テタイト、斯様ニ考ヘテ居リマス、次ニ米價ノ問題ニ付キマシテ、外地米トノ關係ニ付キマシテハ、只今拓務大臣ガ大體申サレマシタガ、今日ノ米ニ關スル問題ト致シマシテハ、長イ間種々ナ點カラ種々ニ研究セラレマシテ、此議會ニ提案ヲシ、前議會ニ於テ不成立ニナリマシタ自治管理法案外三件ノ案ヲ成立セシメテ、之ヲ實行ニ移シテ、而シテ此米ニ對スル更ニ進ンダ根本ノ解決策ヲ立テル、此以外ニハ私ハ途ガナイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、此案ニ付キマシテハ何レ提案ヲ致シマシテ御高説ヲ聽キ、又御協賛ヲ願ヒタイト、斯様ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ蠶絲關係ノ問題ニ付キマシテ、販賣統制ノ事柄ニ付キマシテハ、三善君ノ御尋ノ點ハ御尤デアリマス、此議會ニ提案ヲ致シテ居リマスル原蠶種ノ問題、其他ノ問題ト合セマシテ、此販賣ノ統制ニ付テハ是亦相當ノ案ヲ得マシテ、協賛ヲ得ルノ途ヲ執リタイト、斯様ニ考ヘテ居リマス、其他農村ノ餘利能力ノ利用ニ關スル問題トシマシテ、關聯シテ林業ニ關スル事柄ニ付テハ御話ガアリマシタガ、何レモ御質問ニ現ハレタ御意見ハ洵ニ御尤ト存ジマスノデ、之ニ關シマシテハ矢張相當ノ研究ヲシ、之ヲ具體化致シマシテ、成ベク近イ機會ニ於キマシテ諸君ノ御協賛ヲ願フヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ畜産ニ關スル政策ニ付テ馬ノ問題ニ關シテ御意見ガアリマシタガ、馬政ノ第二次計畫ハ將ニ是カラ始マルコトニナリマシテ、本議會ニ競馬法ノ改正案ヲ提出スルノ順序ヲ致シテ居リマス、尙ホ第二次計畫ノ爲ニハ相當ナ經費ヲ計上シテ居ル次第デアリマスカラ、之ニ付キマシテ竝ニ此畜産政策ニ關シマシテハ、他ノ機會ニ於テ申上ゲルコトニ致シタイト考ヘテ居リマス、肥料ノ問題



ニ付キマシテハ商工大臣關係ガアリマスカラシテ、商工大臣ヨリ御答ヲ願フコトニ致シマス

小川商工大臣ノ應答

肥料ノ問題ニ付テ御尋ガアリマシタ、簡單ニ御答致シマス、安價ナル肥料ヲ農村ニ供給シナケレバナラヌコトハ三善君ノ御話ノ通りデアリマス、今回本院ニ提案セラレテ居リマス肥料業統制法ニ依リマスレバ、肥料製造組合ガ肥料販賣價格ヲ決定致シマシテ、其實施前ニ豫メ政府ニ届出テ、其承認ヲ受ケルト云フコトニナツテ居リマス、其價格ガ公正ナラザル時ニ政府ハ公益上必要ト認メル場合ニハ、之ヲ變更セシムルコトモ出來ルノデアリマス、此法案ハ肥料ノ消費者タル農民ニ對シマシテハ、隨分ニ之ヲ擁護シテ居ルコトニナツテ居リマス、硫酸ノ値ノ高イコトハ三善君ノ御話ノ通りデアリマス、是ハ硫酸ハ未ダ我國ニ於キマシテハ自給自足ノ域ニ達シテ居リマセヌ、其不足分ハ海外ヨリ仰イデ居リマス、海外ニハ窒素「カルテル」ガアリマシテ、ソレガ爲ニ値段モ高イコトニナツテ居ルト思フノデアリマス、我國ト致シマシテハ硫酸ノ自給自足ヲ圖ル必要ガアリマスト共ニ、又農民ニ取ツテ此價格ヲ安價ニシナケレバナラヌ、ソレニハ供給ヲ豐富ナラシメナケレバナラヌ、サウ云フ立場デ此法律ガ出來テ居リマス、幸ニ此法案ガ協賛ヲ得マシテ法律トナリマシタ時分ニハ、此法ノ精神ニ從ツテ運用ニ遺憾ナキヲ期シタイト思ツテ居リマス

寺内陸軍大臣ノ應答

只今御尋ニナリマシタ馬格ノ事ニ付キマシテ御答辯ヲ致シマス、只今ノ御説御尤ト傾聴致シマシタ、併ナガラ軍馬ハ各、其勞役ニ從ツテ適當ナル馬格ヲ備へ、其能力ヲ完全ニ發揮サセタイノデゴザイマス、必シモ大キイノミガ良イノデハゴザイマセヌ、勞役ニ依ツテハ小サイ馬モ必要デゴザイマス、是等ニ付キマシテハ、能ク馬政ノ局ニ當ラレマスル農林大臣トモ密接ニ聯繫ヲ致シマシテ、各種ノ方面ニ最モ宜シキヤウニ十分配慮ヲ致サウト思ヒマス、是デ御答辯ト致シマス

三善君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

甚ダ時間ヲ取リマシテ恐縮ニ思ヒマスケレドモガ、各大臣ノ御答辯ガ十分満足スルコトガ出來ナイノデアリマスルガ故ニ、再ビ茲ニ登壇ヲ御許願ツタヤウナ次第デアリマス、先ヅ總理大臣ハ率直ニ申シマスレバ、米ニ對シテノ認識ガナイト、斯ウ私ハ一言ニシテ言ツテ宜シイト思ヒマス、何故カト申シマスルナラバ、滿洲ニハ米ノ助長政策ハ執ツテ居ラヌト言ハレル、助長政策ヲ執ツタ日ニハ是ハ堪ッタモノデハナイ、放任シテ居ラレ、バコソ先ニモ拓務大臣モ言ハレタヤウニ、ヤハリ百姓ト云フモノハ利益ノアル作物デナイト作リマセヌ、放任スレバコソ米ヲ作ツテ來マスルガ故ニ、其點私共ガ一番心配スル所デアリマス、總理大臣ガ此點ニ認識ガアルナラバ、放任サレテ置ク譯ニハ行カヌ、勿論助長政策ヲ執ラレルガ如キハ、絕對ニ罷リナラヌコトデアルト思ヒマスルガ故ニ、私ハ滿洲ニ對シテハ滿洲ニ必要ナル米ハ御作りニナツテモ宜シイト思ヒマスルケレドモガ、滿洲ニ必要以上ノ米ハ作ラナイヤウニ、或ハ許可制度トカ何カノ制限の方針ヲ御執リニナラナケレバイカナイ、イヤ之ヲ御笑ヒニナルケレドモガ、ソレヲ御笑ヒニナル方ハ一度ビ選舉區ニ歸ツテ、何ノ面目アツテ選舉人ニ顔ヲ御合セニナルカ、私ノ此言葉ヲソナ考ヲ以テ外國デアル勿論外國デス、外國ダカラ自由ニハ出來マセヌ、出來マセヌケレドモガ、共存共榮ノ實ヲ擧グル上ニ付キマシテハ、是ハ協議ノ上ニ何トカナルベキモノデアアル、ソレヲ努ムルコトガ絕對必要デナケレバナラヌト私ハ思フノデアリマス、唯滿洲ニ對シテハ助長政策ヲ執ツテ居ラヌト云フヤウナ心理ヲ以テ米ノ問題ヲ御解決ニナルナラバ、米ニ對シテ餘リニ認識不足ダト私ハ思ツテ居ルノデアリマス、負債整理組合ノコトニ付キマシテハ、大藏大臣ヨリ今マデノ指導ガ十分デナイト言ハレマシタ、固ヨリ指導ニモ缺陷ガアリマセウケレドモガ、組織其モノニ缺陷ガアルコトハ、是ハ隠レモナイコトデアルト思ヒマス、併ナガラ之ニ對シテハ改正ヲスルト云フコトデアリマスルガ故ニ、此通常議會ニハ恐ラク改正ニナルト思ハレマスルガ、斷乎トシテ之ヲ御改正ニナルコトヲ望ンデ置ク次第デアリマス、地方財政補整交付金ノコトニ付キマシテハ、是ハ財政行政ノ整理ヲシテ、此通常議會ニハ提案スル運ビニナルト言ハレマスルガ、萬一出來ナイ時ニハ増額ヲス



ル、斯ウ言ハレマスルガ、増額ノ程度デアリマス、是ハ少クとも六千万圓ヲ下ラザル増額ガ必要デアルト思ヒマスルガ故ニ、此點ハ特ニ御願致シテ置ク次第デアリマス、尙ホ拓務大臣ハ曩ニ米ノ問題ニ付キマシテ、米ハ豐作モアレバ、或ハ非常ナ飢饉モアルノデ、剩ルカト思ヘバ、又足ラナイ、中々此米ノ問題ハ難カシイト言ハレマシタケレドモガ、是ハ既ニ農林省其モノガ十箇年ノ平均ヲ取ツテ、過去ノ成績カラ五百萬石ハ餘ルト云フコトヲ發表シテ居ラレル、拓務大臣ハ此農林省ノ發表ヲ否認セラレルノデアルカドウカ、否認セラレナイト云フコトニナレバ、ヤハリ米ハ餘ルト云フ頭ノ下ニ解決スル方法ヲ考ヘラレナケレバ、ナラヌト私ハ思フノデアリマス、此點ハ拓務大臣ハ特ニ米ノ問題ニ對シテ、モウ少シ御勉強ガ必要ダト私ハ思フノデアリマス、尙ホ拓務大臣ハ只今米ト棉トヲ作ルト、棉ヲ作ルヨリモ米ヲ作ツタ方ガ二十一圓ノ利益デアアル、ソレダカラドウシテモ米ヲ作ル、勿論或ハサウカモ知レマセヌ、其計算ハ如何ナル計算デ御出シニナツテ居リマスルカ分リマセヌケレドモガ、棉ノ方モ以前ト違ヒマシテ、今日ハ一反二百斤以上ノ棉ガ採レマスカラ、サウ大シタ相違モナカラウト思ヒマスルガ、ソレナ小サイ問題ニ付キマシテハ私ハ論議ヲ避ケマス、避ケマスルガ、私ハ唯棉ヲ作レト言フノデアリマセヌ、助成金ヲ出シテデモ棉ヲ作ラセシ、此點ヲ認識セラレナケレバ、イカヌ、米ノ問題ノ爲ニ二千五百萬圓ノ損失ヲシヨルカラ、此損失スル所ノ二千五百萬圓ハ、之ヲ朝鮮ニ持ツテ行ツテ助成金ト爲シテデモ、棉ヲ作ツタ方ガ宜シクハナイカト云フコトヲ私ハ前提ニ致シテ居ルノデアリマス、之ヲ御考ヘニナラズシテ唯漫然棉ヲ作レト云ウテモサウハ行カヌ、何トカ外地ト内地ト非常ナ衝突ヲスルヤウナ文句ヲ御使ヒニナリマシタノデアリマスルガ、固ヨリ外地ニ對シマシテ、私共ガ足ラナイ時分ニ増産計畫ヲシタコトモ是ハ事實デアリマス、今日餘ルカラヤチヤイカヌ、斯ウ云フコトハ申シマセヌ、外地ニモ損ノ行カナイヤウニ、此助成金ヲ以テ代作ヲ獎勵シヨウト云フノガ私共ノ主張デアリマスカラ、是ハ御履違ヒノナイヤウニ御考ヘニナラナケレバ、ナラヌト思ヒマス、其他商工大臣ハ肥料ノ問題ニ付キマシテハ、肥料ノ値段ガ「アムモニヤ」ノ値段ガ高イト云フコトハ十分御認めニナツテ居ラレルヤウデアリマス、尙ホ現在ニ於キマシテハ國內デハ不足ヲ生ジマス、ソレダカラ此不

足ヲ生ズルカラ、常時ニ不足スル所ノ肥料ヲ貯藏シテ、サウシテ肥料ノ需給ノ圓滑ヲ圖ランケレバ、ナラヌ、唯農林大臣ガ肥料問題ニ付テ其價格ノ決定ニ對シテ相談セラレタ場合ニ、一方會社側ニ立ツテ其肥料ノ値段ヲ高ク決定セラレヌヤウニ特ニ御願致シテ置ク次第デアリマス

麻生久君ノ質疑

一昨日總理大臣ハ其施政方針デ今日ノ日本ノ非常時ヲ強調サレタバカリデナク、此非常時ノ爲ニハ國政ノ一新ヲ行ハナクチャナラヌト云フコトヲ主張サレタ、又國民生活ノ安定ヲヤラナケレバ、ナラヌト云フコトヲ主張サレタ、サウシテ最後ニ吾々ハ今日ノ時代ヲ的確ニ認識シナケレバ、ナラヌト云フコトヲ更ニ主張サレタ、私ハ此限ニ於テ總理大臣ト全ク御同感デアリマスルガ、併シ如何ナル國政一新ヲヤルニシテモ、國民生活ノ安定ヲヤルニシテモ、其根本ハ今日ノ時代ヲ如何ニ認識スルカト云フ、其認識ノ内容ニ繫テ居ル、其認識ノ内容ハ恐ラク各人各様デアリマセウカ、總理大臣ノ言ハレル限度ニ於テハ、唯大變ダト云フコトヲ認識セヨト云フコト以上ニハ出テ居ナイ、大變ダト云フコトハドナタデモ今日ハ感ジテ居ルノデアリマスケレドモ、併シ其大變ナルコトノ具體的ナ内容ヲ吾々ハハッキリシナケレバ、ヤハリ的確ナル國政一新ノ方針ガ立タナイ譯デアアル、私ハ此意味ニ於テ今日ノ時代ニ對スル吾々ノ認識ヲ若干述ベテ、總理大臣、各大臣ノ認識ト較ベテ戴イテ、何處ニ相違ガアリ、ドウ云フ點ガ違ッテ居ルカ、又ドウ云フ點ガ一致シテ居ルカト云フコトヲ、ハッキリシテ戴キタイト思フノデアリマス、今日ノ國民生活ノ不安ト云フ問題ハ、之ヲ一言ニシテ盡セバ、資本主義經濟組織ガ一時代ノ役割ヲ果シテ、今日ハ下リ坂ニナツテ、國民生活ヲ支ヘテ行ク力ヲ失ツテ來タト云フコトニ歸著スルト私ハ思フノデアリマス、何故私ガサウ言フカト云ヘバ、大正九年ノ後半期ニ起ツテ來タ恐慌以來、此十數年間ニ日本ノ國民生活ハ全ク一變シテ居ル、私共社會運動ヲ始メマシテ二十年ニナリマスルガ、此二十年間ハ實際農民諸君、勞働者諸君、或ハ没落シテ來タ所ノ中小商工業者諸君ト、其生活ヲ兎ニ角一緒ニシテ來タノデアアル、支配階級カラ眺メタ社會ノ世相ト、其實際ノ生活ノ線ニ沿ウテ戰ツテ來タ吾々トハ、



大分觀方が違フノデアル、大正九年マデハ勞働者ノ問題モ、賃銀ガ安イカト云フ問題デア  
 ル、併シ大正九年以後ハ、働ク腕ト働ク意思トヲ持ッテ居ル所ノ同ジ日本ノ勞働者ノ中ニ一  
 胞ノ中ニ、働ク場所ガナイト云フ問題ガ起ッタ、誠首ト云フ言葉ヲ使ヒマスルガ、封建時代ニハ首  
 ヲ斬ラレ、バサツバリシテ居ルケレドモ、今日ノ誠首ハ首ヲ斬ラレタ後ニハ首ガヤハリ胴ニ繫  
 ガツテ居ルノデアル、飯ヲ喰ハナクチャナラナイノデアル、糧道ヲ絶タレテ居ルノデアル、賃銀ガ  
 安イカ高イカト云フ問題デハナシニ、是ハ生死ノ問題デア、農村ニ於テモ最初ハ地主ト小作人  
 ノ問題デアリマシタケレドモ、何時ノ間ニカ小地主、自作農ガ非常ナ勢デ没落ヲシテ來テ、遂ニ  
 農村全體ノ窮迫ト云フコトガ、今日ハ軍隊ノ中マデ反映シテ行クヤウニナツテ來タ、又知識階級方  
 面ヲ見テモ、私共大正六年ニ學校ヲ出タ時ニハ、マダ贅澤サヘ言ハナケレバ喰ッテ行クコトダケハ  
 出來タ、併シ大正九年以後ニ於ケル所ノ學校ノ卒業者ノ大半ハ卒業證書ヲ貰ッタ瞬間ニ失業シナ  
 クチャナラヌノデアル、自分ノ子供ヲ學校ニサヘ出シテ卒業證書サヘ取レバ、後ハ何トカナルト  
 云ツテ、農村デ田地畑ヲ質ニ入レテ學校ニ出シタ者モ、要スルニ卒業ノ結果ハ失業シナクチャナ  
 ラヌト云フコトニナツタ、問題ハ結局自分自身ノ力デハドウスルコトモ出來ナイ所ノ社會的ノ原  
 因ガ、個人ノ生活ヲ壓迫シテ居ルノデアル、高橋前藏相ハ自力更生セヨト言ハレタガ、働イテ喰ッ  
 テ行ケル途ガ開ケテ居レバ自力更生ハ可能デアルケレドモ、社會的ノ原因ガ個人ノ生活ヲ壓迫シ  
 テ居ルナラバ、ドウシテモ政治ノ力ニ依ツテ、此社會的ニ生活ヲ壓迫シテ居ル原因ヲ取去ル外ニ方  
 法ハナイノデアル、吾々ハ此時代ニ於テ農村ノ爲ニハ税金ノ負擔ヲ輕減セヨ、農村ガ一番弱イカ  
 ラ一番高イ税金ヲ課ケラレテ居ル、肥料ノ國營ヲオヤリナサイ、耕作權ヲ確立スル所ノ小作法ヲ  
 制定シテ下サイ、斯ウ云フ叫ビヲ揚ゲ續ケテ來タ、勞働問題ニ對シマシテハ、産業勞働ノ統制ヲ  
 行ツテ、國家中心ノ産業ヲ確立シ、勞働者ノ産業ニ對スル協力ヲ行ツテ、ソコニ生活ノ保障ヲシテ  
 下サイト叫ンデ來タ、中小商工ノ没落ニ對シテハ幾多ノ問題ガアリマスルケレドモ、併シ兎ニモ  
 角ニモ金融ノ途ヲ開イテ、此急場ヲ救ハナクチャナラヌト云フコトヲ主張シテ來タガ、此十數年間  
 政權ヲ取ツテ居ラレタ所ノ政友會、民政黨ノ政府ハ此政治的ニ解決ヲ要スル所ノ國民生活窮乏ノ

問題ニ對シテ、何等ノ解決ヲ施シテ呉レナカッタノデアル、單ニ之ヲ施サナカッタバカリデヤナイ、  
 少クトモ斯ウシタ主張ヲ持ッテ議會ニ進出シヨウトスル所ノ、其新興階級ノ勢力ハ事實ニ於テ出  
 ル所ノ途ヲ塞ガレテ居ッタ、社會ハ茲ニ改革ヲ要シ、改革ヲスル者ガ合法的ニ議會ニ出テ、之ヲ叫バ  
 ウトスル途ヲ塞ガレテ居ルナラバ、何處カニ何等カノ非合法的ニ爆發點ガ生レザルヲ得ナイノデ  
 アル、私ハ此十年間日本ノ有爲ナル所ノ青年ノ中ニ、共產主義ヲ懷クヤウナ青年ガ澤山出來テ、サ  
 ウシテソコニ大キナ犠牲ヲ拂ハセラレタト云フコトモ、意識ハサレナイカモ知レヌケレドモ、斯  
 ウシタ自然的ニ現象ノ結果デアルト私ハ信ジテ疑ハナイ更ニ斯ノ如キ政府ガ續イタ結果ハ遂ニ  
 五・二五事件ノ勃發トナリ、最近ノ不祥事ヲ惹起スルニ至ッタ、冷カニ考ヘテ見マスルナラバ、物  
 ノ由ツテ來ル所ニハ、ソレダケノ社會的ノ原因ガアルノデアル、私共ガ今日自分ノコトヲ本當ニ自  
 ラ反省シテ、ソレヲ直スト云フ氣持ニナラナケレバ、此非常時ヲ解消スルコトハ出來ナイト私ハ  
 信ジテ居ル、斯ウシタ結果、齋藤内閣ガ生レ、岡田内閣ガ生レタ、併シ此兩内閣ハ此生レテ來タ所  
 ノ事實ヲ的確ニ認識スルコトガ出來ズシテ、徒ニ現狀ヲ維持シ、モウ一遍昔ニ還サウト云フヤウ  
 ナ意圖ノ下ニ政治ヲ行ツタ結果、國民大衆ハ失望シ、不幸ナル事件ノ後ニ現内閣ガ生レタノデア  
 ルガ、首相ハ今日ノ非常時ヲ正シク認識シナケレバナラヌト言ハレルノデアアル、確ニ何等カヲ認識  
 サレテ居ルニ違ヒナイ、國政一新ヲ叫バレ、國民生活ノ安定ヲ叫バレテ居ル、内閣ガ出來タ當初ニ  
 於テハ、其勢ヒ正ニ脱兎ノ如キモノガアッタ、或ハ電力ノ國營ガ叫バレタ、農相ニ依ツテハ耕作權確  
 立ノ爲メノ小作法ノ制定モ叫バレテ居ッタ、私共ハ兎ニ角ソコニ何等カノ革新的ニ機運ヲ此内閣  
 ノ中ニ認メタノデアアル、藏相モ亦非常ナ勢デアッタノデ、聲明ヲサレル中ニハ、何カヤララウト云  
 フ國民ノ一脈ノ期待ガ掛ケラレテ居タ、然ルニ時ノ經ツニ從ツテ次第ニ脱兎ノ如キ勢ハ、處女ノ  
 如クニ終ラウトスル傾向ヲ示シテ來テ居ル、私ハ各大臣ノ御答辯ヲ議場ニ於テ伺ッテ居ル間ニ、  
 兎ニ角何物カヲ求メ、何物カノ解決ヲ欲シテ居ル所ノ此日本ノ現狀ニ於テ、此不幸ナル事件ノ後  
 ヲ承ケテ、兎ニ角此處ニ希望アリト云フ一ツノ勢ガ示サレナケレバナラヌモノデアルト私ハ信  
 ジテ居ルノデアアル、恐ラク制度ノ改革ナドト云フコトハ一朝一夕ニ出來ルコトデハナイガ、資本



主義ノ缺陷ヲ認メラレルナラバ、少クトモ之ヲ是正シテ行ク所ノ方向ニ向ッテノ具體的ナ政策ガ、今日ナケレバナラヌノデアアル、私共ガ斯ク考ヘタガ故ニ、内閣ガ出來タ當時ニ於テ、此特別議會ハ暫ク遅レテモ宜イカラ、此特別議會ニ國民ヲシテ此内閣ハヤルナト思ハセルダケノ具體的ナ政策ヲ、出サナケレバナラヌト云フコトヲ主張シタ、皆ヤッテ貫ハナクトモ、茲ニ希望アリト云フコトニナルナラバ、國民ノ氣持ハドンナニ變ッテ來ルデアラウカ、最初ニ出サレタ多クノ聲明ハ、日ガ經ツニ從ッテ段々引込ミ思案ニナッテ來タ、物ノ改革ナドト云フモノハ、慎重ニ考慮シタリ研究シタリスレバ、現狀維持ノ力ガ強クナッテ引戻サレテ、グズ／＼ニナルト云フコトハ、是ハ當リ前ダ、島田農相ハ野ニ居ラレル時ニハ、激刺タル元氣ノ方デアアルカラ、私ハ今度ハヤルナト思ッテ居ッタガ、ドウモヤッバリ出テ見ルト、調査研究ニナッテシマフ、ヤッバリ野ニ居ッテ考ヘラレタコトヲ出タ瞬間ニホットヤラナケレバ、事ハ出來ルモノデハナイ、大臣ニナッテシマッタラ出來ルモノデハナイ、大臣ニナッテ積リデナクテ、野ニ在ッテ爲サナケレバナラヌト思ッタ事ヲ、内閣ヲ作ッテ瞬間ニ二ツデモ三ツデモ、ボン／＼トヤル所ニ私ハ革新ノ機運、正ニ溢レルモノデアアルト思ッテ居ッタノデアリマスガ、吾々ノ見當ハ全ク外レテシマッタ、私ハ今日デモ兎ニ角遅クハナイノデアアルカラシテ、斯ウシタ時代ノ認識ニ對シテ本當ニ非常時ヲ考ヘラレテ居ルナラバ、此一ツノ氣持ヲ捉ヘテ資本主義改革ニ向ッテノ一步ヲ踏出サレル所ノ眞ノ意思ガ、各閣僚ノ間ニアリヤ否ヤト云フコトヲ私ハ御伺シタイノデアアル、私ハ第二點ニ於テ國防ノ問題ニ對シテ軍部大臣ニ御伺ヲシタイ、曩ニ陸軍省ハ「國防ノ本義」ト其強化ト題スル「パンフレット」ヲ出シテ、是カラ先ノ國防ハ單ニ軍備ノミヲ以テハ足りナイ、國民生活ノ眞ノ安定ト云フモノガ基礎ニナラナケレバ本當ノ國防ハ出來ナイ、國民生活安定ノ爲ニ、若シ今日ノ經濟組織ガ邪魔ニナルナラバ、宜シク之ヲ改造シテ、國民生活ノ安定ノ出來ル經濟組織ヲ立ツベシト云フノガ、其結論デアッタト私ハ思フノデアアル、吾々ハ此軍部ノ廣義國防ノ立前ニ對シテハ、全ク贊意ヲ表スルノデアリマスガ、併ナガラ其後ニ於ケル所ノ豫算ノ狀態ヲ見マスルナラバ、或ル意味ニ於テハ軍部自ラガ此廣義國防ノ立前ヲ躊躇シタ精神ニ立ッテ居ハシマイカト云フコトヲ、吾々ハ感ズルノデアアル、動モスレバ國民ノ中ニハ、

ナニ軍部ハ國民生活安定ナドト言フケレドモ、結局豫算サヘ取レバ宜イノヂヤナイカト云フ言葉ガ、チラホラト聞エテ來ルヤウニナッテ來タ、私ハ實ニ之ヲ遺憾トスル者デアアル、考ヘテ見マスルナラバ、サウ云フコトハアッテナラナイコトデアアルケレドモ、萬一將來ニ於テ世界ノ強國ト強國トノ間ニ戰爭ガ起リマスルナラバ、ソレハ最早日清、日露ノヤウナ單純ナ戰爭デハアリ得ナイ、世界大動亂デアラウト思フノデアアル、斯ウ云フ深刻ナル戰爭ハ、眞ニ水モ漏サナイ所ノ舉國一致ノ出來ル立前ヲ、其國ハ其國ノ制度ノ上ニ持ッテ居ナケレバ、此深刻ナル試練ニ耐ヘテ、民族ヲ守ッテ行クコトハ不可能デアアルト私ハ考ヘルノデアリマス、歐羅巴戰爭ノ經驗ヲ見マスルナラバドウデアアルカ、其最後ハ結局單ニ戰ノ勝敗ニ依ラズシテ、一國ノ制度ノ崩壞ノ中ニ終ッテ居ル國ガ多イノデアアル、露西亞然リ、獨逸然リ、其他歐羅巴ノ多クノ國ハ戰爭ノ結末ヲ、制度ノ崩壞、一國ノ崩壞ノ中ニ終ラシメテ居ル、私ハ此現狀ヲ考ヘル時ニ、萬一サウ云フ場合ニ於テ、日本ヲ絕對ニアア云フ結果ニ終ラシメテハナラヌト、自ラ憂慮スル者デアアル、私ハ斯ウ云フ意味ニ於テ、資本ト云フモノノ非國家性ヲ色々考ヘル、昨年六月ノ亞米利加ノ「ナイ」委員會ニ於テ調査スル所ニ依ルト、軍需工業者ノ中ニハ、金ヲ儲ケル爲ニ態ト戰爭ヲ宣傳スル者モアルト云フコトヲ聞イテ居ル、其爲ニ軍需工業ヲ國營ニスベシト云フ意見モ出タト聞イテ居ル、資本ト云フモノハ動モスレバ國家ヲ超越シテ利ニ走ルノデアアル、藏相ノ御話ノ中ニモ、日本ニ於テ税金ガ上ルト云フコトニナルト、資本ガ外國ニ逃避スル虞ガアル、爲替管理ニ於テ之ヲ防イデ居ルト云フテ居ラレル、資本主義ハ利潤ニ向ッテハ、動モスレバ國ヲ超越シテ其利ヲ追フ結果ハ、利ノ在ル所、國ハ如何ニナッテモ利ニ附イテ外國ニサヘ走ッテ行ク危険ヲ持ッテ居ルノデアアル、露西亞ノ帝政末期ニ於ケル革命前ハ、軍人ノ上層部ト財閥ト、斯ウ云フモノガ結託ヲシテ、遂ニ色々ナ收賄事件ヲ起シ、其爲ニサウ云フコトガ暴露シテ、遂ニ革命ノ端緒ヲ開イタト云フコトヲ聞イテ居ル、私共ハ斯ウシタ一ツノ資本主義ノ非國家性ヲ知ル時ニ、眞ニ今日日本ガ非常時ニ立ッテ、世界ノ將來ノ不安ナル戰爭ニ備ヘテ行クト云フコトニナルナラバ、ドウシテモ是ハ何時如何ナル狀態ガ起ッテモ、眞ニ舉國一致



シテ水も漏ラサナイ所ノ立前ヲ持テル制度ヲ持タナケレバ、今日……私共ノコトヲ彌次ツテ居  
 テモ其時ニナレバソレハ結局間ニ合ハナイコトデアアル、私共ハ斯ウシタ意味ニ於テ、ドウシテモ  
 今日ノ軍部ニ對シテ質問ヲシタイノデアアル、吾々ハ之ヲ憂慮スルガ故ニ、今日ノ日本ノ現狀ニ於  
 ケル所ノ國民ト軍部トノ關係ニ對シテ、ドウシテモ吾々ハ眞ニ軍ト國民トガ一致ノ出來ル所ノ  
 建前ヲ、制度ノ上ニ於テ持タナケレバ、眞ノ國防ガ出來ナイト云フコトヲ考ヘザルヲ得ナイト云  
 フコトヲ考ヘザルヲ得ナイト云フコトデアアル、斯ウ云フ點ニ關シテ軍部大臣ハ、今日ノ日本ノ國  
 防ト、今日ノ日本ノ國民生活ノ安定トノ問題ニ關シテ、將來如何ニシテ此矛盾ヲ克服シテ、眞ニ  
 舉國一致ノ出來ル建前ヲ持ツ御考デアアルカト云フコトヲ私ハ聽キタイノデアアル、更ニ私ハ肅軍  
 ノ問題ニ對シテ、軍部ノ大臣ノ御考ヲ御伺シタイ、ソレハ何デアアルカ、今回ノ二二六事件ハ兎ニ  
 角國家ノ革新ヲ欲スルトハ云ヘ、斯ノ如キ暴力的ノ手段ニ依ッテ事ヲ解決セントスルガ如キハ、斷  
 ジテ吾々ノ排撃スル所デアアル、況ヤ 陛下ノ御宸襟ヲ惱マシ奉リ、國民ニ對シテハ不安ト危惧ヲ  
 與ヘル如キ今回ノ事件ニ對シテハ、斷乎トシテ吾々ハ之ヲ排撃セザルヲ得ナイ、私ハ此點ニ關シ  
 テハ昨日ノ齋藤氏ノ演說ニ全ク同感ヲ表スルモノデアアル、併ナガラ、齋藤氏ノ此論斷ニハ唯一ツ拔  
 ケテ居ル所ガアル、ソレハ何デアアルカ、一ツ拔ケテ居ルコトハ、何故ニ純眞ナル青年將校ガ自ら驅ッ  
 テ、政治的ノ關心ヲ持タザルヲ得ザルニ至ツカト云フコトノ原因ヲ昨日ノ齋藤氏ハ指摘シテ居  
 ナイ事デアアル、私ハ思フ、其一點ニ對シテ明白ニシナケレバ、今日之ヲ掩ウテモ、三度ア、云フ事  
 ヲ起サナイ危險ハナイト私ハ信ズルカラデアアル、過去十數年間ニ互ッテ、青年將校達ガ何モ國事ヲ  
 心配スル必要ガアルデアラウカ、私ハ思フ、簡單デアラウトナカラウト、兎ニ角此十數年間議會ヲ舞臺  
 トシテ政黨ト官僚ト、財閥トノ間ニ多クノ疑獄事件ガ行ハレタ、議會ハ政民兩黨ノ政權爭奪ノ府  
 ト化シタ、サウシテ國民大衆ハ誰言フトナク議會ヲ日比谷ノ猿芝居トマデ言フヤウニシテ來タ、  
 斯ウシタ一ツノ議會ニ對スル所ノ國民ノ不信ガ、聽テハ斯ウ云フ軍ノ若イ將校達ヲシテ、國事ヲ憂  
 ヘシメザルヲ得ザル結果ニ導イタノデアアル、議會ヲ本當ニ振肅セントスルナラバ、自ら過去ノ過

チヲ清算スルコトナクシテ、ドウシテ議會政治ヲ振肅スルコトガ出來ルカ、私共ノ言フコトヲ彌  
 次ルコトハヤサシイコトデアアル、併ナガラ眞ニ議會ヲシテ議會ノ職能ヲ發揮セシメテ、國民ヲシ  
 テ議會ヲ信賴セシムルコトハ難イノデアアル、私ハ斯ウシタ原因ニ對シテ吾々自身自ラ反省シテ、  
 議會ヲ國民ノ信賴ノ中心ニ置ク所ノ態度ヲ自ラ執ルコトナクシテ、將來ノ不安ヲ除去スルコトハ  
 出來ナイト信ズルノデアアル、私ハ陸軍大臣ニ對シテ肅軍ノ方法ヲ聽キタイノデアアル、肅軍ハドウ  
 シテモヤラナケレデナラヌ事デアアル、之ヲ斷行シナクテハナラヌ事デアアル、寺内陸軍大臣ハ誠心  
 誠意ヲ以テ之ヲヤラレテ居ルノデアアルガ、併ナガラ肅軍ノ方法ニシテ誤ルナラバ、眞ニ肅軍ヲ行  
 フコトヲ得ズシテ、却テ又不測禍ヲ招カナイトモ限ラナイ、私ハ其一ツノ方法ハ寺内陸軍大臣ノ  
 聲明サレタ如ク、軍ノ首腦部ニ於テ今日ノ政治ヲ改革シテ行ク所ノ具體的方策ヲ自ラ持ッテ、内閣  
 ニ之ヲ反映セシメテ行クコトデアアル、併シ今一ツ自然ノ間ニ起リ來ル所ノ此軍ノ青年將校ノ政治  
 ニ關スル所ノ關心ハ、之ヲ法律ノ固陋ナル解釋ニ依ッテ徒ニ壓迫スルト云フコトデナシニ、合理的  
 ニ、合法的ニ之ヲ統一シテ、軍ノ内部ニ於テ自然ニ上ノ方ニ反映シテ行ク所ノ途ヲ開クコトデア  
 ル、即チ是ガ眞ニ肅軍ヲ行フ所ノ具體的方策デアアルト考ヘルガ、寺内大臣ハ之ニ對シテ如何ナル  
 御考ヲ持タレノデアアルカ、私ハ外交ノ問題ニ對シテ外務大臣ニ御尋ネヲシタイ、今日極東ノ問  
 題ニ當リマシテハ、日支ノ關係ハ一番重要ナ事デアッテ、而モ吾々ノ一番憂ヘル所デアアル、支那ト  
 日本トノ關係ヲ吾々ガ探究シテ見マスルナラバ、日清日露ノ戰役ヲ經テ、日本ノ極東ノ地位ガ確  
 立サレルニ從ッテ、日本ト支那トノ關係ハ愈々密接ニナツテ來タ、而モ日本ノ朝野ト支那ノ國民大衆  
 トガ最モ固ク結バレタ時ハ何時デアッタカト云ヘバ、支那ノ國民革命ニ對シテ日本ノ朝野ガ殆ド  
 誠心ヲ以テ之ヲ援助シタ時代デアアル、吾等ノ先輩デアアル幾多ノ人々ガ支那ノ國民革命ノ志士ヲ本  
 當ニ衷心カラ助ケテ、支那革命ヲ完成セシメタ當時ハ、日本ト支那トノ關係ハ實ニ國民ト國民ト  
 ノ衷心カラノ結バレデアッタ、然ルニ其時代ガ過去ッテ、何時ノ間ニカ日本ノ資本主義ガ發達シテ  
 來ルニ從ッテ、日本ノ對支政策モ亦自ラ資本主義的ノ立前ヲ持タザルヲ得ナクナツテ來タノデアアル、  
 英米ト肩ヲ並ベテ同ジ態度デ支那ニ對スルナラバ、最モ利害密接ニシテ近キ日本ガ、支那トノ關



係ニ於テ一番惡化スベキハ是レ理ノ當然デアアル、隨テ世界大戰ノ後、民族革命ノ潮流ガ世界ヲ支配シテ後ニハ、何時ノ間ニカ帝國主義打倒ノ叫ビ聲ニ押サレテ、日本ノ支那ニ對スル外交ハ退嬰的トナラザルヲ得ナクナツテ來タ、斯ウシタ經過ヲ經テ今日ハ滿洲國ノ建設トナリ、北支問題トナツテ來タノデアアルガ、併ナガラ私ハ惟フニ、今日日本ハ支那ニ對シテ本當ノ確立シテ居ル所ノ外交的指導方針アリヤト云フコトニナレバ、無シト斷定セザルヲ得ナイ、露西亞ハ今日外交政策ニ對シテ二ツノ立前ヲ持ツテ居ル、其一ツハ力デアアル、其一ツハ他ノ國ノ國民大衆ニ對シテ、其生活ト結付ク所ノ一箇ノ政策ヲ持ツテ居ルコトデアアル、私ハ將來日本ガ東洋ニ於テ眞ニ指導者タル所ノ立場ヲ以テ支那トノ融和ヲ圖ラントスルナラバ、日本モ亦眞ニ國民大衆ノ生活ト密著スル所ノ一ツノ政策ヲ以テ臨ムニアラザレバ不可能ナリト思フノデアアル、軍部ニ於テモサウ云フコトヲ感ゼラレタカ、滿洲國ノ建設ニ當ツテハ擗取ナキ王國ヲ造ルト云フ一ツノ立前ヲ持タレタ、サウシテ日本ノ内地ニ對シテハ、ヤハリ國家革新ノ立前ヲ執ラレタ、英米ノ追隨外交カラ離レテ、日本ガ積極的ノ東洋ニ對スル外交方針ヲ持ツト云フコトハ、資本主義的ナ立前ヲ以テ、力ヲ以テ之ヲヤルト云フコトデハナクシテ、日本獨特ノ政策ヲ以テ東洋ノ國民大衆ヲ日本ノ眞ノ指導下ニ置クト云フ立前デナクチャナラヌノデアアル、ソレデナケレバ永遠ノ大計ハ立タナイ、私ハ斯ウ云フ點ニ關シテ外務大臣ノ御答ヲ聽キタイノデアアル、次ニ私ハ議會制度ノ改革及ビ選舉法ノ改革ニ付テ總理大臣ノ御答ヲ求メタイ、兎ニ角今同ノ事件ニ鑑ミマシテモ三度斯ウ云フ不祥事ヲ起サセナイ爲ニハ、ドウシテモ議會ヲシテ眞ニ國政一新ヲ行フ能力ヲ持タシメル以外ニ方法ハナイノデアアル、國民大衆ガ議會ニ信賴シテ、將來ノ國政一新ガ出來ルト云フコトヲ確信スル、其立前ヲ議會ガ持ツ以外ニナイ、私ハ斯ウ云フ立前ニ於テ議會制度ノ改革ヲ焦眉ノ急トスルモノデアアル、更ニ選舉法ノ改革ヲ吾々ハ必要トスルモノデアアル、曾テ政友會、民政黨ノ政權ノ下ニ於テ行ハレタ選舉ハドウデアッタラウカ、買収デアアル、干渉デアアル、權力ノ選舉デアアル、サウシテ縣知事モ警察官モ兩政黨ノ驅使ノ儘ニナラナケレバ、首ヲ鹹ラレル所ノ選舉デアアル、諸君ガ之ヲ否認スルカ、今日非常時トナツテ選舉ノ肅正ガ叫バレテモ、尙ホ買収ハ絶エナイデハナイカ、諸君ガ私ヲ彌次ルコトハ極メ

テ可能デアアルケレドモ、五・二五事件ノ後ニ政友會ハ三百三名ヲ持チナガラ、何故腰ヲ抜カシタノデアアルカ、國民大衆ノ眞ニ信賴アルトスルナラバ何ゾ軍部ノ「ピストル」ヲ恐レル必要ガアルカ、腰ヲ抜カシ、魂ヲ失ツテ、案山子トナツタコトハ、即チ選舉ガ眞ニ政策ノ上ニ行ハレナカッタ證據デハナイカ、私ハ本當ノ政策ノ上ニ選舉ガ行ハレテ、政策ノ信賴ノ上ニハ五・二五事件ガ起ラウト何ガ起ラウト、起シタ者ヲ國民大衆ガ清算スルダケノ信賴ヲ選舉ノ中ニ持ツノデナケレバ、眞ノ議會ハ確立シナイと思フ、私ハサウ云フ立前ニ於テ眞ニ國家革新ガ出來ル、新興階級ヲシテ、其政策ニ從ツテ議會ニ出ラレル途ヲ選舉法ノ改革ニ依ツテ期サナケレバナラヌト思フノデアアル、廣田首相ハ此點ニ關シテ如何ニ考ヘテ居ラレルカ、私ハ之ヲ聽キタイノデアアル、最後ニ最近戒嚴令下ニ於テ五月一日ノ「メーデー」ノ問題ガアリマシタガ、日本ノ勞働階級ハ十數年間ニ互ツテ、日本自ら次第ニ「メーデー」ト云フモノヲ確立シテ來テ居ル、今日戒嚴令下ニ於テ東京ハ出來ナイトシマシテモ、兎ニ角サウデナイ地方ニ於テハ、斯ウシタコトハ許スノガ至當デハナイカ、是ハ一例デアアルガ、動モスレバ最近日本精神ト云フモノヲ、固陋ナル立前ニ於テ偏狹ニ解釋スル者ガアルガ、併ナガラ大ニ世界的ニ進ムベキ所ノモノハ、世界ニ向ツテ進シテ行ク所ニ、私ハ日本ノ精神ガアルト思フ、私ハ斯ウシタ考ヘ方ニ於テ、徒ニ今日ノ非常時局ニ自ら萎縮シテ、サウシテ言論ノ自由ヲ彈壓シ、或ハ大衆ノ氣持ヲ陰鬱ナラシメル如キ方針ハ、今後斷ジテ破ツテ貫ヒタイト考ヘルノデアアル、首相ノ御考ハ如何デアリマセウカ、私ハ是ダケヲ質問致シマシテ終リト致スノデアリマス

廣田内閣總理大臣ノ應答

只今ノ麻生君ノ御質問ニ御答致シマス、一番最初ハ、政府ハ進ンデ國政改革ヲヤルベキデアアル、ドウモヤリサウニ見エナイ、是ハ必ズ實行スル考デアリマスカラ御心配ニナラヌヤウニ御願致シマス、其改革スベキ事柄ノ一ツト致シマシテ、資本主義ノ改革ト云フコトガアリマスガ、是ハ私ハ十分意味ヲ取ルコトガ出來ナカッタノデアリマス、日本ノ經濟制度ニ對シテドウ云フ政策、政府ガドウ云フ關心ヲ持ツテ行クカト云フコトニ付テ、政府ハ相當ノ統制ヲ加ヘテ參ルト云フコトヲ、先



程述ベテ置イタノデアリマス、尙ホ一番最後ニ、議會ノ改革、選舉法ノ改正ニ付テノ私ノ意見ヲ聽カレタノデアリマスガ、國家ノ有スル機關ニ於テ改革スベキモノアレバ、此際進ンデ改革スルコトガ國政一新ノ上ニ、最モ大切デアルト思ッテ居ルノデアリマス、隨テ斯ウ云フ點ニ付キマシテモ、ソレノ研究ヲ致シマシテ、改革スベキモノハ改革シテ行キタイト思ヒマス、尙ホ「メーデー」ニ付テノ事デアリマスガ、私ハ斯ウ云フ風ノ事マデモ西洋ノ眞似ハシナイ方ガ宜クハナイカト思ッテ居リマス

寺内陸軍大臣ノ應答

只今ノ麻生君ノ御質問ニ御答ラシマス、將來ノ戰爭ガ國家ノ有形無形ノ全綜合力ニ依ッテ決セラレベキコトハ、今ヤ定説デアリマシテ、國防ノ立場ヨリ無形の戦力ノ根源タル國民生活ノ安定ニハ、多大ノ關心ヲ有スル者デアリマシテ、軍事豫算ノ編成竝ニ是ガ運用ニ付キマシテモ十分ノ考慮ヲ拂ヒ、是ガ今日此内外ノ情勢ニ鑑ミテ、最モ適切ニシテ、最モ是ガ國民ノ上ニ幸福デアルト信ズル國防ヲ充實スル爲メ、閣僚ノ一員トシテ努力シテ居リマス、肅軍ノコトニ付キマシテハ、數日ニ互リマシテ御答致シマシタ通り、軍自體ノ肅正ヲ致シマスト共ニ、庶政ノ一新ト相俟ッテ其目的ヲ達スル考デアリマス、其實行ニ付キマシテハ先日モ御願致シマシタ通り、暫ク當局ニ御委セラ願ヒタウゴザイマス

有田外務大臣ノ應答

麻生君ノ私ニ對スル御質問ハ、對支關係竝ニ對露關係ノ二點デアッタト存ジマス、此對支關係ニ付キマシテ麻生君ハ、支那ノ革命當時ニ於テハ、國民ト國民トノ接觸ニ依リ非常ニ良好ナル關係ニアッタケレドモ、其後資本主義ノ結果トシテ非常ニ惡化シタト云フ風ニ御話ニナッタヤウデアリマス、私ハ必シモサウハ見テ居ナイノデアリマス、革命當時ノ良好ナル關係ニ拘ラズ、其後日本ノ滿洲ニ於ケル利權ノ回收、或ハ支那ニ於テ日本ノ持つテ居リマスル治外法權、其他ノ諸種ノ利

權ノ回收ト云フ風ナコトヲ盛ニ主張シタノデアリマス、是ガ日支關係ヲ非常ニ惡化スル原因デアッタト存ジテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ今後共此日支關係ヲ改善致シマスルニ付テハ、支那側ガ——支那ノ政府或ハ支那ノ國民ガ、日本ト支那ト云フモノノ東洋ニ於ケル立場ト云フモノヲ能ク了解シマシテ、心カラサウ云フ風ナ氣分ヲ取去ルト云フコトガ、最モ必要ナコトト存ズルノデアリマス、私共ハ出來ルダケ其方面ノ理解ヲ支那側ニサセルヤウニ努力致シテ居ル積リデアリマス、又對露關係ニ付キマシテハ、勿論日本ノ國民ノ生活ノ安定ト云フコトヲ以テ、之ニ對シナケレバナラヌト云フコトハ、麻生君ノ御話ノ通りデアリマスガ、併ナガラ私ハ其外ニモウ一ツ日本ノ此國民ノ思想ト云フモノヲ健全ニシテ、サウシテ之ニ對抗シナケレバナラヌノデハナイカト思フノデアリマス、ソレダケ御答ヲ申上ゲテ置キマス

麻生君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

マダ質問モアリマスケレドモ、豫算總會ニ於テ質問スルコトニ致シマスカラ、今日ハ是デ打切りマス

風見章君ノ質疑

前日來ノ内閣ニ對スル質問應答ノ模様ヲ見テ居マスト、私ハ内閣ノ答辯甚シク不親切デアルトノ感ナキヲ得ナイコトヲ非常ニ憾トシマス、現ニ只今ノ麻生君ノ質問ニ對スル總理大臣ノ答辯ノ如キハ、若シ速記録ニ於テ之ヲ讀ンダナラバ、中學生ト雖モ總理大臣ノ頭腦ヲ疑ヒハシナイカト私ハ思フ、斯ノ如キ内閣ニ對シテ質問スルノハ、私ハ實ハ甚シク氣勢ヲ殺ガレル感ジガアル、叩イテモ碌ナ音ハ鳴リハシナイ、併ナガラ私ノ議員タル職責ハ、假令叩イテ鳴ラズトモ叩キ捲ッテ鳴ラザラ得マセヌカラ、敢テ質問スル、第一ニ總理大臣、大藏大臣、答辯ハドチラデモ宜イ、大衆課稅ヲヤルカヤラナイカ、ヤラナイ方針カ、ヤルカモ知レナイト云フ方針カ、此點ヲハッキリ言明スルコトヲ要求スル、同ジク總理大臣、大藏大臣ニ質問スル、恩給法改革ノ考ガアルカ



ナイカ、陸軍、海軍兩軍部大臣ニ質問スル、私ノ見透シハ間違ガアルマイト思フガ、總理大臣、大藏大臣ノ答辯如何ニ拘ラズ、此内閣ハ必ズ大衆課税ヲスル、此場合ニ軍部大臣ハ斯ノ如キ課税ガ軍ノ根本構造ト云ツテ宜イカ、下部構造ト稱シテ宜イカ、兎モ角兵隊、其兵隊ノ家族ノ生活ヲ壓迫スル、此事ガ軍ノ現在計畫スル肅軍ノコトト關係アルカナイカ、此點ヲ質問スル、モウ一ツ兩軍部大臣ニ質問シタイ、日本ノ資本主義ガ軍需工業ヲ中心ニ今日マデ發達シ來タ此徑路、是ハ説明スル迄モナイ、其軍需品工場ニ退職陸海軍ノ將校ガアチコチ關係サレテ居ルカニ聞ク、斯ノ如キコトガ肅軍トノ關係ニ於テ惡イ影響ヲ與ヘルカ與ヘナイカ、此點ニ關スル質問ヲスル、農林大臣ニ質問スル、今米ヲ作ル農民、其農民ノ大多數ガ今日ノ所既ニ飯米ノ不足ニ悩ンデ居ル、此内閣ガ廣田總理大臣ノ言ハレル如ク、一死報國眞ニ庶政ヲ一新セントスルナラバ、齋藤内閣ヤ岡田内閣ノヤッタ如キダラ、政治デハナシニ、即座ニ國民生活ノ實際問題ニ手ヲ觸レル責任ト義務ガアル、此飯米問題、此飯米ノ缺乏ニ悩ム農民ニ對シ、農林大臣ハ即座ニ飯米飢饉ヲ瘥ス爲ノ具體策ガアルカナイカ、ナケレバ、即座ニ遞信大臣ニ質問スル、農業ト電氣トノ關係ニ於テ、積極的施設ヲ爲スニ付テノ具體案ヲ持ッテ居ルカナイカ、司法大臣ニ質問シタイ、昨日民政黨ノ齋藤君ハ五・一五事件ニ於ケル裁判ガ甚シク當ヲ失シタ如キ印象ヲ與ヘタコトニ關シ指摘サレタ、私モ同感ナシ、ソコデ質問スルノダガ、民間側關係者、アノ重キ刑ニ處セラレタル五・一五事件民間側ノ關係者ニ關シ、現在服役中ノ者ニ對シテ非常上告ヲ爲ス意向ガアルカナイカ、外務大臣ニ質問スル、是ハ陸軍大臣ニモ關係ガアルト思フ、只今麻生君ハ對支問題ニ關シ、極メテ適切ナル質問ヲサレタト私ハ思フ、之ニ對スル外務大臣ノ答辯ハ遺憾ナガラ私ノ議席マデハハッキリ聞エナカッタ、隨テ私ハ改メテ私ノ立場ニ於テ外務大臣ニ質問シ、同時ニ外務大臣ダケデ答辯シ切レナイナラバ、陸軍大臣ト相談ノ上返答シテ貰ヒタイ、今日ノ日本ガ大陸政策ヲ有タナケレバナラヌコトハ言フ迄モナイ、大陸政策トハ何ダ、外務大臣ハ昨日經濟外交ノ言葉ヲ使用サレタ、私ハ經濟外交ノ立場ニ於テ質問シタイノダガ、支那問題ハ一體農業問題デヤナイカ、支那ノ大多數ノ民衆ハ農民ナシ、隨テ日本ガ本當ニ經濟外交ヲ行ヒ、足ガ地ニ著イタ外交政策ヲ行ハ

ントスルナラバ、日本ハ現在支那四億ノ民衆ヲ痛メ付ケ、惱マシツ、アル深刻ナル農業恐慌ノ克服ニ關シ、吾々ハドレダケ、ドンナ方法ニ依ツテ、其克服ヲ助ケ得ルカ、此方針ヲ定メルコトガ經濟外交ノ根本デナクチャナラヌ、此點ニ關シ外務省ハ如何ナル具體策ガアルカ、此點ヲ聽キタイ、最後ニ質問スル、此問題ハ全閣僚ニ聽イテ貰ヒタイ、答辯ハ首相乃至政黨出身ノ閣僚カラヤツテ貰ヒタイ、政友會、民政黨ノ諸君モ、所謂庶政一新ニハ大分熱ヲ有ッテ居ルカニ私ハ傳聞スル、今ヤ庶政一新、總テノ點ニ於テ革新シナケレバナラヌトスル要望ハ、怒濤ノ如ク渦巻キ起ラントシテ居ルト私ハ考ヘテ居ル、隨テ廣田内閣ニシテ此情勢ニ對シ、幾度ビカ内閣ノ名ニ於テ發表サレタ如キ、善キ政治ヲ行ヒ、由テ以テ國民ノ期待ニ副ヒ、上ハ陛下ニ御報イヌル爲ニハ、此革新ニ對應スベキ適切ナル政策ヲ疾ニ持ッテ居ラナケレバナラヌ答ナンダ、然ルニ在再六十日、何ガ一體此議會ニ示サレタノダ、何物ガ此議會ニ此情勢ニ應ズベク示サレタカ、甚ダ遺憾ダガ、諸君モ同感ダラウト思フガ、其片鱗ダモ吾々ハ見出スコトガ出來ナイ、今此處ニ出サレタルモノハ、是ハ何ナンダ、齋藤内閣、岡田内閣時代ニ於テ幾度ビカ問題ニナッタモノ以外ニ一體何ガアルノダ、何モノナイデヤナイカ、而モ驚クベキハ其岡田内閣乃至齋藤内閣ノ遺物以外ニ何物モノナイ所ヘ持ッテ來テ、言葉ダケハ滔々萬言ヲ爲シテ居リマスルケレドモ、内容ハ何モナク、唯一ツアルノハ不穩文書等取締法案ト題スル驚クベキ惡法ダケナンデアル、是ガタッタ一ツ新シイ、此不穩文書等取締法案ニ關シテハ定メテ與黨タル民政黨、政友會、昭和俱樂部ノ諸君ト雖モ同感ダラウト思フガ、此法案ノ内容ヲ諸君ガ見タナラバ實ニ驚クベキモノナンデアル、正ニ國民ノ耳ニ鍵ヲ掛ケ、國民ノ口ヲ縫付ケヨウトスル驚クベキ亂暴ナル法案デアル、露西亞帝政時代ノ專制政治家ト雖モ、斯ノ如キ亂暴法案ハ考ヘ付カナカッタダラウ、是レ一ツデハナイカ、示サレタモノハ是レ一ツ、昨日民政黨ノ齋藤君ハ軍部ニ對スル言説ノ中デ、聽テ國民ノ忍耐破ル、ヲ惧ル、素晴シキ名言ヲ吐カレタ、私ハ此言葉ヲ藉リテ現内閣ヲ攻メタイ、在再六十日、示ス所ハ此驚クベキ不穩文書等取締法案タッタ一ツ、斯ノ如クンバ國民ハ遂ニ其忍耐ノ力ヲ持チ耐ヘナクナツテ、何處カニ此忍耐ノ捌ケ場ヲ見付ケナケレバナラヌ、斯ウ云フ不穩ナ情勢ガ生レテ來ヤシナイカ、之ヲ私ハ惧レザル



ヲ得ナイ、醜ッテ私ハ現前ノ目ノ前ノ日本ノ政治情勢ニ關シテ考ヘテ見タイ、齋藤君ハ昨日極メテ立派ナ質問ヲサレタ、此齋藤君ノ質問ハ全國ノ新聞紙一様ニ之ヲ報道シ、洵ニ齋藤氏ノ質問ニ對スル世間ノ耳目ハ聳動サレタルカノ感スラアル、所ガ先程モ麻生君ガ此點ニ觸レタヤウニ思ヒマスガ、私ノ考ヘ方カラ申シマシテモ、成程齋藤君ノ演說ハ過去數年間繰返サレタル日本ノ政治情勢ノ一ツヲ捉ヘ來ツタ、併シ結局ハ唯一部分デアル、而モ政治的表層ノ一現象ノ批判ノミダ、私ハ失禮デアルケレドモ、先輩齋藤氏ノ演說ヲ今朝熟讀シテ、斯ノ如ク感ゼザルヲ得ナカッタ、吾々ハ斯ノ如キ皮相的ナ現象ノ一端ヲ捉ヘ來ツテノミ考フベキデハナイ、更ニ其内容ニ至ッテ深ク分析解剖シテ、ソコニ何ガアルカラ見出サナクチャナラヌ、之ヲ分析シタ時ニ吾々ハソコニ何モノヲ發見スルカ、五月十五日以前、アレヨリ三箇月前ノ總選舉ニ於テ政友會、民政黨ノ選舉ニ於ケル戦ヒ振リカラ見マスレバ、此二ツハ一緒ニナル筈ハアリハシナイ、正ニ兩黨トモ國民ニ向ッテハ徹底シテ政黨政治ヲ守ルト約束シタ、其選舉アツテ三箇月後ニ政友會、民政黨ノ諸君ハドウナッタ、一タビ五・一五事件ニ出會スマ、其約束ハ徹底ヲ捨ツルヨリモ、モット容易ク捨テ去ッテ、知ラヌ顔シテ齋藤舉國一致内閣ヲ助ケタ、信義ヲ重ンズベキハ軍人ダケデヤナイ、信義ヲ重ンジナケレバナラヌノハ軍人ダケデハナイ、斯ノ如キ行動ガオ互國民ノ常識ニ於テ信義上果シテ缺クル所ナイカ、甚シク缺ケテ居ルノデハナイカ、五・一五事件ノ裁判ニ於テ軍人側ガ輕カッタコト、民間側ガ重カッタコト、之ニ關シテハ私ハ齋藤君ト同感デアアル、併ナガラ此處デ私ハ民政黨ノ諸君ニモ反省ヲ促サナケレバナラヌト思フコトハ、成程全國ノ農民ニ斯ノ如キ直接行動ハ憎ムデアラウ、憎ムガ故ニ彼等刑セラレルト雖モ仕方ガナイト思ッテ居ルガ、思ッテ居ルガ、アノ被告達ヲ誰一人トシテ全國農民中、農民ノ敵ト思ッテ居ルカ、一人モ農民ノ敵ト思ッテ居ナイデヤナイカ、政黨ハ正ニ茲ニ反省シナクチャナラヌコトナノデアアル、先刻來政友會、民政黨、與黨ノ諸君モ今日勤勞國民ガ甚シク窮乏状態ニ在ルコトハ、幾度カ繰返シテ述ベラレタ、而モ兩黨トモ此勤勞國民ノ窮乏ニ對シテ、現内閣ノ爲ス所嫌ラザルガ如キ口吻ヲ屢、諸君ハ漏ラスデハナイカ、與黨スラ漏ラス、此内閣ニ代表閣僚ヲ出シテ居ッテ、人情カラ言ッテモ普通ノ立前カラ言ッテモ、默ッテ

此内閣ヲ支持シナクチャナラヌ義理合ノ諸君スラ、此内閣ニ不滿ダ、如何ニ此内閣ガ政策ガ貧困デアリ、其方針ガ空デアルカハ言フ迄モナイ、若シ政黨者流諸君、政友會、民政黨諸君ニシテ寸分デモ政黨的魂ガアリ、瓜ノ垢程デモ政黨的意地ガアルナラバ、ドノ面下ゲテ此内閣ニ參加出來タノデアルカ、今日マデ政界ヲ茶毒シタ根本原因ハ、政黨ガ政權ニ戀々トシテ、一タビ政權ノ前ニ立ツヤ、握飯ノ前ノ餓鬼ノ如ク、唯政權ニアリツキサヘスレバ宜イ、此フザケタル態度ガ、政黨ノ魂ヲ失ハシメタ根本原因ナンド、成程文字ノ上カラ言ヘバ、幾度カ此内閣ハ一死報國ノ内閣ナノダ、本當ニ覺悟ガアレバ、コンナ言葉ハ一生ニ一遍シカ使ッテハナラヌ言葉ダ、コンナ言葉ヲ輕々シク使フカラ、國民思想ガ非常ニ迷ハサレザルヲ得ナイ、一死報國、或ハ庶政一新、聲明書作文練習内閣ミタイナモノダ、斯ノ如キ内閣ニドシテ端クレデモ宜イカラ與黨ニサシテ貫ヒタイ、サウシテ與黨ニシテ貫ッテカラ後ニ、其位ヘタバツタナラバ、默ッテ議會デハ反對黨ニダケ物ヲ言ハスル位ナ雅量ガアレバマダシモダガ、サウマデ下駄ヲ預ケテ置キナガラ、立ッテハ此處デ煮エ切ラナイ反對論ヲシ、國民ノ手前如何ニモ獨自ノ立場ニアルガ如キ態度ヲ爲サントスルノハ、正ニ己レヲ欺キ人ヲ欺クモノデアアル、許スベカラザル政黨的罪惡ダ、近來市井ノ人曰ク、今日ノ政黨ニシテ與黨タル者ハ、正ニ藩籍奉還後ノ士族ノ如シダ、コンナ言葉スラガ市井ノ間ニ行ハル、コトヲ諸君ハ知ルカ否ヤ、貴族院ハ今ヤ自ラ改革ノ狼烟ヲ揚ゲツ、アル、併シ衆議院ハ此状態デアアル、衆議院何ノ顔色アルカ、岡田内閣ハ二二六事件ヲ未然ニ防グコトガ出來ナカッタ、此故ニソレゾレ責任ヲ執ツタ者ガアル、宸襟ヲ惱マシ奉ツタコトデアリマスカラ、責任ヲ執ルノハ當然デアアル、昨日笠井君ノ質問ニ對シ、總理大臣ハ一遍責任ヲ執ツタガ、再ビ大命ガ降下シタカラ内閣組織ニ當ツタ、斯ウ返答サレタガ、先般議會ニ賜リタル御詔勅ヲ拜シテ後、岡田内閣當時ニ於ケル閣僚トシテノ責任ニ關シテ、廣田總理大臣ハ心境ノ變化ガナキヲ得ルカ、同ジコトダ、斯ウ言ヒ得ルカドウカ、是ハ特ニ總理大臣ダケニ聽イテ置カナクチャナラヌ、斯ノ如キ無力、魂ヲ置忘レタル政黨ヲ抱キ込ンデ、廣田總理大臣ハ舉國一致内閣ダト言フ、私ハ舉國一致ナル文字ニ魂アラバ泣タダラウト思フ、コンナコトデ舉國一致ヲ今日弄ンデ居ッタナラバ、本當ニ舉國一致ヲ必要トシ



タトキ一體ドウナルノダ、私ハ斯ノ如キ言葉ガ斯ノ如ク輕率ニ使用サル、コトニ對シテハ甚シキ遺憾ヲ感ゼザルヲ得ナイ、廣田總理大臣ニ對シテ岡田内閣當時ニ於ケル閣僚トシテノ責任ヲ云々スル私ハ、此岡田内閣ニ對スル政黨ノ責任ヲ感ジタナラバ、勿論私ハ責任アルコトヲ指摘セザルヲ得ナイ、岡田内閣ニ對スル政黨ノ責任ヲ感ジタナラバ、頼マレテモ民政黨ハ入閣ヲ遠慮スルガ當然デヤナイカ、是ガ正シキ政黨ノ行キ方デハナイカ、斯ノ如キ無責任ナル行動ヲ演ジテ來テ居リナガラ、此事ヲ思フ時ニ私ハ齋藤隆夫君ノ其演說ニ多大ノ敬意ヲ拂フト同時ニ、何故齋藤君ハ民政黨ヲ脱退シテ、アノ演說ヲヤツテ吳レナカッタカ、恐ラク此感ジハ私ダケデハアルマ、齋藤君ハ此内閣ノ組織ニ當ッテ、軍部大臣ガ云々シタデハナイカ、斯様ニ不滿ヲ竝ベテ居ルガ、ソレ程不滿ヲ竝ベルナラバ何故敢然トシテ入閣ヲ拒絶シナカッタノダ、私ハ今日ノ政黨ノ魂ナキコトヲ總理大臣ヤ現内閣ノ閣僚ニ言ウテ之ヲ指摘スルノダガ、斯様ナコトヲ敢テシ來リツツアル所ノ政黨、コンナコトデ果シテ庶政一新若クハ革新ノ機運ニ應ズルナント云フコトハ斷ジテ出來ナイ、此私ノ斷定ハ大地ヲ打ツ槌ハ外レテモ、此斷定ダケハ外レツコトハアリマセヌ、ソコデ私ハ廣田總理大臣ニ質問スル、竝ニ政黨出身閣僚ニ質問スル、諸君ガ靜ニ冷カニ自己ノ責任ヲ思フ時ニ、廣田總理大臣ハ辭職スルコトガ當然ト思ハナイカ、政黨出身ノ閣僚ハ脱退スルコトヲ政黨更生ノ爲メ、當然ニシテ正シキ行動ナリト考ヘナイカ、民政黨ハ頼母木君ガ答辯シテ欲シイ、政友會ハ前田君ニ依ッテ答辯ヲ希望スル

馬場大藏大臣ノ應答

大衆課税ノ問題、恩給法ノ問題ハ私ヨリ御答ヲ便宜上致シマス、昨日ノ議場デ申シマシタ如ク、是ハ申ス迄モナイノデアリマスガ、租税ハ國費ノ分擔デアリマス、國費ノ分擔デアル以上ハ、廣ク且ツ公平ニ分擔スルノガ言フ迄モナク、原則デアリマス、併ナガラ此内閣ハ國民生活ノ安定ヲ企圖致シテ居リマス、隨テ國民生活ノ安定ヲ害スル、或ハ國民生活ノ上ニ脅威ヲ感ゼシムルガ如キ所謂大衆課税デアリマスナラバ、是ハ致サヌ積リデアリマス、ソレカラ恩給法ハ昭和八年ニ

改正ヲ致シタノデアリマスノデ、差當リ大シタ改正ヲ致ス考ハ目下有ッテ居リマセヌ、左様御答致シマス

頼母木遞信大臣ノ應答

風見君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、其前ニ農村電化ノ問題ニ付テ、御答辯ヲ致シマスルコトニ關聯ヲ致シマスカラ、麻生君ノ先程ノコトニ一寸申添ヘテ置キタイト思フ、電力國營ハ私ノ二十餘年來ノ主張デアリマス、其當時デアリマシタ極メテ簡單ニ出來タノデアリマスガ、今日ハ四十億以上ノ資本金ヲ以テ、サウシテ全國的ニ非常ナ發展ヲ致シテ居ルノデアリマス、此議會ニ於テ初メテ私ハ麻生君ノ風貌ニ接シマシタガ、麻生君ガ主義ノ爲ニ惡戰苦闘ヲサレテ、今日ニナリマシテ十八名ノ同志ヲ得ラレタコトハ、非常ナ御成功デアルト思ヒマスガ、其目的ヲ達セラレタノニ要シタ年月ハ、二十餘年デアルト云フコトデアリマス、主義主張ヲ徹底サスニモサウ云フヤウナ年月ヲ要スルノデアリマス、此國營ヲ直グニ出來ルヤウニ考ヘラレルコトハ、私ハ大變間違デヤナイカト思フノデアリマス、ソコデ農村電化ハ、私ハ電力ヲ安クシテ、サウシテ豐富ナ電力ヲ供給シナケレバ、到底農村ノ電化ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナイト考ヘマシテ、早ク國營ノ目標ヲコ、ニ置イテ、ソコニ達スル色々ノ障礙、又色々ノ禍ヲスツカリ取除キマシテ、ソコヘ達シタイト考ヘテ居リマス、ソコデ今農村電化ヲ致シマスルニハ、問題ハ兎ニ角ニツノ方法ガアリマス、第一ハ電氣ノ施設ニ關スル指導デアリマス、第一ハ農村工業ノ共同施設ニ對スル配電設備ノ建設ヲ助成スルコトデアリマス、差向キヤラナケレバナラヌ事ハ是デアルト考ヘテ居リマス、ソコデ農村共同工業所ニ配電ノ設備等ヲ致シマスルノニ非常ナ金ガ掛リマスカラ、之ニ助成ヲ致シマシテ、ソシテ便宜ヲ與ヘルヤウニ致シテ居リマス、今後ト雖モ、ヤハリサウ云フヤウナコトヲ致シマスル積リデ、ソレヲ尙一層強化シテ參リタイト考ヘテ居リマス、只今使ッテ居リマスル金ハ極メテ僅少デアリマス、併ナガラ是ハ段々財源モ捻出致シマシテ、終局ノ目的ヲ達スルヤウニ、安イ豐富ノ電力ヲ供給シ得ラル、ヤウニ、農村ガ是ガ爲ニ非常ニ利益ヲ得ルヤウニ致シタイト考ヘ



テ居ルノデアリマス、ソコデ今度提出シテアリマスル東北ニ關シマス電力ノ關係ハ、御存ジノ通  
 リニ一人當リ五十圓バカリ一年ニ負擔ガ輕減サル、ヤウナ方法ニナツテ居リマス、是ハ窮乏セル  
 東北ノ農村等ニ對シテハ、非常ニ私ハ助ケニナルヤウニ考ヘテ居リマス、將來サウ云フヤウナ施  
 設ヲ致シマシテ、段々産業ノ原動力デアアル公益ノ此電氣事業ヲ、十分ニ經濟的ニ之ヲ供給シ得ラ  
 ル、ヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ、前ノコトハ私ハ聽イテ居リマセヌデシタガ、  
 岡田内閣ヲ援ケタ民政黨ガ此内閣ヲ援ケルト云フコトハ怪シカラヌデヤナイカト云フヤウナコ  
 トガ私ノ耳ニ一寸入ッタノデアリマス、民政黨ハ御存ジノ通りニ、齋藤内閣ニ對シテモ、吾々ノ主  
 張ト同ジ主義ヲ——議會中心ノ主義ヲ支持スル目的ヲ以テ内閣ヲ組織スル、ドウカ援助ヲ頼ム  
 ト云フコトデ、民政黨ハ之ニ參加シタ、ソレカラ岡田内閣ニモ其通りデ、之ヲ援助シタノデアリ  
 マス、其當時國民同盟ニ於テハ、齋藤内閣ニ對シテハ反對デアルト云フコトデアリマシタ、今度  
 ハ岡田内閣ガ出來マスル時ニハ、與黨トシテ非常ニ支持セラレタ……今度此内閣ガ出來マシテ  
 而シテ内閣審議會ガ廢メラレルト云フ噂ガ立チマス、掌ヲ反スヤウニ野黨ニナラレタと思フ、  
 私共ハ終始一貫齋藤内閣ニ對スルモ、亦岡田内閣ニ對スルモ、現内閣ニ對スルモ、同様ナ考ヘテ以  
 テ支持ヲ致シテ居リマス、而シテ閣僚ニ入ッテ居ルノデアリマス、左様ナ次第デアリマスカラ、私  
 共ハ何處マデモ此終始一貫ヲ以テ、而シテ私共ノ考ヘテ居ルコトヲ實行ニ移シタイ、唯實行ヲシ  
 タイト云フ信念ヲ以テ此内閣ニ入りマシタ譯デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

林司法大臣ノ應答

五二五事件ニ關シテ、非常上告云々ノ御質問ガアッタノデアリマスガ、具體的ノ事件ニ付テ如何  
 ナル司法處分ヲ爲スベキカト云フヤウナ事柄ハ、其性質上外部ニ於テハ絕對ニ申スベキコトデ  
 ナイト心得マスノデ、此席ニ於テ御答スルコトハ控ヘマスガ、唯一般抽象論トシテ非常上告ニ付  
 テ申上ゲマスレバ、非常上告ヲスル場合ハ、法律ニ嚴重ナ規定ガゴザイマシテ、單ニ刑罰ガ重イ  
 ト云フノミデ非常上告ヲスルコトハ法律ガ之ヲ許シテ居リマセヌ、之ヲ御答致シテ置キマス

廣田内閣總理大臣ノ應答

風見君ノ私ニ對スル御質疑ハ一點デアッタと思フノデアリマス、私ハ甚ダ微力ノ者デアリマシ  
 テ、斯ノ如キ重大ナル時局ニ此位置ニ就クニ付キマシテハ、唯誠ヲ以テ國ニ奉ズルト云フ念ノ外  
 全クナイノデアリマス、サウ云フ點カラ致シマシテ、出來ルダケ各方面ノ助力ニ依リマシテ、此  
 時艱ヲ克服シテ參リタイト思ッテ居ルノデアリマス、ソレニ對シマシテハ、何ヨリモ國民全般ノ  
 後援ヲ仰ガナケレバナラナイ、ソレニ付キマシテハ、議會政治ヲ以テ進ンデ參リマスル以上ハ、  
 此議會全部ノ御後援ヲ希望シテ已マナイノデアリマス、如何ナル譯カ、或ル方面ニ此内閣ニ對シ  
 テ初メカラ反對ヲ標榜シテ掛ッテ居ラル、方ガアルヤウニ思フノデアリマス、全クソレハ私ノ不  
 德ノ致ス所ダト思ヒマスガ、此時局ニ對スル認識ガ餘程不足シテ居ル方デハナイカト思フノデ  
 アリマス、私ハ先達テ開院式ノ詔勅ヲ伺ヒマシテ、一層責任ノ重大ナルヲ感ジ自ラ責ムルト同時  
 ニ、一層勇ヲ鼓シテ、粉骨碎身、邦家ニ御奉公致シタイト云フ覺悟ヲ致シテ居ルノデアリマス、斯  
 ル決心デアリマスノデ、決シテ辭職ナドハ致サヌノデアリマス

有田外務大臣ノ應答

御質問ノ第一點ハ大陸政策云々ニ付テデアッタ考ヘマスガ、大陸政策ト云フ言葉ハ雜誌、新聞  
 等ニハ出テ居リマスガ、政府ト致シマシテハ別ニ大陸政策ト云フヤウナ政策ヲ立テ、居ル譯デハ  
 ナイノデゴザイマス、併ナガラ大陸、即チ滿洲國、支那並ニ「ソビエト」等ニ對スル關係ハ、勿論方  
 針ヲ持ッテ居ルノデアリマス、是ハ先ヅ一方ニ於キマシテハ日滿「ソ」ノ關係ヲ調節致シマシテ、  
 又他方ニ於キマシテハ日滿支ノ關係ヲ調節シテ、サウシテ東洋ノ平和ヲ確立シ、經濟ノ發展ヲシ  
 テ行カウ、斯ウ云フノデアリマス、此點ニ付キマシテハ、勿論陸軍大臣ニ相談スル迄モナク、政府  
 ノ方針ガ玆ニアルノデゴザイマス、ソレカラ支那ノ民衆、殊ニ農民ヲ對象トシテ行カナケレバナ  
 ラナイト思フガ、政府ハドウ云フ風ニ考ヘテ居ルカト云フ御質問デアッタヤウニ思ヒマスガ、是



ハ政府ト致シマシテハ、政府ト政府トノ關係ニ勿論重點ヲ置イテ居ルノデアリマス、併ナガラ支那ノ民衆ト云フモノヲ十分目標ニシテ、其諒解ヲ得テ行カナケレバナラヌト云フコトモ、十分承知致シテ居ルノデアリマス、政府ハ支那ノ農民ノ生活ヲ安易ニ致シマス爲ニハ、日本ノ安イ生産品ヲ使用セシメルト云フコトガ、一ツノ方法デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、出來ルダケ日本ノ安イ品物ヲ支那ヘ送出ス、併ナガラ最近支那デハ高イ關稅ヲ課ケテ居リマスノデ、其關稅ハ成ベク低クシテ、サウシテ安イ日本ノ物ガ多ク支那ヘ入ッテ、サウシテ支那ノ農民ノ生活等ヲ樂ニスルト云フコトニ致シタイト思ッテ居リマス、併ナガラ幾ラ安イ物デアリマシテモ、唯賣ルダケデハイケマセヌノデ、支那ノ物ヲ買フ、農民ノ生産シタ物、殊ニ原料品ヲ買フ、或ハ棉花、或ハ羊毛ト云フ風ナ、日本デ必要トスル原料品ヲ買フ、是ハ即チ支那ノ農民ノ利益デアルノデアリマス、其見地カラ致シマシテ、或ハ山東省ニ、或ハ北支那ニ於キマシテ、色々ナ機關ヲ通ジマシテ、或ハ綿絲ノ改良、或ハ綿羊ノ改良ト云フ方ニ努メテ、出來ルダケ良イ綿絲、出來ルダケ良イ羊毛ヲ支那ノ農民ヲシテ生産セシメテ、成ルベク之ヲ日本ガ買フト云フ風ニ致シタイト考ヘテ、マダ初期デハアリマスガ、ボツ／＼トサウ云フ風ナ方面ニ著手致シテ居ルノデアリマス、其他支那ノ民衆ニ對シマシテハ、文化事業ノ方面ニ於キマシテモ、或ハ病院、或ハ學校、或ハ學生ノ日本ヘ來ルト云フヤウナコトヲ獎勵致シマシテ、支那ノ民衆ノ意ヲ得ルト云フコトニ努メテ居ル次第デアリマス

永野海軍大臣ノ應答

退職軍人ガ軍需工業ニ從事シテ居ル者ハ其數ガ相當ニアリマス、併シ是ハ技術ノ指導ヤ、或ハ其發達ニ必要デアリマス、別ニ肅軍上特ニ有害ナリトハ認メテ居リマセヌ、但シ綱紀ノ維持ニ付キマシテハ十分ナル注意ヲ拂ッテ居リマシテ、弊害ハ今ノ所認メテ居リマセヌ

寺内陸軍大臣ノ應答

軍需工業ニ從事シテ居リマス退職將校ノ爲ニ肅軍ガ妨ゲラレルコトガナイト云コトハ、只今海軍大臣ガ御答ニナッタ通りデゴザイマス、先程大藏大臣ガ述べラレマシタ通り、被課稅者ニ何等脅威ヲ與ヘザル程度ノ課稅デアルナラバ、是ハ肅軍ノ爲ニ何等影響スルコトハナイモノト信ジマス

島田農林大臣ノ應答

災害等ノ場合ニ飯米ノ缺乏ヲ來ス事柄ニ付テ御尋ガアリマシタ、是ハ是マデ左様ナ場合ニ於キマシテハ、現在ノ法規ノ下ニ於テハ正當ニ計ラフト云フ途ハナイヤウニ考ヘテ居リマス、併ナガラ凶作其他ノ場合ニ於キマシテ、地方ニ飯米ノ不足ヲ來スヤウナ場合ニハ、之ニ對シテ何等カノ處置ノ出來ル途ヲ開ケルコトガ必要ト考ヘマシテ、今回提案致シテ居リマスル米穀三法案ノ中、統制法ノ改正案ノ中ニハ、左様ナ場合ニ適用シ得ル規定ヲ設ケマシテ、其途ヲ開クコトニ致シテ居リマス、尙ホ左様ナコトデ或ハ十分デナイカト思ヒマスルガ、ソレ等ノ點ニ付キマシテハ十分研究ヲシテ、必要ニ應ズルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、是ダケヲ御答致シテ置キマス

風見君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

只今ノ質問ニ對スル答辯中回答ノ不満足ナ點ガ少クナイノデアリマスガ、既ニ時間モ經チマシタカラ詳シイコトハ豫算總會ニ讓ルコトニ致シマシテ、私ノ質問ヲ終リマス

國務大臣ノ演說ニ對スル質疑ハ通告者全部之ヲ終了シ質疑茲ニ終局ス

第三節 議案

第一款 議案ノ成績

本期議會ニ於テ本院ニ提出セラレタル議案總數二百五十八件ニシテ内政府提出議案六十五件、議



員提出議案百九十三件トス、他ニ受理シタル請願七百四件アリ之ヲ議案ノ類別ニ從ヒ其ノ成績ヲ示セハ左ノ如シ

豫算案ハ七件ニシテ孰レモ兩院ヲ通過セリ

決算ハ一件ニシテ委員會報告ヲ是認セリ

國有財産増減總計算書ハ一件ニシテ委員會報告ヲ是認セリ

承諾ヲ求ムル議案ハ十件ニシテ孰レモ兩院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト決セリ

政府提出法律案ハ四十六件ニシテ内兩院ヲ通過シタルモノ四十五件、委員會ニ於テ審査未了ノモノ一件トス

議員提出法律案ハ二十件ニシテ内本院ヲ通過シ貴族院ニ於テ議決ニ至ラザリシモノ四件(内二件ニ於テ三案ヲ併合シテ一案ト爲シタルモノ)及二案ヲ併合シテ一案ト爲シタルモノ)委員會ニ於テ審査未了ノモノ十三件トス

土奏案ハ一件ニシテ全會一致之ヲ可決セリ  
建議案ハ百五十八件ニシテ内可決シタルモノ百十四件、修正議決シタルモノ十九件(内一件ハ六案案ト爲シ二件ハ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ、十トス  
六件ハ二案ヲ併合シテ一案ト爲シタルモノナリ)トス

決議案ハ十三件ニシテ内可決シタルモノ四件、日程ニ上リタルモ議題トナラザリシモノ九件トス  
重要動議ハ一件ニシテ之ヲ可決セリ

受理シタル請願(一通ヲ一)ハ七百四件ニシテ請願委員會ニ於テ院議ニ付スヘキモノト決シ特別報告ヲ爲シタルモノ六百十三件ニシテ(内一件ハ一請願ヲ分割シ其ノ一部ヲ採擇シ他ヲ政府參考送付ト爲シタルモノナリ)内三百十件ハ院議ヲ以テ採擇ト決シ二百四十九件ハ同種議案議決ノ結果採擇ト看做シ五十四件ハ政府提出産蘭處理統制法案可決ノ結果議決ヲ要セサルモノトナレリ  
又請願委員會ニ於テ院議ニ付スルヲ要セスト決シ特種報告ヲ爲シタルモノ八十六件ニシテ内八十四件ハ政府參考送付二件ハ不採擇ナリ  
而シテ六件ハ委員會ニ於テ審査未了ニ終ハレリ

### 第二款 議案ノ討議及表決

#### 第一項 豫算案

- 一 (第一號) 昭和十一年度歳入歳出總豫算追加案
- 二 (特第一號) 昭和十一年度各特別會計歳入歳出豫算追加案
- 三 豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
- 四 (第二號) 昭和十一年度歳入歳出總豫算追加案



五 (特第二號) 昭和十一年度各特別會計歳入歳出豫算追加案  
 六 (追第一號) 豫算外國庫ノ負擔トナルニキ契約ヲ爲スヲ要スル件  
 七 (第三號) 昭和十一年度歳入歳出總豫算追加案  
 右一、二及三ノ三案ハ昭和十一年五月六日、四、五及六ノ三案ハ同月十二日、七ハ同月十四日各提出シ  
 昭和十一年五月六日內閣總理大臣ノ施政方針、外務大臣ノ外交ノ經過竝方針ニ關スル演說ニ次テ馬場  
 大藏大臣ハ昭和十一年度追加豫算案ニ關スル演說ヲ爲ス(第二章第二節第一參看) 豫算案ノ内容左ノ如シ

一 (第一號) 昭和十一年度歳入歳出總豫算追加案

豫算

第一條 昭和十一年度歳入歳出追加額ヲ各參億六千貳百參拾四萬貳千貳百六拾貳圓ト定ム其ノ  
 款項ノ金額ハ別冊甲號歳入歳出豫算ニ據ルヘシ  
 第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ各其ノ規畫スル所ニ隨ヒ昭和十一年度以降ノ繼續費ト爲シ若ハ  
 既定ノ總額年限金額ヲ改定ス

第三條 昭和十一年度歳出豫算追加中別冊丙號所掲ノ費途ハ年度末支出殘額ヲ翌昭和十二年  
 度ニ繰越使用スルコトヲ得

甲 號		第十一款 公債	三〇六、三九六、八九六
歳入經常部		第十三款 特別會計ヨリ一般財源受入	一七、五〇〇、〇〇〇
第一款 租稅	五、六五二、五四五	歳入臨時部合計	三四〇、〇八八、一八七
第二款 印紙收入	六四八、九〇一	歳入總計	三六二、三四二、二六二
第三款 官業及官有財産收入	七、五〇七、〇六六	歳出經常部	七、四四一、〇三三
第四款 通信事業特別會計納付金	三、〇〇〇、〇〇〇	外務省所管	一、三八、〇〇二
第六款 雜收	五、一四七、九一五	第一款 外務本省	一、三八、〇〇二
第七款 教育改善及農村振興基金特別會計ヨリ繰入	二九七、六四八	第二款 在外公館	三、一三、三八二
歳入經常部合計	二二、二五四、〇七五	第四款 諸支出金	一、一、三八四
歳入臨時部		外務省所管合計	四六二、七六八
第一款 官有物拂下代	二、三一〇、四七五	內務省所管	二、一三、六六三
第二款 雜收	四、三六〇、二七九	第三款 內務本省	二、八、五九一
第三款 公共團體工事費納付金	二、九七四、九三七	第四款 社會局	二、二、二〇一
第四款 公共團體工事費分擔金	二、八八八、一二五	第七款 傷兵院	一、一、〇九二
第五款 學術研究獎勵金受入	三、〇〇〇	第十款 衛生試驗所	七、八、二〇〇
第六款 特別會計ヨリ繰入	三、六五四、四七五	第十二款 國立癩療養所	九、三、四四七



第十四款 地方 廳	一一二〇、一一八	第十四款 諸 支出金	八、五二一
第十五款 徵 兵 費	七四九、九六〇	第十五款 國庫 豫備金	二、〇〇〇、〇〇〇
第十六款 軍事 救護 費	四六三、六四五	大藏省所管合計	一一、六七六、八九一
第十七款 警察 費連帶支辨金	四、〇一三、三七三	陸軍省所管	一一、二二六、六九五
第十八款 補 助 費	六七〇、四六一	海軍省所管	二〇、九五五、一〇一
第十九款 健康保險國庫負擔金	二八五四、三四二	司法省所管	八、二二四
內務省所管合計	七、〇九五、四三〇	第一款 司法 本省	七四、六七七
大藏省所管	二、四〇六	第二款 刑 務 費	七二四、三〇三
第一款 大藏 本省	一八、四四八	第三款 刑 務 費	八〇七、一九四
第二款 內 閣	一〇二、七五三	司法省所管合計	一、五三〇、八八八
第三款 貴 族 院	一、〇八一、一六二	文部省所管	五三、四二八
第四款 衆 議 院	一六、八八五	第一款 文 部 本省	
第五款 會計 檢査 院	五、五二五、〇〇〇		
第六款 營 繕 管 財 局	四〇二、〇三四		
第七款 稅 關	四九九、七八六		
第八款 內國 稅徵收 費	七、四七三、三九六		
第九款 諸拂戾及補填金			
第十款 諸拂戾及補填金			
第十一款 諸拂戾及補填金			

第二款 氣 象 臺	一二七、一二五	第四款 試驗所及研究所費	八、五二〇
第六款 社會 教育 費	三七三、〇〇〇	第五款 指導所及檢査所費	一一六、四九二
第七款 思想指導施設費	三七、七五三	第六款 補 助 費	四、二〇〇
第十一款 大學及學校圖書館支出金	二五〇、七九一	商工省所管合計	一九〇、七〇九
文部省所管合計	八四二、〇九七	逓信省所管	八三、〇〇三
農林省所管	一、〇〇〇	第一款 逓 信 本省	一〇、八一〇
第二款 森 林 費	二、二五六、八七四	第二款 逓 信 費	九三、六三四
第三款 試驗場及調查所費	七二、四三一	第三款 電 氣 試驗 所	二四、一八七
第五款 種馬所及種馬牧場	一七九、二二二	第五款 年 金 及 恩 給	四、八八〇、三九四
第七款 補 助 費	三一、五三七	第六款 諸 支 出 金	二一、七七八
第八款 諸 支 出 金	一八、一四四	逓信省所管合計	五、一一三、八〇六
第九款 馬 政 局	九七、九五三	拓務省所管	五、八八一
農林省所管合計	二、九三六、一六一	第一款 拓 務 本省	二〇六、三七五
商工省所管	三、八六五一	第二款 煙草專賣金權太廳特別會計繰入	二二二、二五六
第一款 商 工 本省	六、一三二、八四六	拓務省所管合計	
第二款 特 許 局			



歲出經常部合計	六、五一九、一〇八	第一款補助費	二、九六七、三四七
歲出臨時部		第二款治水事業費	三、四五六、九七五
外務省所管		第三款港灣改良費	二、九六四、九三七
第一款營業費	三〇〇、〇〇〇	第四款道路改良費	八、一三七、六五七
第二款補助費	二五〇、〇〇〇	第六款中小河川改良助成費	一四、八〇一
第五款在外國居留民臨時保護取締費	一四、七六八	第十一款北海道拓殖費	二、三三四、三〇二
第七款移民保護指導費	一九一、五九四	第十二款警務費	三八、二八六
第八款通商振興施設費	二五二、二七四	第十三款造神宮使廳費	四、八四、五三六
第十款滿洲事件費	二二、二七九	第十五款臨時神宮使廳衛生事業調查及獎勵費	二〇六、五〇〇
第十一款臨時外交施設費	二五〇、〇〇〇	第十六款臨時神宮使廳衛生事業調查及獎勵費	一七三、三六八
第十三款那事事件被害者救濟諸費	一、〇〇〇、〇〇〇	第十七款沖繩縣振興事業費	四〇二、三八九
第十六款常設日滿經濟共同委員會諸費	三〇、〇〇〇	第十八款鹿兒島縣大島郡振興事業費	八九、五五四
第十七款海外臨時調查費	一四、〇〇〇	第十九款臨時外國行諸費	六九〇、五三八
第十八款日ソ漁業條約改訂會議諸費	八、五三三	第二十二款三陸地方海嘯災害豫防施設助成費	七七、五九七
外務省所管合計	二、三三四、四四八	第二十九款函館火災復興助成費	五、一三四
內務省所管		第三十一款災害救濟費	一六、六五四、五八六
第三十四款窮乏町村財政援助諸費	二〇、〇五〇、〇〇〇	第三十三款神職救養費	一四、一三〇
第三十五款協和事業費	四八、三三二		
第三十六款東北地方出稼者保護獎勵費	二五、二九一		
第三十七款今治港修築費納付金還付金	一四、一二七		
內務省所管合計	五八、五二八、四三一		

第三十款議院廳舍移轉諸費	二一四、五八一	陸軍省所管	
第三十一款議院建築功式諸費	一〇〇、〇〇〇	第一款營業費	三〇〇、〇〇〇
第三十二款北海道罹災救助基金補助費	五三、三二〇	第二款國防充備費	五四、九八八、六五〇
第三十三款東北振興特殊會社設立準備諸費	五〇、〇〇〇	第三款土地建造物整理費	二、〇一六、九七六
內務省所管合計	六、九二六、八〇八	第四款測量費	一三、七九〇
大藏省所管		第六款演習場射擊場及架橋場其他整備費	一、四七四、四六五
第一款營業費	四、一一一、二九三	第九款地圖製造費	四九、三三七
第二款調查費	一、九五八、九五四	第十一款一時賜金	五六、六五〇
第五款國有財產整理費	三五、〇〇〇	第十三款帝國在籍軍人會補助費	五〇、〇〇〇
第八款震災復舊及新營費	二一三、六一六	第十五款滿洲事件費	二〇、九一四、五六四
第十五款資源統制運用計畫應急諸費	七、七六一	第十七款兵備改善費	一七、〇一三、六〇二
第十六款在動手當其他臨時增給	五、四八一	第十九款在勤俸其他臨時增給	九、七一一
第十七款臨時財政經濟處理費	七八、三八三		
第十八款外國爲替管理費	一六、三七九		
第二十三款臨時利得稅徵收費	六三、四七二		
第二十八款恩給臨時取扱諸費	九、六六九		
第二十九款臨時外國行諸費	一〇、〇〇〇		

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第一項 豫算案 一九九



第二十三款	毒蟲驅除費	三〇,〇〇〇	海軍省所管合計	一一四,〇〇四、七八二
第二十四款	陸軍軍醫學校診療用器具機械增備費	二六,〇〇〇	司法省所管	
陸軍省所管合計		九六,九二〇、三四一	第二款 營繕費	三四〇,五二七
海軍省所管			第五款 思想犯罪防遏特別施設費	三一,九七八
第一款 艦艇製造費	三〇九,八八四	第七款 臨時刑務費	八四,一四六	
第二款 水陸整備費	三七,一五〇,四五二	第十一款 法律審議會諸費	一一,六六五	
第三款 航空隊設備費	七,六六〇,八三一	第十二款 司法警察刷新費	二三四,九二一	
第四款 艦船整備費	五五,三四八,一一七	司法省所管合計	七〇四,二三七	
第五款 軍需品整備費	三,二七一,二二五	文部省所管		
第七款 受託造修費	四,二一〇,二七九	第一款 營繕費	七一九,九三二	
第八款 拂下圖誌製造費	三,七六九	第三款 維新史料編纂費	七,〇〇〇	
第九款 研究費	五,三一〇,〇〇〇	第六款 臨時調查費	五六六,〇二	
第十款 一時賜金	三八五,三三二,九六五	第八款 臨時外國行諸費	一〇,〇〇〇	
第十六款 航空高層氣象圖誌其他調製費	一六,五七三	第九款 補助費	三八四,九三五	
第二十款 圖書整備費	四一,〇九二	第十一款 大學及學校圖書館臨時支出金	三九八,三〇四	
第二十三款 滿洲事件行賞諸費	五八九,五九五	第十二款 災害地方國寶臨時保存費	九四,一七一	
第二十四款 災害費	七〇,〇〇〇			

第二十三款	市町村立小學校災害給付金	二二,六六七	第二十七款	東北地方國有林所在縣交付金	二二二,二四〇
第二十六款	帝室制度史編纂費	一〇,〇〇〇	農林省所管合計	九,九四六,三〇七	
第二十七款	教學刷新諸費	六六,二四五,〇六〇	商工省所管		
文部省所管合計		一,九四八,六七一	第一款 產業獎勵費	二二九,一三九	
農林省所管			第三款 貿易振興費	一八,五七四	
第一款 產業獎勵費	五,二五三,三一一	第五款 液體燃料自給促進費	二,六五〇,五八九		
第二款 農村振興費	四八三,〇八八	第七款 調查及試驗費	三九,六〇五		
第三款 調查及研究費	三四五,八九一	第八款 營繕費	一四七,八二〇		
第五款 家畜傳染病及害蟲豫防費	一一八,五七九	第十一款 特許局審査處分費	一〇三,五八一		
第六款 治水事業費	五〇〇,〇〇〇	第十二款 沖繩縣振興事業費	四,七三〇		
第七款 公有林野官行造林費	二五二,一六七	第十三款 鹿兒島縣大島郡產業振興助成費	二,〇〇〇		
第十二款 海外漁業取締費	二四一,六六八	第十八款 中小商業經濟更生施設費	一六二,七七〇		
第十六款 漁區管理費	四,三七五	第十九款 名古屋汎太平洋和博覽會開催助成費	一〇〇,〇〇〇		
第十八款 農村經濟更生施設費	二,八〇五,〇〇九	第二十款 巴里國際博覽會參同費	二五〇,〇〇〇		
第二十二款 沖繩縣振興事業費	一七,二六七	第二十一款 商工組合中央金庫設立準備費	一六,六六七		
第二十三款 三陸地方海嘯災害豫防施設費	九,九四〇	第二十二款 臨時出資金	二,〇〇〇,〇〇〇		
第二十五款 在動手當其他臨時增給	二,七七〇	商工省所管合計	五,七三五,四七五		



逓信省所管		逓信省所管合計	
第一款 補助及獎勵費	一、六九二、五九六	第二款 移植民及海外拓殖事業保護獎勵費	二、七三五、七五六
第三款 營繕費	一、一七〇、〇四四	第三款 滿洲移植民費	二〇三、四七二
第九款 器具機械設備費	三一、八〇〇	第五款 特別會計經費補充金	七五〇、六〇六
第十五款 農村電氣利用改善費	一、三三、九八七	第六款 在勤俸其他臨時增給	一九二、二八五
第十六款 船舶調査其他諸費	二四、四四八	拓務省所管合計	一、〇四七、八九八
第十七款 航空路設置費	六三五、〇〇〇	歲出臨時部合計	三〇〇、八二三、一五四
第十八款 航空機檢査施設費	一六六、八八一	歲出總計	三六二、三四三、二六二
第十九款 航空思想普及費	三五、〇〇〇		
乙號		丙	
内務省所管		昭和十年度迄支出額	
治水事業費	六六七、四八〇、四八二	昭和十一年度以降支出額	
既定總額	三、八八九、五一九	(項) 砂防費	
追加額	七〇六、三九九、〇〇一	昭和十一年度乃至三十年	
		改定年額(昭和十一年度乃至三十年)	
		説明ハ之ヲ略ス以下之ニ做テ	
		(項) 土崎港修築費	
		昭和十一年度乃至十三年	
		改定年額(昭和十一年度乃至十三年)	
		説明ハ之ヲ略ス	
		(項) 尾道港修築費	
		昭和十一年度乃至十四年	
		改定年額(昭和十一年度乃至十四年)	
		説明ハ之ヲ略ス	
		(項) 舞鶴港修築費	
		昭和十一年度乃至十四年	
		改定年額(昭和十一年度乃至十四年)	
		説明ハ之ヲ略ス	

逓信省所管		逓信省所管合計	
第一款 補助及獎勵費	一、六九二、五九六	第二款 移植民及海外拓殖事業保護獎勵費	二、七三五、七五六
第三款 營繕費	一、一七〇、〇四四	第三款 滿洲移植民費	二〇三、四七二
第九款 器具機械設備費	三一、八〇〇	第五款 特別會計經費補充金	七五〇、六〇六
第十五款 農村電氣利用改善費	一、三三、九八七	第六款 在勤俸其他臨時增給	一九二、二八五
第十六款 船舶調査其他諸費	二四、四四八	拓務省所管合計	一、〇四七、八九八
第十七款 航空路設置費	六三五、〇〇〇	歲出臨時部合計	三〇〇、八二三、一五四
第十八款 航空機檢査施設費	一六六、八八一	歲出總計	三六二、三四三、二六二
第十九款 航空思想普及費	三五、〇〇〇		
乙號		丙	
内務省所管		昭和十年度迄支出額	
治水事業費	六六七、四八〇、四八二	昭和十一年度以降支出額	
既定總額	三、八八九、五一九	(項) 砂防費	
追加額	七〇六、三九九、〇〇一	昭和十一年度乃至三十年	
		改定年額(昭和十一年度乃至三十年)	
		説明ハ之ヲ略ス以下之ニ做テ	
		(項) 土崎港修築費	
		昭和十一年度乃至十三年	
		改定年額(昭和十一年度乃至十三年)	
		説明ハ之ヲ略ス	
		(項) 尾道港修築費	
		昭和十一年度乃至十四年	
		改定年額(昭和十一年度乃至十四年)	
		説明ハ之ヲ略ス	
		(項) 舞鶴港修築費	
		昭和十一年度乃至十四年	
		改定年額(昭和十一年度乃至十四年)	
		説明ハ之ヲ略ス	



昭和十年度迄支出額	一、三七〇、五〇〇	計	九三、四三三、〇七四
昭和十一年度以降支出額	二、五三三、二八六	内	
(款) 港湾改良費	一、〇〇〇、〇〇〇	昭和十年度迄支出額	七〇、三七三、九五四
(項) 舞鶴港修築費	六〇九、四三四	昭和十一年度以降支出額	
改定年額(昭和十一年度及十二年度)		(款) 北海道拓殖費	一、二二一、五八八
改定年額(改定年割額ハ之ヲ略ス)		(項) 北海道拓殖費	一一二、〇〇〇
八幡戸畑兩港修築並航路改良費		(項) 港灣費	二二、〇五八、二二〇
改定年額(昭和十一年度乃至十七年)		改定年額(昭和十一年度乃至十七年)	
改定年額(改定年割額ハ之ヲ略ス)		改定年額(改定年割額ハ之ヲ略ス)	
總額	一、九四二、三七一	北海道特殊橋梁費	一、〇〇〇、〇〇〇
(款) 港湾改良費		總額	八〇九、〇七四
(項) 八幡戸畑兩港修築並航路改良費	一一、九四二、三七一	(項) 北海道拓殖費	
年額(昭和十一年度乃至十五年度)		(項) 特殊橋梁費	八〇九、〇七四
年額(年割額ハ之ヲ略ス)		年額(昭和十一年度乃至十三年)	
年額(年割額ハ之ヲ略ス)		年額(年割額ハ之ヲ略ス)	
總額	二、〇三三、七六七	官國幣社風水害復舊費	一、七五〇、〇〇〇
(款) 道路改良費		既定總額	一、七五〇、〇〇〇
(項) 國道改良繼續費	二、〇三三、七六七	追加總額	二七五、〇〇〇
年額(昭和十一年度乃至十六年度)		計	二、〇二五、〇〇〇
年額(年割額ハ之ヲ略ス)		内	
既定總額	九二、四〇〇、六四八	昭和十年度迄支出額	五〇〇、〇〇〇
追加總額	一、〇三一、四二六		

昭和十一年度以降支出額	一、五二五、〇〇〇	年額(昭和十一年度乃至二十年)	三四〇、〇〇〇
(款) 臨時神社費		清水港震災復舊費	
(項) 官國幣社風水害復舊費	一、五二五、〇〇〇	總額	五二、一一八、〇二八
改定年額(昭和十一年度乃至十六年)		(款) 災害費	
改定年額(改定年割額ハ之ヲ略ス)		(項) 清水港震災復舊費	三四〇、〇〇〇
水川神社外三社社殿修築並境内整理費		年額(昭和十一年度及十二年)	
改定年額(昭和十一年度乃至十七年)		年額(年割額ハ之ヲ略ス)	
改定年額(改定年割額ハ之ヲ略ス)		大藏省所管	
總額	一、三五〇、〇〇〇	中央諸官衙建築費	
(款) 臨時神社費		既定總額	六一、一三四、七三二
(項) 水川神社外三社社殿修築並境内整理費	一、三五〇、〇〇〇	追加總額	一〇、〇一六、七〇四
年額(昭和十一年度乃至十七年)		計	六二、一五四、四三六
年額(年割額ハ之ヲ略ス)		内	
那覇港第二期修築費		昭和十年度迄支出額	四四、一一八、〇二八
改定年額(昭和十一年度乃至十八年)		昭和十一年度以降支出額	
改定年額(改定年割額ハ之ヲ略ス)		(款) 營繕費	
總額	一、四六九、一九二	(項) 中央諸官衙建築費	一七、〇一六、七〇四
(款) 沖繩縣振興事業費		改定年額(昭和十一年度乃至十五年)	
(項) 那覇港第二期修築費	一、四六九、一九二	改定年額(改定年割額ハ之ヲ略ス)	
年額(昭和十一年度乃至十八年)			
年額(年割額ハ之ヲ略ス)			
龜德港修築費			
改定年額(昭和十一年度乃至十八年)			
改定年額(改定年割額ハ之ヲ略ス)			
總額	三、八六、八五一		
(款) 鹿兒島縣大島郡振興事業費			
(項) 龜德港修築費	三、八六、八五一		
年額(昭和十一年度乃至十八年)			
年額(年割額ハ之ヲ略ス)			



大阪貯金支局新營費		既定 總額	三八六、四〇〇
追 加 額			六五七、六六二
計			一、〇四四、〇六二
内			
昭和十年度迄支出額			二五八、三六七
昭和十一年度以降支出額			
(款) 營 繕 費			
(項) 大阪貯金支局新營費			七八五、六九五
改定年額(昭和十一年度乃至十三年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			
郵便局舎新營費		既定 總額	二、七七七、九二〇
追 加 額			一、〇六七、〇四七
計			三、八四四、九六七
内			
昭和十年度迄支出額			一、九五七、四二七
昭和十一年度以降支出額			
(款) 營 繕 費			
(項) 横濱税關萬國橋改築費			二四九、六七一
改定年額(昭和十一年度及十二年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			
横濱税關萬國橋改築費		既定 總額	二二〇、八〇三
追 加 額			一七三、三九七
計			三三六、七〇九
内			
昭和十年度迄支出額			一二五、九〇六
昭和十一年度以降支出額			
(款) 營 繕 費			
(項) 簡易保險健康相談所新營費			一六三、三二二
改定年額(昭和十一年度乃至十三年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			
簡易保險健康相談所新營費		既定 總額	一六三、三二二
追 加 額			一七三、三九七
計			三三六、七〇九
内			
昭和十年度迄支出額			一二五、九〇六
昭和十一年度以降支出額			
(款) 營 繕 費			
(項) 簡易保險健康相談所新營費			二二〇、八〇三
改定年額(昭和十一年度及十二年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			
横濱税關萬國橋改築費		既定 總額	二四九、六七一
追 加 額			一七三、三九七
計			四二三、〇六八
内			
昭和十年度迄支出額			二四九、六七一
昭和十一年度以降支出額			
(款) 營 繕 費			
(項) 横濱税關萬國橋改築費			二四九、六七一
改定年額(昭和十一年度及十二年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			
神戶税關上屋其他移轉改築費		既定 總額	八七六、六六六
追 加 額			四五四
計			九三〇、二一〇
内			
昭和十年度迄支出額			九三〇、二一〇
昭和十一年度以降支出額			
(款) 營 繕 費			
(項) 神戶税關上屋其他移轉改築費			八七六、六六六
改定年額(昭和十一年度乃至十四年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			
門司税關陸上設備費		既定 總額	三三九、一九〇
追 加 額			
計			三三九、一九〇
内			
昭和十年度迄支出額			三三九、一九〇
昭和十一年度以降支出額			
(款) 營 繕 費			
(項) 門司税關陸上設備費			三三九、一九〇
改定年額(昭和十一年度及十二年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			
陸軍幼年學校新營費		既定 總額	五五〇、八六二
追 加 額			
計			五五〇、八六二
内			
昭和十年度迄支出額			五五〇、八六二
昭和十一年度以降支出額			
(款) 營 繕 費			
(項) 陸軍幼年學校新營費			五五〇、八六二
改定年額(昭和十一年度乃至十三年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			
蠶絲試驗場廳舎其他新營費		既定 總額	六九五、四〇五
追 加 額			
計			六九五、四〇五
内			
昭和十年度迄支出額			六九五、四〇五
昭和十一年度以降支出額			
(款) 營 繕 費			
(項) 蠶絲試驗場廳舎其他新營費			六九五、四〇五
改定年額(昭和十一年度乃至十三年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			

總額			
(款) 營 繕 費			
(項) 神戶税關上屋其他移轉改築費			八九九、一九〇
年 額(昭和十一年度乃至十四年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			
門司税關陸上設備費		既定 總額	三三九、一九〇
追 加 額			
計			三三九、一九〇
内			
昭和十年度迄支出額			三三九、一九〇
昭和十一年度以降支出額			
(款) 營 繕 費			
(項) 門司税關陸上設備費			三三九、一九〇
改定年額(昭和十一年度及十二年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			
陸軍幼年學校新營費		既定 總額	五五〇、八六二
追 加 額			
計			五五〇、八六二
内			
昭和十年度迄支出額			五五〇、八六二
昭和十一年度以降支出額			
(款) 營 繕 費			
(項) 陸軍幼年學校新營費			五五〇、八六二
改定年額(昭和十一年度乃至十三年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			
蠶絲試驗場廳舎其他新營費		既定 總額	六九五、四〇五
追 加 額			
計			六九五、四〇五
内			
昭和十年度迄支出額			六九五、四〇五
昭和十一年度以降支出額			
(款) 營 繕 費			
(項) 蠶絲試驗場廳舎其他新營費			六九五、四〇五
改定年額(昭和十一年度乃至十三年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)			

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第一項 豫算案 二〇七



追	加	額	三九九、九八八、六五〇
(計)			一、二七六、六五五、一〇四
内			
昭和十年度迄支出額			八〇八、七二五、八五六
昭和一十年度以降支出額			
(款) 國防充備費			四六七、九二九、二四八
(項) 部隊充備費			一一、三三二
(項) 要塞整理費			五〇、六二三、六九九
(項) 兵器其他整備費			四一七、二九四、二一七
改定年額(昭和十一年度乃至二十一年)			
土地建造物整理費			
既(定) 總			四三、九八九、一六九
追	加	額	五、〇一六、九七六
(計)			四九、〇〇六、一四五
内			
昭和一十年度迄支出額			四三、三八四、八七二
昭和一十年度以降支出額			
(款) 土地建造物整理費			
既(定) 總			一五、二九三、七一六
追	加	額	七二、六六七、〇一三
(計)			八七、九六〇、七二九
内			
昭和一十年度迄支出額			一四、二三七、五六〇
昭和一十年度以降支出額			
(項) 土地建造物整理費			五六二一、二七三
改定年額(昭和十一年度乃至十六年)			
演習場射撃場及架橋場其他整備費			
既(定) 總			六、九七四、八八四
追	加	額	一一、八七七、三四六
(計)			一八、八五二、二三〇
内			
昭和一十年度迄支出額			六、九六九、五三四
昭和一十年度以降支出額			
(款) 演習場射撃場及架橋場其他整備費			
(項) 演習場射撃場及架橋場其他整備費			一一、八八二、六九六
改定年額(昭和十一年度乃至十五年)			
兵備改善費			
既(定) 總			一五、二九三、七一六
追	加	額	七二、六六七、〇一三
(計)			八七、九六〇、七二九
内			
昭和一十年度迄支出額			一四、二三七、五六〇
昭和一十年度以降支出額			

昭和一十年度以降支出額			
(款) 兵備改善費			七三、七三三、一六九
(項) 兵備改善費			
改定年額(昭和十一年度乃至十六年)			
海軍省所管			
水陸整備費			
既(定) 總			二八二、九九七、五七八
追	加	額	三九、一五〇、四五二
(計)			三二二、一四八、〇三〇
内			
昭和一十年度迄支出額			二八一、〇五四、〇二四
昭和一十年度以降支出額			
(款) 水陸整備費			四一、〇九四、〇〇六
(項) 事務費			七五四、四〇〇
(項) 工作應設備費			三五、六五六、六一六
(項) 防備部隊設備費			一、七八九、〇〇一
(項) 軍港雜設備費			一、五七五、三〇九
昭和一十年度以降支出額			
(項) 教育機關設備費			一、一四三、九四〇
(項) 病院設備費			一七四、七四〇
改定年額(昭和十一年度及十二年)			
司法省所管			
汐見町刑務支所新營費			
總			七九、〇五三
(款) 營繕費			
(項) 汐見町刑務支所新營費			
年額(昭和十一年度及十二年)			
名古屋刑務所拘留監新營費			
總			二九六、九二八
(款) 營繕費			
(項) 名古屋刑務所拘留監新營費			
年額(昭和十一年度及十二年)			
神戸刑務所移築費			
總			
(款) 營繕費			



<p>(項) 神戸刑務所移築費 二、二七一、四〇三 年額(昭和十一年度乃至十八年度年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>文部省所管 姫路城建物其他保存費 既定 總額 九六、四六二 追加 額 一三七、一九二 計 二八一、六五四</p> <p>内 昭和十年度迄支出額 五〇、七三一 昭和十一年度以降支出額</p>	<p>(款) 災害地方國寶臨時保存費 (項) 姫路城建物其他保存 一八二、九二三 改定年額(昭和十一年度及十二年度) (改定年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>逓信省所管 大阪第二飛行場設置費 總額</p> <p>(款) 航空路設置費 (項) 大阪第二飛行場設置 一、一四八、〇〇二 年額(昭和十一年度及十二年度) (度年割額ハ之ヲ略ス)</p>
--	--

丙 號(省略)

二 (特第一號)昭和十一年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

各特別會計豫算  
第一條 昭和十一年度外務省所管對支文化事業內務省所管健康保險、勞働者災害扶助責任保險  
大藏省所管造幣局、印刷局、專賣局、大藏省預金部、國有財產整理資金、教育改善及農村振興基

金、關東局陸軍省所管陸軍造兵廠、千住製絨所海軍省所管海軍火藥廠、海軍燃料廠文部省所管帝國大學、官立大學、學校及圖書館農林省所管米穀需給調節、家畜再保險逓信省所管通信事業、簡易生命保險、郵便年金鐵道省所管帝國鐵道拓務省所管朝鮮總督府、朝鮮鐵道用品資金、朝鮮簡易生命保險、臺灣總督府、臺灣官設鐵道用品資金、樺太廳、南洋廳ノ各歳入歳出追加額及其ノ款項ノ金額ハ別冊甲號歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ各其ノ規畫スル所ニ隨ヒ昭和十一年度以降ノ繼續費ト爲シ若ハ既定ノ總額年限金額ヲ改定ス

第三條 昭和十一年度歳出豫算追加中別冊丙號所掲ノ費途ハ年度末支出殘額ヲ翌昭和十二年度ニ繰越使用スルコトヲ得

<p>甲 號</p> <p>外務省所管 對支文化事業 歳 出 第一款 對支文化事業費 七四一、二三五</p>	<p>內務省所管 健康保險 歳 出 第一款 健康保險事業費 一、三二二、六六九 第二款 豫 備 金 五一四、〇四八</p>
--	---



第三款 一般會計へ繰入	一七四、五〇〇	專賣局	一、三三三、八三三
合計	二、〇〇一、二一七	第一款 專賣局作業費	一、三三三、八三三
勞働者災害扶助責任保險		大藏省預金部	
歲出		第一款 大藏省預金部支出	二、〇二七、七五九
第一款 勞働者災害扶助責任保險費	一七三、六七八	國有財産整理資金	
大藏省所管		歲入	
造幣局		第一款 國有財産整理資金收入	一、八一七、四三〇
資金部歳出		歲出	
第一款 造幣局資金支出	八六八、九四七	第一款 國有財産整理資金支出	二、一四二、五〇五
印刷局		教育改善及農村振興基金	
歲入		歲出	
第一款 印刷局作業收入	一、九二二、七七四	第一款 教育改善及農村振興基金支出	四一六、六一七
印刷局作業費	一、〇六六、六二七		

關東局		第四款 教育費	二八二、六三四
歲入		第五款 勸業費	二、八八八
經常部		第七款 遞信費	一、二五二、八七五
第一款 租稅	七九五、五二七	第八款 海務局	五五七、三三四
第二款 官業及官有財産收入	四九三、八七二	第十二款 國債整理基金特別會計繰入	一、三四二、一三六
第三款 印紙收入	四三三、九二六	第十三款 恩給負擔金	一、六三三、三〇八
第四款 雜收入	四九、二八六	經常部合計	二、五七二、三三〇
經常部合計	一、三三三、六一一	臨時部	
臨時部		第一款 事業費	九五二、六八八
第四款 前年度剩餘金繰入	三、四三九、四〇〇	第九款 滿洲事件費	二、九七六、九
第五款 寄付金	一一〇、七七六	第十四款 一般會計へ繰入	一、四〇〇、〇〇〇
臨時部合計	三、五六〇、一七六	臨時部合計	二、三六二、四五七
合計	四、九三三、七八七	合計	四、九三三、七八七
歲出		陸軍省所管	
經常部		陸軍造兵廠	
第一款 關東局	二五〇、六二六	第一款 陸軍造兵廠作業費	一、二二二、三六六
第二款 法院及刑務所	八、二三四		
第三款 警察費	一六一、二九五		

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第一項 豫算案 二二三



第一千住製絨所 第一歲出 第一歲出 第一歲出	二、二二六	文部省所管 帝國大學 經常部 臨時部	一三三、八三四 一九六、九六一 五二、九七四 三四、八〇一 一一、一三五
海軍省所管 海軍火藥廠 第一歲出 第一歲出	三、四二一、一八八	經常部合計	五四三、七〇五
海軍燃料廠 第一歲入 第二歲入 第一歲出 第二歲出	四〇九、五九七 四〇九、五九七 七九五、一六七 九〇、三五八	臨時部 第一歲入 第二歲入 第一歲出 第二歲出	一三九、九七七 四〇、六五〇 三三三、四八四 五五四、一一一
合計	八八五、五二五	經常部	一、〇九七、八二六

第一款 東京帝國大學 第二款 京都帝國大學 第三款 東北帝國大學 第四款 九州帝國大學 第五款 北海道帝國大學 第六款 大阪帝國大學	一六〇、二六七 一九六、九六一 六〇、一八二 三三四 三六、五二七 二三、四五〇	第六款 大阪帝國大學 合計	三七三、四八四 六〇四、一一一
經常部合計	四七七、七二一	臨時部 第一款 臨時政府支出金受入	三七八、三〇四
臨時部 第一款 東京帝國大學 第二款 京都帝國大學 第三款 九州帝國大學 第四款 北海道帝國大學 第五款 大阪帝國大學	二五九、四〇七 三八二、二〇六 九九、八三六 一二六、一五〇 一八三、四八四 一〇、五一〇、八三	經常部 第一款 官立大學 臨時部 第一款 營繕費 第五款 千葉醫科大學附屬醫院其他移轉諸費	二八、一二七 三七九、三三三 四六、〇〇〇 四二五、三三三
合計	一、五二八、八〇四	臨時部合計	四二五、三三三
資金部歲出 第一款 東京帝國大學 第五款 北海道帝國大學	一八九、九七七 四〇、六五〇	學校及圖書館 歲入	四五三、四五〇



經常部 第一款 學校及圖書館 臨時部 第一款 臨時政府支出金受入 合計 歲入 歲出 第一款 臨時部 第一款 設 合計	一五、一七二 二〇、〇〇〇 一三五、一七二 一八、三九八 一一、六一〇 五、八一九 二〇、〇〇〇 七、八一九	經常部 第一款 家畜再保險費 第二款 備金 合計 歲出 通信省所管 資本勘定 第三款 電信電話營繕費 第四款 營繕費 第七款 國債整理基金特別會計繰入 第十款 日滿連絡電話施設費 第十一款 航空無線電信電話施設費 第十二款 無線同報通信施設費 合計	一八、一六七 四、三五、五六九 五三、七三六 一九一、八四九 四、〇二八、七六四 一一六、二〇八 三、九二八、二二三 一、二八七、八七八 一九七、八三六 九、七五〇、七五八
---	---	---	---

用品勘定 第一款 通信事業用品及工作收入 第一款 通信事業用品及工作費 業務勘定 第一款 通信業務收入 第一款 通信業務費 第二款 通信用業務費 第二款 一般會計納付金 合計 簡易生命保險 第一款 簡易生命保險收入 第一款 簡易生命保險費 合計	四、一七二、二四七 四、一七二、二四七 四、一七二、二四七 一六、五一一、九九五 一六、四三五、六八七 三、〇〇〇、〇〇〇 一九、四三五、六八七 一四、二五一、七八七 二、三四三、九七四	第二款 營繕費 合計 郵便年金 第一款 郵便年金收入 第一款 郵便年金費 鐵道省所管 帝國鐵道 資本勘定 第一款 資金收入 第一款 鐵道建設改良及自動車線設備費 第二款 國債償還金繰入 合計	九、八三〇 二、三五三、八〇四 九、四二九、三〇〇 四二一、五二九 七、三三四、一六〇 五、七七一、三〇五 六、二五五、〇一八
--	---	--	---



用品勘定	歲入	歲出	歲入	歲出
第一款 用品及工作收入	四、九五七、五五一		第一款 雜收	六四、四六七
第一款 用品及工作費	四、九五七、五五一		第二款 寄付金	一五〇、〇〇〇
第二款 歲入			第四款 補充金	九三、二八五
第一款 作業者收入	二九、八三五、三〇三		第七款 前年度剩餘金繰入	一一、二五八、五九二
第二款 作業者出費	二九、八三五、三〇三		臨時部合計	一一、六〇〇、八七七
第三款 作業者收入	二二、六〇一、一四三		合計	三二、二九五、二五五
第四款 作業者出費	二二、六〇一、一四三		經常部	
拓務省所管			第三款 總督府	二九三、七一四
朝鮮總督府			第四款 裁判所及供託局	七二、二七七
經常部			第五款 刑務所	八四、〇〇〇
第一款 租稅	四一三三、四〇五		第六款 地方廳	五六四、七五六
第二款 印紙收入	二六、四五〇		第七款 京城帝國大學	四〇、四九八
第三款 官業及官有財產收入	一九、四七〇、〇五六		第八款 學校及圖書館	一七九、五五〇
			第十款 農事試驗場	一四、六九九
			第十一款 獸疫血清製造所	三、九八一
			經常部合計	一一三、一三一、一八七
			臨時部	
			第三款 調查及試驗費	三三九、五〇六
			第四款 補助及獎勵費	一一、一〇一、七二三
			第五款 營業費	一、九九七、九四二
			第七款 鐵道建設及改良費	四、〇四〇、七八九
			第八款 砂防事業費	二〇〇、〇〇〇
			第九款 地籍及地形圖整理費	二二、八五四
			第十四款 臨時特別手當	六、六七三
			第二十款 北鮮開拓事業費	三三、八二六
			第二十二款 農村經濟更生施設費	六二〇、九八一
			第二十八款 災害費	九八三、四五七
			第三十款 思想犯罪防遏特別施設費	一一、二七一
			第三十二款 一般會計繰入	一、九〇〇、〇〇〇
			臨時部合計	一一、三三七、〇一一
			合計	三五、四六九、一九九
			朝鮮鐵道用品資金	

第十二款 中央試驗所	三、六〇四	經常部合計	一一三、一三一、一八七
第十三款 種馬牧場及種羊場	三、三八〇	臨時部	
第十四款 穀物検査所	八五、一一三	第三款 調查及試驗費	三三九、五〇六
第十五款 水産試驗場	四六、一七〇	第四款 補助及獎勵費	一一、一〇一、七二三
第十六款 林業試驗場	一五、八八二	第五款 營業費	一、九九七、九四二
第十七款 專賣局	三、五三〇、一一〇	第七款 鐵道建設及改良費	四、〇四〇、七八九
第十八款 鐵道作業費	一一、二〇六、三四四	第八款 砂防事業費	二〇〇、〇〇〇
第十九款 營林署	二七九、七八八	第九款 地籍及地形圖整理費	二二、八五四
第二十款 逓信費	一、一三五、七四〇	第十四款 臨時特別手當	六、六七三
第二十一款 稅務監督局及稅務署	七五、三三四	第二十款 北鮮開拓事業費	三三、八二六
第二十二款 稅關	一一四、七〇二	第二十二款 農村經濟更生施設費	六二〇、九八一
第二十三款 社會事業施設費	五、五七六	第二十八款 災害費	九八三、四五七
第二十四款 癩療養所	一一一、二七〇	第三十款 思想犯罪防遏特別施設費	一一、二七一
第二十五款 國債整理基金特別會計繰入	三、九〇六、二八〇	第三十二款 一般會計繰入	一、九〇〇、〇〇〇
第二十六款 恩給負擔金	二、三四七、九九九	臨時部合計	一一、三三七、〇一一
第二十七款 諸支出金	三〇〇	合計	三五、四六九、一九九
第二十八款 豫備金	一、〇〇〇、〇〇〇	朝鮮鐵道用品資金	
第二十九款 國幣社費	二、一二〇		



第一歲 入	二,九三二,七五〇	臨時部	第一款 雜收	七〇,〇〇〇
第一歲 出	二,九三二,七五〇	第二款 公共團體工事費分擔金	八五,〇九九	
第一款 朝鮮鐵道用品費	二,九三二,七五〇	第三款 前年度剩餘金繰入	一〇,二五四,三六一	
第二款 朝鮮簡易生命保險	七,三三三,三三三	臨時部合計	一〇,四〇九,四六〇	
第三款 入	六,五四,一七七	第四歲 出	一七,三八九,六〇六	
第四款 出	六,五四,一七七	第一款 經常部	六,〇〇〇	
第一款 朝鮮簡易生命保險費	六,五四,一七七	第二款 總督府	三六一,四九〇	
第二款 臺灣總督府	一,一〇〇,〇〇〇	第三款 地方廳	一一七,五三〇	
第三款 經常部	一,一〇〇,〇〇〇	第四款 稅關	一〇,八三五	
第一款 租稅	一,二八,二〇〇	第五款 法院	五二,一九八	
第二款 官業及官有財產收入	六,七五七,二八六	第六款 刑務所	一,二五六,九一	
第三款 雜收	九四,六六〇	第七款 警察官及刑務官練習所	一,一八六,三	
經常部合計	六,九八〇,一四六	第八款 醫院	六二,〇〇九	
		第九款 中央研究所	三九,六九一	
		第十款 糖業試驗所	五,九一二	

第十一款 教育費	三六七,一七八	臨時部合計	一,一,二一〇,三五一
第十二款 社會事業費	三七,二四二	合計	一七,三八九,六〇六
第十三款 交通	二,五八二,九九六	臺灣官設鐵道用品資金	
第十四款 專賣局	二,三五四,九一二	第一款 用品及工作收入	九〇〇,〇〇〇
第十五款 林務	一五三,七〇八	歲出	二,八四九,〇〇〇
經常部合計	六,一七九,二五五	第一款 用品及工作費	九〇〇,〇〇〇
臨時部		歲入	二,八四九,〇〇〇
第一款 事業費	三,三八〇,三五六	第一款 租稅	五,四三三
第二款 營業費	一,六二二,三六〇	第二款 官業及官有財產收入	一八五,〇五〇
第三款 調查及試驗費	一四八,八一六	第三款 印紙收入	三,〇四〇
第四款 勸業費	三三九,八七五	第四款 煙草專賣益金受入	二〇六,三七五
第五款 補助費	二,三三六,〇〇四	第五款 雜收	九,四六〇
第六款 警察特別施設費	一一,八四九	經常部合計	四〇九,三五八
第七款 在外研究員學費其他臨時增給	一,六七〇		
第八款 災害費	二五,〇〇〇		
第九款 新竹臺中兩州震災善後費	一,三五六,四二一		
第十款 臺灣拓殖株式會社設立諸費	八八,〇〇〇		
第十一款 一般會計(繰入)	一,九〇〇,〇〇〇		

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第一項 豫算案 三三一



第四款 前年度剩餘金繰入	三、七五四、五六八	第六款 一般會計へ繰入	一、四五〇、〇〇〇
合計	四、一六三、九二六	臨時部合計	三、二九〇、二八六
歳出		合計	四、一六三、九二六
經常部		南洋廳	
第二款 樟太	七八六、五五五	歳入	
第三款 教育費	一四七、七五九	經常部	
第四款 警務費	二、〇八二	第一款 租税	一、五六七
第五款 林務費	一八七、五四八	第二款 官業及官有財産收入	五一、二〇三
第六款 現業費	二六一、四四一	第三款 印紙收入	二五、〇〇〇
第七款 中央試験所	二九、八五六	第四款 雜收	二〇六、五〇〇
第八款 恩給負擔金	二八、二二〇	經常部合計	二八四、二七〇
第十款 國債整理基金特別會計繰入	一三八、〇七九	臨時部	
經常部合計	八七三、六四〇	第二款 前年度剩餘金繰入	六八〇、〇九七
臨時部		合計	九六四、三六七
第一款 營繕土木費	一一五、五〇五	歳出	
第二款 補助費	三五六、四六七	經常部	
第三款 樟太拓殖事業費	一、三六八、三一四	第一款 南洋廳	一、三五一、三七五

第二款 國債整理基金特別會計繰入	五五〇	第六款 税制其他調査費	一、一五〇、二二一
第三款 恩給負擔金	一四、四五六	第七款 南洋開發事業費	一、〇三六、二九六
經常部合計	三六六、三八一	第八款 南洋拓殖株式會社設立諸費	六〇、〇〇〇
臨時部		第九款 一般會計へ繰入	四五〇、〇〇〇
第一款 事業費	五四、五八三	臨時部合計	一、七二八、二六三
第二款 航空施設費	九九、〇二八	合計	二、〇九四、六四四
第三款 獎勵及補助費	三、三三五		

乙號		說明ハ之ヲ略ス以下之ニ做フ	
大藏省所管		大連上水第五期擴張費	五、六〇〇、〇〇〇
關東局		既定總額	七〇〇、〇〇〇
關東州廳廳舎及官舎新營費		昭和十年度支出額	四、九〇〇、〇〇〇
總額		昭和十一年度以降支出額	
(款) 事業費		(項) 大連上水第五期擴張費	四、九〇〇、〇〇〇
(項) 關東州廳廳舎及官舎新營費	七八八、五〇〇	改定年額(昭和十一年度乃至十七年度改定年額ハ之ヲ略ス)	
年額(昭和十一年度及十二年年度割額ハ之ヲ略ス)			

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第一項 豫算案 二二三



<p>文部省所管</p> <p>帝國大學</p> <p>東京帝國大學航空研究所擴張費</p> <p>總額</p> <p>(款) 東京帝國大學</p> <p>(項) 航空研究所擴張費</p> <p>年額(昭和十一年度乃至十三年年度割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>四九九六七二</p> <p>京都帝國大學法學部經濟學部書庫其他新營費</p> <p>總額</p> <p>(款) 京都帝國大學</p> <p>(項) 法學部經濟學部書庫其他新營費</p> <p>年額(昭和十一年度乃至十三年年度割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>二二七、三三〇</p> <p>京都帝國大學醫院病室其他改築費</p> <p>總額</p> <p>(項) 醫院病室其他改築費</p> <p>年額(昭和十一年度乃至十三年年度割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>八九九、二〇六</p>		<p>九州帝國大學農學部農藝化學教室火災復舊及新營費</p> <p>總額</p> <p>(款) 九州帝國大學</p> <p>(項) 農學部農藝化學教室火災復舊及新營費</p> <p>年額(昭和十一年度乃至十三年年度割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>四一八、三三六</p> <p>東京高等師範學校附屬中學校建物改築費</p> <p>總額</p> <p>(款) 營繕費</p> <p>(項) 東京高等師範學校附屬中學校建物改築費</p> <p>年額(昭和十一年度乃至十三年年度割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>三九九、四三〇</p> <p>廣島高等師範學校附屬小學校建物改築費</p> <p>總額</p> <p>(款) 營繕費</p> <p>(項) 廣島高等師範學校附屬小學校建物改築費</p> <p>年額(昭和十一年度乃至十三年年度割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>三三一、三三八</p> <p>逓信省所管</p> <p>通信事業</p>	
--	--	---	--

<p>資本勘定</p> <p>郵便局舎其他新營費</p> <p>既定總額</p> <p>六七七一、六八七</p> <p>追加總額</p> <p>三、三三四、六三七</p> <p>計</p> <p>一〇、一〇六、三二四</p> <p>內</p> <p>昭和十年度迄支出額</p> <p>一、八六六、七一〇</p> <p>昭和十一年度以降支出額</p> <p>(款) 營繕費</p> <p>(項) 郵便局舎其他新營費</p> <p>改定年額(昭和十一年度乃至十三年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>八、三三九、六一四</p> <p>海底電線布設船建造費</p> <p>總額</p> <p>(款) 營繕費</p> <p>(項) 海底電線布設船建造費</p> <p>年額(昭和十一年度及十二年年度割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>二、一一六、三三六</p> <p>日滿連絡電話施設費</p> <p>總額</p>		<p>航空無線電信電話施設費</p> <p>總額</p> <p>(款) 航空無線電信電話施設費</p> <p>(項) 俸給</p> <p>年額(昭和十一年度及十二年年度割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>二、四七三、八七八</p> <p>無線同報通信施設費</p> <p>總額</p> <p>(款) 無線同報通信施設費</p> <p>(項) 無線同報通信施設費</p> <p>年額(昭和十一年度及十二年年度割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>二、四四九、五四〇</p> <p>鐵道省所管</p> <p>帝國鐵道</p> <p>總額</p> <p>(款) 無線同報通信施設費</p> <p>(項) 無線同報通信施設費</p> <p>年額(昭和十一年度及十二年年度割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>四〇九、八三六</p>	
--	--	---	--



資本勘定

鐵道建設改良及自動車線設備費

既 定 總 額 三、九三六、七八八、七二六

追 加 額 一一一、六二八、三〇五

計 四、〇四八、四一七、〇三一

内

昭和十年度迄支出額 三、五三三、一四九、七二六

昭和十一年度以降支出額

(款) 鐵道建設改良及自動車線設備費 五、一五二、二六七、三〇五

(項) 鐵道建設費 二、六五五、五六二、〇〇〇

(項) 鐵道改良費 二、四三三、〇〇五、三〇五

(項) 自動車線設備費 六、七〇〇、〇〇〇

改定年額(昭和十一年度乃至十七年度改定年額ハ之ヲ略ス)

拓務省所管

朝鮮總督府

電力統制資料調査費

總 額

(款) 調査及試驗費

(項) 電力統制資料調査費 三、一六、六〇七

年 額(昭和十一年度乃至十四年度改定年額ハ之ヲ略ス)

總督府博物館新營費

既 定 總 額 一、〇〇〇、〇〇〇

追 加 額 一、〇〇〇、〇〇〇

計 二、〇〇〇、〇〇〇

内

昭和十年度支出額 一、〇〇〇、〇〇〇

昭和十一年度以降支出額

(款) 營 繕 費 二、三三三、三三八

(項) 總督府博物館新營費 一、九〇〇、〇〇〇

改定年額(昭和十一年度乃至十四年度改定年額ハ之ヲ略ス)

總督府廳舍別館新營費

總 額 八、一六五、一六五

(款) 營 繕 費 八、一六五、一六五

(項) 總督府廳舍別館新營費 二、七二、六九二

年 額(昭和十一年度乃至十三年度改定年額ハ之ヲ略ス)

水原高等農林學校新營費

總 額

(款) 營 繕 費 二、三三六、六九二

(項) 水原高等農林學校新營費

年 額(昭和十一年度乃至十二年度改定年額ハ之ヲ略ス)

師範學校新營費

總 額

(款) 營 繕 費 三、〇六、四三六

(項) 師範學校新營費

年 額(昭和十一年度乃至十三年度改定年額ハ之ヲ略ス)

專賣局廳舍及工場新營費

總 額

(款) 營 繕 費 五、四九、三八四

(項) 專賣局廳舍及工場新營費

年 額(昭和十一年度乃至十三年度改定年額ハ之ヲ略ス)

內鮮連絡電話施設費

總 額

既 定 總 額 八、五、五六三、七〇三

總 額

(款) 營 繕 費 一、五〇九、六一四

(項) 內鮮連絡電話施設費

年 額(昭和十一年度乃至十三年度改定年額ハ之ヲ略ス)

鐵道建設及改良費

既 定 總 額 五、三八、六九二、四二二

追 加 額 三、〇〇五、九七三

計 五、四一、六九八、三八五

内

昭和十年度迄支出額 三、九四、〇九九、七九五

昭和十一年度以降支出額

(款) 鐵道建設及改良費 一、四七、五九八、五九〇

(項) 建設費 一、〇九七、八五、八一九

(項) 改良費 三七、八一、二、七七一

改定年額(昭和十一年度乃至十六年度改定年額ハ之ヲ略ス)

臺灣總督府

既 定 總 額 八、五、五六三、七〇三



追	加	額	八一六、七六三
計			八六、三八〇、四六六
内			
			昭和十年度迄支出額 七三、〇七八、〇一一
			昭和十一年度以降支出額
(款)	事	業	費
(項)	港	灣	費 一三、三〇二、四五五
			改定年額(昭和十一年度乃至十八年)
			度改定年割額ハ之ヲ略ス)
			治水事業費
			既定 總 額 二八、〇六五、四三八
			追加 額 六、八〇二、二九一
			計 三、四、八六七、七二九
内			
			昭和十年度迄支出額 二二、五八八、六三八
			昭和十一年度以降支出額
(款)	事	業	費
(項)	治	水	事 業 費 一三、二七九、〇九一
			改定年額(昭和十一年度乃至十八年)
			度改定年割額ハ之ヲ略ス)
			專賣局煙草工場新營
			費 二、六〇九、八二七
			年 額(昭和十一年度乃至十四
			年度年割額ハ之ヲ略ス)
			無線電信電話施設費
			總 額
(款)	營	繕	費
(項)			無線電信電話施設費 五二七、四四五
			年 額(昭和十一年度及十二年
			年度年割額ハ之ヲ略ス)
			縱貫鐵道線路其他復舊費
			總 額
(款)			新竹臺中兩州震災善
			後費
(項)			縱貫鐵道線路其他復
			舊費
年 額(昭和十一年度及十二年			二、五三一、一二五
年度年割額ハ之ヲ略ス)			
			南洋廳
			巴拉オ港修築費
			總 額
(款)			南洋開發事業費
(項)			巴拉オ港修築費 二、六七五、五六一
			年 額(昭和十一年度乃至十六
			年度年割額ハ之ヲ略ス)
			コロール島マラカル島連絡道路工事費
			總 額
(款)			南洋開發事業費
(項)			コロール島マラカル
			島連絡道路工事費
年 額(昭和十一年度乃至十四			二、九九、一九三
年度年割額ハ之ヲ略ス)			
			新店礁溪間道路改修
			總 額
(款)			新店礁溪間道路改修
(項)			新店礁溪間道路改修
			費 二、五〇七、〇〇〇
			年 額(昭和十一年度乃至十五
			年度年割額ハ之ヲ略ス)
			臺中醫院新營費
			總 額
(款)			臺中醫院新營費
(項)			臺中醫院新營費
			年 額(昭和十一年度乃至十三
			年度年割額ハ之ヲ略ス)
			專賣局煙草工場新營費
			總 額
(款)			專賣局煙草工場新營費
(項)			專賣局煙草工場新營費
			九六一、六九三
			總 額
(款)			營 繕 費

丙 號(省略)

三	豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
---	-------------------------



一般會計

外務省所管

地所家屋借料

在外公館ニ於ケル地所家屋借料ニ付テハ現在契約額ヲ改定シ年額百六拾九萬六千貳百九拾四圓ヲ限リ各相當ノ年限及年額ヲ定メ借入若ハ借續ノ契約ヲ結フコトヲ得

説明ハ之ヲ略ス以下之ニ倣フ

尼港「オコソック」及支那事件被害者交付金

尼港「オコソック」及支那事件被害者交付金ニ關シ第六十七回帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件中「二箇年度内」トアルヲ「三箇年度内」ト改ム

内務省所管

水道費補助

大阪府貝塚町、同三郷村、新潟縣柏崎町、埼玉縣所澤町、埼玉縣南水道組合、三重縣木本町、石川縣小松町、山口縣柳井町、香川縣觀音寺町、松山市、大分縣臼杵

町、唐津市ニ對シ上水道費補助トシテ並兵庫縣精道村、川越市、千葉市、仙臺市、福岡市、那覇市ニ對シ下水道費補助トシテ總額貳百八拾四萬五千圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得  
(昭和十一年度乃至三十五年度年割額ハ之ヲ略ス)  
土崎港修築費補助

土崎港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス  
(昭和十一年度乃至十三年度年割額ハ之ヲ略ス)

宮古港修築費補助

宮古港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス  
(昭和十一年度乃至十三年度年割額ハ之ヲ略ス)

尾道港修築費補助

尾道港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス  
(昭和十一年乃至十八年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

八幡戶畑南港修築並航路改良費補助

(昭和十一年度乃至十五年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

不良住宅地區改良費補助

不良住宅地區改良費補助トシテ總額百七拾萬七千六百八拾五圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得  
(昭和十一年度乃至二十二年度年割額ハ之ヲ略ス)

東北六縣振興土木費借入金利息補助

東北六縣振興土木費借入金利息補助トシテ總額六拾貳萬五千貳百四拾九圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得  
(昭和十一年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)

中小河川改良費補助

中小河川改良費補助トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス  
(昭和十一年度乃至十七年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

地方港灣改良費補助

(昭和十一年度乃至十七年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

土木費借入金利息補助

鳥取縣外八縣ニ對スル土木費借入金利息補助トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス  
(昭和十一年度乃至三十五年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

災害土木費借入金元利補助

群馬縣、山梨縣及高知縣ニ對シ災害土木費借入金元利補助トシテ總額參百貳拾六萬六千六百六拾八圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得  
(昭和十一年度乃至三十二年度年割額ハ之ヲ略ス)

災害復舊其他諸費借入金利息補助

災害復舊其他諸費借入金利息補助トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス

第二章 議事

第三節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第一項 豫算案



地方港湾改良費補助トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス

(昭和十一年度乃至十七年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

北海道民有未墾地開發利子補給金

北海道民有未墾地開發利子補給金トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス

(昭和十一年度乃至四十年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

北海道地方費河川改修費補助

北海道地方費河川改修費補助トシテ總額百拾七萬貳千五百圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

(昭和十一年度乃至十七年度年割額ハ之ヲ略ス)

府縣災害土木費補助

京都府外三十四府縣ニ對シ府縣災害土木費補助トシテ總額四千四百八拾六萬九千六百圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度乃至十三年度年割額ハ之ヲ略ス)

災害土木事業助成河川費補助

京都府、群馬縣及岐阜縣ニ對シ河川費補助トシテ總額四百五拾八萬七千八百四拾七圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度乃至二十年度年割額ハ之ヲ略ス)

北海道災害土木費補助

北海道災害土木費補助トシテ總額百九拾參萬貳千四百拾六圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度乃至十三年度年割額ハ之ヲ略ス)

清水港震災復舊費補助

清水港震災復舊費補助トシテ總額拾七萬圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度及十二年度年割額ハ之ヲ略ス)

東北興業株式會社株式引受資金借入金元利補給

青森縣、岩手縣、宮城縣、秋田縣、山形縣及福島縣ノ引

受ニ係ル東北興業株式會社株式引受資金借入金ニ對シ左記條件ニ依リ其ノ元利償還資金ヲ補給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(條件ハ之ヲ略ス以下之ニ倣フ)

陸軍省所管

衣糧費

兵器及馬匹費

輸送費

陸軍軍事費ニ屬スル衣糧費四百六拾七萬八千圓兵器及馬匹費四百拾萬七千圓輸送費四拾四萬圓ヲ限リ昭和十一年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

海軍省所管

造船進兵及修理費

艦營費

水路費

海軍軍事費ニ屬スル造船進兵及修理費千萬圓艦營費千萬圓水路費貳萬圓ヲ限リ昭和十二年度ニ於テ國庫

ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

農林省所管

自作農創設維持補助金

自作農創設維持補助金トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス

(昭和十一年度乃至四十年年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

米穀貯藏資金利子補給

米穀貯藏資金利子補給トシテ總額百參拾五萬參千圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

(昭和十一年度及十二年度年割額ハ之ヲ略ス)

米穀保管料補助

米穀保管料補助トシテ總額七拾五萬六千圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

(昭和十一年度及十二年度年割額ハ之ヲ略ス)



古米格補助

古米格補助トシテ總額參百七拾五萬圓ヲ限リ昭和十一年度ニ於テ支出スルノ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

用排水幹線改良事業費補助

用排水幹線改良事業ニ對スル補助金トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス  
(昭和十一年度乃至二十一年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

東北地方集團耕地開發助成金

東北地方集團耕地開發助成金トシテ總額六拾萬四千八百圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得  
(昭和十一年度乃至十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

海岸砂防造林獎勵費

海岸砂防造林獎勵費トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス  
(昭和十一年度乃至十三年度年割額ハ之ヲ略ス)

豐濱漁港修築費補助

豐濱漁港修築費補助トシテ總額拾九萬圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得  
(昭和十一年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス)

志津川漁港修築費補助

志津川漁港修築費補助トシテ總額拾壹萬五千圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得  
(昭和十一年度乃至十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

大原漁港修築費補助

大原漁港修築費補助トシテ總額拾萬五千圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得  
(昭和十一年度乃至十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

小漁港修築費補助

小漁港修築費補助トシテ總額拾參萬圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得  
(昭和十一年度乃至十三年度年割額ハ之ヲ略ス)

農村經濟更生特別助成金

農村經濟更生特別助成金トシテ總額五百萬圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得  
(昭和十一年度及十二年度年割額ハ之ヲ略ス)

農村經濟更生計畫實行資金利子補助

農村經濟更生計畫實行資金利子補助トシテ總額貳拾六萬四千圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得  
(昭和十一年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)

耕地事業助成金

耕地事業助成金トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス  
(昭和十一年度乃至十四年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

自作農創設維持臨時助成金

自作農創設維持臨時助成金トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス  
(昭和十一年度乃至三十八年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

荒廢林地復舊事業助成金

荒廢林地復舊事業助成金トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス  
(昭和十一年度乃至十三年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

米穀貯藏資金利子補助

米穀貯藏資金利子補助、米穀保管料補助及古米格補助ニ關シ第六十七回帝國議會ノ協賛ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スルノ件中昭和十一年度ノ年割ハ之ヲ廢止ス

古米格補助

米穀貯藏資金利子補助、米穀保管料補助及古米格補助ニ關シ第六十七回帝國議會ノ協賛ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スルノ件中昭和十一年度ノ年割ハ之ヲ廢止ス

商工省所管

中央卸賣市場特別設備費補助

中央卸賣市場特別設備費補助ニ關シ第六十七回帝國議會ノ協賛ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件中「昭和十一年度」トアルヲ「昭和十二年度」ト改ム



鋼球工業助成金

鋼球工業助成金トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス

(昭和十一年度及十二年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

寫眞工業助成金

寫眞工業助成金トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス

(昭和十一年度乃至十三年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

輸出補償金

輸出補償金トシテ總額九百參拾壹萬參千圓ヲ限リ昭和十一年度以降三箇年度内ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

北樺太石油資源開發助成金

北樺太石油資源開發助成金トシテ總額四百五拾六萬圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス)

北樺太石油株式會社債元利保證

政府ハ北樺太石油株式會社カ北樺太ニ於ケル石油試掘事業ノ費用ニ充ツル爲發行スル社債額面參百萬圓ヲ限リ其ノ元利支拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

逓信省所管

外國人恩給

元東京商科大學僑外國人一名ニ對シ昭和十年四月以降終身恩給年額千四百參拾圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

北米航路補助

北米航路及南米航路補助トシテ遠洋航路補助法ノ規定ニ依リ昭和十二年度ニ於テ北米航路桑港線ニ對シ

貳百六拾六萬六千五百七拾壹圓以內同「シヤトル」線ニ對シ百貳拾六萬四千九百貳拾九圓以內南米航路東

岸線ニ對シ百五萬六千九百六圓以內同西岸線ニ對シ參拾八萬六千七百四拾六圓以內ヲ支出スルノ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

東京大連線及大阪上海線航空輸送補助

東京大連線及大阪上海線航空輸送補助ニ付テハ昭和十一年度以降年割金額及條件ヲ左ノ通り改定ス

(昭和十一年度乃至十三年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

臺北盤谷線航空輸送補助

臺北盤谷線航空輸送事業ニ對シ臺灣總督府特別會計ト分擔補助ノ爲昭和十一年度以降十箇年度間及東京

札幌線航空輸送事業ニ對シ補助ノ爲昭和十一年度以降十箇年度間左ノ條件ニ依リ左ニ掲クル金額以內ヲ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度乃至二十一年度年割額ハ之ヲ略ス)

船舶改善助成費

船舶改善助成ノ爲左ノ條件ニ依リ老船船ヲ解體シ新ニ船舶ヲ建造スル者ニ對シ左ニ掲クル金額以內ヲ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度及十二年度年割額ハ之ヲ略ス)

特別會計

大藏省所管

印刷局

印刷用物品購入費

印刷用物品購入ノ爲事業費拾壹萬百壹圓材料素品費參拾參萬五百九拾四圓ヲ限リ昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

專賣局

專賣品及同原料並材料及消耗品購入回送費

專賣品及同原料並材料及消耗品ノ購入又ハ回送ノ爲事業費四拾參萬四千圓材料素品費百五萬參千圓專賣品賠償及購買費百五拾八萬六千圓ヲ限リ昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

關東局

專賣品原料購入費

專賣品原料購入ノ爲事業費七拾萬圓ヲ限リ昭和十二年



度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

逓信事業用品購入費

逓信事業ニ要スル物品購入費拾萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

陸軍省所管

陸軍造兵廠

事業用器具機械消耗品及材料素品購入費並兵器部品加工料

事業ニ要スル器具機械消耗品及材料素品購入並兵器部品加工ノ爲事業費百貳拾萬圓材料素品費貳百八拾萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

千住製絨所

事業用器具機械消耗品及材料素品購入費

事業用器具機械消耗品及材料素品購入ノ爲事業費拾貳萬七千四百圓材料素品費貳百四萬五千五百圓ヲ限り

昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

海軍省所管

海軍工廠資金

造船造兵材料購入費  
造船造兵ニ要スル材料物品費千五百萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

海軍火藥廠

事業用物品購入費

火藥製造ニ要スル事業用物品費七拾萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

海軍燃料廠

事業用物品購入費

燃料製造ニ要スル事業用物品費參百參拾萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

逓信省所管

逓信事業

用品勘定

通信事業用品購入費

通信事業ニ要スル物品購入費千萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

業務勘定

通信事業用證票類調製費

通信事業用證票類調製費四拾萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

簡易生命保險

地所家屋借料  
簡易生命保險事業ニ要スル地所家屋ノ借料ニ付テハ年額四萬圓ヲ限り相當ノ年限ヲ定メ借入若ハ借續ノ契約ヲ結フコトヲ得

鐵道省所管

帝國鐵道

用品勘定

用品及工作費

事業ニ要スル物品及電力ノ購入ニ付テハ現在契約額ト併セ總額九千八百萬圓ヲ限り昭和十二年度以降五箇年度内ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

收益勘定

事業費

事業費貳百萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

拓務省所管

朝鮮總督府

度量衡用品購入費  
巡查被服及帶具購入費  
營林事業用品購入費  
逓信事業用品購入費  
航路標識用品購入費



度量衡ニ要スル物品購入費拾五萬圓巡查被服及帶具

購入費四拾萬圓營林事業ニ要スル物品購入費拾壹萬圓電信電話線保守工事及電信電話事業ニ要スル物品

購入費貳拾萬圓航路標識事業ニ要スル物品購入費四萬圓

ヲ限リ昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

專賣品及同原料並材料及消耗品購入回送費

鹽購買及回送費

專賣品、同原料、材料及消耗品並鹽ノ購入又ハ回送ノ爲事業費百七拾萬圓ヲ限リ昭和十二年度ニ於テ國庫

ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

鐵道事業費

鐵道事業費貳拾五萬圓ヲ限リ昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フ

コトヲ得

地方土木費補助

地方土木費補助トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年

度以降左ノ通り改定ス

(昭和十一年度乃至二十八年改定年割額ハ之ヲ略ス)

京城水道擴張工事費補助

京城水道擴張工事費補助トシテ總額貳拾參萬圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度乃至十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

地方砂防事業費補助

地方砂防事業費補助トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス

(昭和十一年度乃至二十六年改定年割額ハ之ヲ略ス)

自作農創設維持補助金

自作農創設維持補助金トシテ支出スヘキ金額ハ昭和十一年度以降左ノ通り改定ス

(昭和十一年度乃至三十六年度改定年割額ハ之ヲ略ス)

米穀貯藏資金利子補給

米穀貯藏資金利子補給トシテ總額百六拾五萬貳千五

拾圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

(昭和十一年度及十二年度年割額ハ之ヲ略ス)

米穀保管料補助

米穀保管料補助トシテ總額四拾參萬六千八拾圓ヲ限

リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

(昭和十一年度及十二年度年割額ハ之ヲ略ス)

古米格補助

古米格補助トシテ總額參百八拾四萬八千圓ヲ限リ昭和

十二年度ニ於テ支出スルノ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

不二農村產業組合補助

不二農村產業組合補助トシテ總額八拾六萬七千五百

六拾六圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度乃至四十年度年割額ハ之ヲ略ス)

鮮滿拓殖株式會社補給

政府ハ滿洲國ニ於テ移住地ノ經營ヲナス滿洲國會社ニ投資ヲナシ併セテ西北鮮ニ於テ移住地ノ經營ヲナスコトヲ目的トスル會社ニ對シ昭和十一年度以降八

箇年度間左ノ條件ニ依リ總額參百四拾萬圓ヲ限リ補給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

米穀貯藏資金利子補給

米穀保管料補助

古米格補助

米穀貯藏資金利子補給、米穀保管料補助及古米格補助ニ關シ第六十七回帝國議會ノ協賛ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件中昭和

十一年度ノ年割ハ之ヲ廢止ス

朝鮮鐵道用品資金

鐵道用品購入費

鐵道事業ニ要スル物品ノ購入ニ付テハ現在契約額ト併セ總額千五拾萬圓ヲ限リ昭和十二年度以降三箇年



度内ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

臺灣總督府

度量衡器及材料購入費

度量衡器及材料購入ノ爲度量衡費五萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

逓信事業用品購入費

逓信事業ニ要スル物品購入ノ爲逓信事業費拾萬圓及電信電話建設及改良費拾萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

專賣品包裝材料及器具機械購入費

專賣品包裝材料及器具機械購入ノ爲專賣局事業費參拾萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

專賣品委託販賣諸費

專賣品委託販賣諸費トシテ專賣局事業費參拾萬圓ヲ

限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

專賣品及同原料購入費

專賣品及同原料購入ノ爲專賣品補償及購買費參百貳拾萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

森林作業用器具機械及材料購入費

森林作業用器具機械及材料購入ノ爲林務費事業費拾參萬圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

輸出補償金

輸出補償金トシテ總額貳拾壹萬七千五百圓ヲ限り昭和十一年度以降三箇年度内ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

臺北盤谷線航空輸送補助

臺北盤谷線航空輸送事業ニ對シ一般會計ト分擔補助ノ爲昭和十一年度以降十箇年度間左ノ條件ニ依リ左ニ掲クル金額以内ヲ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

米穀貯藏資金利子補給 (昭和十一年度乃至二十一年度年割額ハ之ヲ略ス)

米穀貯藏資金利子補給トシテ總額七萬七千五百五拾圓ヲ限り左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ

昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

(昭和十一年度及十二年度年割額ハ之ヲ略ス)

古米格補助

古米格補助トシテ總額貳拾四萬貳千圓ヲ限り昭和十二年度ニ於テ支出スルノ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

苗栗街水道工事費補助

苗栗街水道工事費補助トシテ總額四萬七千四百八拾參圓ヲ限り左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度乃至十三年度年割額ハ之ヲ略ス)

桃園街水道工事費補助

桃園街水道工事費補助トシテ總額六萬五千九百六拾六圓ヲ限り左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約

ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度乃至十三年度年割額ハ之ヲ略ス)

北斗街水道工事費補助

北斗街水道工事費補助トシテ總額五萬五千七百六拾參圓ヲ限り左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度乃至十三年度年割額ハ之ヲ略ス)

重要指定道路架橋工事費補助

重要指定道路架橋工事費補助トシテ總額貳拾貳萬圓ヲ限り左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

震災借入金利子補給

震災借入金利子補給トシテ總額貳拾四萬四千八百貳拾壹圓ヲ限り左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

(昭和十一年度乃至二十九年年度年割額ハ之ヲ略ス)

米穀貯藏資金利子補給

古米格補助



米穀貯藏資金利子補給及古米格補助ニ關シ第六十七回帝國議會ノ協賛ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件中昭和十一年度ノ年割ハ之ヲ廢止ス	昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得
臺灣官設鐵道用品資金	鐵道用品購入費
鐵道及自動車事業ニ要スル物品購入費貳百萬圓ヲ限	鐵道事業ニ要スル物品購入費拾貳萬九千圓ヲ限リ昭和十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ昭和十一年度ニ於テ結フコトヲ得

四 (第二號) 昭和十一年度歳入歳出總豫算追加案

豫算  
昭和十一年度歳入追加額ヲ百貳拾六萬六千參百九圓歳出追加額ヲ參百九萬九千五百六圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

歳入臨時部 第十一款 公債 金 一、二六六、三〇九	歳出經常部 外務省所管 第一款 外務本省 一三、〇〇〇
------------------------------	-----------------------------------

内務省所管 第三款 内務(本省) 一、二四、八〇七 第四款 社 會 局 一三、六五五 第十四款 地 方 廳 五六、八九〇 第十八款 補 助 費 二二〇、〇六五 内務省所管合計 三二五、四一七	逓信省所管 第一款 逓 信 本 省 三九、三四二 拓務省所管 第一款 拓 務 本 省 七、〇一七 歳出經常部合計 五二五、〇三九
大藏省所管 第一款 大 藏 本 省 六、四三四 第二款 内 關 一四、三一七 大藏省所管合計 二二〇、七五一	歳出臨時部 内務省所管 第一款 補 助 費 一、三八二、六九二 第二款 營 繕 費 七、八〇〇 第十八款 警察特別施設費 二二七、三三八 第四十三款 臨時外國行諸費 七六、一一三 第五十八款 地方財政及稅制調査費 三〇、〇〇〇 内務省所管合計 一、七二三、九四三
大商工省所管 第一款 商 工 本 省 一七、四三五 第三款 鑛 山 監 督 局 六二、〇七七 商工省所管合計 一九、五二二	大藏省所管 第一款 營 繕 費 一〇五、〇〇〇



第二款 調査費	七一、五六五	第六款 臨時調査費	一五九、二四〇
第十七款 臨時財政經濟處理費	三九、四〇四	第七款 臨時講習施設費	二五、〇〇〇
第二十四款 災害費	六五、七九二	第九款 補助費	一〇、〇〇〇
第三十四款 紀元二千六百年祝典事務局費	二二、〇三〇	第十二回國際オリムピック大會招致諸費	一〇〇、〇〇〇
大藏省所管合計	三〇三、七九一	文部省所管合計	二九四、二四〇
海軍省所管		商工省所管	
第二十四款 災害費	八五、〇〇〇	第二十款 巴里國際博覽會參同費	八〇、〇〇〇
司法省所管		第二十三款 紀元二千六百年記念萬國博覽會開催指図書費	二八、一七一
第八款 災害費	六九、三三二	商工省所管合計	一〇八、一七一
文部省所管		歲出臨時部合計	二、五八四、四六七
		歲出總計	三、〇九九、五〇六

五 (特第二號) 昭和十一年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

各特別會計豫算

第一條 昭和十一年度大藏省所管公債金、關東局文部省所管帝國大學拓務省所管朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳、南洋廳ノ各歲入歲出追加額及其ノ款項ノ金額ハ別冊甲號歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ各其ノ規畫スル所ニ隨ヒ昭和十一年度以降ノ繼續費ト爲シ若ハ既定ノ總額年額ヲ改定ス

甲號	經常部	臨時部	合計
大藏省所管	第十五款 豫備金	臨時部	臨時部合計
公債金	一五〇、〇〇〇	第一款 事業費	二〇〇、三八五
歲入		第四款 臨時警備費	一一、七七五
第一款 公債金收入	七、六二〇、〇〇〇	臨時部合計	三三二、一六〇
歲出		關東局	
第一款 公債金支出	七、六二〇、〇〇〇	歲入	一八二、一六〇
關東局		帝國大學	
歲入		歲入	一八二、一六〇
臨時部			
第四款 前年度剩餘金繰入			



(甲)號

二四八

第一款 東京帝國大學 歲出 經常部	一五,八八二	第六款 地方 國債整理基金特別會 計繰入 經常部合計	五,五八九 七九,一九九 八四,七八八
第一款 東京帝國大學 臨時部	一五,八八二	第三款 調查及試驗費 臨時部	一一三,七四八
第二款 大阪帝國大學 合計	一二七,三三六 一四三,二一八	第五款 營繕費 第六款 土木費 第七款 鐵道建設及改良費 第七款 臨時取締費 第八款 災害費 臨時部合計	二二三,六九一 三,〇四二,六二九 七,三二〇,〇〇〇 一五五,三二九 一八六,三三二 一一,〇四一,六一九 一一,二六,四〇七
拓務省所管 朝鮮總督府 歲入 臨時部	八,八二〇,〇〇〇	臺灣總督府 歲入 臨時部	五八,九七六
第五款 公債金 第七款 前年度剩餘金繰入 臨時部合計	二,三〇六,四〇七 一一,二六,四〇七	第八款 前年度剩餘金繰入 歲出 經常部	五八,九七六

第三款 調查及試驗費 第六款 警察特別施設費 臨時部合計	五〇,三二八 八,六四八 五八,九七六	經常部合計 臨時部 國有財產法施行準備費 合計	五,三七八 一〇,八九〇 一六,二六八
津太廳 歲入 臨時部	一六二,二六八	南洋廳 歲入 臨時部	八,五九四
第四款 前年度剩餘金繰入 歲出 經常部	一,八六二 三,五一六	第十款 國有財產令施行準備費 臨時部	八,五九四
第二款 津太廳 第四款 警務費	三,五一六	帝國大學 大阪帝國大學工學部機械工學實驗室其他震災復舊及新營費	

乙號

文部省所管

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第一項 豫算案 二四九



<p>總額</p> <p>(款) 大阪帝國大學 工學部機械工學實驗 室其他震災復興及新 營費 二五〇、〇五一</p> <p>年額(昭和十一年及十二年年度割額ハ之ヲ略ス) 説明ハ之ヲ略ス以下之ニ倣フ</p>		<p>(款) 土木費</p> <p>(項) 港灣修築改良費 二四、三〇三、六二九 改定年額(昭和十一年度乃至十八年 度改定年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>鐵道建設及改良費</p>	
<p>拓務省所管</p> <p>朝鮮總督府</p> <p>港灣修築改良費</p>	<p>既 定 總 額</p> <p>追 加 額</p> <p>計</p> <p>内</p> <p>昭和十年度支出額</p> <p>昭和十一年度以降支出額</p>	<p>既 定 總 額</p> <p>追 加 額</p> <p>計</p> <p>内</p> <p>昭和十年度迄支出額</p> <p>昭和十一年度以降支出額</p>	<p>既 定 總 額</p> <p>追 加 額</p> <p>計</p> <p>内</p> <p>昭和十年度迄支出額</p> <p>昭和十一年度以降支出額</p>
	一四、〇〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇	三九四、〇九九、七九五
	一一、八〇三、六二九	一一、八〇三、六二九	二二八、六七一、五九〇
	二五、八〇三、六二九	二五、八〇三、六二九	二二八、六七一、五九〇
			(項) 建 設 費 一八一、七八五、八一九
			(項) 改 良 費 四六、八八五、七七一
			改定年額(昭和十一年度乃至十六年 度改定年割額ハ之ヲ略ス)

六 (追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

<p>一般會計</p> <p>大 藏 省 所 管</p> <p>日本興業銀行其他造船資金貸付補給</p> <p>日本興業銀行其他造船資金貸付補給ニ關シ曩ニ帝國</p>	<p>議會ノ協贊ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契 約ヲ爲スヲ要スル件本文中造船資金貸付金額「千五 百萬圓」トアルヲ「參千萬圓」ニ改ム</p> <p>説明ハ之ヲ略ス</p>
---	---

七 (第三號)昭和十一年度歳入歳出總豫算追加案

豫算

昭和十一年度歳入歳出追加額ヲ各九拾八萬八千圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

<p>歳入臨時部</p> <p>第二款 雜 收</p> <p>歳出臨時部</p>	<p>九八八、〇〇〇</p>	<p>海軍省所管</p> <p>第七款 受託造修費</p>	<p>九八八、〇〇〇</p>
--	----------------	-------------------------------	----------------



委員會ハ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ五月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
同日議事日程ヲ變更シテ七案ヲ一括シテ院議ニ付シ委員長川崎克君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左  
ノ報告ヲ爲ス

只今上程セラレマシタ豫算各案ニ付テノ豫算總會並ニ分科會ノ經過並ニ結果ヲ御報告ヲ申上ゲ  
マス、豫算總會ハ去ル八日午前九時ヨリ開會ヲ致シマシテ、四日間審査ヲ致シ、ソレカラ分科會  
ニ移シマシテ、分科ハ十三、十四ノ二日、尙ホ分科ノ質疑ノ餘リマシタモノハ、本日更ニ質疑ヲ繼  
續セラレタノデアリマス、此間最初豫定ヲ致シマシタ期間、四日間ノ間ニ二十三億ニ餘ル所ノ歴  
大ナ豫算ヲ審議致シマシタ譯デアリマシテ、之ヲ審議致シマスニ當リマシテハ、從來ノ先例ヲ破  
リマシテ、午前九時カラ開會ヲ致シマシテ、委員諸君ノ御參集ヲ願ヒ、質疑ノ時間ヲモ豫メ御打  
合セノ上デ制限ヲ致シマシテ、議事ノ進捗ヲ圖リマシタ結果ハ、大體豫算總會ニ於テ四十九名ノ  
質疑ヲ終ルコトガ出來タノデアリマス、此間ニアリマシテ小會派ノ諸君ハ、殆ド全部發言ノ機會  
ヲ得ラレタノデアリマス、斯ノ如ク極メテ短時間ニ、此重要ナ豫算案ヲ審議致シマス爲ニハ、委  
員各位ニハ非常ナ御勵精ヲ願フテ、眞ニ非常時時局ニ獻替スルノ心持ヲ以テ、其如何ニ今日ノ時  
局ヲ吾々ガ重大視シ、又議會政治ノ爲ニ、其涯分ヲ盡ス上ニ遺憾ナカリシカト云フコトヲ、私共  
ハ此機會ニ御報告ヲ申上ゲタイノデアリマス、然ルニ拘ラズ先程日程ヲ變更シテ、此議場ニ報告  
スルニ當リマシテ、豫メ本日日程變更ニ依ッテ豫算案ガ上程セラレレルコトハ、既ニ政府ニ通ジテ  
アルノデアリマス、而モ四日間ノ期間ニ委員各位ガ勵精セラレテ審議ヲ終ラレタト云フガ如キ  
ハ、殆ド先例ノナイコトデアアル、此先例ノナイ勵精振リヲ示シタト云フコトハ、一ニ國務ノ爲ニ議  
員ノ職責ヲ盡シタモノデアアルケレドモ、又一面ニ於テハ、政府ノ要求ニ基イテ議事ノ進捗ヲ圖  
タト云フコトヲ、政府諸公ニ於テ深ク諒承セラレナケレバナラスニ拘ラズ、豫算委員長ノ此重大  
ナル議案ノ報告ニ當ッテ、總理以下閣僚ノ御出席ナカリシガ爲ニ、委員長ハ直チニ報告ヲスルコト

ノ機會ヲ得ズシテ、休憩ト相成リマシタコトハ、洵ニ遺憾千萬デアリマシテ私共ノ心持ガ、強ヒ  
テ議事ヲ遷延セシメンガ爲ニ、左様ナコトヲ致シタノデハナイ、此重要案ノ性質ニ鑑ミテ、政府  
自ラ反省セラレベキモノアリト考ヘマシテ、委員長ハ登壇ヲ差控ヘタノデアリマス、借テ茲ニ上  
程ヲセラレマシタ豫算案ニ付テ其大要ヲ御紹介ヲ致シテ置キタイト存ジマス、今度ノ豫算ハ第  
一號、第二號、第三號案ヲ通ジマシテ、歳入ノ合計ガ三億六千四百五十有餘萬圓ニナルノデアリ  
マス、歳出豫算ノ方ハ三億六千六百四十有餘萬圓デアリマシテ、之ヲ實行豫算ヲ合セテ追加豫算  
ト共ニ茲ニ計算ヲ致シマスルト、歳入ニ於テ二十三億五百五十有餘萬圓トナリ、歳出ニ於テ二十  
三億千五百五十有餘萬圓トナリマシテ、差引ニ於テ五百九十餘萬圓ト云フモノハ、歳出ノ超過トナ  
ルノデアリマス、是ハドウ云フ譯デアアルカト申シマスレバ、現内閣ガ成立ヲ致シマシテ、低金利  
政策ヲ實行シ、公債ノ低利借換ヲ行ヒマシタル結果トシテ、第一回ノ分ハ歳出ノ減ガ出テ參ッテ  
居リマスルカラ、實行豫算ノ中カラ之ヲ差引イタノデアリマス、併ナガラ第二回ノ公債借換ノ分  
ハ、計算ノ中ニ入ッテ居リマセヌカラ、是ハ當然ノ不用額トナッテ、剩餘ガ出テ參リマスカラシテ、  
今日五百九十餘萬圓ノ歳出ノ増加トナッテ居リマシテモ、愈、此決算ノ時ニナリマシテ、此豫算ハ  
辻褄ガ合ッテ、又多少ノ剩餘ノ出ルコト、思ヒマス、斯様ナ數字ニナッテ居ル次第デアリマス、而  
シテ之ヲ前年度豫算ニ比較致シマスルト、其全體ノ金額ニ於テ、一億六千四百九十餘萬圓ノ増加  
トナリ、公債ノ方面ニ於キマシテハ、昨年ノ豫算ニ比較致シマシテ、六千七百八十餘萬圓ノ減ト  
ナルノデアリマス、所謂公債漸減ガ行ハレテ居ル譯デアリマス、是ガ只今上程セラレテ居リマス  
ル所ノ豫算案ノ大要デアリマス、豫算委員會ニ於キマシテノ質疑應答ノ結果ハ、大體速記録ニ依ッ  
テ御覽ヲ願ヒタイト存ジマスルガ、私ハ其大要ヲ御紹介ヲ致シタイト存ジマス、本年度豫算ヲ議  
スルニ當リマシテ、誰人モ此豫算案議定ニ對シテ、其重點ヲ置イタ點ハ何處ニアルカト云フコト  
昭和十二年度以降ノ財政計畫ガ如何ニナルカ、即チ財政上ノ見透シガ如何ニナルカト云フコト  
ガ、委員諸君ノ問ハント欲シ、又質疑應答ヲ重ネラレタ重點デアッタノデアリマス、十二年度以降  
ノ財政ノ見透シヲ付ケルニ當ッテ、必然的ニ膨脹性ヲ帶ビテ居リマスル陸海軍豫算ノ全貌ガ明ニ



ナラザル限リハ、昭和十二年度以降ノ豫算ノ見透シガ付イテ參ラナイノデアリマス、隨テ豫算委員會ニ於ケル質問ノ重點ハ此處ニ集中ラサレタノデアリマス、先ヅ海軍豫算ニ對シテハ、種種質問應答ノ行ハレマシタ結果、又秘密會ヲモ要求ヲ致シマシテ審議ヲ致シタノデアリマス、ガ、秘密會ノ内容ハ此席上ニ於テ申上グル自由ヲ有シマセヌ、併シ秘密會以外ニ於テ海軍側ノ言明ヲセラレマシタル點ハ、從來ノ華盛頓條約、倫敦條約ガ存續致シテ居ル場合、將來要スベカリシ豫算ト大體似寄ッタ數字ニナル積リデアアル、併シ若干ハ増加スルカモ知レヌト云フ程度ノ言明ヲ得タノデアリマス、陸軍豫算ニ付キマシテハ、只今上程セラレテ居リマス豫算ノ中ニモ、在滿ノ兵備ニ對シマスル經費トシテ、一億八千三百有餘万円計上ヲ致シテ居リマス外ニ、昭和十一年度カラ昭和十六年度ニ至ル迄、兵備改善費ガ七千二百万円計上セラレテ居ルノデアリマス、又資財整備費、國防充備費ニ於キマシテ、昭和十一年度ヨリ昭和十六年度マデ三億九千九百有餘万円ト云フモノガ計上セラレテ居ルノデアリマス、此經費ハ十二年度以降ノ大體數字デアアルカト云フト、サウデハナイ、之ニ對シマシテ陸軍大臣ハドウ云フ言明ヲ與ヘラレタカト申シマスルト、只今提出シテ居ル所ノ此經費ハ基礎數字デアアル、是ヨリ十二年度豫算ヲ編成スルニ當リマシテハ「ソビエト・ロシア」ノ極東ニ於ケル兵力ノ増加、世界列強ノ兵力ノ増加、是等ニ鑑ミテ最小限度ノ要求ヲセネバナラス爲ニハ、航空、防空、兵備改善費等ノ要求ガ十二年度以降ノ劃期的ト云フ言葉ヲ使ハレマシタ、劃期的ノ要求ヲ致サナケレバナラスコトヲ、豫メ御承知ヲ願ヒタイト云フコトデアリマシテ、豫算ヲ議スベキ十二年度以降ノ數字ヲ示サレナカッタノデアリマス、斯ノ如クシテ先ヅ十二年度以降ノ豫算ヲ見透ス所ノ一番大切ナ國防費ノ數字ハ、明確ニ豫算委員會ニ於テ知ルコトガ出來ナカッタノデアアル、併ナガラ之ヲ他ノ方面ヨリ觀察ヲ致シマスルト、大藏大臣ニ對シマスル財政計畫ノ方面カラ見マシテ、先ヅ馬場財政ハ本會議ノ議場ニ於テモ明言セラレマシタル如ク、現在ノ國民ニ現在ノ負擔ヲ任ゼシメテ、子孫ニ負擔セシムベキモノデナイト云フ立場カラ、暗ニ増稅ヲ意味スル所ノ歲入ヲ豫想セラレタノデアリマス、是ニ於テ若シ増稅ヲ行フトスルナラバ、如何ナル程度ノ増稅ガ行ハレルカト云フコトハ、吾々委員ノ聽カントシ

タ所デアリマス、之ニ對シマシテ馬場財政ハ、何ガ故ニ今度ノ豫算ヲ編成スル時モ、増稅計畫ヲ立テ、來ナカッタカト云フ質問モアッタノデアリマス、併シ之ニ對シテ馬場藏相ハ、増稅計畫ヲ立ツルニ當ツテ、先ヅ其前提トシテ中央地方ノ負擔均衡ヲ正ス積リデアアル、増稅ハ其負擔均衡ノ上ニ打立テ積リデアアル、斯様ニ答辯ヲセラレタノデアリマス、然ラバ中央地方ノ負擔均衡ヲ行フト云フナラバ、地方ニ對シテ獨立ノ財源ヲ與フルノ意思アリヤ否ヤ、此質問ガ起ッタノデアリマス、之ニ對シテ馬場藏相ハ、地方ニ對シテ獨立ノ財源ヲ與ヘル考ハナイ、其譯ハ負擔ノ均衡ヲ正サントシテ地租及ビ營業收益ノ如キ、假ニ左様ナ稅ヲ地方ニ與ヘルト致シマシテモ、其稅ハ主ニ中央ニアツテ地方ニナイノデアリマスカラ、眞ニ地方ノ爲ニ負擔輕減ニナラナイト思ヒマスカラ、是ハ交付金又ハ交付金類似ノ方法ニ依ツテ、地方負擔ヲ輕減スル積リデアアルト云フコトヲ言明セラレタノデアリマス、而シテ一般ノ増稅ハ、然ラバ大衆課稅ニ及ブカト云フ質問ガ當然起ッタノデアリマス、之ニ對シテハ織物稅ノ如キ、或ハ醬油稅ノ如キ、或ハ交通稅ノ如キモノハ増稅ヲ行フ積リハナイ、賣藥稅ノ如キハ形ヲ變ヘテ、化粧品稅ト云フヤウナ意味デ、或ハ増稅ヲセラレ、カモ知レヌ、而シテ増稅ノ主トシテノ重點ハ、所得稅ニ於テ、個人所得ヨリモ之ヲ法人所得ニ重キヲ置クト云フコトヲ言明セラレタノデアリマス、是ニ於テ腕氣ナガラ増稅ノ大體ノ輪廓ガ分ツタノデアリマス、更ニ公債ト金利政策ニ對シマシテハ、公債ハ低金利ニ依ツテ公債ノ借換ヲ行ハントシテ居ルガ、或ハ今日三分五厘ト唱ヘラレテ居ルガ、他日三分二厘ト云フ積リデアアル、他日或ハ下ゲル場合ガアルカモ知レヌガ、現在ニ於テハソレハ動カサヌ積リデアアル、斯様ニ言明セラレタノデアリマス、之ニ續イテ起ル問題ハ、公債消化力ノ問題デアリマス、公債ノ消化力ハ國民ノ貯蓄ヲ狙ッテ行カナケレバナラスノデアアルガ、國民ノ貯蓄ハ大體大マカニ勘定シテ十五億万円、此十五億万円ノ中デ産業資金ニ六億内外ヲ要スル、或ハ増稅ヲ行ヘバ又之ニモ取ラレル、馬場財政ハ大體十億ノ公債ヲ募ルガ如キ豫定デアアルカノ如クデアアルガ、現在ノ國民ノ貯蓄力ヲ引當ニシテ公債ノ消化力ハ、是デハ賸ヒ切レヌデハナイカ、サウスレバ當然起ッテ來ルモノハ金融ノ統



制デアル、或ハ銀行ノ國營デアル、斯様ナコトニナツテ參ルガ、之ニ對シテハ大藏大臣ハ如何ニ考  
 ヘルカト云フコトニ對シマシテ、大藏大臣ハ吾々ノ考ヘル所、大藏省ノ考ヘル所ハ、大體十億見  
 當ノ公債ヲ消化シ得ル能力アリト推算シテ居ルト云フ答辯デアリ、銀行ノ國營ハ之ヲ行フノ  
 考ハナイ、又金融統制ニ付テハ、之ヲ極端ナル金融統制ト云フガ如キコトハ行フ考ハナイ、唯貯  
 蓄銀行ニ對シマシテ公債ヲ所持セシメルガ爲ニ、或種ノ法律ヲ出スコトガアルカモ知レヌ、斯ウ  
 云フ答辯ヲセラレタノデアリマス、之ニ關聯ヲ致シマシテ質問トシテ起リマシタ問題ハ、政府ハ  
 金ノ買上ニ付テ買上値段ヲ上ゲタガ、斯様ニ上グレバ必ズ通貨ノ膨脹、物價ノ騰貴ヲ招來スル虞  
 ハナイカ、斯ウ云フ質問ガ起ツテ參リマシタ、之ニ對シテ大藏大臣ハ、金ノ買上値段ヲ上ゲタノニ  
 ハ、産金ノ獎勵ト金ノ逃避ノ防止ヲ狙ツテヤッタモノデアツテ、此程度ノ買上ヲ行フコトニ依ツテ通  
 貨ノ膨脹トナラズ、物價ノ騰貴トナラナイト考ヘテ居ルト云フ答辯ヲセラレタノデアリマス、コ  
 コデ大體國防ニ對シマスル問題ニ關聯ヲ致シマシテ、財政上ノ見透シノ問題ノ一面ヲ終ルノデ  
 アリマス、茲ニ重大ナル問題ノ質問トシテ起リマシタモノハ、十二年度以降ノ財政ノ見透シヲス  
 ルノニハ、單ニ國防ダケデハナイ、産業上ノ見透シヲシナケレバナラヌデヤナイカ、産業上ノ計  
 畫ガナケレバナラヌデヤナイカ、此論ハ民政黨ノ松村君、政友會ノ大口君等ニ依ツテ唱ヘラレタ  
 ノデアリマス、而シテ之ニ對スル政府ノ答辯ハ、將來政府ノ增收ヲ得ントスレバ、産業ヲ盛ニシ  
 ナケレバナラヌ、貿易ヲ盛ニシナケレバナラヌ、是等ニ要スル經費ハ各マズ支出スル積リデア  
 ル、又農村ノ工業化ヲ行フ積リデアアル、又農村ノ化學工業ヲ獎勵スル積リデアアル、斯ノ如クニシ  
 テ收入ノ財源ヲ茲ニ得ルト同時ニ、産業ノ發達助長ヲ爲ノ政策ヲ立テタルノデアルト云フ答  
 辯ヲセラレタノデアリマス、農村問題ニ付キマシテハ、負債整理ノ問題、信用組合ノ問題、農村ノ  
 絕對數ノ減少ニ對スル對策ノ問題、或ハ災害ニ對スル處置ノ問題等、有力ナル質問ガ出タノデア  
 リマス、更ニ茲ニ御紹介ヲ致シタイ問題ハ、經濟界ニ對スル所ノ重大問題ダト考ヘラレマスル、所  
 謂經濟機構ニ關スル問題、是ト關聯ヲ致シマシテ思想上ノ問題、現在ノ自由主義ヲ基調トスル所  
 ノ文明、十九世紀ノ絢爛タル文明ノ時代ヲ經過シテ、今日日本ノ文明モ斯ノ如キ時代ヲ築イタノ

ハ、全ク自由主義ノ働キニ依ル果實デアアル、其自由主義ノ基礎ノ上ニ打建テラレタ經濟機構トシ  
 テハ資本主義制度デアアル、成程資本主義制度ハ利潤ヲ目的トシ、營利ヲ目的トスルガ爲ニハ、或  
 點ニ於テ弊害モアルケレドモ、是アルガ爲ニ今日アルヲ致シテ居ル、此經濟界ニ對シテ、或ハ統  
 制經濟デアルトカ、或ハ思想上ニ付テハ全體主義デアルトカ、其根本ヲ務カスガ如キ説ガ流布セ  
 ラレテ居ルガ、之ニ對スル政府ノ所見ハ如何デアアルカ、斯ウ云フ質問ガ二三ノ人々カラ放タレタ  
 ノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ大體自由主義ヲ基調トシ、此資本主義ノ制度ヲ認メテ行クノデ  
 アツテ、國家ノ必要ナル場合ニ於テノミ、其統制ノ必要ヲ感ジテ居ルト云フ答辯デアッタノデアリ  
 マス、又國防上ノ見地カラ致シマシテ、資本主義經濟機構ノ下ニ於テ重工業ヲ行ハフトスルナラ  
 バ、營利ニ偏シ、利潤ノミヲ漁ル所ノ實業家、此機構ノ下ニ於テハ完全ナ所謂國防ヲ實行シテ行  
 タコトハ出來ナイカラシテ、ドウシテモ國家統制ノ必要ガアルデハナイカト云フ質問ガアッタノ  
 デアリマス、之ニ對シテハ政府モ其點ハ大體ニ於テ首肯ヲセラレタヤウデアリマス、更ニ御報告  
 ヲ申上グベキコトハ、過日ノ事變ヲ契機ト致シマシテ、肅軍ノ問題ニ觸レテ二三ノ質問ガ行ハレ  
 タノデアリマス、其重點ハ兵士ノ命令服從ノ問題、軍人ノ政治干與ノ問題デアリマス、此問題ニ  
 對シマシテハ、陸軍大臣ハ命令ノ尊重、服從ノ絕對性ヲ言明セラレマシテ、又更ニ其違法ナル命  
 令ハ、命令スベキ者ニ於テ考フベキモノデアツテ、軍トシテハ命令ノ絕對性ヲ認メナケレバナラ  
 スト云フコトヲ、強ク言明セラレタノデアリマス、又軍人ノ政治干與ノ問題ニ付キマシテハ、法  
 令ノ示ス所ガアツテ、之ニ干與スルコトガ宜シクナイノデアアル、併ナガラ軍人ト雖モ政治ニ關心  
 ヲ持ツコトハ當然デアルト言フ言明ヲセラレタノデアリマス、而シテ肅軍ノ問題ニ至リマシテ  
 ハ、陸海兩省共ニ至誠ヲ披瀝シテ、肅軍ノ實ヲ舉ゲルト云フコトヲ言明セラレマシテ、此點ニ  
 付テハ全幅ノ信頼ヲ委員諸君ハ印象ニ置イタ譯デアリマス、最後ニ御報告ヲ申上ゲマスコトハ、  
 人權蹂躪ニ關スル問題デアリマス、過日ノ選舉ニ於テ行ハレタル所ノ人權蹂躪ノ事實、此人權蹂  
 躪ノ事實ヲ、武富君ニ依ツテ、事實ヲ指摘シテ、證據ヲ示シテ、而シテ司法省、内務省ノ選舉ニ對ス  
 ル取締方針ノ不當違法ナリシ點ヲ指摘セラレタノデアリマス、是ト同ジク砂田君ヨリモ、是ト類



似ノ質問ヲセラレタノデアリマス、之ニ對シマシテ司法大臣ハ、司法部内ニ對シテハ人權ノ尊重スベキ趣旨ヲ強調シテ居ル、萬一蹂躪ノ事實アレバ、適當ノ處置ヲ執ルト云フコトヲ明言セラレタノデアリマス、内務大臣ハ、過般ノ選舉ニ於テ警察官ノ中ニ不心得ノコトヲ行ウタ者ハナイトハ斷定シナイ、部下ヲ信用スルガ、不心得ヲ庇フ心ハナイト云フ、率直ナ言明ヲ得タノデアリマス、之ニ對シテ分科會ニ於キマシテハ、内務、司法兩分科會ヲ通ジマシテ、右様ノ意味ニ於ケル附帶決議トシ、近時檢察事務中動モスレバ妥當ヲ缺クモノアリ人權類リニ蹂躪セラレ其ノ結果裁判ノ適正ヲスラ疑フモノアルニ至リ民衆怨嗟ノ聲ヲ聞ク政府ハ宜シク法制ヲ改メ其ノ運用ヲ慎重ニ當該官吏ヲ指導督勵シ以テ此弊風ヲ一掃スベシ、ト云フ決議ヲ致シタノデアリマス、其他外交問題、移民問題、吏道振肅ニ關スル問題、失業問題、國體明徵問題、電力問題、水平問題等有力ナル御質問ガ出タノデアリマス、是等ハ速記録ニ依テ御覽ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレヨリ討論ニ入りマシテ、民政黨ヲ代表シテ清水留三郎君ヨリ原案贊成ノ演説ガアッタノデアリマス、其贊成ノ要旨ハ、今度提出セラレテ居ル所ノ豫算案ハ、現内閣ノ政策トシテ何等計上セラレテ居ルモノハ見當ラナイ、全ク前内閣時代ノ政策ヲ踏襲シタノデアリマス、是等ハ組閣後僅ニ二箇月ノ今日デアルカラシテ、事情已ムヲ得ナイモノアリト致シテモ、洵ニ其點ハ遺憾デアル、將來ノ財政計畫ニ對シテハ、此際希望條項ヲ附シテ贊成ヲ致スト云フコトデアリマシテ、其希望條項ハ

- 一 速ニ庶政一新ノ方針ヲ樹テ國防財政産業ノ整調ヲ圖リ社會不安ヲ除去スルニ努ムヘシ
- 二 明年度豫算案ヲ編成スルニ當リ將來ニ互ル歳入歳出ノ計畫ヲ樹テ財政ノ基礎ヲ鞏固ニシ以テ國民經濟ノ安定ヲ期スヘシ
- 三 中央地方ノ負擔均衡ヲ圖ル爲メ稅制ヲ整理シ且地方財政調整交付金制度ヲ確立スヘシ

ト云フノデアリマス、此希望條項ニ對シマスル理由ヲ申述セラレマシテ、原案ニ贊成ヲセラレタノデアリマス、第二ニ政友會ノ船田君ヨリ是亦贊成ノ演説ガアリマシテ、其要旨ハ先程清水君ノ述ベラレマシタルト同一ノ趣旨ノ外ニ、財政計畫ノ確立ヲ居ナイコト、陸海軍ノ豫算ノ見透ノ付カナイコト、ソレカラ即チ軍事豫算ノ全貌ヲ知ルコトノ出來ナカッタコトハ洵ニ遺憾デア

リ、馬場財政ハ國費増加ノ追隨豫算デハナイカト云フヤウナ意味ノ警告的演説ガアリマシテ、更ニ希望條項トシテ

- 一 財政計畫ヲ確立スルコト
  - 一 國防産業ノ兩全ヲ圖ルコト
  - 一 負擔ノ均衡、犠牲ノ公平ニ則リ一般的稅制ノ改正ヲ行フコト
  - 一 地方財政補整制度ヲ擴充スルコト
- 此希望決議ヲ附シテ贊成セラレタノデアリマス、更ニ第二會派ヨリ畔田君ノ贊成、昭和會ヨリ森肇君ノ贊成ガアリマシテ、第一控室ヲ代表シテ杉山君ヨリ反對ノ御演説ガアッタノデアリマス、其要旨ハ、斯ノ如キ會期不十分ナルニ拘ラズ、龐大ナル豫算ヲ提出シテ、鵜呑ヲ強フルコトハ甚ダ不都合デアル、憲法上特別議會ハ、豫算案ノ審議ノ爲ニ二十一日ノ期間ヲ設クルコトガ當然デアツテ、實行豫算ニ對スル質疑、檢討、應答ノ時間ノ餘裕モナイト云フガ如キハ甚ダ不都合デア
- ル、又政府ノ豫算ハ動トモスレバ消費者ニ對スル増稅ヲ行フカノ如キ虞ガアルト云フ理由ニ依ツテ、反對セラレタノデアリマス、最後ニ風見章君ヨリ反對ノ御演説ガアリマシタ、其御演説ノ要旨ハ、内外ノ時局多難ノ場合ニ斯ノ如キ議會ヲ開イテ、サウシテ獨自ノ政策ハ何等持合セテ居ナイ、國防費、東北振興費、災害費等ノ如キハ計上致シテ居ルガ、是等ハ庶政一新ヲスル時ニ共ニヤルベキモノデアツテ、庶政一新ニ關スル所ノ具體的政策ヲ立テ、臨時議會ヲ奏請スルコトガ當然デアルト云フノ反對ノ御議論デアリマシタノデアリマス、而シテ討論ヲ打切りマシテ、之ヲ採決ニ諮ヒマシタ結果、大多數ヲ以テ本案承認可決スルコトニ決定致シマシタノデアリマス、此段御報告ヲ申上ゲマス

田川大吉郎君質疑ヲ爲シ豫算委員長長川崎克君應答ス

田川君ノ質疑

只今豫算總會ノ經過竝ニ結果ニ對スル委員長ノ詳細ニシテ明晰ナル御報告ヲ得マシテ、略、要領



ヲ知ルコトガ出来マシテ有難ク御禮申上ゲル、サリナガラ次ノ三點ニ關シテ委員長ニ御尋ヲ申上ゲタイ、第一ハ低金利ノコトデアリマス、政府ハ低金利ヲ唱導シテ居ラレルニ拘ラズ、最近ノ横濱市債ニ關シマシテハ、新聞ノ傳フル所、四分利ニ於テノ新公債ノ發行計畫ハ成リカケテ居タヤウデアリマス、然ルニ尙ホ新聞ノ傳フル所ニ依リマスレバ、大藏省ノ干涉ニ依ッテ四分一厘、横濱市ハ四分ニ依ッテ公債ノ發行ノ相談ガ出来ントシテ居ルノニ、大藏省ノ干涉ニ依ッテ四分一厘ノ高利ニ發行セシメラレタト云フコトヲ新聞ハ傳ヘテ居ル、如何ニモ意外ナコトデアアル、尤モ私ハ新聞ノ記事ヲ其儘ニ信ジテ居ル者デハナイ、其記事ニ多大ノ疑ヲ存シテ居ル、事實ハ大藏省ハ直接ニソレニ干涉サレタノデハナイデアラウ、サウシテ四分ノ利ニ於テノ發行ヲ希望シテオ居デニナラレルノダラウ、然ルニ金融業者ノ何處カニ其四分利ノ發行ニ反對スル者ガアッテ、到頭四分一厘利ノ發行ニ決定スルニ至ッタデアラウト私ハ推測致シマス、ケレドモ新聞ハ確ニ四分利ノ發行計畫ニ對シテ大藏省ガ干涉ヲ加ヘテ、四分一厘ノ發行ニ至ラシメタト報道ヲシテ居ルノデアリマス、此事實ハドウデアアルカ、其真相ヲ承リタイ、其眞實ノ報告ヲ承リタイ、ソレニ附加ヘマシテ政府ノ國債ノ五分利或ハ四分五厘ガ、段々ニ三分五厘ヲ標準トスル程度ニ引下ゲラレマシタコトハ、當局ノ御骨折トシテ感謝致スノデアリマス、デスガ其三分五厘ハ實際ニ於テハ三分七厘ノ利廻ニ當ル、サウシテ只今申上ゲマシタヤウナ横濱市債ニ依ッテ現レタル、ソレヲ標準トデアラウ、ソコデ國債トシテハ三分五厘、三分七厘ノ低利ニ引下ゲラレルコトガ出来タト致シマシテモ、市債トシテ民間ノ企業家ノ利用シ得ル利潤ノ標準ト致シマシテハ、四分二三厘以下ニ下ルコトハ、今日ノ場合殆ド出来ナイコトデアラウヤウニ思ハレル、サウスレバ政府ノ所謂低金利ナルモノハ、國債ノ場合ヲ除キマシテ、民間ノ一般ノ企業家ガ利用致シマス場合ノ標準トシテハ四分二三厘、其程度ヲ目標トシテオ居デニナラレルノデアラウカ、サウスレバ低金利々々々ト申シマシテモ、其聲徒ニ大ニ過ギテ、實際ニ於テハソレ程利益ヲ齎サナイヤウニ考ヘラレルノデアリマスガドウデスカ、是ガ低金利ニ關シマシテ此際ニ伺ッテ置キタイ點デアリマス、豫算委員

會ニ於テハ、ソレハドウナッタデアリマセウ、第二、北支那ノ密輸入ノ問題デアリマス、其事ハ日本ノ新聞ニハ多ク傳ヘラレマセウ、割合ニ海外ノ新聞ニハ可ナリ盛ニ報道セラレタ、其報道ニ依リマスレバ、帝國ノ威信面目ニ關係スル所モ少クナイヤウデアリマスルガ、其事實ハドウデアリマスカ、私共ハ何モ知リマセウダケ、問ハレタ場合ニ回答ニ窮スルノデアリマス、其事實ヲ御知ラセ願ヒタイ、ソレハ豫算委員會ニ於テハドウ御取扱ニナッテ居タデアラウ、ソレカラ第二ハ、陸軍刑法ノ百三條ニハ「政治ニ關シ上書、建白其ノ他請願ヲ爲シ又ハ演說若クハ文章ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス」ト明文ガアリマス、此事ヲ先般モ陸軍大臣ハ此議場デ仰セニナッタノデアリマスガ、私ノ此ノ場合ニ問ウテ置キタク思ヒマスコトハ、此條文ハ今日迄ニ適用セラレタノデアッタラウカ、適用セラレタ場合ガアッタノデアリマセウカ、若シ適用セラレナシタトスレバ、適用セラレベキ事件ハ起ラナカッタト云フ御考デアリマセウカ、其點ヲ御尋ラシテ置キタイノデアリマス、若シ委員會デサウ云フ御話合ヒガ進ンデ居リマセンナラバ、關係當局ノ御説明ヲ煩シタイ

豫算委員長川崎克君ノ應答

只今ノ御質問ニ對シマシテハ、第一問ハ畔田君カラ御質問ガアッタト心得マス、ソレハ田川君ノ御手許ニ速記録ガゴザイマセウカラ、ソレヲ御覽ヲ願ヒマス、第二問ハ是亦十四日ノ委員會ニ於テ、有田外相カラ答辯ヲセラレテ居リマス、速記録ヲ御覽ヲ願フ方ガ確カデアラウト思ヒマスカラ、御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス

討論ニ入り杉浦武雄君、河上丈太郎君及風見章君ハ原案反對、柴安新九郎君、大口喜六君及森肇君ハ賛成ノ演說ヲ爲ス



杉浦君ノ反對演説

私ハ只今ノ委員長ノ報告ニ反對シ、豫算ノ編成替ヲセラル、コトヲ政府ニ求メルモノデアリマス、其趣旨ヲ暫クノ間御聴取ヲ願ヒタイノデアリマス、私共齋藤内閣カラ岡田内閣、此内閣ニ至ルマデ、政黨内閣ガ一寸脱線シタ形ニナツテ居リマス、ドウ云フ政治ガ行ハレルノデアラウカト云フコトヲ、豫メ知ルコトガ出来ナイ、政黨政治ノ時代ニ於テハ、政黨ソレノカ各、意見ヲ發表シテ居ル、政策ヲ發表シテ居ル、然ルニ官僚内閣ノ時代ニ於テハ、當然是ガナイノデアリマスルカラ、如何ナル政治ガ行ハレルノデアラウカト云フコトハ、見當ガ付カナイ、隨テ機會アル毎ニ常ニ其發表ヲ希ウテ居ッタ者デアリマスルガ、今度ノ本會議、豫算會議ニ於テ、色々質疑應答ハアリマシタケレドモ、是ガ政府ノ爲サントスル所デアルト云フコトハ、ハッキリシナカッタ、私ハ唯政府ノ爲サントスル所ガハッキリシナイノミナラズ、一體將來ノ政治ハドウ云フ形ニ於テ動イテ行クノデアラウカト云フコトニ非常ナ疑問ヲ持ツ、凡ソ如何ナル權衡ヲ失シタ不安定ナ形ニ見エルモノデアリマシテモ、極メテ短期間ニ於テハ、是ハ安定シテ居ルノデアリマス、今ノ内閣ガ官僚、政黨、軍、此合作ニ依ッテ出来テ居ルト云フコトハ、私ハ認メル、併シ是ハ極メテ一時的ナコトデアツテ、間モナク政黨主義ノ内閣ニ立戻ルデアラウカドウカ、此點ニ付テハ幾多ノ疑問ガアリマス、私ハ、暫クノ間ハ可ナリ不安定ニ見エマシテモ、ヤハリ政黨、官僚、軍、此合作ニ依ッテ、日本ノ政治ガ行ハレテ行クデアラウト、斯ウマア思ッテ居リマス、所デ此三ツノ合作ニ依ッテ政治ガ動イテ行ク時ニ、ドレガ一番主力トナツテ日本ノ實際政治ヲ動かシテ行クカ、斯ウ申シマスレバ當分ノ間ハ軍デアリマス、是ニ於テカ軍ハ如何ナル立場ヲ取ツテ、日本ノ實際政治ニ臨ンデ行クカト云フコトガ、是ガ重大ナル問題ニナツテ參リマス、或人ハ軍ノ國家機構上ノ直接ノ責任ハ國防デアリマスカラ、國防擔任ト云フコトカラ、直グ軍ノ頭ニハ兵器彈藥、斯ウ云フ方面ニピント來ル、兵器彈藥ト云フコトガピント來レバ、直チニ重工業ノ助長發展、斯ウ云フ方ニ頭ガ動イテ行ク、今日ノ日本ノ重要工業ハ、或ル意味ニ於テハ極メテ能ク統制ガ取レテ居ル、隨テ若シ之ヲソックリ其儘維持シ或ハ必要ナル範圍ニ於テ之ヲ助長シテ行クト云フコトガ、國防ヲ擔任シテ居リマ

ス軍トシテハ極メテ黨ヲ所デアリ、誘惑ヲ感ズルコトデアラウト思フノデス、所ガ若シ軍ガ左様ナ方面ニノミ重キヲ置イテ動イテ行クト云フコトデアリマスナラバ、ソレハ當然今日ノ議會——本會議或ハ豫算會議ニ於テ議論セラレマシタ庶政一新、斯ウ云フ方面ニ手拔カリガ來ル、斯ウ云フヤウニナリハシナイカト云フコトヲ私ハ感ズルモノデアリマス、之ニ對シテモウ一ツノ考ヘ方ハ、サウヂヤナイ、内閣ヲ組織シテ居ル三ツノ勢力ノ中デ、軍ガ其中心勢力ヲ爲シテ行クデアラウト云フコトハ當然認メルケレドモ、軍ノ立場ハ單ニ國防ノミヂヤナイ、最近ノ出來事、及ビ嘗テ五・一五事件ガ起キタ當時ニ於テモ、或ル程度ニ於テ明ニナツタコトデアアルケレドモ軍ノ中心基調ヲ爲ス所ノモノハ、日本ニ於テハ無論徵兵制度デ、其徵兵制度ノ完全ヲ圖ラントスレバ、當然國民生活ノ安定、斯ウ云フ所マデ進ンデ行カナケレバナラナイ、國民生活ノ安定ト云フコトヲ一度考ヘマスルナラバ、重工業ニ偏シテ重キヲ置ク、重工業偏重ト云フヤウナ態度ト云フモノハ許サレナイ、故ニ徵兵制度ニ根本ヲ置ク所ノ日本ノ軍ノ動キトシテハ、當然今度議論セラレマシタル庶政一新ノ方ニ重キヲ置イテ、政治ヲ「リード」シテ行カナケレバナラヌ、斯様ニ軍ハ當然考ヘナケレバナラナイ必然的ノ立場ニ置カレテ居ル、斯ウ云フ議論ヲ爲ス者ガアル、私ハ今日渾沌タル此政治ヲ見テ、大難把ニ分ケテ只今申シマシタヤウナ二ツノ見方ガアルダラウト思フ、ソコデ私ハ大體カラ申シマシテ、今申シマシタ後ノヤウニ日本ノ軍ガ進ンデ行クト云フコトヲ希望シテ已マナイモノデアリマス、斯様ナ考ヘ方ヲ致シテ居リマス時ニ、突如トシテ二・二六事件ナルモノガ起ツタ、ソコデ我人共ニ驚イテ、其起リシ理由ヲ探究スルト云フコトニ於テハ洵ニ熱誠深刻ヲ極メタモノデアツタノデアリマス、軍ハ或點ニ於キマシテ庶政一新ノ政府ノ聲明ヲ肯定シテ居ル、自ラハ現狀打破、現狀打開ト云フコトヲ主張致シテ居ル、隨テ是等ノ狀況ヲ見マスレバ、私ガ只今申シマシタヤウナ風ナ動キ方ヲシテ行クモノデアラウト想像ガセラレル、若シサウデナクテ、先ニ申述べタヤウナ態度デ軍ガ進マルノデアリマスルナラバ、是ハ非常ニ危険ナコトデアアル、斯様ニ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、斯様ナ立前ニ立チマシテ、私ハ今度ノ豫算ヲ簡單ニ批評致シタイト思ヒマス、廣田内閣ハ其成立ノ當初ニ於テ一ツノ約束ヲ持ッテ居ル、誰ニ



約東シタノデモナイケレドモガ、廣田内閣ハ斯ノ如キコトヲ爲サザルベカラズト云フ、當然ノ約東ヲ背負ハサレテ出來テ居ルノデアリマス、其約束ハ第一ハ、國體明徴問題ノ徹底デアリマス、第二ハ二二六事件ノ跡始末デアリマス、是ハ小サク分チマスレバ、第一ハ肅軍ト、第二ハ庶政ノ一新、斯ウ云フコトニナリマス、ソレカラ大キク第三項ト致シマシテ、積極外交ノ確立デアリマス、更ニ是ハ小サク分ケマスレバ、滿洲國ニ向ッテ更ニ一段ノ生氣ヲ加ヘルコト、對支外交ニ對シテノ態度ヲハッキリ決メルコト、私共外交ノコトニ多クノ知識ヲ持タヌケレドモガ、日本ニ於ケル現狀維持派及ビ現狀打開派ノ爭ガ解決付カザルコトハ、直チニソレガ對支外交ニ影響ヲシテ、當然コチラ側デアアルベキ人達ノ腰ガフヲ付ク、斯ウ云ッタヤウナ事情ニアルト云フコトヲ見逃ス譯ニ行カヌ、隨テサウ云フ點カラ言ッテモ、對支外交ニ對シテ確乎不動ノ立場ヲ執ッテ行カナケレバナラヌト思フ、是ダケノコトハ、廣田内閣ハ其成立ノ當時、一切ノ狀況カラ課サレテ居ル課題デアアルデアリマス、隨テ當然其問題ニ立入ッテ、物ヲ解決シテ行カナケレバナラナイ、然ルニソレ等ノ點ニ付テ幾多ノ質疑ガ重ネラレマスレバ、組閣後僅カ五十日デアアルカラ、サウ云ッタヤウナ所マデ手ガ届カヌ將來マダ色々ナルノダト云ッタヤウナ答辯デアリマスルケレドモ、政黨内閣カ何カナラ、先程申シマシタヤウニ、普段政策ヲ發表シテ居リマスルカラ、今申シタヤウナ通辭ヲ許ス、官僚内閣ハ左様ナ政策ヲ發表シテ居ナイノデアリマスルカラ、其組閣ノ當初ニ於テ先ヅ其大綱ダケハ示サナケレバナラナイ、ソレヲ示セト云フコトハ、閣僚ニ迫ッテ居ルデアリマスルケレドモ、閣僚悉ク組閣後五十日ニシテ何モ言フコトハナイト、斯フ云フコトヲ言ウテ居ル、之ヲ怠慢ト言ハズシテ何ゾヤ、當然約束セラレテ居ルコトデアアルカラ、其約束ヲ果セ、斯フ云フコトニナッテ居ルノデアリマスルカラ、何等カ此處デ示サナケレバナラヌ答デアリマス、然ルニ之ヲ果サナイ、故ニ廣田内閣ニ對シテハ、恐ラク議會ノ濟ンダ後、或ハ言論ニ於テ、文章ニ於テ、幾多ノ批判ガ爲サレナケレバナラヌ、其批判ナルモノハ致命的ナルモノデナケレバナラヌ、廣田内閣ヲ抹殺シ終ルガ如キモノデナケレバナラヌ等ニナッテ居ルノデアリマス、ソレカラヲヌカ、此議會ニ突如トシテ不穩文書取締法案ト云フモノガ出來テ居ル、是ハ内容ハ語ルマデモ

アリマセヌ、唯吾々ガ率然トシテ之ヲ讀ンダケデモ、斯ノ如キモノガ出タナラバ、眞ニ國家ヲ憂フルノ意見ト云フモノハ、遂ニ現レズニ濟ンデシマフダラウト、斯様ニ感ジサセラレルヤウナノガ、即チ不穩文書ノ取締法案デアアル、先程委員會ニ於テ萱場局長ハ——斯ウ云フ答辯ヲ致シテ居ルノデアリマス、若シソコマデ考ヘテ、アノ不穩文書取締法案ヲ御出シニナリマスルナラバ、容易ナラザル事デアアル、恐ラク言論ニ從事スル者、文書ニ依ッテ奉公セントスル者ハ、之ニ依ッテ遂ニ奉公ノ誠ヲ效ス途ヲ塞ガレテシマフノデアリマセウ、斯ノ如キ事ガアリマスルナラバ、愈、以テ不穩文書ハ世ノ中ニ横行スルト云フコトニナッテ來ル、是ハ必シモ萱場局長ノ失言デハナイ、脱線デハナイ、恐ラク官僚意識ト云フモノハ、此處ニ在ルノダラウト私ハ思ッテ居ル、隨テ此法案ノ活カスベキ所ヲ活シテ以テ通過サセヨウト云フヤウナ、生温イ態度ヲ執リマスレバ、恐ラク是ハ容易ナラザル結果ヲ國家ノ將來ニ貽ス、斯ウ思ヒマス、洵ニ自ら爲スベキ事ヲ爲サズシテ、ソレニ對シテ批判ヲ加ヘントスル其口ヲ先ヅ塞グ、斯ウ云フ態度ヲ執ルガ如キハ、卑怯千萬デアルト申サナケレバナリマセヌ、又大藏大臣ナドノ言フ所ヲ聽イテ見マスレバ、成程高橋前大藏大臣ノ公債政策ヲ變更シテ、將來ハ必要ニ應ジテ或ル程度マデノ公債ヲ出シテ行ク、斯ウ云フ風ニ決心ヲセラレタト云フコトハ、私共之ニ贊成ヲスルモノデアリマス、併シ其半面ニ當ッテ増税ノ問題ニ付テ質問ヲセラレタ時ニ、彼ハ忌憚ナク斯様ニ答辯ヲシテ居ル、大衆課税ヲシナイカドウカ、斯ウ云フ質問ニ對シテ、大衆ノ消費シテ居ル品物デアリマシテモ、大衆ノ生活ニ關係ノナイモノニ對シテハ、増税ヲスル場合ガアルヤウナコトヲ言ウテ居ル、斯ウ云ッタヤウナ考ヘ方ハ、廳テ増税ヲ爲ス場合ニ於テ、大衆課税當然現レテ來ルト云フコトヲ私共ニ豫感セシメル、ソレカラ私ハマダ國策上幾多ノ當然爲サルベキ事ガアルヤウニ考ヘテ居ル、或ハ電力ノ國營デアアルトカ、或ハ保險ノ國營デアアルトカ、色々ナ意味ニ於テ當然爲サルベキモノデアリ、是ハ既ニ或ル程度マデ論議ガ盡サレ、ソレノ官廳ニ於テハ參考書類マデモ整ッテ居ル筈ノモノナンデアアル、是等ノモノガ通過スルコトニ依リマシテ、或ル程度ノ社會施設等ヲ行フコトガ出來ル、斯ウ云ッタヤウナ立場ニモアル、然ルニ所管大臣サウ云フ點ニ付テノ質問ガアリマスレバ、マダ調査



中ト云フヤウナ譯デ、之ニ對シテ答辯ヲシナイ、斯ウ云フヤウナ狀態ニ在ルノデアリマス、私ハ  
 二二六事件ノ跡始末ニ付テ、最モ重大ナル關係ヲ持ッテ居ラレルノハ、固ヨリ陸軍大臣ダト思  
 フ、其陸軍大臣ガ恰モ其肅軍問題ヲ一手ニ引受ケタルガ如キ態度ヲ執ッテ、サウシテ精勵シテ居  
 ラレル態度、同情ニ吝ナラザルモ、ガアリマス、併シ陸軍大臣ニ依ッテ爲サルベキ事ニハ自ラ範  
 圍ガアル、此間起リマシタル事件ノ跡始末、法律的跡始末、ソレニ大臣ノ意思ガドコマデ作用シ  
 得ルカドウカ、司法權ノ問題トシテ、私ニハハッキリ致シマセヌガ、或ル程度マデ大臣ノ意思ガ作  
 用シ得ルト致シマスレバ、其問題ニ對シテハ成程陸軍大臣ハ責任ガ負ヘル、ケレドモ肅軍ノ根柢  
 ハ庶政一新ノ方ガ本ニナル、庶政一新ガセラレマスレバ、自ラ肅軍ヲ叫バナケレバナナイヤウ  
 ナ問題ハ世ノ中ニ起ラナクナツテ來ル、此點ハ陸軍大臣ガ單獨ニ一氣ニ引受ケテ、ソコマデ私ガ  
 ヤツテ退ケルトマデ行ケナイ點ナンドアル、併シ行カウトスルノハ敬意ヲ表シテモ宜シイ、私共  
 ハ此肅軍ヲ考ヘル時ニ簡單ニ斯ウ云フ風ナ感ジガスルノデアリマス、五・一五事件ノ起リマスル  
 以前ニ於テ、何ダカ世ノ中ガ喧マシクツテ、今ニ何事カ起キハシナイカト云フヤウナ氣持ガ世ノ  
 中ニ漲ッテ居ッタ、俄然トシテ五・二五事件ガ起キタルデアリマス、隨テ五・一五事件ノ後始末ナル  
 モノハ、其起ル以前ニ於テ世ノ中ニ漲ッテ居リマシタル、何カ起キハシナイカト云フヤウナ空氣  
 ヲ芟除スルコトニアツタ譯ナノデアリマス、然ルニ其點ガ閑却セラレタノデアリマス、成程其事  
 件後ニ於テ幾多ノ時局匡救費ト云フヤウナモノガ出テ參リマシテ、割合ニヤツタト云フ感ジハア  
 リマシタケレドモガ、マダ政治ヲ擔任シテ居ル人々ノ中ニハ、事件ノ原因ガソレ程深キモノデア  
 ルト云フコトハ、ハッキリシナカッタト見エテ、思ウテ及バザル所アリ、爲シテ爲サザル所ガアツ  
 タ、是ガ五・一五事件ノ起ッタ譯ナノデアリマセウ、今度ノ事件ガ起キマスル時ニモ同ジコトナン  
 デス、何トナク世ノ中ニ陰慘ナ氣持ガ漲ッテ居ル何カ起キハシナイカト云フヤウナコトヲ皆ガ言  
 フ、突然トシテソレガ今度ノ事件トナツテ現レテ來テ居ル、隨テ今度ノ事件ノ解決モ、ヤハリ其事  
 件ノ以前ニ於テ漲ッテ居リマシタル一ツノ空氣、其空氣ノ背後ニ潛ム所ノ事實、國民ノ要求、之ヲ  
 解決シテ行クコトデナケレバナラヌ筈ナノデアアル、陸軍大臣ガ若シ眞ニ自分ノ直接ノ擔任デモ

ナイ所ノ國政一新マデ、拍車ヲ掛ケテ踏込ンデ行カウト致サレマスナラバ、深ク此處マデ思ヒヲ  
 致サレナケレバナラヌ、然ルニ今度ノ豫算ヲ見マスレバ、陸軍ノ關係ニ於テ、大體前内閣ガ要求  
 シタモノデアリマスケレドモガ、相當大キナ要求ガナサレテ居ルト云フコトヲ私共ハ發見ス  
 ル、併ナガラ陸軍大臣ノ要求ニ依ッテ是レノ庶政一新ノ基礎タルベキ豫算ガ盛ラル、ニ至ッ  
 タト云フコトヲ、私共ハ認メルコトガ出來ナイ、是ガ陸軍大臣ニ對シテ甚ダ遺憾ヲ感ズル點ナノ  
 デアリマス、隨テ前ニ戻リマシテ、陸軍ノ態度ハ第一、第二ト二ツニ考ヘラレル、私共ハ好意ニ考  
 ヘテ、陸軍ハ其力ヲ以テ庶政一新ト云フ方面ニ向ッテ行クコト、是ガ徵兵制度ノ基礎ヲ鞏固ニス  
 ル所以デアアルト云フ風ニ考ヘテ參リマシタガ、一寸誤ルト、ソコノ間違ヲ惹起シテ、第一ニ申シ  
 マスヤウナ、國家資本主義ノ如キ立場ニ立チ、一面ニ於テハ大資本家ト提携シ、他ノ一面ニ於テ  
 ハ官僚、政黨ヲ率キテ政治ニ當ルト云フ風ニ、脱線シハセヌカト云フコトヲ虞レル、其他内務大臣  
 デアルトカ、幾多ノ大臣ニ付テ私ハ申述ベタイコトガアリマスケレドモ、之ヲ要スルニ、組閣當  
 時ニ於テハ何トナキ空氣ニ動かサレテ、相當ノコトハヤル積リデアッタト私共ハ拜察シタ、然ル  
 ニ僅カ五十日ニシテ、何トナク氣心ニ緩ミガ來タ、今日ニ於テハ大シタ事ハ爲サナクトモ、マア  
 ソコノニ納マツテ行クノデアアルマイカト云ッタヤウナ氣持サヘナスツテ居ラシヤルノデハナ  
 イカト思フ、若シサウデアリマスナラバ、是非非常ナ誤リデアリマス、衆議院ニ於テハ勅語ヲ賜ッ  
 タリ、衆議院ハ恐懼シテ、他日庶政一新ノ決議ヲシヨウトシテ居ル、政府モ亦非常ナ決意ヲ持ッテ  
 居ル、斯ウ云フ風ニ言ハレテ居ル、若シ此意氣込、掛聲ニ拘ラズ、相當ナ事ガ爲サレルコトナク、他  
 日此間ノヤウナ事件ガ、モウ一遍持上ルト云フヤウナコトデアリマス、何人ガ此責任  
 ヲ負フカ、私ハ政府ニ對シテ篤ト此點ニ付テ御考ヘテ願ヒタイ點ナノデアリマス、私ハ政府ノ一  
 般ヲ見ルコト以上ノヤウデアリマスケレドモガ、特ニ今日ノ狀況ニ於キマシテハ政黨ト軍部ト官  
 僚トノ合作デ行ッテ居ルガ、之ヲ導イテ居ルモノハ軍部、故ニ其軍部ガ特ニ力ヲ入レテ庶政一新ノ  
 實ヲ擧ゲナケレバナラヌ、斯ウ云フ風ニ結論シテ居ルノデアリマス、然ルニソレガ此豫算ニ現ハ  
 レタ點ニ於テ多ク見受ケナイ、斯様ナ譯デアリマスカラ、私共ハ此豫算ヲ一度引込メテ、再ビ本



當ニ庶政一新ノ實ヲ舉ルヤウナ豫算ニ組替ヘテ、出直サレルコトヲ希望致ス者デアリマス、私ハ齋藤隆夫君ガナサツタ此間ノ演説ヲ謹ンデ拜聴致シテ居ッタ、之ニ依リマスレバ、私ノ感シハ、政黨内閣ノ盛ナリシ頃ヲ回顧スル氣持、想ヒ起ス氣持、回顧的ノ氣持ト云フモノガ現レテ居リマス、同時ニ又現在ノ無力ヲ顧ミテ、極メテ感傷的ノ氣持モ現レテ居ル、併シ政治ハ専門家ノ俺達ニ委セロ、俺達デヤツテ退ケルト云フ氣魄ハ、現レテ居ラナカッタ、隨テ齋藤隆夫君ト陸軍大臣トノ間ニ交ハサレタ演説ハ、形ニ於テハ洵ニ立派ナモノガアル、併シ其實質ニ於テハ國民ノ生活ニ觸レテ居ナカッタ、斯ウ思フノデス、是等ヲ考ヘマシテ、政黨デアルトカ、又軍部其他如何ナル部分モ、猛省スル必要ガアリマスケレドモ、特ニ此豫算ハ更始一新ノ色ヲ少シモ帯ビテ居ラナイ豫算デアルガ故ニ、組直シテキラッシヤイ、斯ウ云フ言葉ヲ以テ政府ニ申上ゲョウト思フ、是デ終リマス

紫安君ノ贊成演説

諸君、私ハ只今上程セラレテ居リマス昭和十一年度歳入歳出總豫算追加案ニ對シマシテハ、杉浦君ノ御意見ニ反對シ、豫算委員長ノ報告ニ贊成スル者デゴザイマス、此追加豫算案ハ憲法ノ條章ニ依リマシテ、十一年度豫算案ト併セテ見ルベキモノデアアル、其實體ハ岡田内閣ノ編成致シマシタル昭和十一年度不成立豫算ト、大差ノナキモノデゴザイマス、災害應急費、其他ノ費用二千五百萬圓ヲ加ヘタノニ過ギナイノデアリマス、現内閣ノ政策トシテ新ナル意味ヲ持ッテ居ルモノデハゴザイマセヌ、大體ニ於テ前内閣ノ豫算デアリマス、即チ高橋財政ノ現レデアリマス、此意味ニ於テ吾々ハ本豫算ヲ審議スルニ當リマシテハ、廣田内閣馬場藏相ノ提案シタモノヲ議スルノデハナク、高橋財政ノ豫算、アノ國民ノ信望ヲ一身ニ集メラレナガラ、悲シクモ時代ノ犠牲トナラレタル老藏相ノ遺産デアアル所ノ豫算ヲ審議スル氣持ニ、充サレテ居ッタノデアリマス、此豫算ヲ昭和十一年度ノ豫算ニ比較致シマスレバ、總歳出額ニ於テ九千餘萬圓ヲ増シテ居ルニモ拘ラズ、普通歳入ニ於テ經常ト臨時ト通ジテ二億六千六百萬圓ヲ増シテ居ル結果、赤字公債ハ六千九百萬圓ヲ減ジテ居ルノデアリマス、而モ歳出ノ増加六千三百萬圓ノ中デ、軍事費ノ増加三千六百餘萬

圓デアリマスルガ、同時ニ産業費、其他軍事費モ、實ニ二千六百萬圓ヲ増シテ居ルノデアリマス、茲ニ時局ニ對スル前内閣ノ苦心ノ現レテ居ルコトヲ感ズルノデアリマス、尙ホ此豫算ノ特徴ト致シマシテ一言スベキコトハ、一般會計ト特別會計トノ調節ヲ圖ツタコトデアリマス、即チ特別會計ガ是マデ一般會計庇護ノ下ニ改善セラレ、今日ハ割合ニ良好ナル状態ニ在ルノデアリマスル、ソコデ其餘裕金ノ一部ヲ一般會計歳出ノ財源ニ充テタコトデアリマス、今回新ニ各特別會計カラ致シマシテ一千七百五十萬圓ヲ支出シ、減債基金繰入額ノ増加ヲ合セマシテ、合計四千三百萬圓ノ調整繰入金ヲ成シテ居ルノデアリマス、是ハ我が財政上多年ノ懸案デアアル所ノ一般會計ト特別會計トノ調整ヲ圖ルノ途ヲ開イタモノデゴザイマス、其他窮乏町村ノ財政ヲ援助致シマスルガ爲ニ、地方財政調整交付金ト致シマシテ、二千萬圓ヲ盛ッテ居リマス、又最モ異彩ヲ放ッテ居ルト思ヒマスルノハ、中小商工業ノ金融ヲ圖ルガ爲ニ中央金庫ヲ創設シタコトデアリマス、其他貿易ノ振興、民間航空ノ助長及東北振興等ニモ、幾分ノ新規費用モ見積ッテ居ルコトデアリマス、今日ノ國民生活安定ヲ切ニ望ンデ居リマスル見地カラ見マスレバ、兎モ角赤字公債漸減ノ方針ヲ確守シナガラ、一般會計ト特別會計トノ調整ノ端緒ヲ開イタルコトハ、聊カ多トスベキモノデアリマス、吾々ハ前内閣ノ爲セル所ト致シマシテハ、當時ノ財政事情ト致シマシテハ、先ヅ此程度ヲ以テ已ムナキモノト思ッテ居ルノデアリマス、又今日廣田内閣ガ成立勿々此前内閣ノ豫算ヲ踏襲致シマシテ、特別議會ニ臨ンタルコトモ吾々ハ諒トスル者デアリマス、ソコデ吾々ハ此豫算ニ贊成スル者デアリマスルガ、廣田内閣ガ非常時局ヲ擔當シテ庶政刷新ヲ標榜シナガラ、其財政計畫ノ輪廓ダケデモ明ニシ、國民ノ不安ヲ除カンケレバナラヌノガ今日ノ急務デアリマスルニ拘ラズ、此財政計畫ノ輪廓ヲ見ルト云フコトハ、是ハ國民ガ特別議會ニ待望シタル重點デアアルト思フニ拘ラズ、本議會開會以來、當議場並豫算總會ニ於ケル各方面ノ質問應答ニ依リマシテモ、現内閣ノ有シテ居ル所ノ財政經濟政策ノ輪廓ヲ明ニスルコトガ出來ズ、加之其説明ニ矛盾スル所ガアル、國民ノ疑惑ヲ解クト云フコトノ出來ナカッタト云フコトハ、吾々ノ遺憾トスル所デアリマス、政府ハ十二年度豫算ノ編成ニ當リマシテハ、將來ニ互ル財政計畫ノ全貌ヲ明ニスルト云



フコトヲ、心掛ケンケレバナラヌト思フノデアリマス、政府ハ十二年度ヨリ増税ニ依ル普通歳入ノ増加ヲ圖リ、出來得ルダケ公債收入ニ依ル部分ヲ減ジテ、恆久收入ヲ目安トスル計ツテ居ルノデアリマス、是ハ吾々同志ガ從來唱ヘ來ッタ所デアリマシテ、機宜ノ處置ヲ爲スモノト言ハシケレバナラヌノデアリマス、併ナガラ増税ハ何ト申シマシテモ、國民ノ生活ニ直接且ツ深刻ニ響クモノデアリマスルカラシテ、是ガ按排ニハ最善ノ注意ヲ拂ハシケレバナラヌト云フコトハ勿論デアリマスルガ、馬場藏相ハ國稅ト地方稅ト並ンデ稅制ノ一大改革ヲ行ヒ、且ツ負擔ノ均衡ヲ主トシテ增稅計畫ヲ立ツル旨ヲ言明シ、又所謂大衆課稅ハ出來得ルダケ之ヲ避ケル方針ヲ以テ、法人所得ヲ中心トシテ、稅制ヲ整理スルト云フコトヲ申シテ居リマス、其趣旨ハ洵ニ結構ト思ヒマス、若シ政府ガ此方針ヲ確ニ守ツテ行クナラバ、吾々ハ國民經濟ニ對スル壓迫ハ、餘程減セラレルモノト思フノデアリマス、其代リニ多額ノ收入ヲ期スルト云フコトハ難シイコトト思フノデアリマス、若シ相當多額ノ收入ヲ得ントスルナラバ、消費稅ナリ專賣、其他官業收入ノ増加ヲ圖ランケレバナラヌト思フノデアリマス、斯ノ如ク致シマスレバ、國民生活ノ安定ト云フ現内閣ノ主要ナル政策ハ、多大ノ影響ヲ蒙ルコトナルデアリマス、此點ニ關シマシテ、政府ハ議會ニ於ケル質疑應答ノ趣旨ニ鑑ミ、國民負擔ノ公平ヲ期スルト共ニ、國民生活ヲ脅威スルコトナキ根本的稅制整理ヲ斷行セラレンコトヲ切ニ望ムモノデアリマス、更ニ私ハ馬場藏相ガ公債ノ消化及ビ産業ノ振興ノ爲ニ、最近低金利政策ヲ實行セラレマシタガ、此低金利ヲ唯一ノ架橋ト致シマシテハ、經濟安定ノ彼岸ニ渡ルコトハ出來ヌト思フテ居リマス、馬場藏相ガ勇往果敢ニ實行致シマシタル此政策ハ、果シテ金融界ノ實情ニ即シタモノデアリマセウカ、近キ將來ニ於テ反動ノ懸念ハナイデセウカ、若シ一兩年ノ中ニ此低金利反動ノ起ルコトガアリマスナラバ、公債ノ暴落ニ因リ財界ハ甚ダシキ打撃ヲ蒙リ、延イテ現内閣ノ財政遂行ガ行詰ルヤモ知レナイノデアリマス、元來金融ハ從デアアル、産業ガ主デアアル、而モ金融ノ形勢ト云フコトハ、國民ノ通貨ニ對スル信用如何ニ依ルモノデアリマスカラシテ、國民ノ通貨ニ對スル信用ニシテ、一朝動搖スルガ如キコトガアリマスルナラバ、金利政策ノ如キモノハ忽チ其效果ヲ失フモノデアルト言ハナケレバナラ

ナイノデアリマス、換言スレバ馬場財政ノ低金利政策ハ、公債ノ消化力ニ重キヲ置キマシテ、多少トモ實情ニ先走ッタ所ハナイデアリマセウカ、現在ニ於キマシテコソ經濟ノ不安カラ致シマシテ、遊資ハ公債化サレツ、アルノデアリマスルガ、懸テ資金ノ遊資ノ方面ニ流レ行クコトハナイデアリマセウカ、ソレニ連レテ茲ニ馬場財政ノ破綻ガナイトモ限ラナイノデゴザイマス、元來公債ノ消化力ハ何デアアルカト云フナラバ、即チ公債ヲ買ウモノデアルト言ハナケレバナラナイノデアリマス、其公債ヲ買フ資金ハ何處カラ出テ來ルノデアアルカト云フナラバ、申スマデモナクソレハ國民ノ貯蓄デアアル、國民ノ貯蓄ノ現實化シタモノハ何デアアルカト云フナラバ、銀行ノ預金デアリ、郵便貯金デアリ、信託預金デアリマスルガ、此國民ノ貯蓄ノ中カラシテ、其國民經濟ヲ維持スル費用ヲ差引キマシタ其餘リガ、公債ノ源泉トナルト思フノデアリマス、然ラバ此公債ノ源泉ニナリ得ル財源ハ、凡ソ幾ラ位アルモノデアアルカト申シマスルト先ヅ大難把ノコトヲ申シマスルナラバ、七八億圓ト申スノデアリマス、併シ此七八億圓ト申シマシテモ好景氣ト不景氣トニ依ツテ違フコトノアルノハ、申スマデモナイコトデアリマス、即チ是ガ公債消化ノ一ツノ限度デアラウト思フノデアリマス、所ガ世ノ中ニハ公債ト云フモノハ、政府ガ募集セントスルナラバ幾ラデモ募集シ得ラル、ガ如ク、思フテ居ルモノガナイデモナイノデアリマス、サウ云フ考ハ根本ニ於テ我國經濟ノ實情ニ副ハザルモノト言ハシケレバナラヌノデアリマス、廣田内閣ハ國民生活ノ安定ヲ強調シテ居リマス、若シ此公債消化政策ニ付テ行詰リテ來シタナラバ、是ガ國民ニ與ヘル影響ハドウナルカト申シマス、購買力ノ伴ハナイ所ノ通貨ノ膨脹ガ起ツテ來ルノデアリマス、サウナルト云フト物價ハ騰貴スル、貿易ガ振ハナイ、産業ノ發展ヲ期スルコトガ出來ナイ、必然ノ結果ト致シマシテ、國民ノ生活ハ不安ニ陥ルト言ハシケレバナラヌノデゴザイマス、之ヲ要スルニ今日ノ經濟界ニ、何トナク一抹ノ不安ノ念ヲ去ラナイノハ、色々ノ原因ハアリマスルガ、其主ナルモノハ、將來ノ財政計畫ハドウナルデアラウカ、財政ノ基礎ハ如何様ニシテ、鞏固ナルモノデアラウカト云フコトヲ知り得ルコトガ出來ナイカラト思フノデアリマス、之ヲ政府ガ確定シナケレバ、國民經濟ノ安定ヲ期スルト云フコトハ、出來ナイ相談ト言ハナケレバナラナイノデ



アリマス、廣田首相ハ悲壯ナル決心ヲ以テ今日ノ難局ニ立ち、庶政一新ヲ呼號シテ居ラレル、吾々モ其點ニ對シテハ其意氣ヲ偉ナリトスルモノデアリマスルガ、一日モ速ニ聲明シテ居ル所ヲ具體化セラレタイノデアリマス、尤モ聲明シテ居ル所ニ付キマシテモ、具體化シ得ラレルモノト、具體化シ得ラレナイモノガゴザイマスルカラシテ、具體化シ得ラレルモノニ對シテハ、一日モ速ニ具體化セラレマシテ、國防ト財政ト産業ノ調和ヲ圖リ、社會ノ不安ヲ除去スルト云フコトヲ念頭ニ置カレンコトヲ、切ニ望マザルヲ得ナイノデアリマス、勿論是等ノ事柄ハ言フコトハ言ヒ易イノデアリマスルガ、行フト云フコトハ、是ハ何人ガ局ニ當リマシテモ、中々困難ナコトデアルト云フコトハ、吾々モ十分ニ之ヲ知ツテ居ルノデアリマスルガ、君國ニ殉ズルノ非常ナル決斷ヲ以テ廣田首相ガ當ラレ、ナラバ、必シモ是ハ出來ヌト云フコトハナイノデアリマス、國際關係ノ微妙ナル動キノアル今日デアリマス、國防ノ重大ニシテ一日モ弛ウスベカラザルコトハ、天下何人モ認メル所デアリマス、唯憂フル所ハ、今申シマシタ所ノ國防、財政、産業ノ調和ヲ圖ッテ行カナケレバ、結局ニ於キマシテ大切ナル國防充實ヲ期シ、國民生活ノ安定ヲ望ムト云フコトハ、到底出來ナイト思フ者デアリマス、私ハ以上述べマシタ所ヲ以チマシテ、本豫算ノ通過ヲ望ム者デゴザイマス

河上君ノ反對演説

廣田内閣ガ出來マシテ、所謂馬場財政ニ關スル私達ノ批判ヲ申上ゲル前ニ、今日ノ馬場財政ノ歴史ノ意義ガ何處ニアルカト云フコトヲ、先ヅ決定致シタイト考ヘルノデアリマス、昭和六年九月ニ滿洲事件ガ起リマシタコトガ、日本ノ資本主義ニ取リマシテハ、一ツノ大キナ問題デアリマス、日本ノ資本主義ガ此滿洲問題ヲ消化スル能力ガアルカドウカ、日本ノ資本主義ガ滿洲問題ヲ如何ニ料理シテ行クカト云フコトガ、昭和六年以後、即チ高橋財政及ビ馬場財政ノ歴史の意義ヲ決定スル出發點デアルト考ヘルノデアリマス、吾々ハ今日馬場財政ノ本質ヲ批判スルニ付テ、其歴史的發展ノ過程ニ立ツテ、初メテ馬場財政ノ本質ヲ看破スルコトガ出來ルト信ジテ居ルノデア

リマス、日本ノ資本主義ハ滿洲ヲ抱込ンダコトニ依ツテ其動搖ガ始マツテ居リマス、順調ニ發展シテ來マシタ所ノ資本主義ノ動搖ガ始マツテ居リマス、順調ニ發展シテ來マシタ所ノ政黨政治ノ崩壞ハ、此滿洲事件ヲ抱込ンダ日本ノ資本主義ノ動搖ノ上ニ立ツテ居ルト、私ハ固ク信ジテ居ルノデアル、吾々ハ此歴史の過程ノ上ニ立チ、發展ノ上ニ立ツテ、初メテ馬場財政ノ本質ヲ批判シナケレバナラナイ、馬場財政ノ前ノ高橋財政ハ、此滿洲事件ヲ中心トスル日本ノ資本主義ノ煩悶ト、日本ノ資本主義ノ苦惱ヲ、如何ニシテ解決シタカト云フナラバ、勿論財政ノ膨脹デアリマス、其財政ノ膨脹ニ向ツテ日本ノ資本主義ハ、赤字公債主義ヲ以テ之ニ順應シテ來タノデゴザイマス、處女ノ如クニ、而シテ最モ從順ニ、赤字財政主義ヲ以テ之ニ順應シツ、日本ノ資本主義ハ此難局ニ適應シツ、來タノデアリマス、併ナガラ日本ノ金融資本ハ赤字財政ノ膨脹ニ一ツノ危懼ヲ抱イテ居ル、一ツノ大キナル心配ヲ持ツテ居ル、其心配ハ赤字公債ノミヲ以テ、此滿洲事件以後ノ日本ノ財政膨脹ヲ料理スルコトハ不可能ナリト考ヘテ居ル、日本ノ資本主義ハ昭和七年以後、毎年十億圓前後ノ赤字公債ヲ募集シテ居リマスルガ、其資本主義ノ上ニ及ボス所ノ一ツノ大キナ影響ハ、其赤字公債ヲ十億圓ツ、毎年出シテ行クナラバ、日本ノ資本主義ハ自壞作用ヲ起スカモ知レナイト云フ心配、是ガ日本ノ金融資本ノ大キナル心配トシテ、其心配ハ遂ニ自己ノ資本主義自壞作用ニ對スル本能的ナル所ノ防衛政策トシテ現ハレテ參リマシタノガ、所謂公債漸減ノ鐵則デゴザイマス、此公債漸減ノ鐵則ヲ主張シマスル所ノ關係トシテ、此軍事豫算ヲ中心トスル所ノ財政ヲ切盛ルノニ、昭和九年度ニ於キマシテハ單價切下論ヲ以テ之ニ調和シ、更ニ増稅ノナ手段ヲ以テ之ニ調和セントシテ來テ居ルノデアル、昭和八年度ニ於キマシテハ、恩給法ノ改正ニ依ル所ノ自然增收ヲ以テ之ニ充テ、更ニ昭和十年度ニ於キマシテハ、臨時利得稅ヲ設置シテ之ニ調和シ、昭和十一年度ノ即チ不成立豫算ニ於キマシテハ、特別會計カラ一般會計ヘノ繰入ノ手段ヲ用ヒテ、辛ウジテ其豫算ヲ成立シテ居ルノデゴザイマス、滿洲事件以來日本ノ財政ノ歴史的發展ハ、此赤字公債ト同時ニ、或ハ單價切下ニ依リ、或ハ自然增收ニ依リ、或ハ増稅ノ形デ公債漸減鐵則ヲ死守シテ參リマシタケレドモ、此公債漸減鐵則ヲ死守スルニ當ツテ、若キ大藏大臣ハ其職



ニ禮レ、老イタル大藏大臣亦其處ニ禮レタル悲劇ヲ持ッテ居ルノデゴザイマス、此歴史的ナル發展ノ過程ニ踊出タノガ、今日ノ馬場財政デアアルコトヲ吾々ハ規定シナケレバナラナイノデアリマス、馬場財政ハ此歴史の規定ノ上ニ立ッテ居ル——日本ノ資本主義ノ煩悶ト苦惱ノ上ニ今日立ッテ居ルノガ、馬場財政デアアルコトヲ私達ハ考ヘナケレヤナラナイ、而シテ馬場財政ノ本質ハ何處ニアルカト云フナラバ、私ハ大體ニ於テ馬場財政ガ爲シマシタ所ノ第一ハ低金利政策デアッタト信ズル、先程委員長ノ報告ニモアリマシタ如クニ、豫算委員會ノ討論ニモアリマシタ如クニ、此低金利政策ハ馬場大藏大臣ガ爲シタ一ツノ政策トシテ今日認メラレテ居ル、ケレドモ吾々ハ此低金利政策ハ、如何ナル社會的意義ヲ持ッテ居ルカト云フコトヲ批判シナケレバナラナイ、私達ノ見ル所ニ依ルナラバ、馬場財政ノ本質ノ一ツヲ成ス所ノ低金利政策ハ、産業資本家ノ擁護ニアアルコトヲ第一ニ斷定スルノデアリマス、即チ「コスト」ノ切下ラシテ、利潤ノ増大ヲ劃スルコトガ、低金利政策ノ一ツノ大イナル所ノ、使命デアアルコトヲ信ジテ居ル、而モ其低金利政策ニ依ッテ産業資本家ノ利益ヲ擁護スル中、最モ甚大ナル利益ヲ受ケルモノハ、軍需産業資本家デアアルコトヲ、私ハ茲ニ斷ゼザルヲ得ナイノデアアル、馬場財政ノ低金利政策ノ第二ノ點ハ、是ハ公債借換ニ依ル所ノ金融資本ニ對スル擁護的政策デアアルコトヲ斷定スルノデアリマス、低金利政策ノ發表後公債借換ヲヤッテ——吾々ノ見ル所ニ依リマスルト、四分利公債ノ所有者ガアノ借換ニ應ジテ、非常ナル利益ヲ獲得シテ居ルコトヲ看破セザルヲ得ナイノデアリマス、民間ニ於キマスル所ノ二十六億ノ四分利公債ノ所有者ノ一枚平均一圓六十錢ノ利益デアリマスルナラバ、馬場財政ノ低金利ニ依ッテ、四分利公債ニ於テ約四億圓ノ利益ガ金融資本財閥ノ懐ロニ入ッタコトヲ私ハ斷定セザルヲ得ナイ、而モ四分利公債ノ大部分ハ一流銀行家デアアル金融資本家ノ所有デアリマスルカラ、馬場財政ニ依ッテ持來サレタル所ノ低金利政策ニ依ッテ、四億圓以上ノ金ガ日本ノ金融資本家ノ利益ヲ擁護シテ居ルコトヲ、私達ハ茲ニ見ナケレバナラナイ、第三ニ馬場財政ノ低金利政策ハ、將來ノ資本家ニ向ッテノ課税ニ對スル所ノ準備的行動デアアルコトヲ看破セザルヲ得ナイノデアアル、馬場財政ノ本質ノ中ニ増税問題ガ漂ウテ居

ル、其増税問題ハ或ハ大衆課税ニ來ルカ、或ハ財産税其他ノ直接課税ニ來ルカト云フコトハ、相當豫算委員會ニ於キマスル所ノ討論ヲ通ジテモ吾々ハ見ルコトガ出來ルガ、併ナガラ金利ノ引下ニ基キマシテ、吾々ハ將來産業資本家ニ對スル所ノ課税ノ所謂標準ヲ、之ニ依ッテ決定シタコトヲ私達ハ考ヘル、低金利ダケ課税致シマシテモ産業資本家ニ取ッテハ苦痛デハナイ、將來ソレガ若シアリトスルナラバ、其増税ニ對スル所ノ先ヅ準備的ニ、馬場財政ハ産業資本家ノ増税ニ對スル擁護ヲシテ居ルコトヲ、私ハ斷定セザルヲ得ナイノデアアル、既ニ馬場財政ノ低金利ハ——將來産業資本家ニ對スル増税ガアッタトスルナラバ、其將來ニ對シ既ニ免稅ヲ茲ニシテ居ルノガ、低金利ノ本質デアアルコトヲ看破セザルヲ得ナイ、更ニ第四ニ馬場財政ノ低金利政策ハ、民衆生活ニハ何等ノ經濟的利益ガナイト云フ點デアアル、吾々ハ馬場財政ノ低金利ニ依ッテ、果シテソレナラバ三十九億ニ達スル所ノ庶民階級ノ負債ノ負擔、ソレニ對シテ低金利政策ガドウ影響スルカト云フコトハ、殆ド不可能デアルト私ハ考ヘテ居ル、所謂馬場財政ノ低金利政策ト云フモノハ、四十億ニ近イ所ノ大衆ノ借金ニハ、殆ド關係ガナイト云フコトヲ斷ゼザルヲ得ナイ、私ハ以上ノ理由ニ依リマシテ、馬場財政ノ低金利政策ハ、日本産業資本家ト金融資本家ニ奉仕スル所ノ一ツノ政策デアアルト斷定セザルヲ得ナイノデアアル、馬場財政ノ第二ノ政策ハ、先程モ委員長ノ報告ノ中ニアリマシタガ、産金ノ買上問題デアアルコトヲ私達ハ見ナケレバナラナイ、五月ノ五日ニ金買上ノ値段ヲ一瓦三圓五十錢、一匁十三圓十二錢五厘ニ致シマシタ、此産金買上問題、委員長ノ報告ニ依リマスルト、馬場大藏大臣ハ産金奨勵ノ目的ヲ以テ之ヲ爲サレタト云フコトデアアルケレドモ、私達ハ他ノ方面カラ之ヲ觀察スルコトガ出來ルノデアアル、當時ノ東京ノ新聞ニモ出テ居リマシタガ、此産金買上ノ當然ノ結果ト致シマシテ、産金業者ノ受取ル利益ハ、年ニ八千五百貫ト致シマシテ、約一千二百萬圓ニ達スル見込デアアルト言ハレテ居ル、目下産金會社ト言ハレテ居ル日本鑛業、三井、三菱、古河、住友、藤田ノ如キ大財閥、即チ六社ノ手持高ハ約四百貫デアアル、其値上リノ利益ハ約六千萬圓ト豫定サレテ居ルノデアアル、日本銀行ガ、五圓ノ買入値段トシテ帳簿ニ記載致シマシタ實際ノ買入價格トノ差ハ、貸出金トシテ記載シ、政府ガ其損失ヲ補償シテ居ル



ノデアリマスルカラ、此差額ノ負擔ハ正ニ國民ノ犠牲ニ於テ爲サレテ居ルモノデアルト言ハザルヲ得ナイノデアアル、馬場財政ノ第二ノ政策デアアル所ノ產金買上ノ行爲ニ依ッテ、日本ノ少數財閥ハ一日ニシテ六十萬圓、一年ニ約千二三百萬圓ノ大キナル所ノ利益ヲ得ルニ反シテ、其一切ノ犠牲ト云フモノガ國民ノ負擔ニ於テ爲サレテ居ルト云フノガ、馬場財政ノ第二ノ政策デアアル、是ガ即チ產金買上ニ關スル所ノ本質デアアルノデアアル、吾々ハ馬場財政ノ第二ノ政策ノ上ニモ、明ニ日本ノ少數財閥擁護ノ政策ヲ發見スルコトガ出來ルコトヲ固ク信ジテ居ルノデアアル、而モ大藏當局ハ、此產金業者ニ對スル所ノ課稅ト云フモノハ考ヘテ居ナイ、是ニハ稅ヲ課ケナイト云フ、單ニ政府ノ買上ニ依ッテ、斯ノ如ク少數財閥ガ利益ヲ得テ居ル、是ガ馬場財政ノ第二ノ本質デアアル、低金利ニ次ギマシテ馬場財政ノ本質ハ、所謂公債漸減主義ノ拋棄デアアルト私達ハ見テ居ルノデアアル、公債漸減主義ハ、御承知ノ如クニ滿洲事件以來數年間ニ互ッテ、日本ノ金融資本ガ非常ナル苦闘ヲ以テ關ヒ來ッタ所ノ一ツノ鐵則デアアル、ソレガ爲ニハ二人ノ大藏大臣モ死ヲ賭シテシナケレバナラナイ所ノ鐵則デアッタガ、今日馬場財政ハソレヲ拋棄サレテ居ルト私達ハ觀察シテ居ル、即チ赤字公債ヲ將來ノ財政ヲ賄ッテ行クト云フ此立場ハ、滿洲事件以來日本ノ財政ガ戰時的財政ニ入ッタコトヲ規定シテ居ルノデアアルガ、併シ其戰時的ナ財政デアアル其財政ニ向ッテ、尙ホ公債漸減主義ヲ以テ、之ヲ平常化シヨウトシテ居ッタケレドモ、遂ニ馬場財政ニ依ッテ、所謂軍事費ヲ中心トスル戰時財政ト云フモノガ、全ク確立シタコトヲ私達ハ茲ニ見ルノデアアル、即チ馬場財政ハ明ニ戰時的財政計畫ノ第一歩ニ入ッタコトヲ、私達ハ茲ニ觀察シナケレバナラナイ、併ナガラ公債消化力ノ問題ガ其處ニ出テ來マスルケレドモ、馬場財政ハ、既ニ低金利政策ヲ以テ其公債消化ノ問題ヲ、或ル意味ニ於テ解決シテ居ルノデアアル、即チ低金利ニ依ッテ公債消化力ヲ助長シ、而シテ赤字公債主義ニ依ッテ日本ノ金融資本ノ利益ヲ少シモ害サナイ所ニ、馬場財政ノ本質ガ在ルコトヲ私達ハ考ヘテ居ルノデアアル、第三ニ馬場財政ノ本質ハ、增稅問題デアアルコトヲ私達ハ考ヘナケレバナラナイ、馬場大藏大臣ノ入閣以來、增稅問題ハ馬場財政ノ何處カラモ問題ニサレテ居ル所ノ問題デアアル、組閣當時ニ於ケル所ノ增稅ノ意圖、或ハ種々ナル聲明書ニ於ケル所ノ經過

等、色々ノコトヲ見テ、馬場財政ノ本質ノ一ツノ中ニ、增稅問題ノ含マレテ居ルト云フコトヲ吾等ハ見ナケレバナラナイ、此增稅問題ニ向ッテ、ソレナラバ如何ナル增稅ヲ爲スカト云フコトガ、次ニ起ル問題デアアルガ、豫算委員會ニ於ケル所ノ各黨ノ討論ヲ聽キマスルト、此增稅ニ付テハ、財產稅ニ對シ、或ハ資本家ニ對スル課稅ニ對シマシテハ、政民兩黨ノ諸君ハ非常ナル防禦的論線ヲ張ッテ居ルコトヲ見ルノデアリマス、又大藏大臣ハ財產稅、其他ノ直接稅ニ對シマシテハ、非常ニ遠慮勝チナ意見ヲ述ベラレテ居ルノデアアル、財產稅ニ關シマスル所ノ馬場大藏大臣ノ意見ハ、豫算委員會ニ於ケル政友會ノ大口氏ノ意見ト、略同様ナ意見ヲ持タレテ居ル、日本ハ財產稅ヲ設置シテモ、ソレ程ノ收入ハ得ラレナイ、ダカラ是ハスル必要ハナイト云フ風ナ意見ニ馬場財政ハ見ラレル、所得稅ノ改正其他ニ、多少ノ直接稅ニ對スル所ノ課稅ガアルカモ知レナイガ、ソレハ先程申シマシタ通りニ、低金利政策ニ依ル所ノ、所謂馬場財政ノ資本家ニ向ッテノ擁護ノ立場ニ於テ、是ハ帳消ニサレル程度ノ增稅デアラウト、私達ハ考ヘテ居ルノデアアル、隨テ馬場財政ノ增稅ハ、直接稅或ハ資本家ニ向ッテノ增稅ハ、先ヅシナイト云ッテモ宜イ程度ノモノデアラウト私達ハ考ヘテ居ルノデアアル、然ルニ吾々ハ馬場財政ガ脊負ッテ立ッ所ノ將來ノ財政計畫ヲ、茲ニ展望シナケレバナラナイ、其展望ハ所謂軍事費ヲ中心トスル財政ノ展望デアリマス、今日ノ委員長ノ報告ニモアリマシタ如クニ、軍部當局ニ於キマシテハ、今日迄ノ軍事豫算ハ一ツノ基礎的ナ工事ノ費用デアアルト云ハレテ居ルノデアリマス、將來ノ龐大ナル所ノ軍事計畫ノ基礎工事ダ、ソレニ是ダケハ要ルノデアアルガ、其基礎工事ノ上ニ打建テラレル所ノ上部構造ノ費用ハ、又其計畫ハ、茲ニ發表スルコトガ出來ナイト云フノガ、軍部當局ノ御意見デアッタト私ハ聞イテ居ルノデアリマス、併ナガラ少クとも今日用ヒラレテ居リマスル所ノ、軍事組織ノ基礎的工事カラ判斷致シマシテモ、其基礎ノ上ニ建テラレル上部構造ガ如何ニ巨大ナモノデアアルカト云フコトハ、想像ニ難クナイト信ジテ居ルノデアリマス、世間ニ傳フル所ニ依リマスルナラバ、六年間ニ二十億圓ノ計畫ガアルト謂ハレテ居リマス、恐ラクハ此世間ニ傳ヘラレテ居ル所ノ一ツノ考ハ、眞實ヲ語ッテ居ルト私達ハ考ヘテ居ル、而モ此六年二十億ノ軍事計畫ノ話ハ、寺内陸相ガ現内閣ニ入閣ス



ルカ否カト云フ時ニ、數時間ニ互ツテ廣田總理大臣ト會見ヲシタ後ニ、世間ニ發表サレタル噂デアリマスカラ、恐ラクハ總理大臣ト陸軍大臣、或ハ軍部大臣トノ間ニ相當ノ理解アル所ノ計畫、アラウコトヲ想像スルノデアリマス、六年間ニ互ツテ二十億圓ノ歴大ナル軍事豫算ヲ調達スルニ當ツテドウスル、是ガ馬場財政ガ今日課セラレテ居ル所ノ一ツノ歴史的使命デアルコトヲ考ヘ、此歴史的ナル使命ヲ、馬場財政ガドウシテ切抜ケルカト云フノガ、馬場財政ノ増税問題ニ絡マツテ居ル所ノ大キナル問題デアルコトヲ、私達ハ考ヘザルヲ得ナイノデアリマス、若シモ此上部構造ノ軍事組織ニ對スル費用ガ、六年間ニ互ツテ二十億近イモノデアルトスルナラバ、毎年少クトモ二三億圓ノ費用ヲ掛ケナケレバナラナイ、ソレヲ何處カラ調達スルカト云フコトガ、馬場財政ニ課セラレタル問題ナンデアル、然ルニ私ガ以上ニ述ベタ如クニ、馬場財政ハ資本家ニ向ツテ、或ハ有産階級ニ向ツテノ増税計畫ハ今日發表シテ居ナイノミナラズ、寧ロソコニ殘サレテ居ル問題ハ、多クノ論議ノ對象トナツテ居ルガ如クニ、大衆的ナル課税ノ外ニ途ガナイ、馬場財政ノ擔ツテ居ル所ノ歴史的ナ運命ハ、結局大衆課税ノ一路ヲ進ムモノガ、馬場財政ノ本質デアルコトヲ茲ニ規定スルノデアアル、馬場財政ハ將ニ所謂大衆課税ヲ眞ツ向ニ振擧シテ行クコトヲ信ジテ居ルケレドモ、大衆課税ヲ致スコトハ評判ガ惡イカラ、馬場サンハ言フ左右ニシテ逃ゲテ居ルト私ハ思フ、追究サレルト云フト、白狀致シマシタ所ハ、所謂大衆ノ生活ニ影響ノナイヤウナ大衆稅ト云フ洵ニ珍妙ナル所ノ、大衆稅ガ出テ來ル、其例ハ何カト申シマスルナラバ、所謂化粧品稅ト云ハレテ居リマスルガ、大藏當局ガ眞實ニ發表シタカドウカ分リマセスケレドモ、相當日本ノ市場ヲ騷ガセマシタ所ノ三億五千萬圓増税計畫ト云フモノノ内容ヲ拜見致シマスルナラバ、化粧品稅ハ僅ニ五百万圓程度デアアル、五百万圓程度ノ大衆課税、即チ化粧品稅ヲヤツテ、二十億ノ日本ノ軍事計畫ニ對スル財源トスルナラバ、洵ニ是ハ一ツノ詭辯カ、一ツノ詐欺的ノ表現ニ過ギナイト私達ハ考ヘル、馬場サンガ個人ノ意思トシテ、大衆課税ヲ逃ゲヨウトスル意思ハ諒ト致シマスルケレドモ、馬場財政、即チ今日日本ノ資本主義ノ自壞作用ノ下ニ立ツテ居ル馬場財政トシテハ、個人ノ意思ヲ否定シテ、歴史ノ必然性ハ大衆課税ニ爲ラニ進ンデ行クト、吾々ハ言ハザルヲ得ナ

イノデアリマス、吾々ハ馬場財政ノ本質ヲ以上ノヤウニ規定致シタノデゴザイマス、是ガ馬場財政ノ本質デゴザイマス、即チ馬場財政ノ目的トスル政策ハ資本主義ノ擁護デアリ、彼ノ産金買上政策モ資本家ノ利益デアアル、而モ大衆課税、即チ大衆ノ生活ノ重壓ノ上ニ立テラレントスルノガ、馬場財政ノ本體デアアルコトヲ私ハ茲ニ言ハザルヲ得ナイ、吾々ハ馬場財政ノ本質ヲ斯ノ如クニ規定シテ、滿洲事變以來ノ今日ノ日本ノ資本主義的ノ財政計畫ヲ、一瞥シタイト考ヘルノデアリマス、今日滿洲事件以來軍部ノ要求ノ下ニ軍事豫算偏重ノ財政デアルト云フコトハ、既ニ何人モ否定スルコトノ出來ナイ定論デアアルハ是レ即チ此財政ニ向ツテ、此財政ノ本質ガ、更ニ馬場財政ノ背景ヲ成ス所ノ資本主義的ナル現段階ニ於ケル財政ノ本體ハ、軍備費偏重ノ財政デアルト云フ點デアリマス、吾々ハ此軍備ヲ中心トスル所ノ財政ガ資本主義經濟ノ社會ニ於テハ、結局資本家階級ノ利益ニナルト云フコトヲ、私ハ言ハナケレバナラナイノデアアル、第二ニ此財政ハ日本ノ勤勞大衆ニ對スル犠牲ヲ強イラレテ居ルト云フコトデアリマス、私ハソレヲ多少統計ニ依ツテ私ノ意見ヲ申上ゲタイト思ヒマスルガ、滿洲事件以來ノ日本ノ大會社ノ持込資本金額ニ對スル所ノ利潤金ヲ、私ハ茲ニ申上ゲルコトガ出來ルノデアアル、例ヘテ申シマスルナラバ輕工業デアリマス所ノ綿絲紡績ハ、昭和六年ノ上半期ニ於テハ一六六ノ收益率デアリマシタシ、其後輕工業デアアル所ノ綿絲紡績ノ收益率ハ、ソレ程高クナツテ居ナイ、多少多クハナツテ居リマスケレドモ、昭和九年度ノ下期ニ於キマシテハ二二二位ノ增加率デアリマス、然ルニ造船業ニ於テハ昭和六年ノ下期ニ於テハ五ノ損失ヲ持ツテ居タノデアリマス、更ニ昭和七年ノ下期ニ於テハ八六ノ損失ヲ持ツテ居ル、然ルニ昭和八年ノ上期カラ段々ニ造船業ノ利率ハ増大シテ來マシテ、昭和九年度ノ下期ニ於キマシテハ五七ノ增加率ヲ持ツテ居ルノデアリマス、即チ造船業ニ於テハ滿洲事件ヲ中心トスル軍事豫算ノ結果トシテ、造船業ニ於ケル所ノ事業ノ收益率ガ斯ノ如ク増加シテ居ルノデアリマス、更ニ製鐵ニ關シテハ昭和六年ノ上期ニ於キマシテハ三三ノ損失ヲ持ツテ居リマスルガ、昭和六年ノ下期ニ於テモ一ノ損失ヲ持ツテ居リマスルガ、滿洲事件ノ起リマシタ以來、昭和七年ノ上期以來、即チ高橋財政ノ當時



デアリマスルガ、段々ニ是ガ増加シテ昭和九年度ノ下期ニ於テハ二四六ノ利益ヲ持ッテ居ルノデアリマス、此統計ハ即チ軍備費ヲ中心トスル日本ノ財政ガ、所謂一部重工業ノ利益ヲ斯ル程ニモ増加シタト云フコトヲ證明スルニ足リルト考ヘル、私ハ空疎ナル議論ヲ申上ゲルノデハナイ、明ニ日本ノ滿洲事件ヲ中心トシタ所ノ財政ノ發展ト云フモノハ、一部ノ重工業ノ利益ヲ斯程ニマデモ増加シタ事實ヲ、私達ハ茲ニ見ナケレバナラナイ、隨テ滿洲事件以來ノ日本ノ財政ハ、重工業ノ利益ニ當ッテ居ル財政デアアルコトヲ看破スルガ、更ニ馬場財政ハ此傾向ニ對シテ拍車ヲ掛ケテ居ルト私ハ考ヘテ居ル、重工業ヲ更ニ「トラス」化シテ、之ヲシテ獨占企業ヲ擁護セントスル所ノ現内閣ノ統制ニ關スル政策ハ、正ニ此重工業ノ利益ヲ更ニ一層増加スル所ノ傾向ヲ持ッテ居ルト、私ハ斷ズルノデアリマス、併ナガラ吾々ハ此重工業ガ滿洲事件以來ノ財政計畫ノ結果、斯ノ如ク増加シツ、アル反面ニ於テ、大衆ノ拂フ所ノ犠牲ハドンドンナモノデアッタカト云フコトヲ、私ハ考ヘナケレバナラナイノデアアル、其一ツノ好イ例トシテ内務省ノ報告ヲ諸君ニ御紹介致シタイト考ヘル、内務省ノ昭和八年度内務省工場監督年報ヲ見マスルト、昭和八年度ニ於テハ非常ニ死亡率ガ多イノデアリマス、即チ昭和八年度ニ於テ内務省工場監督年報ニハ、斯ル意味ヲ書イテ居リマス、「此増加率ハ死傷總數ニ於テ二三%、重傷數ニ於テハ一九%、死亡數ニ於テハ四二%ニ近キ激増ヲ示セリ、斯ノ如キ脅威的變化ハ實ニ改正工場法施行昭和二年以後ニ於テ曾テ見ザル所ニシテ、其原因又ハ理由ノ如何ニ拘ラズ國家ノ蒙リタル有形無形ノ損失ハ實ニ甚大ナリト言フベク、工場監督ノ歷史上ニ於ケル根事ト謂フベシ」ト書イテアルノデアリマス、日本ニ於テ重工業ノ利益ガ其一方ニ於テ斯ノ如ク増大スル半面ニ於テ、重工業工場ニ働イテ居ル労働者ガ斯ノ如キ死亡率、負傷率ノ増加ヲ示シテ居ル事實ヲ、私ハ看過スルコトガ出来ナイノデアリマス、吾々ハ其事實ヲ考ヘテ見テモ、重工業ノ利益ノ一面ニ日本ノ労働者ガ如何ナル犠牲ヲ拂ッテ居ルカト云フコトガ、御分リデアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、昭和八年度ニ於テハ諸君ハ御笑ヒニナルカモ知レマセヌガ、少クトモ重傷ガ九千人以上ニ達シテ居リマス、死シタ人ガ三百五十四人ニ達シテ居ル、一日一人ノ割デ日本ノ資本主義ハ人ヲ殺シテ居ル、諸君ハ一日一人ノ労働

者ガ、日本ノ工場ニ於テ屍ヲ曝シ、流血ヲ漂シテ居ル事實ヲ諸君ハ笑ッテ居ルケレドモ、此事實ハ日本ノ統計ガ示シテ居ル事實デアアル、流言デヤナイ、事實茲ニ證據ガアル、日本ノ今日ノ資本主義ガ、一方ニ於テ日本ノ利潤ノ増大ヲ圖リ、尙ホ斯ル悲劇ヲ起シテ居ル、即チ滿洲事變以來ニ於キマスル所ノ日本ノ資本主義ハ、明ニ此死亡者ト重傷者ヲ生シテ居ルノデアアル、諸君ニハ理解ガ出来ナイカモ知レナイケレドモ、一人ノ労働者ガ斃レタ時ニ、其労働者ノ家族ハ泣クノデアアル、生活ニ困ルノデアアル、ソコニ政治ノ根本ガ在ルト云フコトヲ吾々ハ喝破シナケレバナラナイ、ソレヲ諸君ハ笑ッテ居ル、愚弄シテ居ル、諸君ノ政黨ノ崩壊ガ其處ニアルコトヲ私ハ喝破シナケレバナラナイ、吾々ハ斯ル大キナ犠牲ガ労働者ト勤勞大衆ニ強ヒラレテ居ル時ニ、更ニ此軍需工業ヲ中心トシテ日本ノ一ツノ問題ハ、臨時工問題デアアル、低賃銀ノ問題デアアル、或ハ臨時工ニ對スル待遇ノ相違、或ハ失業ノ不安デアアル、而シテ臨時工ノ數ハ今日約三十万人アルト云ハレテ居ル、軍需工業ノ發展ニ伴ウテ三十万ノ労働者大衆ガ、所謂臨時工ノ低賃銀ト生活ノ不安ニ怯エテ居ル事實ハ、此大キナル犠牲ノ上ニ立テラレテ居ル所ノ事實デアアル、吾々ハ此事實ヲ茲ニ見ル時ニ當ッテ、更ニ滿洲事件ニ於キマスル所ノ財政ノ膨脹ニ伴フ「インフレーション」ノ結果、物價ノ騰貴ニ因ル所ノ大衆生活ニ對スル壓迫ヲ考ヘルナラバ、正ニ先程申上ゲタ如ク、造船、製鐵ニ關スル所謂資本家ノ利潤ニ比較シテ、日本ノ勤勞大衆ガ其生活ノ上ニ於テ、其生命ノ上ニ於テ、其賃銀ノ上ニ於テ、如何ニ大ナル犠牲ヲ拂ッテ居ルカラ、私達ハ見ナケレバナラナイノデアアル、軍部當局ハ廣義國防ノ理論ヲ唱ヘラレテ居ルケレドモ、今日此資本主義ノ組織ノ下ニ立ッテハ、軍備擴張ガドウシテモ一部産業資本家ノ利益ト、大衆ノ犠牲ニ依ッテ立テラレナケレバナラナイコトヲ私共ハ主張シタイトデアアル、馬場財政ハ正ニ此傾向ヲ——今日ノ此傾向ヲ一層強化スルモノナルト、私ハ斷定セザルヲ得ナイノデアアル、馬場財政ノ基根の本質ハ此傾向ヲ更ニ助長スルモノナリト私達ハ斷ゼザルヲ得ナイ、廣田内閣ガ出来テカラ僅ニ六十餘日デアアルケレドモ、其出サレテ居ル政策ハ何カト云フナラバ、此傾向ヲ強化スルノ政策以外ニハ何物モナイト言フテモ宜イ、辛ウジテ退職積立金ノ問題ガアリマスケレドモ、恐ラクハ此内閣ガ強硬ニ之ヲ主張スルカドウカ、非常



ニ怪シムヤウナヘナ腰デアアルコトヲ、私達ハ嗤ハザルヲ得ナイケレドモ、此日本ノ傾向ヲ強化シツ、アル一面ニ於テ、吾々ニ與ヘヌレル所ノモノハ、此資本主義ノ強化ト馬場財政ヲ通ジテノ大衆生活ニ對スル壓迫ニ對シ、吾々ガ公正ニシテ深刻ナル批判ヲシヨウトスルナラバ、不穩文書取締法ニ依ッテ之ヲ彈壓セントスルノガ今ノ廣田内閣ノ本體デアアルト私達ハ考ヘザルヲ得ナイ、廣田内閣、サウシテ馬場財政ハ此次ニ來ルベキ所ノ專制的ナル、暗黒的ナル所ノ獨占企業中心ノ政治ト、經濟ノ前夜所産デアアルト、私達ハ茲ニ喝破セザルヲ得ナイノデアアル、吾々ハ斯ル意味ニ於テ此馬場財政ニ向ッテ反對シ、馬場財政ニ對シテ全面的ト否定ヲスルコトガ、今日大衆ニ對スル最モ忠實ナ態度デアアルト私共信ジテ居ルノデアアル、吾々ハ大衆ニ對スル忠實ナル所ノ態度ノ表現トシテ、馬場財政否定ノ意見ヲ申上ゲテ、私達ノ立場ヲ明ニスル所以デアリマス

大口君ノ贊成演説

私ハ只今議題ト相成ッテ居リマス昭和一十一年度歳入歳出總豫算追加外六件ニ對シマシテ、茲ニ希望條件ヲ附シテ贊成致ス所ノモノデアリマス、即チ希望條件ト致シマシテハ

- 一 財政計畫ヲ確立スルコト
- 一 國防産業ノ兩全ヲ圖ルコト
- 一 負擔ノ均衡、犧牲ノ公平ニ則リ一般的稅制ノ改正ヲ行フコト
- 一 地方財政補整制度ヲ擴充スルコト

此四箇條デアリマス、今回提出サレマシタ追加豫算額ハ一般會計ニ於キマシテ、其總額歳入三億六千四百餘萬圓、歳出三億六千六百餘萬圓デアリマシテ、之ヲ政府ガ既ニ施行豫算ノ範圍内ニ於テ定メテ居リマス昭和一十一年度實行豫算總額歳入歳出各十九億四千餘萬圓ニ合計致シマシルト、歳入ニ於キマシテ二十三億四百餘萬圓、歳出ニ於キマシテ二十三億七百餘萬圓トナリマス、即チソレヲ前内閣ガ第六十八議會ニ提出致シマシタ昭和一十一年度不成立豫算ニ比較致シマシルト、歳入ニ於テ二千六百餘萬圓、歳出ニ於テ二千九百餘萬圓ノ増加トナリマス、然ルニ其内

容ヲ檢討致シマスルト、實ハ大藏大臣モ既ニ言明致サレテ居リマス如ク、殆ド前内閣ノ豫算其儘ヲ踏襲サレタモノデアリマシテ、別ニ是ト申ス程ノ新政策ハ殆ド發見サレ得ヌノデアリマス、是デハ現内閣ガ組閣當初ニ示サレマシタ其意氣、竝ニ庶政一新ノ其聲明カラ考ヘマシテ、如何ニモ遺憾ヲ感ゼザルヲ得マセヌ、唯時局ハ極メテ重大デアリマス、殊ニ此追加豫算ニ計上サレテ居リマス所ノ經費ハ、孰レモ必要ニシテ缺クベカラザルモノデアアルト認メマスルガ故ニ、私共ハ當議會ニ於ケル政府ノ將來ニ對スル言明ヲ信ジマシテ、茲ニ本豫算ニ贊成致ス所ノ者デアリマス、併シソレト同時ニ、政府ニ對シマシテ切ニ考慮ヲ煩スノ必要アリト考ヘマシテ、茲ニ希望條件ヲ附シタル次第デアリマス、政府ノ説明スル所ニ依リマス、我國ニ於ケル軍事費ハ、將來相當額ノ膨脹ヲ爲スモノト推測致サレマス、而モ一面ニ於キマシテハ、少クトモ之ニ伴フベキ産業ノ發達ヲ企圖スル必要ガアリマス、隨テソレガ爲ニモ亦適當ナル經費ヲ要スベキコトハ勿論デアリマス、然ルニ現在ニ於キマシテモ既ニ歳入ハ不足致シテ居リマス、サウシテソレヲ補填スベキ所謂赤字公債ノミデモ、既ニ五億一千二百餘萬圓ノ巨額ニ上ッテ居ルノデアリマス、此上尙ホドレダケノ赤字公債ヲ要スベキデアリマセウカ、政府ノ答辯ヲ得ラレマセヌノデ、的確ナ數字ハ未ダ明瞭デアリマセヌガ、併シ其要求額ハ相當多額ニ上ルモノト想像サレ得ルノデアリマス、然ラバ將來果シテ之ヲ如何ニ爲スベキデアリマセウカ、是ガ實ニ我國財政上ノ一大問題デアルト考ヘルノデアリマス、大藏大臣ノ説明サレル所ニ依リマス、ソレニハ先以テ増稅ガ考ヘラレテ居ルモノト推斷致サレマス、然ラバ其増稅ニ依リテ政府ハドレダケノ増收ヲ爲シ得ラル、デアリマセウカ、是ガ直チニ起ルベキ問題デアルト思ヒマス、是モ大藏大臣ノ説明カラ推定致シマス、到底其要求ヲ満足セシムルニ足ルベキ程度ニハ、達シ得ザルモノト考ヘザルヲ得マセヌ、有體ニ申シマス、私共モ亦此場合増稅ノ已ムヲ得ザルコトハ認メテ居リマス、併ナガラ一面ニ於テ國家有事ノ場合ヲモ考慮セネバナリマセヌ、有ラン限りノ民力ヲ一時ニ吸收スルガ如キ増稅ハ、極メテ之ヲ慎マネバナラヌト考ヘマス、殊ニソレガ爲ニ却テ産業ノ發達ヲ阻碍スルガ如キコトガア



リマシテハ、所謂勘定合ツテ錢足ラズデ、結局所期ノ目的ヲ達セザルノミナラズ、場合ニ依リテハ民力衰退ノ原因トナラヌトモ限リマセヌ、斯ウ考ヘマス、假令増稅ヲ致シマシタ所デ、ソレニ依ル政府ノ增收額ハ、今日ノ場合殆ド推算スルニ餘リアルト考ヘマス、況ヤ増稅ヲ致シマスニハ、ソレト同時ニ中央地方ヲ通ジテ稅制ノ一大改革ヲ爲ス必要ガアリマス、而モ今日ニ於テ國民ノ最モ苦シンデ居リマスノハ、國稅ト言ハシヨリハ、寧ロ地方稅デアルト考ヘマス、サウシテ地方稅ニハ是ト云フ確タル財源ガアリマセヌ、隨テ歸スル所ハ戶數割、家屋稅、ソレカラ難種稅ニ重課サレテ居ルノデアリマス、ソレノミナラズ地租ノ如キハ、實ニ國稅ニ對スル二倍ノ重課ニナツテ居リマス、而モソレニ依リテ行ハレマス地方行政ノ事務ハ、如何デアカト申シマスルニ、實ニ其過半ガ國政事務デアリマス、地方自治體其モノ、事務ハ、却テ其半數ニモ及バヌノガ事實デアリマス、殊ニ農山村ノ如キニ至リマシテハ、其全部ガ殆ド國政事務デアルト申シテモ差支ナイ程デアリマス、政府ハ果シテ之ヲ何ト見ラレテ居ルデアリマセウカ、地方財政窮乏ノ原因中、主ナルモノハ實ニ茲ニ在リト考ヘザルヲ得マセヌ、此事實カラ考ヘマス、先以テソレガ匡救ヲ策スルコトガ急務デアリマス、政府ハ今回ノ追加豫算ニ於キマシテ、臨時町村財政補給金二千萬圓ヲ計上サレマシタガ、而モ一方ニ於キマシテ、尋常小學校費臨時補助ニ於テ曩ニ三百万圓、今又九百万圓ヲ削ラレテ居リマスカラ、差引僅カ八百万圓ガ新ニ地方ニ支給セラレル道理ニナルノデアリマス、勿論是トテモ無キニハ勝リマスガ、是デハ到底當初ノ目的ヲ達シ得ルコトハ困難デアルト考ヘマス、私共ガ地方財政補給制度ノ擴充ヲ切望致シマスノモ、其理由ノ一ハ實ニ茲ニ在ルノデアリマス、ソレノミナラズ現在ノ國稅中ニ於キマシテモ、改廢ノ結果、寧ロ政府ノ收入ヲ減ズベキモノガアルベキ筈デアリマス、今日ノ場合、廢稅ノ如キハ或ハ不可能カトモ存ジマスガ、ソレガ爲ニ我國産業ノ道路ガ擴張サレルコトヲ想ヒマスレバ、ソレモ必シモ考慮スベカラザル筋合デアアルマイト考ヘマス、斯ウ云フコトヲ段々ニ考ヘテ參リマス、今日ノ場合假令増稅ヲ致スト致シマシテモ、其剩ス所果シテ幾何デアリマセウカ、結局赤字額ノ半額ニ達スルコトモ、尙且遠キモノアリト信ゼザルヲ得マセヌ、然ラ

バ其餘ノ不足ヲ如何ニスルノデアルカ、斯ウ云フコトニナリマスガ、ソレハヤハリ公債ニ依ツノ外ハアルマイト考ヘマス、然ルニ此公債ト雖モ自ラ限度ガアルモノデアリマス、無限ニ之ヲ繼續スルコトノ出來難イコトハ申スマデモアリマセヌ、然ラバ其最後ヲ如何ニ爲スベキカ、斯ウ云フコトニナツテ參リマスガ、ソレハ過日豫算總會ニ於テ馬場藏相ガ私ニ御答ニナリマシタ如ク、誰ガ考ヘマシテモ、結局我國産業ノ發達ニ依リテ、自然增收ノ増進ニ俟ツノ外ハアルマイト考ヘルノデアリマス、申スマデモナク我國ハ今ヤ世界ニ向ツテ躍進シツ、アリマス、此趨勢ハ何處マデモ之ヲ維持致サナクテハナリマセヌ、否寧ロ益々其隆昌ナランコトヲ期セバナリマセヌ、スレバソレニ對スル支出ノ重加スルコトモ亦、之ヲ否定スル譯ニハ參リマセヌ、ソレト同時ニ我國ニ於ケル經濟力ノ發展ガ益々大切デアアルコトハ、論ヲ要セザル所デアルト考ヘマス、如何ニ躍進ヲ欲シマシテモ、之ニ經濟力ガ伴ハヌコトニナリマスレバ、結局最終ノ目的ハ期シ得ラヌモノデアルト考ヘマス、然ラバ如何ニシテ經濟力ノ發展ヲ企圖スベキデアルカ、國內産業ノ發達ニ俟ツベキモノノアルコトハ、是亦申スマデモアリマセヌ、然ラバ國內産業ハ如何ニシテ之ヲ發達セシムベキカ、斯ウナラナクテハナラヌト思フノデアリマス、勿論斯ウナリマス、議論ハ頗ル多岐ニ互ツテ參リマス、併シ大體カラ考ヘマシテ、先以テ海外貿易ガ大切デアアルコトハ申スマデモアリマセヌ、サウシテソレト同時ニ所謂重要産業ノ勃興ガ必要デアアルコトモ亦勿論デアリマス、ソレニ付キマシテハ、一々茲ニ申述ブル必要モナイト考ヘマスガ、實ハ此數年來、私共ハ特ニソレニ對スル意見ヲ發表致シマシテ、出來得ル限リノ努力ヲ續ケテ參ツタコトヲ自信致シテ居リマス、勿論私共ノ力バカリデハアリマセヌ、併シ幸ニモ今日ニ於ケル我國貿易ノ現狀ハ、先以テ或ル程度ノ順調ヲ保チ得テ居ルモノト考ヘラレマス、油斷ハ固ヨリ出來マセヌ、内政ニ、外交ニ、此上ノ努力ヲ要スルコトハ申スマデモアリマセヌガ、兎ニ角一通リノ地點ニハ達セルモノト考ヘテ宜カラウト思ヒマス、ソレカラ近來豫算ノ膨脹ニ依リマシテ、我國軍需工業ノ勃興シツ、アルコトモ御承知ノ如クデアリマス、隨テ此方面ニ於ケル景氣モ亦相當ニ良好デアルト考ヘラレマス、併シ茲ニ考ヘネバナラヌコトハ、是等産業ノ發展ニ依リテ得ラレツ、アル所ノ利益ガ、果



シテドレダケ國民ニ均霑サレ得ルカト云フコトデアリマス、成程貿易ニ依ル利益ニシテモ、重要産業又ハ軍需工業ニ依ル利益ニ致シマシテモ、間接ニハ一般國民ノ上ニ及ンデ居ルニ相違アリマセヌ、併シ直接ニ其利益ヲ受クル所ノモノハ、全國民カラ申セバ甚ダ少數デアルト考ヘナクテハナリマセヌ、大多數ノ國民、即チ農漁山村ニ於ケル國民ノ多數、ソレカラ都會ニ於ケル中小商工業者並ニ勞働者ノ多數ハ、實ハ今尙ホ疲弊困憊ノ域ヲ脱スルコトハ出來ナイノデアリマス、否寧ロ益、疲弊セントスル者ガ決シテ少クナイノデアリマス、是ヲドウスルノカ、是ガ實ハ今日ニ於ケル緊要ナル大問題デアルト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、此大多數ノ國民ガ少クトモ疲弊困憊ノ域ヲ脱シ、之ニ經濟力ガ付イテ來ルヤウニナラナケレバ、到底我國ニ於ケル眞ノ經濟力ハ確立シナイト考ヘマス、サウ云フコトカラ考ヘマス、ソレガ政策ニ要スル少々ノ公債ナドハ何デモナイコトニナリマス、此大多數ノ國民ノ懷ロヲ肥シ、更ニ適當ニ收入ガアルヤウニナレバ、必ズヤ政府ノ自然増收ハ殖エマス、又増稅ヲヤルニシタ所デ比較的ニ容易デ、比較的ニ増收ガアル筋合デアルト考ヘマス、私共ガ先ヅ國民ニ與ヘヨ、然ル後ニ取レト申シマスルノハ實ニ是デアリマス、唯取ルコトバカリ考ヘテ見マシタノデハ國民ハ瘦セマス、ソレデハ如何ニ稅率ヲ高メタ所デ、一方ニ自然減收ガ出來マスノデ、其結果ハ前ニ申シタ如ク勘定アツテ錢足ラズニナルト考ヘネバナリマセヌ、此點ハ深ク當局者ノ一考ヲ煩シタイ所デアリマス、シコデ産業政策ノ問題ニナリマスルガ、現内閣ニハ未ダ定ラタソレガナイト云フコトデアリマス、成程大藏省ニハ大藏省、農林省ニハ農林省、商工省ニハ商工省ト云フヤウニ、ソレト對策ハ考ヘテ居ラレマセウガ、一貫シタル政府ノ大方針ト云フモノハ、マダ何モノモナイト申シテ宜カラウト考ヘマス、是ガ洵ニ私共ノ遺憾トスル所デアリマス、近來世界ニハ統制經濟、計畫經濟ト云フヤウナコトモ言ハレテ居リマス、勿論是ニモ一理ハアリマス、併シ我國ニハ自ラ我國ノ國情ガアリマス、直チニ外國デヤツテ居ルヤウナコトヲ持ツテ參リマスト云フコトハ、果シテ如何デアリマセウカ、我國ト雖モ統制スベキハ固ヨリ統制スベキデアリマス、併シソレト同時ニ自由ニシテ置イテ宜イコトハ、固ヨリ之ヲ自由ニ致スガ宜シイト考ヘマス、何モ強テ現狀ヲ破壊スルヤウナコトヲシテマデモ、統制

スル必要ハアルマイト私ハ考ヘルノデアリマス、要スルニ無理ヲスルコトガ結局宜シクナイ、サウカト云ウテ舊態ヲ墨守シテ居マシタノデハ躍進ハ出來マセヌ、ソコガ所謂吾々ガ常ニ言フ精進スルコトデアリマス、我ガ國體ノ本義、日本ノ大精神ニ則ツテ、忍耐ト刻苦ガ極メテ大切ナルコトヲ知ラナケレバナラヌノデアリマス、唯急イデ急激ニ自己ガ外國カラ受ケタコトヲ、一刻モ早ク我國ニ實現シヨウト考ヘルカラ、却テ大ナル害ヲ生ズルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、我ガ日本ノ人ハ開關以來一貫シテ居リマス所ノ我國ノ大精神ニ依リマシテ、飽マデ忍耐刻苦シテ行カナケレバナラヌ、我國ハ昔カラ決シテ鎖國デハアリマセヌ、盛ニ外國ノ文化ヲ入レテ居リマス、併ナカラ外國カラ入ッテ來ル文化ハ、必ズ我ガ大日本帝國ノ大精神ニ統合スルモノデナクテハナリマセヌ、即チ吾々ハ一口ニ言ヘバ、外國文化ヲ日本化スルノガ宜シイ、日本ノ文化ヲ外國化シヨウト企テル者ハ大ナル誤リデアルト考ヘマス、殊ニ我國ノ農村ハ恐ラクハ世界ニ於テ比類ノ少イ組織ニナツテ居ルト思ヒマス、之ヲ一朝ニシテ變革スルガ如キコトハ出來得ルモノデハアリマセヌ、我國ノ農村ハ我國ノ農村トシテ何處マデモ固有ノ美風ヲ發揮シ、ソレニ依リテ世界獨特ノ發達ヲナサシムルコトモ、亦決シテ不可能デハナイト考ヘマス、私ノ卑見ヲ以テ致シマスレバ、我國ノ農村ハ全ク歐米ノソレト趣キヲ異ニ致シマスルガ如ク、寧ロ其ヤリ方ノ裏ヲ行ク方法ガ適切デハナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、歐米ノ工業ガ大資本ノ力ニ依リマシテ偏ニ機械力ヲ集中シ、出來得ル限り人工ヲ省キマシテ、生産品ノ單價ヲ下ゲシメントスルノニ反シ、我國ニ於テハ寧ロ出來得ルモノニ付テ之ヲ部分化シ、以テソレヲ農村ニ於ケル餘利能力ト相結合セシムルコトガ、極メテ時宜ニ適シテ居ルモノト考ヘテ居ルノデアリマス、今日既ニ其方法ニ依リマシテ相當ノ效果ヲ收メツ、アル例ハ決シテ少クアリマセヌ、現ニ大河内博士等ノ經營シテ居ラレマス財團ガ、越後ニ於テ致シテ居リマスル農村ノ餘利能力利用、即チ「ピストン・リング」ノ製造工業ハ確ニ成功致シテ居ルト考ヘマス、又同ジ越後ノ燕町ニ於テ行ハレテ居リマス西洋食器ノ製造ノ如キモノソレデアリマス、而モ其製品ノ大部分ハ外國ニ輸出致サレマシテ、歐米ノ製品ニ對抗シ得テ居ルノデアリマス、ソレカラ私ノ郷里デアリマス豊橋市ニ、俗ニ達磨製絲ト稱ス



ル製絲工業ガアリマスガ、是ハ全然家庭工業デアリマシテ、現ニ千戸以上ノ家庭ガソレニ從事致シテ居リマス、是ナドモ全ク一種ノ家庭工業デアリマシテ、農村又ハ勞働者等ノ家庭ニ於ケル餘剩勞力ヲ利用セルモノデアリマス、又御承知ノ甲州ニ於ケル郡内、彼處ノ家庭工業デアリマシタ甲斐絹ハ、御承知ノ通り先年來非常ニ賣行ガ減ジマシテ、一時ハ疲弊ノ情勢ニアリマシタ、然ルニ今日デハソレガ在來ノ技能ヲ利用シテ、廣巾物又ハ朱子ヲ織ルコトニナツテ居リマス、諸君ガ谷村カラ富士山麓ノ吉田ヘ御出デニナリマスレバ、沿道ノ農家デハ盛ニソレヲヤツテ居リマス、實ハ小サナ農家ニ大キイ機械リノ機械ヲ据付ケマシテ、家族ノ者ガ寝ル所モナイ程ノ有様ニナツテ居リマス、サウシテ此製品ハ滿洲ヘ輸出サレルト云フコトデアリマスガ、近頃ハ大分ニ此地方ノ經濟ガ安定シテ居ルコトハ事實デアリマス、斯ウ云フ實情ハ全國到ル處ニ見ラレマスガ、併シ是ニモ中々競争ガ起リマス、燕ノ工場ガ盛ニナッタト云ヘバ、直チニ其真似ヲスルモノガ出來マス、是デハ共倒レニナラナクテハナリマセヌ、ソレニハヤハリ或ル統制ガ必要トセラル、コトニモナリマス、併シソレニハ一面ニ於テ親切ニ國家ハ其世話ヲシテヤラナクテハナリマセヌ、唯統制バカリヤツテ生産者ヲ苦シメルヤウナコトヲ致シマシタノデハ、是ハ仕事ハ成功ヲ致シマセヌ、何處マデモ親切ニ其世話ヲシテ、統制ヲナスト同時ニ、其發達ヲ助成シテヤルコトヲ努メナクテハナリマセヌ、感心ナコトニ燕町ニハ、ソレガ爲ニ新潟縣カラ專門ノ技師ガ一人始終其組合事務所ニ出張致シテ居リマス、サウシテ全ク組合員ノ如クニ相成リマシテ指導シテ居リマスガ、私ハ最初此人ニ會ヒマシタ時、全ク組合員ダト思ッタノデアリマス、元來農村ニ最モ重要ナノハ、何ト申シマシテモ米ト繭トデアリマス、之ニ對シマシテ適當ノ政策ヲ必要トスルコトハ、最早申スマデモアリマセヌ、併シ如何ナル政策ヲ立テルト致シマシテモ、米ハ一面ニ於テ國民ノ生活上大切ナル食糧品デアリマス、隨テ其價格ガ容易ニ生産者ノ思フヤウナ所マデ上ルコトノ出來ナイ事情ガアリマス、又繭ニ致シマシテモ、其過半ハ生絲トナリマシテ米國ニ賣行クノデアリマス、隨テ米國ノ相場ガ上リマセヌ限リハ、到底昔ノヤウナ値段ニハナリマスマイ、而モ農村ノ生活程度ハ相當ニ高マツテ居リマス、此時世ニ促サレマシテ、高マリマシタ所ノ生活程度ト云フ

モノハ、何ト申シマシタ所ノ容易ニ下ゲ得ラレルモノデアリマセヌ、ソコヲ能ク考ヘテヤラナケレバナラヌト思ヒマス、今日産業組合ト反産運動トノ間ニ、如何ニモ憂慮スベキ状態ガアルト思ヒマス、併シ是モ歸スル所ハ、農民ニセヨ、中小商工業者ニセヨ、其生活ニ困難ヲ感ズルノ結果ガ茲ニ至ルモノデアルト考ヘラレマス、懷口ガ裕カニナツテ、お互ノ收入ガ殖エテ參リマスレバ、コンナ對抗ハ自然ニ下火ニナルベキ道理デアラウト思ハレマス、唯我國ノ農村ハ國民ノ過半數デアル農民ヲ包容シテ、極メテ大切ナモノデアリマスガ、其仕事ガ極メテ細カイモノデアツテ、其上地方々々ニ依ツテ事情ニ相違ガアリマス、隨テ極メテ區々デアツテ、極メテ面倒デアリマス、中ニハ立法行爲ニ依リマシテ一般ニ及ボシ得ル所ノモノモアリマセウガ、倍テソレヲ實際ニ當嵌メテ見マスルト、前ニモ申シマシタ如ク、我國ニ於ケル農村ハ獨特ノ發達ヲ爲シ來ツタ歴史ガアリマスノデ、所謂千篇一律デハ旨ク參ラナイ事情モ少ナカラズ存在シテ居ルノデアリマス、隨テ何ヲヤルニ致シマシテモ、農村ノコトハ何處迄モ其事情ニ即シテ、細カク世話ヲスル覺悟ガ大切デアルト考ヘラレマス、此處ガ貿易ヤ重要産業ト少シク趣ヲ異ニスル獨特ノ點デアルト私ハ考ヘテ居リマス、例ヘバ少シ世話ヲ致シマスレバ、マダノ農産物モ有利ナモノガアルト思ヒマス、近來我國ハ毎年棉花ヲ七億圓バカリツ、外國カラ輸入致シテ居リマス、又羊毛ニ致シマシテモ、毎年二億圓内外ヲ輸入シテ居リマス、然ラバソレガ我國デ出來ヌカト申シマス、決シテサウデアリマセヌ、在來ノ如キ綿ノ種デハ到底望ミハアリマセヌガ、今日印度、米國「メキシコ」ナドノ種ヲ持ツテ參リマスレバ、十分ニ成功致ス見込ガ立ツテ居ルノデアリマス、尤モ米國ハ既ニ綿ノ種ノ輸出ヲ禁止致シテ居ルト承ツテ居リマスガ、印度カラデモ「メキシコ」カラデモ、マダ輸入ハ出來ルト考ヘラレマス、ソレカラ羊毛ニ致シマシテモサウデアリマス、北海道ニシテモ、東北地方、殊ニ福島縣ナドハ大分ニ發達シテ參ッタヤウニ思ハレマス、併シ農村ニハ假令良イ事ダト思ヒマシテモ、ソレヲ押切ツテ企テル力ガアリマセヌ、又及ビ腰デ下手ナコトヲ致シマスレバ、損ヲ致スニ決ツテ居ルノデアリマス、コ、ガ國ノ力デ指導ヲ要スル所デアルト考ヘザルヲ得マセヌ、斯ク申シマス、サウ云フコトデ農村ヲ發達セシムル結果、偶、以テ都會ノ勞働者ヲ壓



迫スルニ至リハセヌカト云フ議論モ出マス、併シ私ハソレ程ニハ考ヘマセヌ、今日都會ニ行ハレテ居リマシヤウナ所謂重要産業ハ、到底之ヲ部分的工業ニ分割シテ、農村ノ家庭的工業ニ移スヤウナコトハ出来難イノデアリマス、部分工業ト爲シ得ルヤウナモノハ、自ラ其種類ガ異ツテ居ルト思ヒマス、先刻申シマシタ大河内博士ノ經營シテ居ラレル「ピストンリング」ノ如キハ、謂ハバ精密工業ノ一部ニ屬スルモノト言ッテモ宜イノデアリマセウガ、斯ウ云フ種類ノモノハマダハ發展ノ餘地ハ大分ニアルヤウニ考ヘマス、現ニ我國ガ昭和八年中ニ外國ヘ輸出シマシタ機械及ビ部分品ハ、僅ニ二千五百萬圓バカリデアリマシタガ、ソレガ昭和九年ニハ五千七百餘萬圓トナリ、昭和十年ニハ實ニ六千三百餘萬圓トナツテ居リマス、是等ハマダハ我國ニハ發達ノ餘地ガアルコトト考ヘマス尙ホ農村ニ必要ナル應急策トシテ、負債整理ノ大切デアルコトハ申ス迄モアリマセヌ、現ニ行ハレテ居リマス負債整理法ニハ、時宜ニ應ジテ尙ホ大ニ改善スベキモノガアルト思ヒマス、政府ハ宜シクソレガ實現ニ努力サルベキデアルト考ヘザルヲ得マセヌ、要スルニ我國現時ノ産業政策ト致シマシテハ、貿易ニ對スルコト、重要産業ニ對スルコト、是ハ依然トシテ大切デアリマスガ、一面ニ於テ農村ニ對スルモノニ於テ、最モ當面ノ急務タルコトヲ信ズルノデアリマス、サウシテ中小商工業者トノ間ノ調和ガ極メテ大切デアルコトヲ痛感致シマス、政府デハ動トモスルト官吏ノ數ヲ殖ヤスコトヲ致シマス、今度ノ豫算ニニ於キマシテモ、ソレガ實ニ著シク眼ニ映ズルノデアリマス、併シ其結果唯事ガ面倒ニナツテ、其割ニ實績ノ擧ラヌコトガ多イヤウニ感ゼラレマス、先刻モ申ス如ク、統制モ必要デアレバ、ソレモ宜シイ、併シ事ガ面倒ニナルバカリデ、國民ノ利益ガ増進セヌヤウナコトガアリマシテハ、何ノ役ニモ立タヌ譯デアリマス、爾ヤ生絲ナドニ付キマシテモ、ヤハリ統制ヲ必要トサレテ參リマシタガ、私ニ言ハセマスレバ、ソレト同時ニ假令値段ハ安クトモ、繭ナリ生絲ナリノ賣レテ行クコトニ努力シテ貰ハネバナラナイト考ヘマス、賣レヌカラト云フノデ、直チニ生産制限ヲセヨト云フヤウナコトデハ、果シテ如何デアリマセウカ、ソレモ已ムヲ得ヌトシタナラバ、ソレト同時ニ賣レルコトヲ考ヘラレネバナラヌ筈ダト思ヒマス、私ハ多年ノ主張デアリマスガ、生絲ノ賣行ヲ大ナラシメマスル一方法ト

致シマシテハ、人造絹絲ト生絲トノ混織ヲ容易ナラシメ、海外ニ輸出セシムルコトニアルト深ク考ヘテ居リマス、ソレニハ何ト申シマシテモ、織物税ノ廢止ガ極メテ必要デアルト考ヘマス、此増税ノ場合ニ廢税ハ如何デアアルカトハ考ヘマスガ、是モ産業政策上重要ナコトデアリマスカラ、政府ノ御一考ヲ煩ハシタク考ヘル次第デアリマス、更ニ考ヘネバナリマセヌノハ、軍需工業ト農村並ニ一般工業トノ關係デアリマス、時間ガアリマセヌカラ私ハ端的ニ申シマスガ、軍需工業ノ與フル利益ヲ、廣ク國民ノ間ニ分配スルニ足ルベキ政策ガ、痛切ニ行ハレネバナラナイト考ヘマス、申スマデモナク今日ノ軍事費ハ一般會計總豫算額ノ半バニモ達セシテ居リマス、隨テソレト我國ノ農村並ニ一般工業トノ間ニ密接ノ關係ガ保タレマセヌケレバ、恐ラクハ其持續ハ遂ニ困難ニ陥ラネバナラナイト考ヘザルヲ得マセヌ、政府ハ深ク是ニ思フ致スノガ最モ緊要デアラウト考ヘルノデアリマス、終リニイマ一ツ申述ベタイコトハ災害豫防ニ關スル問題デアリマス、一昨年以來不幸ニシテ我國ニハ災害ガ多ク起リマシテ、ソレガ救済費ハ實ニ少カラヌコトデアルト考ヘマス、現ニ東北ノ雪害ナドハ如何ニモ稀有ノコトデ、政府ハ之ニ對シマシテ速ニ救済ノ必要アルコトヲ認メマス、併シ茲ニ尙ホ考ヲ要シマスルコトハ、災害ノ豫防デアリマス、只今申シマシタ雪ノ如キハ、或ハ豫防ハ困難デアアルカトモ考ヘラレマスガ、水害ノ如キハ明ニソレガ出来テ居リマシレバ、一昨年ノ如キ大水害ハ免レテ居ッタ譯デアリマス、アノ時ノ水害ノ如キハ、明ニ改修ノ出来テ居リマシタ神通川ハ水害ヲ免レマシテ、改修ノ出来テ居ナカッタ直グ隣ノ常願寺川ガ、アノ大水害ヲ被ッタノデアリマス、サウ考ヘマス、治水ヲ怠ルト云フコトハ實ニ恐ロシイコトデ、國家ノ損害是ヨリ大ナルハナシト申シテ宜カラウト思ヒマス、然ルニ内務省デハ之ヲ決メマシテ、費用ヲ大藏省ニ要求ヲ致シマシテモ、大藏省ガ所謂健全財政主義デ、之ヲ削除致シマシタ例ハ極メテ少クアリマセヌ、現政府ハ深ク茲ニ思フ致シマシテ、斯ノ如キ國家重大ナル經濟ニ關シマスコトハ、相當ノ程度マデハ費用ヲ各マズ支出サレルノガ當然デアルト考ヘザルヲ得マセヌ、大分ニ長クナリマシタガ、併シ以上述べマシタ所ハ、希望條件ニ對スル説明ノ一部分



デアルト御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、是レ以上述べマスコトハ時間モ掛リマスノデ、他ノ機會ニ譲リタク思ヒマスガ、唯一ツ茲ニ附加ヘテ置キタイノハ、所謂財政計畫ニ關スルコトデアリマス、實ハソレニ付キマシテハ、既ニ馬場藏相モ其大切ナルコトト、近キ將來ニ於テソレガ實現ヲ期スベキコトヲ言明サレテ居ラレルデアリマス、併シソレガ果シテ如何ナル所ニ重點ヲ置カレルノカ、ソレモマダ政府ニハ定見ガナイヤウデアリマス、勿論ソレニ付テハ先以テ歳出ノ見透シ、例ヘバ軍事費ノ如キ、産業費ノ如キ、此見透シガ付ケラレバナヌ筈デアリマスガ、私共ガ殊ニ茲ニ力説シタク考ヘマスノハ、須ラク國民ノ經濟力其モノニ立脚シテ、將來ニ於ケル財政的實力如何ヲ確認シテ掛ルコトガ、大切デアラウト考ヘルノデアリマス、財政ノ健全ナランコトハ誰モ望ム所デアリマス、唯私共當面ノ收支計算ニ没頭致シマシテ、目前ノ辻褄ヲ合セルコトヲ以テ能事終レリトスルガ如キ所謂健全財政ニハ、容易ク贊成ガ出來ナイノデアリマス、少クモ思ヒテ幾年ノ外ニ馳セ、功ヲ十年ノ後ニ收メル所ノ考ガナクテハナラヌト思ヒマス、ソレガ爲ニハ先以テ經濟力其モノノ基礎ニ立脚シタル、所謂財政的見透シガ緊要デアアルト考ヘマス、サウシテ少クモソレガ基礎トナツテ、毎年度ノ豫算ガ編成サレバナラヌモノデアアルト考ヘザルヲ得マセヌ、是ダケヲ申シテ置キマス、要スルニ私共昭和十一年度ノ豫算ニ對シマシテハ、甚ダ不満足ノ點ガアルト思ヒマスガ、併シ其大部分ハ既ニ憲法第七十一條ノ規定ニ則リマシテ實行豫算ト相成ツテ居リマス、ソコデ今度ノ追加豫算ニ致シマシテモ、私共ノ權限トシテ削除ハ出來マスガ、增加ハ出來マセヌ、私共ハ前ニモ申ス如ク現内閣ノ言明ヲ姑ク信ジマス、サウシテ此追加豫算ニ計上セラレタルモノハ必要ト認メラレマスカラ贊成致シタ次第デアリマス、願クバ政府ニ於ケレマシテモ、篤ト私共ノ希望ノ點ヲ理解致サレマシテ、自ラ其聲明ヲ實行致サレマス同時ニ、私共希望ニ對シテモ、是ガ實現ヲ期セラレンコトヲ切望シテ已マザル次第デアリマス

風見君ノ反對演説

本豫算ニ關スル反對ノ理由ヲ開陳致シマス、廣田内閣存在ノ意義乃至値打、之ニ關スル私共ノ考

ヘ方ヲ明ニスル、廣田内閣ハ自ラ舉國一致ヲ標榜シテ立ツタノデアリマスガ、組閣ノ當時ニ於テハ、議會ニ絕對多數ノ議席ヲ有ツ、政友會、民政黨、昭和俱樂部ト共ニ立ツカノ如キ傾向ニ見エテ居ツタ、然ルニ其後ニ於ケル經過ヲ見ルニ付ケ、殊ニ此議會ニ於テ、政友會、民政黨等ノ此内閣ニ對スル態度、並ニ言論ヲ聽イテ居リマスルト、與黨デアアルカノ如ク、ナキガ如ク、廣田内閣カラ言ヘバ與黨ニナツテ貫ツテ居ルカノ如ク、ナツテ居ラナイカノ如ク、甚シク不徹底ナル態度デアアルコトハ、吾々國民ヲシテ、政黨ト現内閣トノ關係ハ、正ニ腐レ縁以外ノ何物デモナイ、斯ノ如キ印象ヲ與ヘシメ、隨テ正ニ擬裝舉國一致内閣ナリト斷定サレマシテモ、廣田内閣ハ一言半句辯解ノ言葉ハアルマイト思フ、斯ノ如キ政府ノ存在ハ、正ニ政局ヲ明朗ナラザラシムルコト甚シキモノガアル、國民ハ政局ノ明朗化ヲ望ムデ居ルニ拘ラズ、隨テ此内閣ハ、此意味ニ於テ國民ノ要望ニ逆行スルモノデアアル、隨テ斯ノ如キ内閣ノ存在ハ、國家ニ取り有害デアリト雖モ、チットモ利益ハナイ、是ガ私共ガ此廣田内閣ニ對スル其存在ノ意義、並ニ價值ニ關スル最後ノ批判デアリマス、斯ノ如キ無力無能、而シテ不徹底ナル内閣ノ下、斯ウ云フヤウナ何ダカ分ラナイヤウナ存在デアアル内閣、コンナ内閣ノ下デ政友會、民政黨ノ諸君ハ、其爲スコトヲ一年間待ツテ見ヨウト斯ウ言フ、コンナ内閣ノ下デ一年間待テルヤウナ時局デアルカナイカ、二二六事件ニ依ル深刻ナル刺戟、此刺戟ガ此廣田内閣ヲシテ所謂庶政一新ノ掛聲ヲ爲サシメタ、先般ノ有難キ御詔書ニ對シ、廣田内閣モ恐懼シタニ相違ナイガ、政友會、民政黨ノ諸君モ、此特別議會ニ於テ庶政一新ニ關スル決議案ヲ出サウデハナイカ、斯ウマデナツテ居ル、隨テ又國民全體ハ今日所謂庶政一新ノ具體案ノ示サルルコトヲ待ツヤ、將ニ早天ノ雲霓ヲ望ムノ概ガアル、斯ノ如ク國民ハソレヲ待チニ待ツテ居ル時ニ、政友會、民政黨並ニ昭和俱樂部ノ與黨諸君ハ、此内閣ニケチヲ付ケナガラ、腐レ縁以外ニ何物デモナイヤウナ態度ヲ持シナガラ、一年間待タウト言フ、是ガ果シテ國民ノ期待ニ副フ所以デアルカ、此内閣ハ此一專ヲ考ヘマシテモ、當ニ今日國民ノ間ニ怒濤ノ如ク渦巻キ起リツ、アル、革新ヲ要望スル此國民ノ心臓ノ鼓動ト何處ニ脈膊ヲ同ジウスルカ、チットモ同ジクシテ居リハシナイ、私ハ斯ノ如キ情勢ヲ考ヘル時ニ、斯ノ如キ有様デアアルコトヲ思フ時ニ、此結果何處



ニ至ルカラ思ヒ、衷心寧ろ戰慄ヲ禁ズル能ハザルモノガアル、今ヤ肅軍ハ最モ重大ナル事柄トシテ、國民之ニ注目シ、議會モ之ヲ問題ニスルノデアリマスルガ、肅軍ノ主觀的ナル意圖ガ、ドレ程強カラウトモ、茲ニ革新ニ關スル具體策ヲ一日モ早ク明ニシテ、國民ヲシテ其趨ク所ヲ知ラスルニアラズンバ、私ハ結局此肅軍ニ缺クベカラザル客觀的條件ヲ不備ナラシムルコトニ依リ、折角ノ肅軍ノ企圖ガ其效果ヲ發揮スルコトニ非常ナ困難ヲ感ズルヲ思フ時ニ、誰カ國民ニシテ戰慄ヲ禁ズル能ハザルモノガアルカ、先程政友會ノ大口喜六君ハ、此内閣ノ産業政策ニ關シ、何モ見ルベキモノナシト斷定サレタ、洵ニソレハ其通りデアアル、産業政策ガ見ルベキモノナクシテ、ドウシテ一體財政政策ガ立ツカ、産業政策ガ既ニ見ルベキモノガナイナラバ、此内閣ニ勿論財政計畫シタル財政ノ方針、隨テ之ヲ基礎ヅケル一貫シタル産業方針ガアルナラバ、此産業方針並ニ財政方針ニ關シ、徹底シタル批判ヲ試ミテ此内閣ニ反對ノ意ヲ明ニシタイノダガ、第一「ゼロ」ナシ「ゼロ」ノ産業政策ヲドウシテ批判ガ出來ルカ、隨テ「ゼロ」ノ財政計畫ナシ、既ニ批判ノ餘地スラナイノデアアル、斯ノ如キ狀態デアリマスルケレドモ、併ナガラ今日内外ノ情勢ヲ考ヘル時ニ、國防ノ費用ノ如キ本當ニ大切ナノダ、或ハ水害若クハ霜害ニ關スル應急ノ施設、或ハ東北振興ニ關スル經費、若クハ沖繩振興ニ關スル經費、或ハ例ヘバ左澤、荒砥線デアルトカ、福岡、寒河江間ノ鐵道等々々ノ交通政策ノ實現、勿論是等種々ノ今直グニヤツテ費ハナクテハナナイヤウナモノガアルケレドモ、是等ノモノト雖モ全日本ノ一貫シタル産業政策、財政計畫ノ一部トシテ、之ヲ實現スルニアラザレバ、果シテ十分ニ其效果ヲ擧ゲ得ルカハ甚シク疑ハシイ、殊ニ國防費ノコトニ關シ、勿論之ニ關シテハ徹底シタル、又一貫シタル東亞政策ノ確立ガナクテハナラナイ、然ルニ先般私ガ豫算分科會ニ於テ外務大臣ト僅ノ時間デアリマシタガ、東洋ニ於ケル政局ノ根本ヲ成ス農業問題ノ推移ニ關シテ意見ヲ交換セントシタ時、外務大臣ハ知ラナイカ知ッテ居ルカ、或ハ示スコトヲ憚ルカ、此問題ニ關シテ明カナル意見ヲ吐カナクッタ、私ハ恐ラク知ラナカッタノデハナイカト思フ、農業問題ヲ知ラズシテ、今日ノ北支那問題ヲ考ヘラレルカ、農業問題

ヲ知ラズシテ今日ノ支那ノ政局ヲ語り得ルカ、隨テ斯ノ如キヤウナ狀態デアッテハ、本當ニ足ガ地ニ著イタヤウナ外交方針ハアリ得ナイコトダ、一貫シタル外交方針ガ立ッテ、其處ニ十分ナル國防費ガアツテ、初メテ此國防費ガ役ニ立ツコトハ申ス迄モナイ、然ルニサウ云フヤウナ傾向並ニ方針ハ、何處ニモ發見出來ナイ、吾々ガ東京カラ現ニ或ハ滿洲、北支那ニ向ッテ行ク兵隊サシノ姿ヲ見ルニ付ケ、吾々ハ本當ニ十分ナル國防費、同時ニ又本當ノ純一無雜ナル正シキ政治ノ實現ヲ希望セザルヲ得ナイガ、之ヲ希望スレバ、之ヲ切望スレバ、斯ノ如キ無方針、斯ノ如キ認識ナキ内閣、是ガ唯宜イ加減ニ必要ナル經費ト言ッテ、斷片的ニ列ベ立テタニ過ギナイ經費ニ關シマシテハ、吾々ハ其實際的ノ效果ヲ果シテ十分ニ現ハスヤ否ヤヲ疑ハザルヲ得ナイ、先程政友會ノ大口喜六君ノ言説ヲ聽イテ居リマスルト、洵ニ我國農村ニモ獨特ナル特色ガアル、斯ウ云フ御議論ガアツタ、其獨特ナルモノノ内容如何、之ニ付テハ聽クヲ得マセデシタカラ、私モ内容カラ考ヘテ果シテ大口君ノ考ヘ方ニ賛成出來ルカ出來ナイカハ明言出來マセヌガ、確ニ獨特ノモノアルコトニ關シテハ、私モ是ハ認メル、私ノ聽イタ所ガ間違ヒナケレバ是等ノ農民ハ洵ニ辛抱力ガ宜イ、斯ウ云フ事實ヲ指摘サレタト私ハ聽イタノデアリマスルガ、全ク今日マデノ農民ハ實ニ辛抱強カッタ、誰カノ歌ノ文句デハナイガ「田ヲ作り蠶ヲ飼ヒテ老イニケリ、尊クモアルカコノ年寄ハ」斯ノ如キ農民ニ依ッテ日本ノ農村ハ滿タサレテ居ル、併シ斯ノ如キ純一無雜ナル氣持ハ、謂ハ、神ノ如キ存在ナノダ、併ナガラドレ程斯ウ云フヤウナ氣持デ居ッタ所ガ、コシナ下ラナイ豫算ノ下ニ此豫算ガ實行サレ、バ、ドレ程言葉ノ上ニ於テ色々ノ辯解ハシマシテモ、結局此龐大ナル豫算ハ勤勞國民大衆ガ背負フ以外ニ、誰ガ一體背負フンダ、隨テ幾多美シイ言葉ハ列ベマスルガ、ドンナニ美シイ言葉ニ依ッテ瞞著シヨウトシマシテモ、斯ウ云フ豫算ノ壓力ガ大衆ノ肩ニ背負ハセラレル時、此純一無雜ニシテ忍耐力ノ強イ農民ダツテ、何時マデ辛抱出來ルカ、斯ノ如キ純真ナル農民ヲ怒ラシタ時ニハ、私ハソコニ正ニ戰慄スベキ世ノ中ノ狀態ガ實現スルコトヲ思ウテ、自ラ背中心ニ冷汗ノ流ル、思ヒナキヲ得ナイ、私ハ斯様ニ考ヘ來ッテ廣田内閣並ニ此與黨ノ諸君ハ現在ノ内外ノ情勢ヲ再檢討シ、之ヲ再吟味シ、今ノ如ク援クルガ如ク援ケザ



ルガ如ク、援ケラル、ガ如ク援ケラレザルガ如キ内閣トノ關係ヲ清算シ、廣田内閣モ、之ヲ援ケル政友會、民政黨、昭和會諸君モ、度性骨ヲ叩キ直シ魂ヲ入レ替ヘテ、速ニ國民ガ一日モ早カレト希望スル庶政一新ニ關スル具體案ヲ打立テ、此案ヲ議會ヲ通シテ國民ト共ニ實行スルノ實ヲ舉グル爲メ、速ニ臨時議會ノ召集ヲ奏請シテ其途ヲ開クコトガ、私ハ廣田内閣トシテモ、其與黨トシテモ、正ニ國民ニ負フ所ノ當然ノ政治ノ責任ナリト斷定シタイ、洵ニ内外ノ情勢カラ申シマズレバ、東北振興費ノ如キ、或ハ雪害ニ關スル對策ノ如キ、東北沖繩振興費ノ如キ、或ハ水害ニ對スル對策ノ如キ、幾多重要ナル案件ガアリマスケレドモ、吾々ハ斯ウ云フ施設ノ一日モ早ク實効ノ舉ランコトヲ希望スルニ付ケ、全日本ノ本當ノ庶政一新ノ爲ノ政策ノ一部分トシテ組直シテ、サウシテ國民ニ見ユルコトガ正ニ當然ノ行キ方ナリト考ヘルノデアリマスルカラ、ソコデ此豫算ニハ吾々ハドウシテモ賛成出來ナイノダ、此意思ヲ開陳シテ、私ノ反對論ヲ終ルコトニ致シマス

森君ノ賛成演説

賛成反對共ニ既ニ意見ハ他ノ同僚諸君ニ依ッテ述ベ盡サレタト思ヒマス、デ私ハ茲ニ意見ノ一切ヲ述ブルコトヲ省略致シマシテ、昭和十一年度ノ豫算追加ノ各案ニ對シテ、賛成ノ意思ヲ表明スル者デアリマス

次テ七案ヲ一括シテ起立採決ノ結果委員會報告ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ五月二十四日各可決奏上シ同月二十七日孰レモ公布セラル

第二項

決算及國有財産増減總計算書(内容浩瀚ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス)

第一 決算

昭和九年度歳入歳出總決算  
昭和九年度各特別會計歳入歳出決算

右ハ昭和十一年五月六日提出ス委員會ハ審査ノ末左ノ通議決(附帶決議ヲ附シ)スヘキモノト決シ同月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
委員會報告書摘録

不當ナルモノ

昭和九年度歳入歳出總決算中

歳入ニ於テ

不當ナルモノ 十五件

歳出ニ於テ

不當ナルモノ 十四件



昭和九年度各特別會計歳入歳出決算中

歳入ニ於テ

不當ナルモノ 九件

歳出ニ於テ

不當ナルモノ 十六件

官有物ニ於テ

不當ナルモノ 三件

合計 五十七件

既往年度(昭和六年度、昭和七年度及昭和八年度)未確定決算中

一般會計

歳入ニ於テ

不當ナルモノ 十三件

歳出ニ於テ

不當ナルモノ 四件

特別會計

歳入ニ於テ

不當ナルモノ 十件

歳出ニ於テ

不當ナルモノ 五件

合計 三十二件

總計 八十九件

昭和九年度歳入歳出總決算及同特別會計歳入歳出決算中不當ナリト議決シタル事項左ノ如シ

一般會計歳入ニ於テ

租税ノ徴收不足ニ屬スルモノ 七件

租税ノ徴收過ニ屬スルモノ 一件

租税外歳入ノ徴收ニ關シ措置其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件

租税外歳入ノ徴收ニ關シ監督其ノ宜シキヲ得サルモノ 三件

其ノ他不當ナルモノ 三件

特別會計 十五件

一般會計歳出ニ於テ



補助金ノ交付ニ關シ措置其ノ宜シキヲ得サルモノ 五件  
 虚構ノ事實ニ對シ支拂ヲ爲シタルモノ 一件  
 物件ノ購入ニ當リ措置其ノ宜シキヲ得サルモノ 六件  
 物件ノ改造ヲ請負ニ付スルニ當リ價格ノ決定其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件  
 工事ノ施行ニ當リ措置其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件

計 十四件

特別會計歳入ニ於テ

製造煙草ノ賣渡ニ當リ措置其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件  
 租税ノ徴收不足ニ屬スルモノ 一件  
 犯罪ニ基因シ辨償金ノ徴收ニ至ラサルモノ 一件  
 公債發行ニ關シ其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件  
 物件ノ賣却ニ當リ價格ノ決定其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件  
 使用料ノ決定低廉ニ失スルモノ 一件  
 官有原野ノ貸付又ハ處分ニ關シ措置其ノ宜シキヲ得サルモノ 二件  
 立木ノ拂下ニ當リ監督其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件

計 九件

特別會計歳出ニ於テ

補助金ノ前渡ニ關シ監督其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件  
 不急ノ物品ヲ高價ニ購入シタルモノ 一件  
 物件ノ購入ニ當リ措置其ノ宜シキヲ得サルモノ 八件  
 犯罪ニ基因シ缺損補填ヲ爲シタルモノ 一件  
 虚構ノ事實ニ對シ支拂ヲ爲シタルモノ 一件  
 枕木ノ調達ニ當リ措置其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件  
 工事ノ施行ニ當リ措置其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件  
 物件ノ改造ヲ請負ニ付スルニ當リ措置其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件  
 物件ノ賣買ニ當リ措置其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件

計 十六件

官有物ニ於テ

倉庫ノ利用其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件  
 國有地ノ管理其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件



國有林野ノ貸付並處分ニ關シ措置其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件

計 三件

合計 五十七件

既往年度(昭和六年度、昭和七年度及昭和八年度)未確定決算中

一般會計歳入ニ於テ

租税ノ徵收不足ニ屬スルモノ 十二件

租税ノ徵收過ニ屬スルモノ 一件

計 十三件

一般會計歳出ニ於テ

補助金ノ交付ニ關シ宜シキヲ得サルモノ 一件

親貯藏ニ關シ獎勵金ヲ交付シタルモノ 一件

監督其ノ宜シキヲ得サルモノ 二件

計 四件

特別會計歳入ニ於テ

租税ノ徵收不足ニ屬スルモノ 四件

林木ノ拂下處分ニ當リ宜シキヲ得サルモノ 三件

租税ノ賦課徵收ニ關シ宜シキヲ得サルモノ 一件

租税ノ徵收過ニ屬スルモノ 一件

其ノ他宜シキヲ得サルモノ 一件

計 十件

特別會計歳出ニ於テ

虛構ノ事實ニ對シ支拂ヲ爲シタルモノ 二件

物件ノ購入ニ當リ措置宜シキヲ得サルモノ 二件

其ノ他宜シキヲ得サルモノ 一件

計 五件

合計 三十二件

總計 八十九件

注意事項左ノ如シ

昭和九年度

一般會計歳出ニ於テ



物件ノ購入ニ當リ其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件

附帶決議

一 昭和九年度決算ヲ審査スルニ豫算又ハ法律勅令ニ違反シ不法不當ノ歳入出ヲ爲セルモノ數十件四千四百餘萬圓ノ多額ニ達セルハ部下監督其ノ當ヲ得サルニ因ル政府ハ宜シク國政一新ノ第一著手トシテ先ツ吏道振肅ノ方法ヲ講スヘシ

一 政府ハ年々議會ノ警告ヲ無視シ豫算ノ流用、年度末ノ濫費並官吏ノ賞與、手當、慰勞金其ノ他給與金ノ不當支出等ノ積弊愈甚シキ傾向アリ政府ハ繰替流用及濫費ノ惡弊ハ必ス之ヲ打破スヘシ

一 大藏省其ノ他各省ノ官吏ニシテ民間ト結託シ不正不當ノ措置ヲ爲シ爲ニ國庫ニ損失ヲ及ホセルノミナラス犯罪ヲ構成セルモノアリ又特別會計ハ一般會計ニ比シ不當ノ措置甚タ多シ政府ハ嚴重ニ官吏ノ責任ヲ糾明シ賞罰ヲ明ニスヘシ

同月二十四日本件ハ昭和九年度國有財産増減總計算書ト一括シテ院議ニ付シ委員長立川太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

昭和九年度ノ歳入歳出總決算、昭和九年度各特別會計ノ歳入歳出、並ニ昭和九年度國有財産増減總計算書ノ審査ヲ付託サレマシタ決算委員會ノ、經過並ニ結果ヲ極ク簡單ニ御報告申上ゲマス、

決算委員會ハ總會ヲ開クコト八回、分科會ヲ開クコト二回、小委員會ヲ開クコト一回、十一回開會致シタノデアリマス、其間委員諸君ハ非常ナ熱心ナル御審議ヲ盡サレマシタノデアリマス、御承知ノ如ク決算報告書ハ極メテ浩瀚ナモノデアリマス、此決算報告書ニ基キマシテ一々審査スルト云フコトハ、今期ノ如キ短イ議會ニ於テハ到底爲スコトガ出来ナイノデアリマス、隨テ委員會ニ於キマシテハ、會計検査院ノ報告書ヲ基礎ト致シマシテ、政府ノ之ニ對シマスル辯明書並ニ委員會ニ於ケル質問應答ヲ基礎トシテ審議ヲ致シタノデアリマス、倍テ昭和九年度ノ決算額ヲ見マスルニ、歳入經常部ニ於テ十三億四千餘萬圓、歳入臨時部ニ於テ九億餘萬圓、合計二十二億四千餘萬圓デアリマス、而シテ歳出ニ付テハ、經常部ニ於テ十二億二千餘萬圓、臨時部ニ於テ九億三千餘萬圓、合計二十一億六千餘萬圓デアリマス、隨テ八千三百餘萬圓ノ剩餘ヲ生ジタノデアリマス、是ハ昭和十年度ノ歳入ニ編入サレテアリマシテ、其詳細ハ決算書ヲ御覽ヲ願ヒタインデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、先程申述ベマシタ通り會計検査院ノ決算報告ト、政府ノ之ニ對スル答辯、又委員ノ質問ナドニ依リマシテ、慎重審議致シマシタ結果、議事ガ餘程進行致シマシタケレドモ、其實スベキコトニ付テハ、各大臣其外政務官ニ十分ニ之ヲ質シタノデアリマス、其結果昭和九年度ノ一般並ニ特別會計ノ歳出入ヲ通ジテ、五十七件ト云フ不當ノ歳出入ガアルト云フ議決ヲ爲シタノデアリマス、又既往年度未確定ノ決算中、一般會計ノ歳出入ニ於テ不當ノモノガ十七件、特別會計ノ歳出入ニ於テ不當ノモノガ十五件、合計三十二件デアリマシテ、總合計致シマス、不當ノモノガ八十九件ノ多數ニ上ツタノデアリマス、其詳シイコトハ委員長ノ報告書ニ記載ヲ致シマシタカラ、皆サンハ之ニ依ッテ御覽ヲ願ッテ置イテ、此際ハ省略致シタイト思ヒマス、唯茲ニ私カラ是非トモ一ツ申上ゲナケレバナラナイコトガアルノデゴザイマス、ソレハ何デアルカト申シマスルト、昭和七年度ノ歳入歳出ヲ審議致シタ決算委員會ニ於テ、不當ナルモノガ五十一件アルト云フ議決ヲサレテ居ルノデアリマス、其翌年ノ昭和八年ノ決算委員會ニ於キマシテハ、不當ナルモノガ六十件アルト決議ヲシテ居ルノデアリマス、而シテ今年ハ不當ナルモノハ八十九件ト云フ多數ニ上ツテ居ルノデアリマス、年々歳々政府ノ歳入歳出ノ中ニ、斯ノ如キ不



當十歳入出ガ益、増加スルト云フコトハ、何ニ依ッテサウナルノデアリマセウカ、其原因ノ由ッテ來ル所ヲ私ハ彼此レ此處デ申上ゲマセヌ、ケレドモ議會ニ於キマシテモ私ハ罪ガアルデアラウト思ヒマスガ、政府ノ罪ハ議會ノ罪ヨリカ重イト言ハナケレバナラヌト思ヒマス、從來動モスルト、此決算ト云フコトニ付テ、議會モ輕ク取扱ッタヤウナ傾キガアリマスガ、政府ニ於テハ全ク之ヲ無視シテ居ルヤウナ傾キデアッタノデアリマス、官僚ノ中ニハ議會ハ墮落シタトカ、或ハ政黨ガ惡イトカ云フヤウナコトヲ、非常ニ宣傳シテ居ル人モアルノデアリマスガ、此決算ニ現レマシタ結果カラ判断スルナラバ、私ナドハ斯ウ言ヒタイノデアリマス、豫算ヲ審議スルニ當リ、各大臣、次官、局長、課長ナドガ血眼ニナッテ、其通過ニ奔走ラ致スノデアリマス、併シ一旦是ガ通過致シマス、豫算、法律、勅令ニ違反シタ措置ヲ澤山爲スノデアリマス、而モ國家ニ向ッテ、又國民ニハ多大ノ損害ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、現内閣ハ國政一新ヲ標榜シテ居ラレル内閣デアリマス、從來ノ斯ノ如キ惡弊ヲ十分ニ現内閣ニ依リマシテ矯メテ戴カナケレバナラナイト、國民ハ深ク要求ヲシテ居リマス、軍部ニ於キマシテ今日肅軍ノ實ヲ舉ゲルコトニ全力ヲ注イデ居ラレマシテ、此點ニ付テハ國民モ感謝ヲシテ居ルノデアリマスガ、廣田内閣ノ各省大臣モ、單ニ軍部ダケノ肅正デハナイ、各省ノ官吏ノ責任ヲ明ニシテ、斯ノ如キ不正ガ將來其跡ヲ絶ツヤウニシテ戴カナケレバナラナイト、斯ウ云フコトハ委員會全部ノ希望デアリマス、權力ノ陰ニ隠レテ責任ヲ重ンゼナイコト、今日ヨリ甚シキハナイト思ヒマス、昔ノ官吏ハ腹ヲ切ッテ長上ニ對シテ御詫ヲシタルデアリマス、國民ニ對シテ申譯ヲ致シタノデアリマスガ、今日ノ官吏ハ長上ニ對シテ自決ヲスルト云フコトハ殆ド少イ、僅ニ奏任官或ハ判任官ノ中ニハ、御上ニ對シテ申譯ナイト言ッテ腹ヲ切ル人ガアリマス、ケレドモ勅任官ヤ親任官ニ於テハ、責任ヲ感ジテ居ルノデアアルカドウデアアルカト疑ハネバナラヌヤウニ、上ノ人々ノ責任ノ觀念ハ、口先デハ痛感シテ居リマスガ、實際ニ其實ガ擧ラナイノデアリマス、ドウカ斯ノ如キ不正ガ將來ナイヤウニシテ戴キタイ、斯ウ云フコトガ總テノ委員ノ希望デアリマシタ、委員會ニ於キマシテハ慎重審議ノ結果

一 昭和九年度決算ヲ審査スルニ豫算又ハ法律勅令ニ違反シ不法不當ノ歳入出ヲ爲セルモノ

數十件四千四百餘万圓ノ多額ニ達セルハ部下監督其ノ當ヲ得サルニ因ル政府ハ宜シク國政一新ノ第一著手トシテ先ツ吏道振肅ノ方法ヲ講スヘシ

一 政府ハ年々議會ノ警告ヲ無視シ豫算ノ流用、年度末ノ濫費並官吏ノ賞與、手當、慰勞金其ノ他給與金ノ不當支出等ノ積弊愈々甚シキ傾向アリ政府ハ繰替流用及濫費ノ惡弊ハ必ス之ヲ打破スヘシ

一 大藏省其ノ他各省ノ官吏ニシテ民間ト結託シ不正不當ノ措置ヲ爲シ爲ニ國庫ニ損失ヲ及ホセルノミナラス犯罪ヲ構成セルモノアリ又特別會計ハ一般會計ニ比シ不當ノ措置甚タ多シ政府ハ嚴重ニ官吏ノ責任ヲ糾明シ賞罰ヲ明ニスヘシ

ト云フ附帶決議ヲ附ケマシテ、之ヲ承認スルコトニ致シタノデアリマス、尙ホ昭和九年度國有財産増減總計算書モ、之ヲ承認致スコトニ議決致シタノデアリマス、以上簡單デアリマスガ、委員會ノ報告ヲ申上ゲマス

討論ニ入り福田關次郎君ハ委員會報告ニ賛成ノ演說ヲ爲ス

只今議題トナッテ居リマスル昭和九年度ノ決算ニ付キマシテ、只今委員長ノ報告サレマシタ附帶決議ヲ附シテ、吾々ハ本案ニ賛成セントスル者デアリマス、各豫算及ビ法律勅令背反ト認ムベキモノニハ、ソレレ、不當不法ナル判定ヲ下シテ、之ヲ承認致シタノデアリマシテ、議會ニ於キマシテハ、御承知ノ通り豫算ト決算ハ相並行スベキモノデナクテハナラナイノデアリマス、而シテ此豫算ノ決定ト決算トハ、之ヲ重要ニ見マシテコソ、議會精神ノ發揚ガ出來ルモノト言ハナケレバナリマセヌ、然ルニ今日マデ決算ナルモノガ、政府之ヲ輕視シ、或ハ議會モ動モスレバ之ヲ輕視スルニアラズヤトノ疑ナシト致サナイノ遺憾ト致スノデアリマス、此結果ト致シマシテ、今日我が日本ガ受ケマシタル損害ハ蓋シ莫大ナルモノガアルノデアリマス、豫算ニ於テ取リマシタル其豫算ヲ、先程委員長モ言ハレマシタルヤウニ、如何ナル所ニ之ヲ流用シテ居ルカ、濫費シテ居ルカト云フコトヲ見マスルト、私共ハ國家ノ受ケシ損害ハ多大ナモノガアルト信ズルノデ



アリマス、而シテ中ニハ國有財産ヲ或者ト結託シテ、其儘横領シタル者モアル、中ニハ租稅ノ收入ヲ圖ルノニ、一部ト結託シテ國家ニ莫大ナル損害ヲ與ヘタ者モアルノデアリマス、此點ニ於キマシテ決算委員會ハ數年間之ニ留意シテ、既ニ政府ガ拂下ゲタル國有財産ヲ取返シマシタルモノハ多大ニ上ツテ居リマス、或ハ一ツノ物ヲ製造スルノニ、不當ノ支出ヲスルコト百六十万圓、此金モ數年前ニ既ニ或ル方面ニ消費サレテ居ッタガ、決算委員會ニ於テ悉クヲ茲ニ取戻シテ、年賦ニ依ツテ償還セシムルコトニ致シマシタ、又或ル軍部ニ於テ、土地約數千坪ヲ軍港ニ於テ、或ル團體ニ何等ノ契約ナシニ御貸下ニナツテ居リマス、是ハ二十五年度致シマスレバ、民法上當然其者ノ所有ニ歸スルノデアリマシテ、是ハ不届ナルモノナリトシテ回復ヲ圖リ、國家ニ歸屬セシメタル例、或ハ九州ニ於キマスル、熊本縣ノ八重山群島ニ於ケル國防林野數十萬坪ノ拂下ヲ致シマシテ、是レ國家ノ爲ニ害ガアリマスルカラ、之ヲ又取返シタ等ノ事實ガアリマス、斯ク致シマシテ、今日マデ決算委員會ニ依リマシテ、國家ノ利益ヲ回復致シマシタルモノハ決シテ少クナイコトヲ、茲ニ御報告申上ゲルコトヲ吾々ハ喜ブ者デアリマス、議會ノ存立及ビ議會ノ使命ハ一層是ヨリ重大ナルモノデアリマシテ、斯ル國家ノ損失ヲ防ギ、國政一新ノ實ヲ舉グルハ、主トシテ是等ノ實行豫算ヨリ立脚シタル所ノ政務ノ監督ヲスルニアリト、私共ハ斷言スルニ憚ラナイノデゴザイマス、現ニ豫算委員會ニ於テ失ハレタル國有財産ヲ、斯ノ如クニシテ回復シ得ルノハ、結局ハ決算委員會ニ依ルニアラザレバ斷ジテ爲スコトハ出來マセヌ、而シテ昭和九年度ノ歲出入ニ於キマシテモ、二十二億四千餘萬圓ノ龐大ナルモノデアリ、其九年度ニ國債ノ利息トシテ拂ハレタルモノノミデモ、四億三百餘萬圓ニ及ンデ居ルノデアリマス、此赤字公債ニ依リマスル利息ノミデモ、日本ノ地租、營業收益稅、所得稅、相續稅等ヲ悉ク國債ノ利息ニ充當スルモ今日足ラザルノ傾向ニアル、然ルニ赤字公債ヲ濫發シテ、帝國ノ前途ヲ如何ニスルカト云フコトモ、此一事ニ依ツテ之ヲ明ニスルコトガ出來ルノデアリマス、此龐大豫算ヲ實行致シマスルニ於キマシテハ、吾々ハ只今委員長ノ報告セラレマシタ所ノ結論ニ到達シテ、其附帶決議ヲ附シタ所以デアルノデアリマス、サウシテ先程言ハレタヤウニ、勅令及ビ法律違反ト致シマスルモノガ非常ニ多數デアアル、是等ハ

年々吾々ハ議會ヨリ託サレマシタル使命ニ基イテ、有ユル方法ヲ以テ是ガ改革ノ任ニ當ツテ居ルノデアリマス、第一各省ノ中デ一番目立ツテ面白カラズト認メルモノノ中ニハ、例ヘバ大藏省ノ專賣局ノモノモ、此中ニ織込マレルノデアリマス、例ヘテ申シマスルト、此決議ノ中ニ包含サレテ居リマスルガ、東京地方專賣局ガ東亞煙草株式會社ニ對シテ拂下ゲラレタル昭和九年度ノ煙草ノ拂下ニ於テ、輸出ト云フコトヲ名目ト致シマシテ、之ニ拂下ゲラレテ居リマスガ、其實ハ輸出デハナイノデアリマス、即チ之ヲ使用致シマスルモノハ、日本人デアリマス、即チ日魯漁業會社ト北樺太鑛業會社ニ對シテ、是ハ拂下ゲラレタノデアリマス、外國人ガ使ヒマスルナラバ、日本ノ煙草ノ輸出ト云フコトニナルノデアリマスルケレドモ、是ハ一私立會社ニ對シテ、日本人ニ販賣スルノデアアルカラ、内地ニ販賣スルト同一ナ價格ヲ以テ拂下ゲルノガ當然デアルト思フノニ、此拂下ノ價格ハ如何デアリマスルカ、眞ニ生産費ニ事務費ヲ加算シタモノダケニ依ツテ、之ヲ拂下ゲテ居ラレマス、ドウ云フ譯デ斯ウ云フ廉價ニ拂下ゲタカト云フコトニ付テハ、買受人ニ對シテ海外ノ運賃ヲ見込ンデ居ル、保險料ヲ見込ンデ居ル、關稅、輸出業者ニ對スル利益、仲繼人ニ對シテノ利益、小賣人ニ對スル利益、之ヲ含メテ居ルト云フコトデアリマスガ、其價格ハ一厘モ國庫ハ儲カラナイノデアアル、而モ其買受人ハ東京デ之ヲ受ケテ、芝浦ト横濱デ即時賣ツテ、數十萬ノ不當利得ヲ得テ居ルノデアアル、大藏大臣モ此處ニオ居デニナリマスガ、最近大藏行政ノ中ニ、專賣制度ノ擴張ヲ圖ラントセラルルノ聲ガ高イ、斯ノ如キ事ガ將來ニ行ハレマシタナラバ、專賣制度ノ惡弊、蓋シ大ナルモノアルヲ立證スルト言ハナケレバナリマセヌ、尙ホ又鹽專賣ニ於キマシテモ、本員ハ數年間ニ互リマシテ其弊害ト、是ガ革正ヲ叫ンデ居ルコトハ、皆様ノ御諒承ノ通りデアリマス、鹽專賣ニ於キマシテハ、即チ過剩鹽ヲ買込ミ、或ハ過剩ノ生産ヲシテ、而モ昭和九年、十年ニハ二百萬圓ノ豫備金ノ流用ヲ致シテマデ、斯様ナ事ヲサル、コトハ、將來是等ハ餘程御慎ミヲ願ヒタイト思フノデアリマス、又鹽ニ大藏省ノミデハアリマセヌ、今迄ノ例ニ依リマスト、豫算ヲ取ツテ年度末ニ於キマシテ剩餘ガ生ズル、其剩餘ハ殆ド國庫ニ是ガ返還、若クハ翌年度ニ繰越サレタル所ノ例ガ少イノデアリマス、ノミナラズ此過剩ニ要求サレタ豫算ハ、殆ド最後ニ



ハ浪費サレル、浪費サレテ尙ホ足ラズトシテ、遂ニ豫備金マデ支出シテ之ヲ浪費スル如キハ、此國歩艱難ニシテ、赤字公債ニ苦シム帝國ノ財政革新ノ爲ニハ、斷乎トシテ改メテ貫ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、又國民ノ納稅ニ關シマシテモ、大藏省ノ官吏ガ一部特權階級ト結託シテ、當然帝國ノ臣民トシテ、義務ヲ果スベキニ之ヲ果サズ、遂ニ脫稅疑獄ノ如キ重大ナル案件ヲ惹起シ、是ガ全國ニ波及シテ居ルト云フ狀況デアリマス、大藏大臣ハ御就任間モゴザイマセス、併シ庶政一新ヲ以テ理想トサレテ居リマス、現内閣ニ於テ、斯ノ如キ事ノ將來起ラザルヤウ、一網打盡ノ方策ニ出デラレルコソ、庶政一新ノ根本ト思フノデアリマス、次ハ内務行政ノ上ニ於キマシテ、私ハ簡單ニ申シテ置キタイト思フノデアリマス、内務行政ニ於キマシテハ、今期議會ニ於キマシテハ、有ユル方面ニ内務行政ノ失當ヲ攻撃サレテ居リマス、御承知ノ通りデアアル、過般モ申上ゲマシタガ、内務省ガ昭和九年度及ビ十年度ヲ通ジテ、第二豫備金ヨリ流用サレタル警察費連帶支辨金デアリマスガ、斯ノ如キ費用ハ、程度ニ依ッテ御使ヒニナルコトハ敢テ反對ヲ致シマセヌガ、斯ル費用ヲ濫費致シマシテ人權ノ蹂躪、官權ノ濫用トナリ、民心ノ惡化ヲ來サシムルガ如キ根源ヲ爲スコトニハ、斷ジテ反對シナケレバナラナイノデアリマス、中ニハ同省ガ當然徵收スベキ六十八万四千餘圓ノ如キモ、當然徵收ノ權利ガアルニ拘ラズ、資緣情實ト、放漫ナル態度トニ依ッテ之ヲ徵收セズシテ、國庫ニ損害ヲ與フル等、自己ノ本分ヲ行ハレル上ニ於テ、大ニ缺クル所ハナイノデアリマス、是等ノモノガ昭和九年度ニ於ケル、決算ノ上ニ現ハレルト云フコトヲ、私共ハ洵ニ遺憾ト致ス者デアリマス、是等内務行政ノ失態ノ爲ニ起ル損害ハ、國民自ラガ其損害ヲ受ケナケレバナラナイコトヲ、深ク御諒承相成リタイト思フノデアリマス、其他内務行政上ニ於キマスル事ニ付テハ、種々ノ問題ガアリマシテ、過般ノ委員會ニ於キマシテハ、内務大臣及ビ其他ノ政府委員トハ、徹底シタル質問應答ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、内務當局ノ將來ニ於ケル御反省モ、多少見ルベキモノガアラウカト思ヒマス、其邊ハドウカ決算委員會ノ速記録ニ於テ、御諒承ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、次ハ外務省所管デアリマスガ、外務省所管ニ付テハ、過般モ私ハ此席上カラ一言致シタノデアリマスガ、今ノ大臣ハ

御就任間モゴザイマセヌカラ、昭和九年度ノ決算ヲ審議スルニ方リマシテハ、現内閣、現大臣ニ向ッテ云爲スル譯デハゴザイマセヌガ、外務省所管ニ於キマスル在外使臣ノ網紀モ、相當案レテ居ルヤニ吾々ハ聞クノヲ遺憾ト致シマス、其例ト致シマシテハ種々アリマス、此處デハ申シマセヌ、即チ外地ニハ社會制裁ガ少イ、或ハ輿論ノ力ガ少イ、監督不行届ト云フコトガアリマス、之ニ由リマシテ内地ヨリモ動モスレバ網紀ガ案レ、人心弛緩致シマシテ、其結果官吏トシテノ本分ヲ忘レル者ガ、或ハ無キニシモ非ラズト云フコトニナルノデアリカ、例ヘテ見マスルト、青島ニ於キマスル一副領事ガ官金公金ヲ合計シテ三十三万餘圓ヲ費消シタルガ如キハ、以テ外地ニ於キマスル帝國使臣ノ腐敗墮落ノ大勢ヲ推知スルニ難クナイノデアリマス、今日所謂外國ニ居リマスル所ノ使臣ハ、帝國ノ國威國權ヲ代表シ、我が日本帝國ノ貿易産業ノ發展ニ死力ヲ盡シテ、其誠意ヲ竭シテ貫ハナケレバナラナイ、然ルニ拘ラズ斯ノ如キコトデアルト致シマス、ナラバ、ドウシテ我が日本ノ産業發展ト國威國權ヲ海外ニ發展スルコトガ出來ルデアリマセウカ、延イテ國民生活ノ安定ヲ確保スルコトモ、蓋シ難事ト云フコトニ相成ルノデアリマスマイカ、茲ニ外務大臣ノ此點ニ於キマスル所ノ根本ニ付テノ一大御反省ト、庶政一新ヲ理想トサレマスル外務大臣ノ大ナル御決心ヲ茲ニ及ボサレテ、以テ部下ヲ董督シ、官吏ノ本分ヲ自覺セシメ、更始一新ノ吏道ノ刷新ト樹立ニ努メラレンコトヲ願ヒタイノデアリマス、次ハ遞信省内部デゴザイマスルガ、遞信省ニハ本員等長ク當議會ノ責任ヲ受ケマシテ、決算ニ參加致シテ居リマスルガ、遞信省管内ニハ幸ニシテ批難スベキ事項ガナカタノデアリマス、然ルニ今回ニ於キマシテハ稍、是ガ生ジテ來タト云フコトハ、洵ニ之ヲ遺憾トスルノデアリマス、而シテ遞信省管内ノ不正事件ノ根源ガ何處ニ在ルカト申シマスルト、一等局ニハ少イ、是ガ今日制度ノ上ニ於キマシテ、最モ多キヲ思ハレマス、三等郵便局ノ中心ニ行ハレテ居ルノデアリマス、三等郵便局ニ於ケル所ノ官金ノ費消、或ハ印紙賣上代金ノ横領等ハ、悉ク三等郵便局ニ是ガ潜在シテ居ルノデアリマス、其三等郵便局ニ勤務シテ居ル所ノ今日ノ多クノ人々ガ、二十圓ノ初任給デ、三十六歳ニナラザレバ三十圓ノ俸給トナラザルト云フガ如キハ、今日遞信行政ノ上ニ於テ大イニ御考ヲ



下サツテ——是等我ガ日本ノ遞信事業ノ爲ニ奮闘努力スル所ノ中産以下ノ民衆ガ三十圓、二十圓  
 デ如何ニ致シマスルカ、此點ハ遞信行政ノ根本改革ヲ促サナケレバナリマセヌ、是ガ吾々ガ決算  
 委員會ニ於テ得マシタル所ノ遞信行政ニ對スル根本義デアッタノデゴザイマス、次ニハ海軍省ニ  
 對シマシテ簡單ニ私ハ其批判ヲ試ミタイノデアリマス、海軍省ノ歳出入ニ付キマシテハ、御承知ノ  
 通り相當ナル金額ニ上ツテ、近時軍備ノ擴張、軍事費ノ膨脹トナツテ居リマスルガ、併シ海軍省ノ決  
 算ニハ、私共ハ數年ノ間是ガ檢討ヲ試ミマシタガ、近來海軍省ノ實際ノ批難スベキ事項ガ非常ニ  
 減少シテ居ルノデアリマス、減少シテ居ルカラ必シモ海軍省ノ内部ガ完全無闕トハ申シマセヌ、  
 併ナガラ今マデ吾々ガ審査致シマシタ中デ、段々ニ減少致シテ來ルト云フコトハ、洵ニ欣ブベキ  
 コトデアリマシテ、尙ホ一層海軍當局ハ努力ヲサレテ、今後吾々ガ此議場ニ於テ批難スルコト  
 ナカラシメルヤウニ、一段ノ御努力ヲ願ヒタイノデアリマス、併ナガラ昭和九年決算中、造船造  
 兵及修理費中、海軍省經理局ノ支出ニ係リマスル二十二萬三千餘圓ノ件及吳海軍經理部ノ支出ニ  
 係リマスル事件ノ如キハ、斷ジテ之ヲ默認スルコトノ出來ザル事件デアアルコトヲ御含ミ置キテ  
 願ヒタイノデアリマス、是等ガ今吾々ガ附帶決議ヲ致シマシタ所ノ根本ノ中ニ潛在シテ居ルコ  
 トヲ御諒承願ヒタイノデアリマス、尙ホ陸軍省ニ付キマシテ簡單ニ申上ゲタイ、近時軍事費ノ増  
 加ニ伴ヒマスルト云フコトガ原因デアアルカドウカハ、未ダ明確デハゴザイマセヌガ、不法不當ト認  
 メザルヲ得ザルモノノ稍、多キハ、洵ニ本員等ノ遺憾ト致ス所デアリマス、即チ造兵廠小倉工廠ノ  
 支出ニ係リマスル金五十四萬五千餘圓ノ問題ハ、銃身其他ノ購入代金デアリマスルガ、其見積價  
 格ハ種々ノ御辯明モゴザイマシテ、是モ亦聞ク所一理ハアリマスガ、サリナガラ其價格ノ、單價  
 ノ高キニ失シマスコトハ、何人ガ見マシテモ、常識カラ見テ是ハ當然デアリマシテ、此點ニ對シ  
 マシテハ、其不當ナルコトヲ洵ニ遺憾トスルモノデアリマス、尙ホ又歳出經常部軍事費中、被服本  
 廠ノ支出ニ係ル金三十五萬九千餘圓ノ件、防毒面購入ニ當リマシテ、是亦隨意契約ニ依ツテ日本化  
 工及藤倉工業兩會社ヨリ御買上ニナツテ居リマスルガ、此購入單價ニ於キマシテモ、有ユル方面  
 ノ實情ヲ精査致シマシテ、是亦單價ノ多大ニ高キコトヲ立證スルモノデアリマシテ、斯ル物品購

入上ノ不法、或ハ不當ニ近キ行爲ハ、將來是ハ御慎ミテ願ツテ、國民負擔ノ輕減ニ邁進セラレシ  
 トヲ願ヒタイノデアリマス、又滿洲事件費中ニゴザイマス陸軍經理局ノ支出ニ係ル六十一萬二千  
 餘圓、自動車用ノ揮發及航空機用ノ揮發、一ハ十六萬餘圓ノ代金、一ハ六萬餘圓ノ代金デアリマシテ、  
 昭和九年五月、關東軍野戰航空廠ガ滿洲航空會社ヨリ購入ニ係ルモノデアリマシテ、當時同地方  
 ノ相場ト相對比致シマスル時ニ於テ、本價格ハ相當ノ高價ニ過ギ、國庫ニ相當ナル損害ヲ與ヘタ  
 ルヤノ疑ヲ挾ムコトヲ、洵ニ遺憾ト致スノデアリマス、次ニ同ジク陸軍省經理局支出ニ係ル四  
 十萬七千圓、昭和九年六月二十三日カラ七月二十五日ノ間、隨意契約ニ依リ株式會社松村組ニ  
 對シテ請負ヲ爲サシメタル所ノ、滿洲ニ於ケル營舎ノ新築デアリマス、他ニオ造リニナリマシタ  
 同一規格ニ於キマシテ、即チソレニ比較致シマシテ、其價格ダケハ非常ニ高イト認メルノデアリ  
 マス、是等モ深ク思ヒテ致サレマシテ、今後吾々ガ斯ル批難ヲ致スコトガナキヤウニ、十分ナル  
 御留意アリタイト存ズルノデアリマス、其他或ハ關東軍哈爾濱ノ倉庫ニ對シマスル燕麥ノ購入  
 等モアリマスルガ、是等ハ省略致シテ置キマス、要スルニ私共ノ想ヒマスルノニハ、顧ミマスレ  
 バ儘カ明治三十三年ト思ヒマスガ、貴族院ニ於キマシテハ旭川ノ兵營、即チ木造、其金額ハ僅ニ九  
 萬圓デアッタ、ソレヲ隨意契約デシタノハ、不屈デアアルト云フノデ、遂ニ上奏案提出ノ議マデ上ツタ  
 事件ガゴザイマス、其當時公入札ニ依ラズ隨意契約ニ依ツテ、僅ニ八九萬圓ノ旭川ノ兵營ヲ請負  
 ハシテ建設セシメタト云フ一事ヲ以テ、上奏案マデ提出サレントシタ事ヲ回想シテ、今日ノ議會  
 ニ於ケル所ノ有様、今日ノ政府ノ態度ハ如何デアリマス、即チ私共ガ今舉ゲマシタダケデモ其金  
 額ハ莫大ナルモノデアアル、今委員長ノ總計サレタ金額ハ莫大ナルモノデアアル、是等ニ對シテ議會  
 及ビ輿論ノ監視ト、此輿論ノ之ニ對シマスル制裁ガ薄クシテ、而モ政府ハ、此決算委員會ニ於ケル  
 總テノモノヲ、頗被リテ通ラントスルガ如キハ、明治三十三年當時ノ日本ノ政府及帝國議會ノ慎  
 重審議ノ結果ト綱紀ノ程度ヲ相對比シテ、思ヒ半バニ過グルモノアルノヲ、遺憾トスルノデアリ  
 マス、拓務省ニ於キマシテ簡單ニ申シテ置キタイ、即チ拓務省モヤハリ先程申シマシタ外地ニ  
 屬シマスル點ガアルノデ、此點ニ於キマシテヤハリ相當ナル批難ノ點ガアリマスルト云フコト



ヲ、私共ハ遺憾ト致スノデアリマス、即チ拓務省ハ、御承知ノ通り新領地デアリマシテ、社會ノ制裁、輿論ノ制裁ガ少ナイノデアリマス、是ニ於キマシテ網紀案亂ニ屬スベキ點ノ多クアリマスルコトヲ、是亦吾々ハ遺憾トスルノデアリマス、御承知ノ通り數年前ニ起リマシタ樺太ノ森林不當拂下問題、又現在ニ於キマシテモ樺太ヲ中心トシテ森林拂下ノ不當事件ハ多數ニ上ツテ居ルノデアリマス、又朝鮮ニ於キマスル所ノ、例ヘテ見マスレバ朝鮮總督府草梁土木出張所ノ支出ニ係リマスル二百十四万九千餘圓ノ事件ノ如キ、既ニ洛東江ノ洪水防禦ノ爲ニ造ラレタ築堤工事ニ對シテ、其モノガ或ル程度ノ洪水ヲ見込デ是ガ築堤ヲ致シマシタルニ、其僅カナ洪水ニ於キマシテ、其兩期前ニ完成シタル工事ガ數箇所、數十米ノ決潰ヲ來シタ、是ガ實際ヲ點檢致シマスレバ、工事ノ手抜き、工事ノ杜撰、實ニ其間ニ言フベカラザル不正ノ潜在ニ依ッテ、形ダケノ工事ガ完成サレタモノデアアル結果ガ、此非常ナル損害ヲ來シ、此洪水ノ爲ニ受ケマシタ洛東江沿岸ノ朝鮮民ノ被害ヤ、蓋シ大ナルモノガアッタコトハ御承知ノ通りデゴザイマセウ、是等ニ於キマスル工事ノ實相ニ付テハ、吾々ハ長ク之ニ對シテ反省ヲ促シ來ッタコトハ、御承知ノ通りデアリマスルガ、尙ホ斯ル工事ニ對スル驚クベキ不正事件ノ潜在シテ止マザルコトヲ、洵ニ遺憾ト致スモノデアリマス、更ニ或ハ臺灣總督府ノ官有物貸下、或ハ同拂下ノ不正事件、工事ノ不法請負事件、物件工作費ノ不當支出事件、或ハ租稅ノ未納ノ多數ニ上ル事件ノ如キハ、各地ニ於キマスル網紀官紀ノ紊亂ノ實情ヲ物語ルモノデゴザイマシテ、本員ト致シマシテ洵ニ遺憾痛惜ニ感スル所デアリマス、樺太ノ森林拂下ノ不正事件ニ於キマシテモ、數年來本員ハ是ガ改革打開ノ爲ニハ、有ユル壓迫ヲ顧ミズシテ闘ツテ參ツタノデアリマス、其跡ヲ今日ニ於テ尙ホ絶タザルト云フコトハ、國政ノ上ニ於テ洵ニ遺憾ニ堪ヘマセヌ、例ヘバ元泊林務署ノ中村某外數名ニ拂下ゲタル所ノ一万三千立米ノ林木拂下ノ不正事件ノ如キ、或ハ豐原林務署ノ拂下ニ依ル不當事件ノ如キ、或ハ留多加林務署ノ不當事件ノ如キ、即チ眼ヲ樺太ニ向ケテ見マスルナラバ、其實ニ不正ノ潜在スルコト、斯ク多數立證シ得ルコトハ、洵ニ遺憾トスルモノデアリマス、尙ホ政府ノ怠慢ヲ茲ニ申上ゲナケレバナラスノハ、數年前本員ガ樺太林業株式會社ニ樺太廳ガ拂下ゲタ其林木拂下代二百萬

圓ノ拂込ヲ怠ツテ居ルカラ、之ヲ速ニ回收セヨト政府ニ本員等ハ二年間ニ互ツテ獻言シテ居ルニ、未ダ此二百萬圓ノ回收ガ出來ザルガ如キハ、此會社ト時ノ政府若クハ要路ト、言フベカラザル何等カノ關聯ノアルコトヲ、茲ニ立證スルモノデアリマセヌカ、網紀官紀ノ紊亂茲ニ至リマシテ蓋シ大ナリト言ハナケレバナリマセヌ、尙モ官吏タルモノハ國家ノ善良ナル官吏トシテ、國家ノ總テノ利害ヲ打算シ、以テ國民生活ノ安定ニ臨ムベキコトハ、今日官吏ノ道タル眞ノ本道ト言ハナケレバナリマセヌノニ、斯ルコトヲ吾々ガ此議場ニ明ニシナケレバナラスコトハ、國家ノ爲洵ニ痛憤ニ堪ヘザル所デアアルコトヲ申上ゲテ置キタイノデアリマス、文部省ノ如キニ於キマシテモ、本員等ハ未ダ曾テ文部省ノ行政ニ付テハ、殆ド一言半句申サナクモ事ガ濟ンデ居ッタノデアリマス、然ルニ今回ノ決算ニ當リマシテ、此文部省ノ管轄ニ於キマシテ、多少不正ト認定スベキモノノ數項ガ現ハレタト云フコトハ、洵ニ私共ハ之ヲ悲シム者デアリマス、民心ノ惡化ト政界ノ腐敗墮落ノ一部ヲ、表徵スルモノデアアルカドウカハ私ハ知リマセヌガ、物品購入ニ當リマシテ國庫ニ莫大ナル損害ヲ與ヘタルコト少クハアリマセヌ、殊ニ官立學校ノ如キハ網紀ガ段々ニ紊レテ、ソレ等ノ弊害ヲ今回吾々ガ茲ニ批難シナケレバナラヌ所ノ事實ガ、舉ツテ居ルコトヲ遺憾ト致スノデアリマス、學校ノ騷動、博士論文ノ賣買、博士號獲得不正事件、金力ニ依ル地位ノ上下等、國民ノ精神ト、智能上ノ軌範タルベキ重大ナル責務ノアル文部行政ガ、斯様ニ墮落セント致シマスルニ至ツテハ、吾々ハ將來ノ爲メ洵ニ遺憾痛惜ニ存ズル次第デアリマス、文部大臣ハ即チ庶政ヲ一新シ、民心ヲ緊張セシメ、以テ立國ノ本義ニ依ル所ノ民心ノ改革、民心ノ教化ヲ圖ラント爲サレマスルコトハ、吾々ノ多トスル所デアアル、併ナガラ宜イ加減ナ言葉ノ上ニ於キマスル言動デハ、是ガ改革ハ出來マセヌカラ、宜シク益進ニ理想實現ニ猛進アラントコトヲ望ミタイノデアリマス、最後ニ私ハ鐵道省ニ付テ一言申サナケレバナラナイ、鐵道省ノ問題ハ長キニ互リマスル問題デ、皆様既ニ御承知ノ通りデアリマス、鐵道省ハ我國ニ於キマスル所ノ唯一ノ營業省デアリ、收益省デアリ、事業省デアリマス、隨テ此處ガ犯罪ノ巢窟トナリ、即チ伏魔殿化スルト云フコトハ、通常ノ人情ヲ以テスレバ當リ前カモ知レナイ、併シ鐵道省ヲ國有鐵道ニサレ



マシタ以前ノ仙石鐵道總裁ノ理想カラ立脚致シマシテ、今日ノ鐵道ノ内部ニ於ケル綱紀紊亂ヲ見テ、果シテ如何ナル感ジガサレマセウヤ、即チ此伏魔殿デアリマスル所ノ營業者デアアル鐵道省ト云フモノニ對シ、十數年ノ間本員ガ摘發致シマシタル事項ノ中ニハ、約九年間ニ互ツテ其不正不法ト認定スベキモノガ、一年間三千万圓乃至三千三百万圓ニ及ンデ居リマス、此由ツテ來ル弊害ハ御承知ノ通り、工事請負ノ不正事件ニアルト云フコトヲ痛感シ、是ガ根絶打開ノ爲ニ本員等微力デモゴザイマセウガ、全力ヲ之ニ傾注シタ、之ニ依リマシテ、時ノ大臣ノ非常ナル御熱心ト御力デモゴザイマセウガ、其三千万圓以上ノ不正ノ工事、事業ニ因ル國家ノ損害ガ、昭和八年度ヨリ僅ニ二十五万圓ニ止マッタト云フコトハ、決算委員會ニ於ケル所ノ即チ權威ト、其責務ノ蓋シ重大ナルモノヲ立證シ、國家ノ爲ニ益スルコト少クナイト信ズルノデアリマス、併ナガラ是等ニ依リマシテ一部ノモノハ改革ガ出來マシタ、之ニ依ツテ綱紀ノ一部ノ肅正ハ出來マシタガ、此長キニ互ル所ノ病根ハ未ダ之ヲ排除スルニ由ガゴザイマセヌ、此以前ノ鐵道大臣内田氏ニ、私ハ決算委員會ニ於キマシテ、鐵道ヲ國有ト致サレマシタ當時ノ理想ヲ述ベ、以テ鐵道大臣ノ理想ヲ實現サル、ベク、其實現ノ方法ニ付テ私ハ委員會ニ於テ懇談ヲシタ、其當時ハ、既ニ内田サンノ時ニハ一面ニ於ケル不正工事ノ方ハ改マッタノデアリマス、是ニ於テ我ガ鐵道省ノ利益ハ之ニ依ツテ利益ヲ受ケルコト三千万圓以上デアリマス、斯クテ今年度ニ於キマシテハ、斯ルモノニ類スル不正不當ト認定サレタモノハ只ノ一ツモナイ、是ハ帝國議會ハ決算委員會ト云フモノヲ輕ンジ、政府亦之ヲ輕ンジマスルガ、國政一新ノ實ハ之ニ依ラナケレバナラヌコトハ、之ニ依ツテ立證スルコトガ出來ルデアリマセウ、併シ鐵道省ニ於キマシテ殘サレタ問題ハ、唯鐵道ノ事業ヲ一ツノ私立會社ニ獨占セシメテ居ルコトデアリマス、工事請負方面ハ改マッタガ、マダ其病腫ノ一部ガ殘ツテ居ル、之ヲ私ハ前ノ内田鐵道大臣ニ至誠ヲ披瀝シテ改革ヲ御頼ミシタノデアアル、是ニ於テ内田サンハ、是ハ速ニ直サナケレバナラヌトシテ、之ニ鐵槌ヲ下サレタ、サウシテ一部會社——國際通運ニ對シテ一年間約百二十万圓ノ費用ヲ削ラレタノデアリマス、併ナガラ之ニ依ツテ未ダ獨占事業ニ對スル國家ノ損害ノ悉クガ、除去サレタノデアアリマセヌ、仍テ一層鐵道大臣ニ向ツテ是ガ一

大改革ヲ願ハナケレバナラナイ、今日國際通運ニ對シテ、帝國ノ鐵道ガ爲サナケレバナラヌ所ノ事業ノ一部ヲ彼等ニ爲サシメテ、莫大ナル利益ヲ彼等ニ與ヘテ居ル、其利益ハ私ノ推算スル所ニ依レバ、一年間約七百万圓ト見テ居ル、斯ルコトヲ居ル、サウシテ是ハ諸君、アノ戶口カラ戶口マデト云フ配達ノ貨物或ハ小口扱デアリマス、是等ノモノヲ利用スル者ハ誰デアリマスルカ、都會ニ於キマスル中小商工業者其モノデアリマス、ソレダケノモノヲ、此不勞利得者ニ向ツテ莫大ナル利益ヲ占有セシムルナラバ、何故ニ中小商工業者大多數ノ運賃ノ低下ヲ圖ラナイカ、私ハ今議會ニ於キマスル決算委員會ニ於テ、此事ニ付テ前田鐵道大臣ト懇談ヲ致シマシタ、前田鐵道大臣ハ流石ニ政黨出ノ方デアツテ、能ク事ガ御分リニナツテ、斯ル不正、斯ル不當ト認定スベキモノ、多數ノ民衆ノ不利益トナルベキモノハ改革ヲシテ、以テ國益ヲ圖ルコトハ當然デアアルカラ、微力デアアルガ、之ヲ斷行スルト言ハレタヤウニ承ツテ居ル、是レ國務大臣トシテ斯クアルベキコトトハ存ジマスガ、之ヲ改革致シマシテ、其獨占事業ヲ打破シ以テ——一驛一店主義トアツテ、地方ニハ有ユル鐵道省ガ認定シテ居ル所ノ指定運送店ガアリマスルカラ、何ノ必要ガアツテ屋上屋ヲ重ネル、不勞所得階級デアリマスル國際通運ノ如キ存在ノ必要ハアリマセウ、是等ノ如キモノ國務大臣ハ斷乎タル決心ヲ以テ、是ガ改革ノ任ニ當ラレルニアラズンバ、國政一新ト云フコトハ唯掛聲ノミニ終ランコトヲ恐レルノデアリマス、斯クシテ吾々ハ鐵道省ノ改革ニ付キマシテ、過般來申上ゲマシタル、所謂國務大臣ノ御言葉ト、茲ニ申上ゲル國家ノ所謂國民代表ノ帝國議會ガオ互ガ之ヲ認識シテ、是等惡政ノ打開ニ努メルト云フコトハ、吾々ノ努ムベキ當然ノ責務ト存ジマス、尙ホ同省ガ買入レマシタ「ポイント」或ハ枕木六万餘挺ノ二十三万餘圓ヲ始メ、或ハ大湊木材會社ヨリ買入レタル所ノ、不當ニ高價デアアル所ノ材木、或ハ三井物産ヨリ購入シタル車輛用ノ檜材ノ如キハ、實ニ不當ノ値ニ買入レテ、國庫ニ莫大ナル損害ヲ與ヘテ居ルコトモ許スベカラザルコトデアリマス、又鐵道省ガ不必要ノ鐵道公債、昭和九年度三千七百四十餘万圓ヲ發行シ、是等ノモノノ如キハ、歲出入ノ上カラ致シマシテ、一切此金ハ不用デアアル、然ルニ拘ラズ三千七百餘万圓ノ不用ナル公債ヲ發行シテ、之ヲ濫費スルト云フニ至ツテハ、鐵道省内ニ於キマスル不



正、不當、綱紀紊亂ヲ立證スルモノデアツテ、洵ニ其統制ハ那邊ニアリヤト吾々ハ疑ハザルヲ得マセヌ、又鐵道省ガ今日ニ於キマシテ、前ノ勅任或ハ高等官ガ續々トシテ引致サレル、是等ハ元本員等ガ申シマシタ工專請負ノ不正事件デアアル、鐵道省内ニ於キマスル執行豫算ヲ漏洩シテ、一部ノ不當請負師ト結託シテ莫大ナル不當利得ヲ得ツ、アツタ如キ、即チ是デアアル、其事件ノ殘リノ一部ガ、今日司法官憲ノ發動トナッタノデアリマシテ、是ハ略、絶滅サレル時ガ遠カラズト私ハ思フノデアリマス、而モ此引致サレタ高等官或ハ勅任技師ノ中ニハ、現職ニアル者ガ自分ノ部下ヲシテ之ヲ爲サシメタ形跡ハナイカ、若シアリマスレバ、此庶政一新ヲ標榜スル、現内閣ノ下ニ、鐵道省ノ如キ官紀紊亂、綱紀ノ類廢ヲ一掃スルコトアラズンバ、是亦現内閣成立ノ使命ハ何レニアリヤト國民カラ疑ハレルデゴザイマセウ、此邊ヲ能ク御諒承ニ相成リマシテ、一網打盡、以テ鐵道改革ノ方針ニ出ラレンコトヲ願ヒタイノデアリマス、次ハ最後ニ農林省ノ問題ニ關聯シテ一言申シテ置キマス、農林省ハ昨年山崎農林大臣ガ御出席ニナリマシテ、又今回政友會ヨリ代表シテオイデニナツタ島田サンニモ、此事ヲ能ク申上ゲタノデアリマスルガ、歴代ノ大臣ガ農林省ノ重大事件ニ關シテハ答辯ヲ避ケテ、成ベク出席シナイカラ、審議ガ進メラレヌト云フコトデ、其儘不問ニシタナラバ、帝國議會ノ使命、帝國議會ノ存立ノ意義ハ、何レニアリマセウカ、吾々ハ有ユル壓迫ト、有ユル干渉ト、有ユル厭ガラセラ受ケテ居リマス、併ナガラ國民ヲ代表シテ國家ノ利益ヲ圖ルニ於テ之ヲ致スコトガ、眞ノ議會ノ使命、立憲政治ノ本義ナリトシテ、之ヲ斷行セザルヲ得ナイノデアリマス、是等ニ對シマシテハ、私共ハ飽マデ農林省當局ノ御勉勵ト、善處ヲ願ハナケレバナラス、農林省ガ地方ニ對シマスル土地改良補助金、或ハ地方農村救濟費等ニ交付サレル金ノ出シ方ハ、非常ナ不公平ト、不當ト、不正ガ潛在シテ居ルコトデアリマス、次ハ最後ニ農林省ニ之ヲ申シテ置カナケレバナラヌ問題ハ、過般ノ委員會デアハ、近々ニ最後ノ解決ヲ致シマスルト云フ御言明ヲ爲サレタノデアリマス、其事件ハ何デアルカ、後藤農林大臣時代カラ殘ツテ居ッテ、後藤農林大臣ノ如キハ、其當時ノ決算委員會ニハ一回モ御出席ニ相成ラナイ、如何ニ申シマシテモ、言ヲ

左右ニシテ出席シナカッタノデアリマス、此事件ハ内容ガ如何ニ重大ナルモノデアアルカト云フコトハ、御察シガ出來ルデアリマセウガ、其金額ハ實ニ一千六百七十七萬圓、國家ガ收納スベキモノヲ一私立會社ニ與ヘテ、此收納ノ義務ヲ強制セズ、此一言ニ盡キテ居ルノデアリマス、一千六百七十七萬圓ハ如何ナル金額デアリマスカ、往年議會ノ解散危キ時ニ當ツテ、豫備金一千萬圓デ、議會ハ相當ニ是ガ柔和トナリ、是ガ軟カクナッタノデアリマス、國民ノ利益ヲ圖リ、農村ノ爲ニ之ヲ使用スルナドト言ツテ、帝國議會トシテモ此一千萬圓ノ金ハ容易ナラザルモノデアアル、然ルニ一私立會社ニ之ヲ與ヘテ、政府ガ當然徵收スベキモノヲ徵收セズトナッタナラバ、帝國ノ綱紀、法治國ノ基礎ハ何處ニアル、是ハ即チ、神戸ノ旭「シルク」會社ト農林省トノ滯貨生絲拂下ノ問題、即チ是レデアリマス、是ハ今農林當局ハ遠カラザル間ニ必ズ解決致シマスト云フ御言葉デアリマスカラ、私ハ之ヲ信賴シテ多クハ申シマセヌ、併シ愚圖々々シテ居ルト云フト遂ニ期限ガ來ル、其期限ノ來ルノヲ待チツ、アルト云フ、私ハ觀察ヲ致シテ居ルノデアリマス、五箇年間致シマスレバ、民法上ノ契約ハ無効トナル、其期ヲ待ツ爲ニ三年、四年掛ツテ、日本ノ政府ガ法律上ノ解釋ガ出來ヌト仰セニナツテ居ル、何ト云フ不可思議デ、何ト云フ怪訝ナル帝國政府ノ行動デアリマスカ、此點ハ議會ト致シマシテ看過スルコトノ出來ヌ重大問題デアリマス、是ニ於キマシテ私ハ各省ニ互リマスル所ノ、即チ今後ノ政治ノ改革、政務ノ改革ノ斷行ノ基礎ヲ茲ニ置カレタイト私ハ申上ゲテ居ルノデアリマス、皆サンハ豫算委員會ニハ總テヲ集注サレテ、俺モ豫算委員タラントセラレル方ガ多數アリマセウガ、豫算ノ中ニ於テ豫算ニ現レズシテ、今日ノ國民ノ膏血ヲドウ云フ方法ニシテ之ヲ搾ツテ居ルカト云フ一事——澤山申上ゲマスレバ時間ガアリマセウカラ申上ゲマセヌ、唯一ツノ例トシテ申上ゲマシテモ、思ヒ半バニ過グルモノガ私ハアラウト思フノデアリマス、諸君ガ豫算ノ御審議ノ時ニ、例ヘテ見マスルト、官吏ニ對スル賞與ト云フ款項目ガゴザイマスカ、何モアリマセヌ、其款項目ガナイカラ、即チ政府ハ他ノ款項目デ多數ノ金額ヲ取ツテ、其金額デ以テ之ヲ賞與ニ充當シテ居ル、不自然ニシテ、不條理ナル行動デアアル、是等ハ豫算委員會、帝國議會ヲ侮辱シ、之ヲ



輕視シ、之ヲ瞞過シテ居ル事實ノ一ツデアリマス、是レ豫算ト云フモノハ空理空論ヲ闘ハスニ止ツテ、實際ニ觸レザルコトヲ立證スルモノデアリマス、ソコデ其金額ニ付テ私ハ申上ゲマスナラバ、即チ一ツハ賞與トシテ御取りニナリマスノガ、外務省ガ十三万五千餘圓デアリ、内務省ガ百五十五万圓デアリマス、大藏省ハ五十六万餘圓デアリ、陸軍省ハ八百四十一万餘圓デアアル、又司法省ハ百六十四万圓デアリマス、文部省ガ八万餘圓、農林省ガ二十九万餘圓、商工省ガ三十二万餘圓デアリ、海軍省ガ七百五十一万圓デアアル、又逓信省ハ二十九万六千餘圓、拓務省ハ二万圓、之ヲ總計致シマスルト、實ニ二千八十二万圓ト云フ多額ニ上リマスガ、豫算ヲ編成シ、豫算審議ノ時ニ、此二千餘万圓ノ龐大ナル金ハ何ニ依ツテ御審議ニナルカ、是ハ決算ニ依ルニアラズンバ明カナラザルモノニシテ、帝國ニ於ケル一ノ損害デアアル、斯ルコトヲバ今日マデ吾々ガ看逃シテ居タト云フコトヲ洵ニ遺憾トスルノデアリマス、而シテ今日決算ヲ審議スルノニハ、會計検査院ハ一年間ヲ費シテ居リマス、然ルニ吾々帝國議會ニ提出スルニ、政府ハ僅ニ三週間ノ期日ヲ以テ此龐大ナル歳出入ヲ審議セヨトハ何事デアリマスルカ、是ニ於テ吾々ハ決算審議即チ是迄ノヤリ方ヲ根本ヨリ改メ、議會ノ權能ヲ擴充シ、以テ是ガ國政變理ト國政監督ノ本分ニ付テ猛進スルノ一大政策ヲ立テナケレバナリマセヌ、是等ニ對シテモ政府ハ庶政一新ヲ高調サレテ居リマスルカラ、此點ニ付テ能ク議會ノ検査、議會ノ監査、議會ノ審定ヲ御受ケニナルダケノ政府ニ覺悟ガナクテハナラヌ、本員ガ議會デ之ヲ申セバ、福田ノ言ハ怪シカラヌト云フテ之ヲ重壓セントスル傾向ガアル、是ハ何事デアリマスルカ、何タル墮落シタ所ノ事デアリマスカ、今日我が日本帝國ノ二十三億餘圓ノ金ハ、悉ク日本國民全體ノ膏血デアリマセヌカ、此膏血ニ對シマシテ審議ヲ致シマスルノニハ、吾々ハ慎重審議以テ、善イコトハ之ヲ是トシ、惡シキコトハ之ヲ非トシテ判定シ、國民ノ歸趨スル所ヲ示スノガ帝國議會ノ採ルベキ當然ナ途ナリト信ズルノデアリマス、是ニ於キマシテ私ハ決算委員會ハ、何處マデモ繼續委員會ト致サナケレバナラヌ、會計検査院ガ一年間ヲ費シテ之ヲ御審議ナサルノヲ、吾々ニ向ツテ三週間ヤソコラデ以テ審議セヨトハ不可能ヲ強ユルモノデアリマシテ、本員等ノ調査モ亦杜撰ニシテ疎漏タルヲ免レマセヌ、此點ハ私ハ委員長初

メ、各委員ノ努力ノ足ラザルニアラズシテ、政府ガ此短イ期間ニ是ダケノ龐大ナル審議ヲ強ユルコトガ間違ッテ居ルト思フノデアリマス、茲ニ此事ヲ申上ゲテ置キタイ、ソレハ會計検査院ニ於キマシテモ費用ガ足りマセヌ、是ガ改革ヲシナケレバナリマセヌ、會計検査院ハ天皇直屬ノ權能ヲ持チ、内閣ノ容喙スル所デアリマセヌガ、今日此缺點ヲ見マシタ以上、會計検査院ノ制度ノ根本モ改メナケレバナラナイ、其一ツハ滿洲事件費ノ中ノ或ル費用ヲ調査シヨウト思ツタガ、其費用ガナイ、ソコデ商工會議所デ調ベタガ、果シテ商工會議所ノ調ガ何ノ信憑ガアルノカト云フノガ一面カラノ攻撃デアリマス、原被兩告ノ訴訟ノ内容ヲ見テモ、費用ナキ爲ニ會計検査院ハ滿洲ニ出張シテ、其價格ノ實際ヲ調査スルコトガ出來ヌト云フ如キハ、會計検査院ノ眞ノ權能ヲ全ウスルヲ得ザル所以デアリマスルカラ、會計検査院ノ根本ノ大改革ヲシナケレバナリマセヌ、同時ニ議會ノ權能——會計検査院タル原告官ト、政府デアアル被告官ト此帝國議會ノ議場ノ面前ニ喚寄セテ、二者ノ説ヲ聽取シテ公明ナル判斷ヲ下シ得ルコトヲ議會ノ權能トシナケレバナラヌ、是ハ私ハ是非此方法ニ改メタイ、又會計検査院ノ向上、内部ノ充實モ必要デアリマスガ、會計検査院ノ検査官モ今日ハ相當腐敗墮落シテ居リマス、洵ニ日本ハ監督ノ上ニ監督ガ要リ、又其監督ガ要ル、全ク監督倒シ、是ハ民心ノ惡化ト綱紀ノ紊亂ヲ立證スルモノデアリマスマイカ、ダカラ會計検査院ガ茲ニ御報告ニナツタカラト言ウテ、吾々ハソレノミニ依ツテ總テノ審議ヲ進ムベキモノデハゴザイマセヌ、私共ガ數年間ニ互リマシテ、大藏或ハ鐵道行政ノ改革等ニ於キマシテハ、其材料ハ會計検査院ヨリ持ッテ來タモノデアリマセヌ、他ノ方面ヨリ材料ヲ蒐集シ、其事實ヲ擧ゲテ一年間三千万圓以上ノ不正不義ヲ是正スルコトガ出來タコトヲ立證シテ置キタイ、又決算ニ於キマシテ、議會ハ二層之ニ重キヲ置カレマシテ、今後ノ決算審議ニ於キマシテハ、總テノ點ヲ豫算委員會ト同一ニ取扱ハレマシテ、議員皆様モ御多用デハゴザイマセウガ、特ニ重キヲ置カレテ國家ノ爲ニ貢獻ヲシテ戴キタイト思フノデアリマス、尙ホ英國政府ハ豫算ノ方ハ賣リマセヌケレドモ、御承知ノ通り決算委員會ノ審議録ハ、英國ハ實費ヲ以テ國民全般ニ販賣致シテ居リマス、此事ハ是非之ヲ實行サセタイ、決算委員會ニ於キマシテコソ、政府ノ行ウタ事實ニ付テ帝國



議會ガ指導監督權ヲ行使致シマシテ、其審定ヲスル、ドチラガ是デアルカ非デアルカ、國政ニ如何ナルモノデアルカヲ知ラシムルノハ、此決算委員會ノ會議錄ニ依ッテ國民ガ初メテ知り得ルノデアリマシテ、英國ハ流石ニ立憲國ノ模範國デアリマシテ、數十年前ヨリ決算委員會ノ會議錄ハ悉ク之ヲ國民ニ販賣致シテ居ルノデアリマス、以上ヲ以テ私ハ昭和九年度ノ總決算及ビ國有財産増減ニ對シマシテ、先程委員長ノ報告サレマシタ附帶決議ヲ附シマシテ、之ニ賛成セントスル者デゴザイマス、何卒皆様モ滿場御一致ノ御賛同アラントラ御願致シタイノデアリマス

起立採決ノ結果本件ハ委員會報告ヲ是認スルニ決ス

### 第二 國有財産増減總計算書

#### 一 昭和九年度國有財産増減總計算書

右ハ昭和十一年五月六日提出ス委員會ハ審査ノ末本件ヲ是認スヘキモノト決シ同月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月二十四日本件ハ昭和九年度決算ト一括シテ院議ニ付シ(本項第一參看)院議異議ナク委員會報告ヲ是認スルニ決ス

### 第三項 承諾ヲ求ムル議案

#### 一 昭和十一年勅令第七號(災害善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件) (承諾ヲ求ムル件)

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第七十條第一項ニ依リ災害善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十一年二月十二日

- 内閣總理大臣 岡田 啓介
- 大藏大臣 高橋 是清
- 內務大臣 後藤 文夫
- 海軍大臣 男爵大角 岑生
- 外務大臣 廣田 弘毅

第二章 議事

第三節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第三項 承諾ヲ求ムル議案 三三三



司法大臣	小田原直
商工大臣	町田忠治
農林大臣	山崎達之輔
鐵道大臣	内田信也
拓務大臣	伯爵兒玉秀雄
陸軍大臣	川島義之
遞信大臣	望月圭介
文部大臣	川崎卓吉

勅令第七號

災害善後ニ關シ必要ナル經費支辨ノ爲政府ハ六百十萬圓ヲ限り公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ昭和十一年五月五日本院ニ提出ス同月十一日院議ニ付シ中島大藏政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ昭和十一年勅令第七號ノ承諾ヲ求ムル件ニ付キマシテ説明致シマス、昭和十年度ニ於テ各地ニ起リマシタ災害ニ關シマシテハ、第二豫備金ヲ支出シ、一應ノ措置ヲ講ジマシタガ、同年度内ニ於キマシテ必要トスル其餘ノ經費ニ付キマシテハ、第六十八回帝國議會ニ於テ衆議院ガ解散ヲ命ゼラレマシタル爲ニ、之ニ必要ナル追加豫算ノ成立ヲ見ルコトガ出來ナカッタ次第デアリマス、而シテ右經費ノ一部ハ、第二豫備金ノ使用殘額ヲ以テ支辨シ得マシタノデアリマスルガ、其大部分ハ之ヲ支辨スルノ財源ガ無カッタ次第デアリマス、然レドモ是等經費ノ内ニハ、公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アリ、總選舉後ニ召集セラル、帝國議會ノ開會ヲ待ツコト能ハザルモノガアリマシテ、已ムヲ得ズ是ガ財源ヲ公債ニ求ムルコトト致シマシタ、即チ六百十萬圓ヲ限り公債ヲ發行スルノ途ヲ開ク爲メ、本年二月十二日帝國憲法第七十條ノ規定ニ依リマシテ、昭和十一年勅令第七號ガ公布セラレタ次第デアリマス、而シテ右公債ニ依ル歲入金ヲ財源ト致シマシテ、本年二月十三日勅裁ヲ經、内務省所管ニ於テ二百三十六萬餘圓、農林省所管ニ於テ三百七十萬餘圓、合計六百七十萬餘圓ノ豫算外支出ヲ致シタノデアリマス、何卒御審議ノ上御承諾アラントコトヲ御願申上ゲマス

次テ本件ハ政府提出昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案委員ニ併セ付託スルニ決シ委員會ハ審査ノ末本件ヲ承諾ヲ與フヘキモノト決シ五月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ委員長金光庸夫君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

第二章 議事

第三節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第三項 承諾ヲ求ムル議案 三三五



本案ハ豫算外緊急支出ヲシマシタル所ノ内務、農林兩省所管ノ災害善後費ノ事後承諾ヲ求ムル案デアリマス、本案ハ慎重審議ノ結果、原案ノ通り承諾ヲ與フルコトニ決定致シマシタ、何卒諸君ニ於カレマシテモ滿場一致御賛成アラシコトヲ希望致シマス  
院議異議ナク承諾ヲ與フルニ決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月二十二日承諾ヲ與フルニ決シ其ノ旨奏上セリ

二 昭和十一年勅令第十八號(一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルノ件)  
(承諾ヲ求ムル件)(貴族院送付)

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十一年二月二十七日

内閣總理大臣臨時代理  
内務大臣 後藤文夫  
内務大臣 後藤文夫

海軍大臣 男爵大角岑生  
外務大臣 廣田弘毅  
司法大臣 小原直  
商工大臣 町田忠治  
農林大臣 山崎達之輔  
鐵道大臣 内田信也  
拓務大臣 伯爵兒玉秀雄  
陸軍大臣 川島義之  
遞信大臣 望月圭介  
文部大臣 川崎卓吉

勅令第十八號

一定ノ地域ヲ限リ別ニ勅令ノ定ムル所ニ依リ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第三項 承諾ヲ求ムル議案 三三七



三 昭和十一年勅令第二十一號(東京陸軍軍法會議ニ關スル件)(承諾ヲ求ムル件)  
(貴族院送付)

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ東京陸軍軍法會議ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽  
昭和十一年三月四日

- 内閣總理大臣 岡田啓介
- 内務大臣 藤田文夫
- 海軍大臣 男爵大角岑生
- 外務大臣 廣田弘毅
- 司法大臣 小原直
- 商工大臣兼大藏大臣 町田忠治
- 農林大臣 山崎達之輔
- 鐵道大臣 内田信也

- 拓務大臣 伯爵兒玉秀雄
- 陸軍大臣 川島義之
- 遞信大臣 望月圭介
- 文部大臣 川崎卓吉

勅令第二十一號

- 第一條 東京ニ東京陸軍軍法會議ヲ設ク
- 第二條 東京陸軍軍法會議ハ陸軍大臣ヲ以テ長官トス
- 第三條 東京陸軍軍法會議ハ陸軍軍法會議法第一條乃至第三條ニ記載スル者ノ犯シタル昭和十一年二月二十六日事件ニ關スル被告事件ニ付管轄權ヲ有ス
- 第四條 師團軍法會議ノ長官ハ捜査ノ報告ヲ受ケタル前條ノ被告事件ヲ東京陸軍軍法會議ノ長官ニ移送スベシ
- 前項ノ規定ニ依リ東京陸軍軍法會議ノ長官事件ノ移送ヲ受ケタルトキハ捜査ノ報告アリタルモノト看做シ處分スベシ
- 第五條 東京陸軍軍法會議ハ陸軍軍法會議法第一條乃至第三條ニ記載スル者以外ノ者ガ同法第一條乃至第三條ニ記載スル者ト共ニ昭和十一年二月二十六日事件ニ於テ犯シタル罪ニ付裁判



權ヲ行フコトヲ得

第六條 東京陸軍軍法會議ハ陸軍軍法會議法ノ適用ニ付テハ之ヲ特設軍法會議ト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右二及三ハ昭和十一年五月四日貴族院ニ提出ス同月十一日本院ニ送付ス本院ハ同月二十一日兩案ヲ一括シテ院議ニ付シ寺內陸軍大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

昭和十一年勅令第十八號ノ承諾ヲ求ムル爲メ提出致シマシタ理由ヲ申述ベマス、昭和十一年二月二十六日事件ニ因リマシテ、一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スル緊急ノ必要ヲ生ジマシタガ故ニ、帝國憲法第八條第一項ニ依リ本勅令ハ公布セラレマシタ、併シ本勅令ハ將來尙ホ其效力ヲ有セシムル必要ガアリマスルノデ、帝國憲法第八條第二項ノ命ズル所ニ從ヒ、帝國議會ノ承諾ヲ求ムル爲メ茲ニ之ヲ提出スル次第デアリマス、何卒本案ニ對シ協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス、昭和十一年勅令第二十一號ノ承諾ヲ求ムル爲メ提出致シマスル理由、昭和十一年二月二十六日事件ニ付キ、其全般ニ互ツテ統一シ、速ニ搜查竝ニ豫審ヲ終了シテ、事件ノ審判ヲ最モ迅速ニ終結セシムルノ、軍内外ノ安寧ヲ保持スル爲ニ緊急ノ必要ヲ生ジマシタルガ故ニ、帝國憲法第八條第一項ニ依リ本勅令ハ公布セラレマシタ、併シ本勅令ハ將來尙ホ其效力ヲ有セシムル必要ガアリマスルノデ、帝國憲法第八條第二項ノ命ズル所ニ從ヒ、帝國議會ノ承諾ヲ求ムル爲メ、茲ニ之ヲ提出スル次第デアリマス、何卒本案ニ對シ協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

木村正義君、江藤源九郎君、淺沼稻次郎君、石坂繁君及前田幸作君質疑ヲ爲シ寺內陸軍大臣及次田法制局長官應答ス

木村君ノ質疑

私ハ只今議題ト相成リマシタ昭和十一年勅令第十八號及ビ勅令第二十一號ノ承諾ヲ求ムル件ニ付キマシテ、此際政府當局ニ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、現内閣ハ未曾有ノ不祥事件デアリマシタル二二六事件ノ後ヲ承ケテ、其善後措置ニ付キマシテ、當局ノ最善ト考ヘラレル所ノ努力ヲ傾注セラレテ居ルコトニ付キマシテハ、國民ノ齊シク認ムル所デアリマス、併ナガラ事件發生以來既ニ三箇月ニ垂ントスル今日ニ於キマシテ、今尙ホ治安ノ狀態ガ平常ニ復セズ、帝都ノ一部ニ戒嚴令ガ施行セラレテ居リマシテ、上宸襟ヲ安ンジ奉ルコトガ出來ナイト云フコトハ、私共ノ最も恐懼ニ堪ヘナイ所デアリマス、ソコデ勅令第十八號及ビ第二十一號ノ諾否ヲ決スルニ當リマシテ、此際二三ノ事ヲ政府當局ニ御伺致シテ置ク次第デアリマス、第一ノ點ハ、只今寺內陸軍大臣ハ、本勅令ハ將來尙ホ其效力ヲ有セシムル必要アルニ依ツテ、帝國議會ノ承諾ヲ求ムルト云フコトデアリマスガ、將來尙ホ其效力ヲ有セシムル必要アリト、當局ガ認メラル、所ハ如何ナル點デアルカ、今少シク詳細ナル御説明ガ欲シイノデアリマス、申ス迄モナク、本勅令ニ依ル戒嚴ガ、治安維持上非常ナル變態的、例外的措置タルコトハ申ス迄モアリマセヌ、即チ本勅令ニ依リマシテ、地方行政事務、司法事務ノ軍事ニ關係スル事件ハ、戒嚴司令官ノ管掌ノ權ニ委セラル、コトトナリ、又憲法ニ依ツテ保障致サレマシタル所ノ臣民ノ權利ノ一部ガ、之ニ依ツテ制限ヲ受クルコトト相成リマス、謂ハ、憲法政治ノ一部ガ停止セラレルコトデアリマスカラ、極メテ是ハ重大ナル事デアリマス、隨テ本勅令ヲ尙ホ存續セシムルト云フコトニ付キマシテハ、其存續ノ理由ニ付テ、十分國民ノ納得スル理由ガ存在致サナクテハナラヌト思ヒマス、是ガ私ガ第一ニ陸軍大臣ニ、將來尙ホ其效力ヲ有セシムル必要ト云フコトニ付テ、當局ノ御考ノアル所ヲ御伺致シタイ點デアリマス、第二ハ本件ニ議會ガ承諾ヲ與ヘマシテ、本勅令ガ完全ニ法律ト同一ノ效力ヲ生ジマシタ曉ニ於テ、遠カラズ——恐ラク議會閉會後間モナク、私ハ戒嚴ガ解除セラル、コトト存ズルノデアリマスルガ、其戒嚴ノ解除ニ關シテ、私ハ二ツノ方法ガアルト思ヒマス、其二ツノ方法ニ付テ、法令上如何ナル取扱ヲ爲サレルカト云フコトニ付テ御伺ヲ致シタイデアリマス、第一ノ戒嚴解除ノ方法



ハ、本勅令ニ基イテ、即チ此勅令第十八號ニ基イテ發セラレマシタル所ノ勅令第十九號、即チ東京市ニ戒嚴令中ノ第九條ト第十四條ヲ適用スルノ勅令デアリマスルガ、此第十八號ニ基イテ發セラレタル所ノ第十九號ヲ廢止スルコトニ依ッテモ戒嚴ノ解除ガ出來マス、第二ノ方法ハ、此第十八號ノ勅令其モノヲ廢スルコトニ依ッテモ戒嚴ノ解除ガ出來ルノデアリマス、第一ノ方法ヲ探リマス、勅令ノ第十八號ノ緊急勅令ハ、依然トシテ殘ツテ居ルノデアリマスカラ、政府ハ必要ト認ムル時ニハ、普通ノ勅令ヲ一本出シテ、樞密院ノ諮詢ヲ經ズシテ、直チニ現在ノヤウナ戒嚴令下ニ國民ヲ置クコトガ出來ルノデアリマス、只今承諾ヲ求メテ居ラレマスル所ノ、此第十八號ヲ廢止致シマスナラバ、將來必要ナル時、議會閉會ノ場合ニ於キマシテハ、更ニ第二ノ緊急勅令ヲ出サナクテハナラヌト云フコトニナル、政府ハ果シテ何レノ方法ヲ執ラントスルカ、即チ緊急勅令ノ第十八號ハ其儘ニ殘シテ置イテ、サウシテ必要ナル時ニハ、何時デモ戒嚴ノ状態ニ國民ヲ置キ得ル所ノ、此第十九號ダケヲ廢止スル、サウ云フ措置ニ出ラレルノカ、或ハ根本的ニ此第十八號ヲ廢止セラル、モノデアアルカドウカト云フコトヲ、此際御伺ヲ致シテ置キタイト思ヒマス、私ノ考ニ依リマスレバ、此根本デアアル第十八號ヲ廢止スベキモノト思ヒマス、第十九號ヲ廢止シテ戒嚴ノ解除ヲ爲スベキモノデアハナイト思ヒマスガ、此點ニ付テ政府ハ如何ナル方法ヲ執ラレルノデアアルカ、此事ハ法制ニ關スル問題デアリマスカラ、内閣總理大臣又ハ内閣法制局長官ニ於テ御答アランコトヲ希望致シマス、第三ノ問題ハ、勅令第二十一號ノ東京陸軍軍法會議ニ關スル件デアリマスルガ、此東京陸軍軍法會議ガ二二六事件ノ統一ヲ圖リ、速ニ搜查及ビ豫審ヲ終了シテ、又迅速ニ其審判ヲ終結セシメタイ、斯ウ云フ趣テ發布セラレテ居ルト云フコトハ言フ迄モナイコトデアリマスルガ、只今陸軍大臣ノ御説明ニ依リマスルト、將來尙ホ其效力ヲ有セシムル必要ガアルト云フコトデアアルガ、然ラバ此事件ノ進行ノ程度ニ付キマシテ、今少シク詳細ナル御説明アランコトヲ切望致スノデアリマス、以上三點ニ付キマシテ、政府當局ノ御答辯アランコトヲ希望致シマス

寺内陸軍大臣ノ應答

只今ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、戒嚴令ノ效力ハ尙ホ繼續セシメナケレバナラヌト云フコトノ必要ニ付キマシテハ、過般私ガ此席上ニ於テ、秘密會ノ際ニ戒嚴ノ見透シト云フコトニ付キマシテ申述ベマシタコトニ依ッテ御諒承願ヒタイト思ヒマス、次ニ軍法會議ノ進行ノ狀況デゴザイマシタガ、是ハ私共ノ豫期シテ居リマスル通りニ順調ニ進行ヲシテ居リマス、詳細ニ關シマシテハ、只今申上ゲルコトヲ差控ヘナケレバナラヌト思ヒマス

次田法制局長官ノ應答

只今ノ御質問ノ第二ノ點ハ、戒嚴解除ノ場合ニ於ケル方法手續ニ關スルコトデアリマスカラ、私ヨリ御答辯ヲ申上ゲマス、現在ノ戒嚴ヲ解除致シマスル場合ニ於テ、若シソレガ議會閉會中デアリマスルナラバ、政府ハ此本年ノ勅令第十八號ヲ廢止スルノ緊急勅令ヲ發布ヲ奏請スル考デアリマス、御承知ノ通り明治三十八年ノ勅令第二百五號並ニ大正十二年ノ勅令第三百九十八號ハ、一定ノ地域ヲ限リ戒嚴令中必要ナル規定ヲ適用スルコトヲ、普通ノ勅令ニ委任致シマシタ緊急勅令デアリマシテ、其内容ニ於テモ、其形式ニ於テモ、本年ノ此勅令第十八號ト同ジモノデアリマス、而シテ是等ノ勅令ハ、何レモソレノ戒嚴ノ廢止セラレマスル場合ニ、他ノ緊急勅令ヲ以テ廢止セラレテ居リマス、現在ノ戒嚴ヲ解除致シマスル場合ニ、ソレガ議會閉會中デアリマシタナラバ、政府ハ此二ツノ先例ニ則リマシテ、本年ノ勅令第十八號ヲ廢止スル別ノ緊急勅令ヲ發布ヲ奏請スル考デアリマス、丁度木村君ノ申サレマシタ第二ノ方法ニ依ル考デアリマス、ソレダケ申上ゲテ置キマス

江藤君ノ質疑

只今寺内陸軍大臣ヨリ勅令第二十一號ニ付キマシテ御説明ガアリマシタガ、尙ホ私ガ了解スルコトノ出來ナイ二三ノ點ニ付キマシテ、總理大臣及ビ陸軍大臣ニ御尋致シタイノデアリマス、



二二六事件ハ國家社會ニ及ボス影響ガ實ニ甚大デアリマシテ、且ツ本事件ニ關係シテ有罪ト認  
 メラレ起訴セラレタル者ノ中ニハ、軍紀上上官ノ命令ニハ直チニ之ニ服從スベキ絕對的ノ義務  
 ヲ有シテ居リマスル若干名ノ下士官及兵士ト、其他ニ多數ノ常人ガアルノデアリマス、元來裁判  
 ハ其事件ノ性質ガ重大デアレバアル程、一層慎重ニ行ハレネバナラヌコトハ法ノ精神デア  
 デアリマス、サレバ現行法律ニ於キマシテモ、罪ノ重イ者ニハ、若シ被告人ガ辯護人ヲ選任シ  
 イ時ニハ、官選辯護人ヲ強制的ニ選任致スノデアリマス、サウシナケレバ公判ヲ開クコトガ出  
 ナイヤウニ規定シテアルノデアリマス、此精神カラ致シマス、二二六事件ノ如キ重大ナル特  
 異性ヲ有スル大事件ニハ、必ズ辯護人ヲ選任スルコト及ビ上訴スルコトヲ許シ、最モ慎重且ツ嚴  
 肅ニ裁判スルコトガ當然デアリ、又憲政治下ニ於ケル政府ノ義務デアルト信ズルノデアリマス、  
 私ハ斯ノ如クニシテコソ、初メテ將來ノ禍根ヲ芟除スル所以デアルト固ク信ジテ疑ハナイノデ  
 アリマス、然ルニ本勅令第二十一號第六條ニハ、「東京陸軍軍法會議ハ陸軍軍法會議法ノ適用ニ  
 付テハ之ヲ特設軍法會議ト看做ス」ト規定サレテ居リマス、而シテ特設軍法會議ニ於テハ、陸軍  
 軍法會議法ノ規定ニ依リマシテ、辯護人ヲ選任スルコトガ出來ズ、又上訴スルコトモ出來ナイノ  
 デアリマス、隨ヒマシテ東京軍法會議ニ於テモ、辯護人ヲ選任スルコトモ上訴スルコトモ出來ナ  
 イノデアリマス、ソコデ私ハ政府ガ今回ノ重大ナル特異性ヲ有スル大事件ノ裁判ニ對シ、何故ニ  
 辯護人モ附セズ、上訴モ許サナイヤウニ勅令ニ規定シタルノデアルカ、此點ニ付テ政府ノ所見ヲ質  
 シタイト思フノデアリマス、而シテ陸軍軍法會議法ニ依リマスルト、特設軍法會議ヲ特設スベキ  
 場合ハ、同法第九條第二項以下ニ次ノヤウニ明記サレテアリマス「軍軍法會議、獨立師團軍法會議、  
 獨立混成旅團軍法會議及兵站軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ之ヲ特設ス、合圍地軍法會  
 議ハ戒嚴ノ宣告アリタルトキ合圍地境ニ之ヲ特設ス、臨時軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因  
 リ特設又ハ分駐シタル陸軍ノ部隊ニ之ヲ特設ス」以上ノ通りデアリマス、之ヲ按ジマスルニ特設  
 軍法會議ニ於テ、辯護人ヲ選任スルコト及ビ上訴スルコトヲ許サナイ所以ノモノハ、只今朗讀致  
 シマシタ第九條ノ條文ノ示ス通り、軍法會議ガ戰時事變又ハ合圍地境等ニ於テ、兵馬倥傯ノ間ニ

設ケラレルモノデアリマスルカラ、斯ノ如キ地ニハ固ヨリ辯護人ヲ得ルコトハ甚ダ困難ノ場合  
 ガ多イノデアリマス、假令辯護人ヲ得ルト致シマシテモ、戰時事變又ハ合圍地境ニテ辯護人ヲ附  
 シ、上訴ヲ許スヤウナ時間ノ餘裕ガナイノミナラズ、法ノ精神ニ從ッテ人權ヲ尊重スルコトヨリ  
 モ、ヨリ以上ニ戰時事變又ハ合圍地境ニ於ケル軍本來ノ目的ニ全力ヲ集中スルコトヲ緊要トス  
 ル、眞ニ事情已ムヲ得ナイ戰時又ハ事變ノ狀態デアルカラデアリマス、換言致シマスレバ、戰時  
 事變ノ狀況上、假令人權ヲ剝奪スルモ、國家ノ大事ニハ替ヘ難イト云フ理由ニ依ルモノデアリマ  
 ス、併ナガラ今回ノ事件ノ場合ヲ考ヘマスルニ、事件ハ二月二十九日ニ鎮定シタルコトハ當局ノ  
 發表スル所デアリマス、而シテ本勅令ハ越エテ三月四日ノ發令デアリマスカラ、戒嚴令ハ布カレ  
 テアリマスルガ、事件ハ既ニ鎮定シテ居ルコトハ明瞭ナル事實デアリマス、而モ今回ノ事件ノ公  
 判ハ、全ク平時狀態ニ在ル四月下旬カラ開廷セラレテ居ル模様デアリマスルカラ、東京陸軍軍法  
 會議ヲ特設軍法會議ト看做シテ、法律ニ依ッテ保障サレテ居ル人民ノ重大ナル權利ヲ剝奪シテ、  
 辯護人ヲ附スルコトモ上訴スルコトモ許サナイコトハ、私ハドウ考ヘテモ解スルコトガ出來ナ  
 イ、非立憲行爲デアルト斷ゼザルヲ得ナイノデアリマス、而シテ國民ハ只今申シマシタ公判ノ手  
 續ニ付テ揣摩臆測ヲ逞シウシテ居ルノデアリマス、是ハ皇軍ノ威信ノ上カラ甚ダ遺憾ニ存ズル  
 ノミナラズ、憲政ノ確立ト云フ點カラ申シマシテモ、人民ノ權利ヲ極端ニ拘束スルコトハ、洵ニ  
 痛嘆ニ堪ヘナイ次第デアリマス、故ニ國民ノ疑惑ヲ深カラシムル如キコトハ努メテ之ヲ避ケ、正  
 正堂々ト辯護人ヲ附シ、上訴モ許シ、最モ嚴肅ニ裁判セラル、コトガ、特ニ緊要ト信ズルノデア  
 リマス、殊ニ私ガ此主張ヲ爲ス所以ノモノハ、幸徳、難波ノ如キ滔天ノ大逆事件ニ於テサヘモ、法  
 ノ精神ヲ酌ミ、辯護人ヲ附シテ裁判ヲシタルノデアルニモ拘ラズ、何故ニ今回ノ事件ニ限リ辯護人  
 ノ選任ヲ許サナイノデアルカ、其理由ヲ發見スルコトガ出來ナイカラデアリマス、政府ハ何故ニ  
 二二六事件ヲ裁判スル爲メ、東京陸軍軍法會議ヲ特設軍法會議ト看做シ、事情之ヲ許スニモ拘ラ  
 ズ、法律ニ依リ保障サレタル人民ノ權利ヲ剝奪シテ、辯護人ノ選任及ビ上訴ヲ許サナイヤウニ規  
 定シタルデアルカ、其理由ヲ詳細明瞭ニ御答辯アランコトヲ御願致ス次第デアリマス



寺内陸軍大臣ノ應答

只今ノ御質疑ニ對シテ御答辯ヲ申シマス、政府ハ事件ノ性質上、又諸般ノ政情上、此勅令ニ定メラレタル所ノ東京軍法會議ヲ以テ、此事件ヲ審理スルコトガ最モ適當デアルト考ヘタ次第デゴザイマス

江藤君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

只今ノ寺内陸軍大臣ノ御答辯ニ付キマシテハ、甚ダ不満足デアリマスルガ、詳細ハ委員會ニ於テ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、之ヲ以テ質問ヲ打切りマス

淺沼君ノ質疑

私ノ質問ハ極ク簡單デアリマス、併シ私共ニ取リマシテハ重大ナ問題デアリマスカラ、政府當局ニ於キマシテハ、誠意ヲ以テ答ヘテ戴キタイト思フノデアリマス、二二六事件ガ起リマシテ、戒嚴令ガ布カレマシテ以來、人民ノ政治的自由ト云フモノハ殆ド無イノデアリマス、此帝國議會ニ致シマシテモ、戒嚴令下ニ開カレテ、戒嚴令下ニ終ラントシテ居ルノデアリマス、此事ハ憲政運用ノ上カラ言ツテ、お互ニ悲シマナケレバナラナイ事實デアルト私ハ思フノデアリマス、此事ニ付テ私共ハ戒嚴令解除ノ時期ト云フモノニ付テ、陸軍大臣ニ御伺シタイト思フノデアリマス、私共無産階級運動ノ立場カラ、少シク言論集會結社ニ對スル戒嚴令下ニ於ケル取締ノ方法ヲ御話シテ參考ニ供シテ戴キタイト思フノデアリマスルガ、現下ノ戒嚴令下ニ於キマシテハ、私共勞働者農民、謂ハ、無産階級ノ政治的集會ト云フモノハ、全然出來ナイノデアリマス、尙且ツ六十人位ノ程度ナラヤツテモ差支ガタイト云フコトハ言ハレテ居リマスルガ、其集會ノ席上ニ於キマシテハ、一切政治問題ニ對スル討論ハ禁止サレテ居リマス、殆ド私共ハ此戒嚴令下ニ於キマシテ、私共ノ意思決定ヲ爲スコトガ出來ナイヤウナ實情ニ置カレテ居ルノデアリマス、尙且ツ小サナ

勞働組合ノ集會、小サナ農民組合ノ集會ト云ツタヤウナモノニ致シマシテモ、殆ド今迄ハ合法的ニ許サレテ居リマシタモノガ、戒嚴令下ニ於キマシテ臨場ガ附ク、殆ド吾々ハ其席上ニ於テ相談スラ出來ナイヤウナ實情ニ置カレテ居ルノデアリマス、此實情ト云フモノハ、唯單ニ私共ノ陣營バカリデハタイト思フノデアリマス、實例ヲ擧ゲテ申上ゲマスナラバ、私共ハ今議會ニ臨マンガ爲ニ、東京ニ於テ大會ヲ持チタイト云フコトヲ決議シ、之ヲ内務省ト交渉シ、警視廳ト交渉シタノデアリマス、併ナガラソレハ許サレマセデシタ、現ニ其席上ニ於ケル議案一切ト云フモノハ抹殺サレテ、讀ムコトハ宜イケレドモ、一切ノ言論ハ中止セラレマシテ、ヤッタソレ以上ノ事ハモウ禁止、中止デアアル、斯ウ云フヤウナ状態デアリマシテ、非常ニ私共ハ遺憾ニ考ヘタノデス、又全國農民組合ガ、代議士ト農民組合ノ幹部ト一緒ニナツテ、議會對策ヲ協議會ニ於テ議シヨウトシマシタ時ニハ、ヤハリ政治問題ニ觸レルナラバ此集會ト云フモノハ禁止スル、又議會ニ對シテ過日大阪ニ於キマス所ノ勞働者諸君ガ、事ハ小サナ問題デアリマスケレドモ、陳情ニ參リマシタ、陳情ニ參ッテ集會ヲヤツテ居リマス、其儘警視廳ニ於キマシテハ、ソレヲ總檢束ヲ爲シタノデアリマス、是ハ私共ノ實情デアリマス、更ニ是ハ立場ハ異ニシテ居リマスケレドモ、此議會ニ對シテ東京ニ於キマス所ノ米屋ト言ハズ、日本全國ノ米屋諸君ト云フモノハ、何等カノ意思表示ヲシタイト云フ考ヲ持ッテ居ルニハ違ヒタイト思フノデアリマスケレドモ、戒嚴令下ニ於テハソレハ許サレテ居リマセヌ、尙ホ其他種々ノ點ニ於テ、民衆ノ政治的自由ト云フモノハ剝奪サレテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ事ガ續イテ參リマスナラバ、將來ニ對シテ私共ハ一ツノ暗澹タル心持ニナラザルヲ得ナイ、政治ヲ明朗ニシナケレバ本當ニ世ノ中ハ明朝ニナリマセヌ、而モ私共ガ何かシヨウトスルト、其處ニハ官憲ガ在リ、其處ニハ憲兵ガアルト云フコトニナルト、是ハ本當ノ自由ノ意思ト云フモノハ束縛サレルノデアリマス、サウ云フ點ニ付テ一日モ早ク私共ハ此戒嚴令ヲ撤去致シマシテ、日本ノ政治界全體ニ對シテ明朝ナ氣分ヲ喚起スルヤウニシテ戴キタイト考ヘテ居ルノデアリマス、之ニ付キマシテ陸軍大臣ノ所見ヲ承リタイト思フノデアリマス、ソレカラモウ一ツハ内務省關係デアリマスルガ、是非共内務大臣ノ出席ヲ私ハ願ヒタイト



思フノデアリマス、今東京府、神奈川縣ニ於キマシテハ、府縣會議員ノ總選舉ガ行ハレントシテ居リマス、今日ガ丁度其告示デアリマス、而モ東京府ニ於キマシテハ、此選舉ハ戒嚴令下ニ闘ハナケレバナラヌト云フ現狀デアリマス、甚ダ民衆ノ言論ガ抑壓サレ、民衆ノ政治的自由ガ抑壓サレテ居ル場合ニ於テ、選舉ガ行ハレルト云フコトハ、實ニ遺憾ナコトデ、私共ハ果シテ之ニ依ツテ選舉ノ公平ガ期セラレルカドウカ、内務省當局ニ伺ヒタイノデアリマス、モウ一ツハ今度ノ議會ヲ通ジテ可ナリ政治的自由ノ要求カラ出發ヲ致シマシテ、民衆ノ人權蹂躪怪シカラヌト云フ聲ガ漲ツテ居リマス、聞ク所ニ依リマスルト云フト、内務省當局ニ於キマシテハ、此人權蹂躪ノ聲ニ怯エテ、今度行ハレマスル所ノ選舉ニ對シテ、幾分カ緩和スルト云フヤウナコトヲ私共聞クノデアリマスガ、果シテ取締ヲ緩和スルヤウナ考ヲ持ツテ居ラレルカドウカ、一ツ承ツテ置キタイト思フノデアリマス、以上三點ニ付テ伺ヒタイト思ヒマス

寺内陸軍大臣ノ應答

御答ヲ致シマス、戒嚴令ヲ尙ホ續行シナケレバナラヌト云フコトハ、私共モ洵ニ遺憾ニ存ジテ居リマス、ケレドモ洵ニ已ムヲ得ナイ事情ガアルト云フコトヲ、御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス、尙ホ此戒嚴令ノ適用ニ付キマシテハ、十分御意思ノアル所ヲ諒承致シテ居リマスルノデ、此適用ニ付キマシテハ、誤ラヌヤウニ運用シタイト考ヘテ居リマス、尙ホ府會議員ノ選舉ノコトニ付テ御質問ガゴザイマシタガ、此選舉ニハ差支ナイヤウニ戒嚴令ノ適用ガ行ハル、ヤウニ、戒嚴司令官カラ處置致シタ次第デアリマス

淺沼君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

是ハ敢テ陸軍大臣バカリデハナイ、政府當局全體ニ向ツテ私共ノ希望ヲ述ベテ置キタイト思フノデアリマス、政府ハ戒嚴ガ解ケルト、今度ハ不穩文書、反對黨一切ノ者ニ對シテハ、彈壓ト云ッタヤウナ傾向ガアルヤウニ、私共ニハ感ジラレルノデアリマス、非常ニ之ヲ通ジテ考ヘラレルノデ

アリマス、サウ云フコトノナイヤウニ、尙且ツ政治ヲ明朗ニスル爲ニ、一日モ早く戒嚴令ガ撤廢サレルヤウニ御努力ヲ願ヒタイト云フコトヲ申上ゲマシテ、私ノ質問ヲ打切りマス

石坂君ノ質疑

私ハ只今御上程ニ相成ツテ居リマス勅令第二十一號ノ事後承諾案ニ付キマシテ、斯クノ如キ内容ノ勅令ヲ尙ホ今後存續サセナケレバナラナイ其理由ニ付テ、私共ノ了解スルコトノ出來ナイ點ヲ、總理大臣及ビ陸軍大臣ニ御伺致シタイノデアリマス、先程カラ私ハ數人ノ質問者ト當局トノ間ノ質疑應答ヲ拜聽シテ居ッタノデアリマス、尙ホ政府ガ言ハレル如クニ、此緊急勅令ヲ將來存續セナケレバナラナイ理由ヲ了解スルコトガ出來ナイノデアリマス、隨ヒマシテ只今ドナタカカラ言ハレマシタ如クニ、或ハ諄イカモ知レマセヌケレドモ、諄イカラト云ウテ輕々ニ論ジ去ルコトノ出來ナイ、事ハ極メテ重大ナル問題デアアル、緊急勅令ノ如キハ、是ハ通常ノ法律ノ變態的ノ存在デアリマス、苟モ慎重審議ヲシテ法律ノ定メタ所ノモノヲ以テ、緊急勅令ヲ發布スルト云フヤウナ事ニ付テハ、其事後ニ於テ極メテ冷靜ニ、極メテ沈著ニ之ヲ檢討スルニアラザレバ、國民ノ代表者デアアル所ノ帝國議會ガ、或ハ將來ニ於テ千恨萬悔スルガ如キ事ナカランコトヲ懼レル故ニ、私共敢テ政府當局ニ向ツテ重ネテ御伺ヲ致サントスル所ノ者デアリマス、私ノ御伺致シマス内容ハ、先程江藤君ヨリノ御質問ノ要旨ト大體ニ於テ相似タル所ガアルノデアリマス、ルガ、不幸ニシテ、江藤君ノ質問ニ對スル所ノ寺内陸軍大臣ノ御答辯ハ、問ニ對シテ問ヲ以テ答ヘラレタニ過ギナイ感ジヲ持タザルヲ得ナイノデアアル、何ガ故ニ斯ノ如キ勅令ヲ將來ニ向ツテ存續セナケレバナラナイカト云フ、其理由ヲ細ヤカニ御説明ヲ求メテ居ルノニモ拘ラズ、寺内陸軍大臣ハ頗ル短簡ニ、斯ウ云フ勅令ノ下ニ軍法會議ヲ進行スルコトガ適當デアアルガ故ニヤツテ居ルト言ハレタニ過ギナイノデアアル、何ガ故ニ適當デアアルカト云フコトヲ私ハ御伺致シタイノデアリマス、私ノ質問ノ第一ハ只今總理大臣ガ御見エニナツテ居リマセヌカラ、是ハ法制局關係ノドナタカノ答辯デモ宜シイノデアリマスルガ、勅令第二十一號ノ第五條ト、憲法第二十四條トノ關



係アリマス、勅令第五條ヲ拜見致シテ見マスルト、此東京陸軍軍法會議ニ依ッテ裁判ヲ受ケル人達ハ、軍人及ビ第五條謂フ所ノ第一條乃至第三條ニ記載スルモノ以外ノ者ガ、此陸軍軍法會議ニ依ッテ審理ヲ受ケルコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、御承知ノ如クニ陸軍軍法會議法ノ規定スル所ニ依リマスルト云フト、陸軍軍法會議ニハ五人ノ判士ガ出來ルコトニナッテ居ルノデアリマス、而シテ其五人ノ判士ノ中ニ、一人ハ裁判官タル法務官デアアルノデアリマスガ、他ノ四人ハ被告人ノ階級ニ依ッテ判士ノ階級ノ相違ハアルノデアリマスルケレドモ、現役ノ陸軍將校ヲ以テ充テラレル規定ニ相成ッテ居リマスルコトハ、陸軍軍法會議法第三十二條及ビ第四十九條ノ明示スル所デアアルノデアリマス、問題ハ此點ニ伏在致シテ居ルト考ヘマス、即チ憲法第二十四條ノ規定スル所ニ依リマスルト云フト「日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ」ト云フコトハ、極メテ重大ナル人權上ノ保障デアアルノデアリマス、而シテ勅令第五條ノ定ムル所ハ、此憲法第二十四條ニ依ッテ保障サレタル普通人ノ裁判ヲ受ケル所ノ權限ヲ、此緊急勅令第五條ニ依ッテ奪去ツタモノデアアル、隨テ此勅令ニ對シテ事後承諾ヲ與ヘル上ニ於テハ、私共ハドウシテモ此第五條ト、憲法第二十四條トノ關係ヲ明確ニシ、私共ノ十分ナル諒解ヲ得ルニアラザレバ、此勅令ニ對シテ承諾ヲ與ヘルコトハ出來ナイノデアアル、此點ニ付テ當局ノ御所信ノアル所ヲ御伺致シタイノデアリマス、御承知ノ如ク往年本議場ニ於テ陪審制度ノコトガ問題ニナリ、貴族院ニ於キマシテハ、日本ニ陪審裁判ヲ設ケルト云フコトガ憲法違反ナリトシテ、痛烈ナル論議ノアツタコトハ御承知ノ通りデアリマス、而シテ現行ノ我國ノ陪審制度ニ於テハ、裁判官ハ陪審員ノ答申ニ拘束サル、コトナシト云フ陪審制度ニ相成ッテ居ルノデアッテ、斯ノ如クシテ我國ノ陪審制度ハ憲法違反ナリト云フ論議ヲ除去ツタノデアアル、陪審制度ニ於テ既ニ然リ、此勅令第五條ハ、憲法ニ依ッテ保障サレタル國民ノ極メテ重大ナル權利ヲ、果シテ緊急勅令ヲ以テ奪去ルコトガ出來ルデアラウカドウデアラウカト云フ、人權上極メテ重大ナル問題ヲ含ンデ居ル所ノ緊急勅令デアアルノデアリマス、眼前ニ起ツタ所ノ異常ナル問題ノ爲ニ、斯ノ如キ重大ナル問題ヲ、輕々ニ論ジ去ルコトハ出來ナイト考ヘマスルガ故ニ、當局ノ此點ニ關スル眞面目ナ

ル御答辯ヲ御伺致シタイノデアリマス、第二ハ、二二六事件ノ被告ノ人達カラ辯護權ヲ剝奪スルコトガ、果シテ適當デアアルカドウカト云フ問題デアアル、此點ニ付キマシテハ、先程江藤君ヨリ詳細ニ論ゼラレタ通りデアリマス、陸軍軍法會議法ノ第八條、第九條ノ規定ニ依リマシテ、特設ノ陸軍軍法會議ト云フモノハ、陸軍軍法會議法ガ限定シテ居ルノデアリマス、而シテ特設軍法會議ヲ設ケタ趣旨ハ、江藤君所論ノ如ク戰時若クハ事變ニ際シマシテ、事極メテ火急デアアル、人權ノ擁護ト云フヨリモ、軍本來ノ目的ノ爲ニハ、軍ノ行動ヲ一刻モ猶豫スルコトノ出來ナイト云フヤウナ場所ニ差掛タ時ニ、特別ノ規定ニ依ッテ、陸軍軍法會議法ハ軍ノ本來ノ使命カラ致シマシテ、左様ナル場合ガ往々起ルコトヲ想像致シマシテ、特設軍法會議ノ規定ヲ設ケテ居ルノデアリマスルケレドモ、斯ノ如キ異例ハ、斯ノ如キ特別ナル裁判ハ、嚴格ニ是ハ考ヘナケレバナラヌノデアアル、故ニ陸軍軍法會議法立法ノ趣旨ヲ按ジマスルニ、第八條、第九條ト云フガ如キハ、其特別ノ場合ヲ成ベク少クスルト云フ立法ノ趣旨ニ外ナラヌト考ヘルノデアリマス、而シテ今次ノ事變ニ對シマシテハ、師團軍法會議ノ公判ニ付スルヲ以テモ、尙ホ目的ヲ達スルコトガ出來ルノデハナイカ、私共ハ特設軍法會議ノ性質ガ非公開デアアル、一審制度デアアル、而シテ辯護人ヲ付ケナイト云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマスルガ、特設軍法會議ノ此三ツノ特色ハ、江藤君ノ論ゼラレマシタ如キ事情ヨリ、立法セラレタノデアアルト考ヘルノデアリマス、然ルニ今次ノ事變ハ、事件終了後數箇月ヲ閱シテ居ル今日、尙ホ此特設軍法會議ヲ存續シテ、此被告人ノ人達ヨリ、自分ノ人權ニ對スル重大ナル辯護權ト云フモノヲ剝奪スルコトハ、頗ル不條理デハナイカト云フ感ジヲ持タザルヲ得ナイノデアリマス、我國ノ刑事裁判ニ於キマシテハ、刑事訴訟法三百三十四條ニ依ッテ、死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ、辯護人ヲ附ケナケレバナラヌ、而シテ被告人ニシテ辯護人ヲ附ケナイカ、或ハ辯護人ガ出頭シナカッタ場合ニ於テハ、所謂官選辯護人ヲ附ケナケレバ裁判ノ進行ガ出來ナイト云フ程、人權ハ擁護セラレテ居ルノデアリマス、而シテ軍ノ裁判デアリマス所ノ陸軍軍法會議法ハ、大正十年四月二十六日法律第八十五號ヲ以テ改正サレ、其三百六十七條ハ、刑事訴訟法三百三十四條ト全ク同一ノ規定ガ設



ケラレテ、是ハ陸軍裁判史上ニ一大「エポック」ヲ作ッタ所ノ、重大ナル刑法ノ改正デアッタノデアリ  
 マス、此改正ノ結果ハ陸軍軍法會議ニ於テモ、辯護人ヲ附スルト云フ制度ニ相成ッタノデアアル、斯  
 様ニ致シマシテ、私共ハ陸軍ノ軍法會議法ノ改正ヲ非常ニ喜ンデ居ッタノデアリマスルガ、今度ノ  
 事件ニ付テ尙ホ此特設ノ軍法會議、極メテ限定スベキ特設ノ軍法會議ヲ以テ、處理セント致シ  
 テ居ラレルノデアリマス、勿論色々ト承リマシテ、寺内陸軍大臣ガ陸軍大臣就任以來、肅軍ト云  
 フ極メテ重大ナル問題ノ爲ニ、銳意努力致シテ居ラレマスル其誠意ハ、先般モ私ハ申上ゲタノ  
 デアリマスルガ、十分ニ之ヲ諒承致スノデアリマス、而モ今次ノ二二六事件ノ被告ノ人達ハ、苟  
 モ天皇親率ノ軍隊ヲ率キテ其本務ニ悖リ、戎器ヲ以テ陛下ノ重臣ノ多數ヲ害ヒ、帝都ノ治安  
 ヲ攪亂致シマシタ、許スベカラザル叛亂行爲ヲ敢テシタノデアアル、其行動ノ惡ムベキハ陸相ト私  
 共感ヲ同ジウスル者デアリマスルガ、併ナガラ其動機ニ付テハ、尙ホ私共多分ニ反省シナケレバ  
 ナラナイ事ガアルノデアリマス、陸相ノ説明ニ依リマスルト、國體ヲ顯揚シテ彼等ノ所謂昭和維  
 新ヲ遂行セント企テ、居ッタト云フコトデアアル、而シテ彼等ヲシテ驅ツテ此ニ至ラシメマシタ所ノ  
 國家ノ現狀ハ、大イニ是正刷新ヲ要スルモノ多ク存在スルモノアリト陸相ハ明言サレタノデアアル  
 ガ、全ク其通りデアアル、斯様ニ考ヘテ參リマスルト、私共ハ此被告ノ人達ノ心情ニ對シマシテハ、  
 一片同情ノ念禁ズルコトノ出來ナイモノガアルノデアリマス、其許スベカラザル行爲ハ斷ジテ許  
 スコトノ出來ナイノデアリマスルケレドモ、其此ニ至ッタ所ノ經過、誤ツテ事此ニ至ッタノデア  
 リマスルケレドモ、其動機ヲ參酌シ、國家ノ現狀ヲ考ヘ、議會政治ノ現狀ヲ稽ヘル時ニ、庶政一新  
 ト云フヤウナ大眼目ノ前ニハ、私共ハ此人達ノ行動ニ依ツテ、非常ニ反省セナケレバナラナイ大キ  
 ナル示唆ヲ受ケルノデアアル、若シ此示唆ヲ受ケナイト云フナラバ、其政治家ノ良心ヲ吾々ハ疑ハ  
 ザルヲ得ナイノデアリマス、斯様ニ考ヘテ見マスルト、其行爲ハ許スベカラザル惡逆行爲デア  
 ルケレドモ、又其心事ニ對シマシテハ、一片惘然タラザルヲ得ナイノデアアル「鳥ノ將ニ死セントス  
 ル、其鳴クヤ哀シ、人ノ將ニ死セントスル其言ヤ善シ」ト云フ言葉ガアルガ、此裁判ニ於テ、彼等  
 ノ立場カラ、彼等ハ何故斯ノ如クナッタカト云フ其心情ニ付テ、一言辯護人ヲ立テ、辯護スルト

云フコトガ、是ハ武士ノ情デナケレバナラナイト私ハ考ヘルノデアリマス、勿論軍ノ機密ニ屬  
 シ、公安ヲ害スルト云フ立前ナラバ、非公開トスルコトモ宜カラウ、辯護人ヲ附ケルト云フト公  
 判ガ長引クト云フヤウナコトデアアルナラバ、陸軍軍法會議法ノ辯護人ハ陸軍大臣ノ指定セラレ  
 タモノデアリ、而モ同一ノ被告人ニ對シテ一人ト限定サレテ居ルカラ、其邊ハ法律問題デナシ  
 ニ、適當ニ處理スルコトガ出來ルデアラウト考ヘルノデアリマス、斯様ナ趣旨カラ致シマシテ、  
 私ハ此事件ニ對シマシテモ辯護人ヲ附ケナケレバナラヌ、何故辯護人ヲ附ケナイカト云フ其根  
 據ニ付テ、陸軍大臣ノ御所論ヲ重ネテ御伺致シタイノデアリマス

寺内陸軍大臣ノ應答

只今私ニ御尋ノコトハ、先程江藤君ニ御答シタコトト同様ト、御心得ヲ願ヒマス

次田法制局長官ノ應答

只今ノ御質問ノ第一點ハ、特設軍法會議ヲ設ケタコトガ憲法第二十四條ニ違反スルデハナイカト  
 云フ御質問デアリマシタ、憲法第二十四條ハ「日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クル  
 ノ權ヲ奪ハル、コトナシ」ト規定セラレテ居リマス、是ハ日本國民ガ法律ニ依ツテ構成設置セラル  
 ル裁判官ニ依リ、裁判セラル、コトヲ求メ得ルコト及ビ其他ノ者ノ裁判ヲ受ケザルベキコトヲ  
 定メタモノデアリマス、裁判官ノ構成設置ガ法律ニ依ツテ規定セラレ、裁判スベキ者ガ法律ニ於  
 テ裁判スベキ者トシテ規定セラレテ居ルモノデアアル限り、憲法違反ニハナラナイノデアリマス、  
 而シテ此勅令第二十一號ハ、法律ニ代ルベキ勅令、法律ト同様ノ效力ヲ有ツベキ勅令デアリマス  
 ルカラシテ、之ヲ以テ東京軍法會議ヲ設置シタルコトハ、憲法第二十四條ニ違反シナイモノト考  
 ヘテ居リマス、御質問ノ第二ノ點ニ付キマシテハ、陸軍大臣カラ御説明ガアリマシタガ、陸軍軍  
 法會議法第九條ハ、法律ト同一ノ效力ノアル緊急勅令ヲ以テ特設軍法會議ヲ設置スルコトヲ禁  
 止シタモノニアラズト解釋致シテ居リマス



石坂君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

只今ノ私ノ質問ニ對スル答辯ハ、第一ノ質問ハ主トシテ法律問題デアリマス、第二ノ問題ニ對シマシテハ寺内陸軍大臣ハ前言ヲ繰返サレルダケデアアル、兩者トモ此席上ニ於テ重ネテ質問應答ヲ繰返スコトハ避ケマシテ、他ノ機會ニ於テ尙ホ詳細ニ意見ヲ披瀝シテ、質問致シタイト考ヘテ居リマス、是デ打切りマス

前田君ノ質疑

二二六事件ノ重大ナルコトハ茲ニ申スマデゴザイマセヌ、今回ノ特別議會ハ其爾後ノ策トシテ召集ヲ受ケタト申シマシテモ、敢テ過言デナイト存ズルノデゴザイマス、其内容ニ付キマシテハ同僚先輩諸賢ヨリ、既ニ質疑應答ヲシ盡サレタノデゴザイマスガ、唯一箇所、分ケテ申シマスナラバ二點、國民ガ承服シ兼ネル所ガ未ダ尋ネラレテ居ラナイノデゴザイマス、或ハ本員ノ聽洩ラシカモ存ジマセヌガ、更ニ此點ヲ御尋シテ置キタイト思フノデゴザイマス、即チ政府ハ今期ノ議會ニ於キマシテ、秘密保護ノ法律案、或ハ不穩文書取締法案等ヲ提出ヲ致シマシテ、再ビ二二六事件ノ如キコトノ失態ナカラシムコトヲ期スルコトノ、一ツノ策デアアルト斯様ニ聲明シテ居ラレマス、蓋シ御尤ノコトト存ジマス、併シナガラ茲ニサウシタコトヲ縦ノ線ヨリ行ハント致シマスナラバ、先ヅ横ノ線ヨリモ之ニ併合シタ庶政一新ガ必要デアアルノデゴザイマス、然ルニ一方デハ不穩文書取締法ト云フモノヲ以テ、殆ド言論ノ抑壓ト申シマシテモ然ル程ニ、之ヲ實行セントスル意思ヲ示シテ置キナガラ、既ニ出版法ニ依リマシテ發行シテ居ル文書、而モ二二六事件ノ内容ヲ公開致シマシタ文書ヲ、國民ガ手ニ致シマシタ時ニ、甚ダ奇怪極マルコトガ、往々ニシテ見受ケラレマスガ、斯ウシタ方面コソ現在ノ法律ヲ以テ取締リ、或ハ指導致シマシタナラバ、恐ラク不穩文書ナドノ法律ノ御提案ヲ見ル必要モナイモノカト存ズルデアリマス、具體的ニ申シマスナラバ、街々ニ販賣致シテ居リマス本——朗讀スルコトハ差控ヘマスガ、其内容ニ依リマ

スト、彼ノ二二六事件ノ爲ニ、當時襲撃ヲ受ケマシタ前内閣總理大臣岡田氏ハ、死ト傳ヘラレテ居リマシタ、後日ニ於テ生キタト云ッテ居ルノデアアル、此活殺自在ノ前首相ノコトヲバ、外國ノ諸新聞ハ新「アラビアンナイト」デアアルト、斯様ニ報ジテ居リマス、洵ニ我國ト致シマシテモ、此岡田前首相ノ態度コソハ洵ニ遺憾デアアルト存ズルデアリマス、而モ其文章ノ一節ニ依リマス、首相ハ押入ノ隅ニ隠レテ、下女某ノ握飯ヲ貰ッテ居ルト云フコトデアリマス、サウシタコトハ何故真相ヲ御發表ニナラナイカ、之ヲ統一シテ而シテ國民ガ此事件ハ左様デアッタカト云フ、肯定ヲシ得ルコトヲ御發表ニナルナラバ、敢テ不穩文書ナドモ出ナイノデアリマスガ、此點ヲ千載ノ後マデモ、之ヲ永遠ノ疑問トシテ封ジ置カレルノデアアルカ、此答辯ノ有無ニ拘ラズ、國民ノ一人ガ岡田事件ニ付テ其真相ヲ求メテ已マナイ者ガアルト云フコトダケヲバ、ハッキリト申上ゲテ置クノデゴザイマス、更ニ御尋ヲ致シマスガ、戒嚴司令部二月二十九日午前八時五十五分發表ノ所謂「兵ニ告グ」此内容ニ付テ御尋ヲ致シマス、其ノ中ニ「逆賊トシテ汚名ヲ永久ニ受ケルヤウナコトガアッテハナラナイ、今カラデモ決シテ遅クハナイカラ直チニ抵抗ヲ止メテ軍旗ノ下ニ復歸スルヤウニセヨ、サウシタラ今マデノ罪モ許サレルノデアアル」ト、御尋ハ此處デアリマス、成程私ハ前段ノ質問トシテハ、戒嚴司令官ガ斯ルコトヲバ如何ナル法律的根據ヲ以テ御發表ニナル權限ガアルヤ、若シ大命——勅ヲ奉ジテ申シマシタナラバ、無論ソレハ結構デアリマセウ、併ナガラ仄聞致シマスル所ニ依リマス、事件ニ關係致シマシタ兵隊ノ中デ、或ハ處罰ニ付セラレタ者アルヤニ仄聞スルノデゴザイマスガ、眞偽ノ程ハ分リマセヌ、若シアリト致シマシタナレバ、今カラデモ遅クナイ、罪ハ赦サレルト云フ其一言ハ、如何ナル程度マデヲ赦サレルノカ、恐ラク上官ノ命ニ依リマシテ事ニ從ヒマシタ者、其程度ニ上下ハナイ筈デアリマス、然ラバ其程度ヲ承リタイノデアリマス、御答辯ニ依リマシテ再質問ヲ致シマス

寺内陸軍大臣ノ應答

第一ノ御尋ニ對シテハ私ノ答辯ノ限リデナイト存ジマス、第二ノコトニ付キマシテハ、モウ度々



申上ゲタ所デゴザイマスカラ、ドウゾ速記録ニ依ッテ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス

前田君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

度々答辯ヲシタト云フ御話デゴザイマスガ、私ノ御尋致シマシタ遅クナイト云フ程度ノ所ハ承ッテ居ラナイヤウデゴザイマスガ、不敏ニ致シマシテ聽漏シタカモ知レマセヌガ、何時ドノ席デ御答辯ニナリマシタカ、御答辯願ヒタイノデアリマス

次テ兩件ハ一括シテ政府提出大正十二年法律第五十二號中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決シ委員會ハ審査ノ末孰レモ承諾ヲ與フヘキモノト決シ同月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ二及三ノ兩件ヲ一括シテ院議ニ付シ委員長岩崎幸治郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

昭和十一年勅令第十八號及ビ第二十一號ノ承諾ヲ求ムル件ニ付キマシテハ、一二ノ質問應答ガアリマシテ、採決ニ入りマシテ、全會一致承諾ヲ與フルコトニ決シマシタ、此段御報告致シマス  
討論ニ入り三ニ付清瀨一郎君ハ委員會報告ニ反對ノ演說ヲ爲ス

吾々ハ勅令第十八號、即チ一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルコトニ付テハ異議ハアリマセヌ、本年二月二十六日、七日ノ形勢ニ於テハ、戒嚴ヲ必要トシタコトト思ヒマス、是ニハ承諾ヲ與ヘマス、唯、今議題トナッテ居リマスル案中ノ勅令第二十一號、即チ東京軍法會議ノ一件デアリマス、此緊急勅令ニ依レバ、東京軍法會議ハ特設軍法會議ト看做サレテ、軍法會議法第九十三條ノ結果、事件ハ一審限リノ裁判トナリ、一切傍聽ハ禁止サレルノデアリマス、是モ亦已ムヲ得マ

スマイ、一審モ宜カラウ、傍聽禁止モ宜カラウ、唯私共人道ノ上ニ於テ如何ニモ遺憾ニ堪ヘマセヌノハ、是等ノ被告ニ對シ一切辯護ヲ禁止セラレタコトデアリマス、特別辯護人ヲ附セズ、一般辯護人ヲ附セズ、何等辯護ノ機會ナクシテ暗黒裡ニ二十數名ノ將校ヲ處罰スルト云フコトハ、憲法ノ理窟デナク、法律ノ理窟デモナイ、人道ノ上ニ於テ洵ニ涙ナクシテ黙過スルコトハ出來ナイノデアリマス、未開ノ國ニ於テ犯人ヲ「リンチ」ニ處スルト云フナラバ兎モ角デアリマス、世界第一等國ノ東京ニ於テ、今日ハ治安ガ維持サレテ居リマス、何等平常ト異狀ハナイ、然ルニ獨リ此軍法會議ニノミ辯護ヲ禁ジテ處罰スルノハ如何デアルカ、訴訟法ノ精神ニ於テハ、罪ガ重大デアレバアルホド辯護ヲ必要トスル、一般刑事訴訟法ニ於テモ、重大事件ハ官選辯護人ヲ附スル、軍法會議ニ於テモ、重大ナル事件ハ官選ヲ以テ辯護人ヲ附スルコトニナッテ居ル、嘗テ吾々ノ憂慮致シマシタ彼ノ幸徳事件デモ、難波大助事件デモ、傍聽ハ禁ジタガ辯護ハ許シテ居ルニ拘ラズ、樞密院諸君、何ヲ周章狼狽シタカ、辯護ヲ附セズシテ二十數名ノ青年將校ヲ處罰スルト云フコトハ、如何ニ考ヘテモ吾々ノ同意ヲ與フベカラザル件デアリマス、此議院内ニモ其意見ノアルト云フコトヲ、セメテハ議會ノ記録ニ殘シタイト思ヒマシテ、私共ハ敢然是ニハ同意ヲ與ヘナイコトニ決シテ居リマス

採決ニ入り二ハ院議異議ナク三ハ起立採決ノ結果孰レモ承諾ヲ與フルニ決シ即日其ノ旨奏上セリ

昭和九年度第一豫備金支出ノ件

昭和九年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和九年度特別會計豫備費支出ノ件

昭和九年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件

四

自昭和十年四月至同 年十二月 昭和十年度第二豫備金支出ノ件

(承諾ヲ求ムル件) (内容浩濶ナルニ依リ掲載ハ之ヲ省略ス)

第二章 議事

第三節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第三項 承諾ヲ求ムル議案 三四七



自昭和十年四月	自昭和十年四月
至同 年十二月	至同 年十二月
昭 和 十 年 度 特 別 會 計 第 二 豫 備 金 支 出 ノ 件	昭 和 十 年 度 特 別 會 計 豫 備 金 外 支 出 ノ 件

右ハ昭和十一年五月十二日本院ニ提出ス同月十八日院議ニ付シ中島大藏政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

昭和九年度第一豫備金支出外六件ニ關スル事後承諾ヲ求ムル件ニ付キマシテ御説明ヲ申上ゲマス、昭和九年度第一豫備金ノ豫算金ハ六百萬圓デアリマスガ、昭和九年勅令第二百六十五號ニ依リ、第一豫備金ヨリ補充致シマシタル主ナル事項ハ、軍事救護費、諸拂戻及補填金、受託造修費、刑務所收容費等デアリマシテ、其總額ハ六百萬圓デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ、其第一豫備金又ハ豫備費ヨリ、豫算超過ノ支出ヲ爲シタルモノガアリマス、次ニ昭和九年度滿洲事件第一豫備金支出ニ付キ申上ゲマス、昭和九年度滿洲事件第一豫備金ノ豫算額ハ千萬元デアリマス、次ニ昭和十年四月ヨリ同年十二月ニ至ル間ニ於ケル、昭和十年度第二豫備金支出ニ付キ申上ゲマス、昭和十年度第二豫備金ノ豫算額ハ二千三百萬圓デアリマシテ、昭和十年四月十七日ヨリ同年十二月十四日ニ至ル間ニ於ケル支出總額ハ千九百二萬八千五百六十六圓デアリマス、其中主ナル事項ヲ擧ゲマスレバ、應急土木事業助成費、砂防工事費補助、災害土木費、補助艦船損傷復舊費、風水害應急及復舊施設費、冷害應急施設費等デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ、其ノ第二豫備金ヲ以テ豫算外ノ支出ヲ爲シタルモノト、豫備金外ニ於テ其歲計剩餘金ヲ以テ豫算外ノ支出ヲ爲シタルモノトガアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御承諾ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマス

福田關次郎君及三宅正一君質疑ヲ爲シ有田外務大臣、林司法大臣、中島大藏政務次官、肝付内務參與官、平手陸軍主計總監及村上海軍主計中將應答ス

福田君ノ質疑

只今上程サレマシタ昭和九年度ノ第一豫備金支出ノ件、竝ニ昭和十年度ノ第二豫備金支出ノ件、竝ニ九年度滿洲事件費第一豫備金支出ニ關シマシテ、政府ニ質問シタイト存ジマス、此豫備金支出ニ關シマシテ、何時モ委員會ニ於キマシテ吾々ノ問題ニナルノデアリマスガ、元來豫備金ナルモノハ、緊急必要ナル時ニ、已ムヲ得ザル時ニ主トシテ是ガ支出ヲ行フベキモノデアルニ拘ラズ、年度内ニ於キマシテ、其豫備金ヲ設定致シマシタ金額ハ、之ヲ使用シナケレバ或ハ自分ノ省デ不利益デアルガ如クニ感ゼラレテ、其一定サレマシタ豫算額ダケ、即チ其豫備金ヲ一厘モ殘サズ使ヒ果スト云フ傾向ガアルノハ、今日ノ我が日本政府ノ、此豫算執行ノ上ニ於キマシテ、甚ダ遺憾ダト思フノデアリマス、即チ豫備金ノ制度ハ避クベカラザル所ノ豫算ノ不足第二豫備金ハ豫算外ニ緊急ニ生ジタル必要ニ充ツル爲ニ、此豫備金制度ナルモノガ拵ヘテアルノデアリマス、濫リニ之ヲ使用致シマススト云フコトハ、當然慎シムベキコトデナクテハナリマセヌ、豫備金ガ現存スルカラト云フ故ヲ以テ、緊急ナラザルモノニ、之ヲ分奪セントスル傾向ガアルト云フコトハ甚ダ遺憾デアリマス、是等ニ對シマシテ大藏省ハ如何ナル御考ヲ御持チニナルカ、年々歳々此豫備金ヲ、不必要トモ認メル部分ニマデモ使ッテ居ル事實ハナイカ、例ヘテ見マスト、九年度ノ第一豫備金ハ六百萬圓デアアル、其六百萬圓ヲ一文モ殘サズ、其儘或ル費途ニ充當シテ居ルト云フガ如キハ、不可解至極ト言ハナケレバナリマセヌ、殊ニ又豫備金ヲ一般豫算ト同一ニ思ッテ、其年度ニハドウシテモ使ヒ得ダト云フヤウナ傾向ニ流レテ居ルノデアリマセヌカ、此點モ私共ノ常ニ遺憾トスル所デアリマス、或ル省ノ如キハ豫備金ガアルカラト云フノデ、一厘モ之ヲ餘サズニ皆使果スト云フ、今マデノ因縁ヲ持ッテ居リマス、決算委員會ニ於キマシテモ、私共ハ此點ヲ餘程考慮セヨ、或ハ注意セヨト申シテ居リマスガ、年々是ガ改マリマセヌ、例ヘバ大藏省ニ於キマスル專



賣局ノ如キ、一定ノ年度ニ一定ノ食鹽ノ製造ヲ限定シテ豫算ヲ取リナガラ、滿洲鹽其他ノ不要ナモノヲ多ク買入レテ、色々ノ不要ナモノヲ豫備金支出ニ依ッテ爲スガ如キハ、斷ジテ許スベキモノデナイト私共ハ言ヒタイノデアリマス、此點ニ關シテ豫備金制度設置ノ根本趣意ニ反シハシナイカ、是等ニ對シテ政府ハ將來ドウ云フ御考ヲ御持チニナッテ居ルカ、次ハ滿洲事件費デアリマス、滿洲事件費ハ御承知ノ通り一千万圓デアリマスガ、外務省ガ使ヒマシタノガ五十六万三千圓、陸軍省ガ使ヒマシタノガ九百四十三万餘圓デアリマスガ、右ノ中滿洲ノ航空隊充備ト説明ガアリマス、航空隊充備ニ九百餘万圓ノ金ヲ使ヒマスト云フコトハ、相當ナ金額デアリマス、而モ之ヲ其年度内ニ消費シテ居ルノデアリマスガ、然ラバ唯充備費デハ分リマセヌ、飛行機何臺ヲ滿洲デ持ヘタノデアルカ、ドウ云フ所ニ此航空隊ヲ充備ナサレタノデアルカ、此邊ニ付テ明瞭ナ御答辯ヲ煩シテ置カナケレバ、吾々ハ輕々ニ之ヲ承認スル譯ニハ參リマセヌ、次ニ司法省ノ第一豫備金支出ニ付テ御伺シタイ、司法省ハ百五十七万餘圓ノ多大ノ經費増加ヲ要求シテ、豫備金カラ支出サレテ居リマス、然ルニ其理由トスル所ハ、收容人員ノ増加ニ依ルト云フコトダケデアリマス、司法省ノ豫算ハ澤山ナモノデハナイ、其中ニ豫備金ヨリ百五十七万餘圓ヲ取ルト云フコトハ相當ナモノデアリマス、此收容人員ノ増加トハ、何ヲ豫想サレテ何ガ増加シタノデアルカ、ドウ云フ犯罪ノ部分ガ増加致シタカヲ明ニ示シテ戴キタイト思ヒマス、私共惡ク考ヘマス、昭和十年度ニ之ヲ取ッテ居ルガ、昭和十年度ノ九月ニハ御承知ノ通り府縣會議員ノ選舉ガアリ、之ニ依ッテ罪ナキ所ノ犯罪人モ括リ上ゲヨウト云フ豫定ノ下ニ此金ハ取ッタノデハナイカト云フ疑ガアル、斯様ナコトハドノ部類ニ於テ、斯ノ如キ厖大ナル豫備金支出ヲシテ貴ハナケレバナラヌ程ノ、收容人員ガ増加サレタカヲ明ニシテ戴キタイ、次ハ外務省ニ關聯致シ、同時ニ關東局ニモ關係致シ、陸軍、拓務ニモ關係致シマス事件ニ付テ、是ハ民國、滿洲ニ於キマスル裁判事務ガ増加シタカラト云フノデ、此處デ御承知ノ通り豫備金ノ支出ヲ爲サレテ居ルノデアリマス、此滿洲及ビ中華民國ニアリマス在外公館ニ於ケル、此犯罪或ハ訴訟事務ガ増加シタカラ、此豫備金支出ノ必要アリト御要求ニナリマスガ、ドウ云フ點ガ之ヲ増加シテ居ルカ、此中ニ私ハ外地ニ於ケル帝

國ノ綱紀官紀ノ紊亂ノ事實ニ付テ政府ノ所見ト、將來ニ對スル覺悟ヲ伺ッテ見タイト存ジマス、昭和九年七月十二日カラ同十六日ニ掛ケマシテ、五日間ニ亙ッテ、アノ瓦房店ヲ中心ト致シマシテ、夜間運行政シマス滿鐵ノ貨車ガ、北方ニ向ッテ行カウトスル時ニ、其汽車ハ空轉ヲシテ、車軸ハ廻ッテ居ルガ進行シナイノデアリマス、能ク其原因ヲ調査シテ見タナラバ、百六十米ノ長イ間ニ、十九箇所ニアノ豆油ヲ「レール」ノ上ニ塗布サレテ居リマシタ、是ハ容易ナラザル犯罪デアリマス、而モ此十二日カラ十六日ニ至ル五日間ニ亙ル此犯罪搜查ニ對シテ、瓦房店警察ハ何ヲシテ居ッタカト云フ疑問ガ起ッテ來ル、一回起リマシタダケデモ、殊ニ昭和九年ノ七月ノ頃デアリマスカラ、事重大デアル、茲ニ滿洲事件費、滿洲警察費、巡查其他ノ給料ガ莫大ニ豫備金カラ支出サレテ居リマスガ、斯ウ云フ事件ハ果シテ如何ニシテ解決サレタノデアルカ、過般外務大臣其他ノ政府委員ニ、他ノ委員會ニ於テ質問スレバ要領ヲ得ナイ、然ラバ一昨年本件ニ付テ答辯シタル政府ノ答辯ト、今年答辯スル所ガ根本ガ違ッテ居ル、斯様ナコトハ帝國議會ト致シマシテハ不問ニ付シテ、斯様ナ厖大ナ豫備金支出ヲ盲信シテ承認スルコトハ斷ジテ出來ナイノデアリマス、其一ツノ内容ヲ申上ゲマスレバ、五日間ニ亙ッテ空轉シタガ、是ハ不思議デアルト云フノデ、守備隊ト警察署ガ協力シテ此調査ヲ致シマシタ結果、ドウモ犯人ハ其土地ノ商總會長等ガ之ヲ致シテ居ルヤウデアアル、所謂麻藥ノ密輸入團ノ存在スルコトガ略々推定出來タノデアリマス、茲デ警察ト守備隊トハ協力シテ犯人ノ搜查ヲ致シマシタガ、警察側カラサウ斯ウスル中ニ眞犯人ガ捕リマシタト言ッテ來タ、ソレハ何處カラカト云フト、普蘭店ノ決馬商會ノ干雲霖外二名ヲ眞犯人ナリトシテ連レテ來タ、ソコデ事重大デアルト云フノデ、守備隊ハ營口ノ憲兵隊ニ之ヲ移牒致シマシテ、事實ノ調査ヲ依頼シテ、嚴肅ナル調査ヲ開始スルコトニナッタノデアリマス、其當時警察ガ引擧ゲマシタ眞犯人ハ干雲霖、姜學敏、姜學武ノ三人デアリマス、所ガ愈々已ムナク守備隊ガ憲兵隊ニ報告シタカラ、憲兵隊ノ出動トナッタ、所ガ憲兵隊ハ之ヲ容易ナラザルモノデアルト致シマシテ、瓦房店警察署ニ向ッテ犯人ヲ引渡シテ呉レ、コチラデ調査シナケレバナラヌカラト云フノデアリマシタ、其結果ガ、犯人ハモウ普蘭店ニ送りマシタト云フコトヲ言ッテ、警察ガ取合ハナイノ



デア、此間ノ消息ダケデモ、相當ニ疑ヲ挾ム所ノ問題デアルト思フノデアリマス、ソコデ已ムヲ得ヌカラ憲兵隊ハ徹底的ニ本件調査ノ必要ヲ痛感致シマシテ、全力ヲ擧ゲテ調査ノ結果、今舉ゲタ干雲霖外三名ノ犯人ガ全然虚偽ノ犯人デアリ、捏造ノ犯人デアアルコトガ略々分タノデ、此處デ愈々憲兵隊デ調査致シマシタ結果、瓦房店ノ、即チ商總會長趙鵬程、或ハ萬人、其他ノ巨商ノ一密輸入團ト云フモノヲ發見スルニ至ッタノデアリマス、而モ同地警察署長ハ其署長以下數名ガ加擔サレテ居ル、是等ハ莫大ナル收賄者ト言ハレテ居ルノデアリマス、時ニ末光同警察署長ハ此事ガ分タト云フノデ、一大狼狽ヲシテ、即時營口ノ憲兵隊ニ行キマシテ、サウシテ大畑隊長ト面會シテ、是ガ採消シ運動ヲ開始シタガ、容易ニ是ハ事ガ濟マナイ、ソコデ關東廳方面ニ於キマシテモ常常ナ狼狽ヲシテ、東川奉天警察署長ト云フモノハ、其方面ニ於ケル相當ナ勢力者デアアル、其方面ニ泣キ付イテ、共同シテ採消シ運動ヲシテ、遂ニ是モ成功セズ、已ムナク外務省ハ營口領事館ニ向ッテ檢事ノ任命ヲシナケレバナラナカッタ、ソコデ檢事ノ任命ハ、高田書記生ヲシテ檢事取扱ヲ外務省ハ任命サレタノデアリマス、本件ニ付テハ昨年ノ委員會ニ於テ外務政府委員ハ之ヲ認メラレテ、今尙ホ速記録ニ殘ッテ居ルニ拘ラズ、此處デ高田檢事取扱ヲシテ警察署長其他ノ者ヲ逮捕ニ向ハセタノデアリマス、逮捕ニ向ヒマシタ所ガ、警察ハ俺ハ行カナイト、斯ウ云フコトニナツテ、警察權ヲ有セザル、日本ノ司法權ヲ代表スベキ、司法權行使ノ途ニアリマスル此高田檢事取扱ノ事務ハ執行不能ニ終ッタ、是ガ唯其儘トナリマシテ、日本ノ司法權ノ發動ハ、犯人アリト雖モ如何トモスルコトハ出來ナイ、是レ我が日本ノ外地ニ於キマスル司法權、行政權行使ノ上ニ於ケル重大ナル、將來ニ於ケル禍根ヲ貽スモノデハゴザイマスマイカ、斯ルコトヲ外地ノ官界ガ之ヲ爲ス、斯ルコトデハ我が日本ノ外地ニ於キマスル統制、或ハ司法權、行政權ハ全ク支離滅裂デ、己レ中心ニ悉ク行動ヲ爲シ得ルト云フコトモ疑ハレル、是等ハ此一局部ニ起ッタ問題トセス、苟モ帝國ノ威信ヲ中外ニ發揚セント致シマスルノニハ、時ノ政府ハ之ニ對シテ所謂一刀兩斷ノ解決ヲ與ヘテ、國民ノ疑惑ヲ一掃サルベキ必要アリト痛感致シマスルガ、政府ハ何ト御心得ナサレテ居リマスカ、此點ヲ明ニシテ貫ヒタイ、此重大事件ガ過日一部ノ政府委員ニ於テ、アノ問題

ハ不起訴ニナリマシタ、不起訴ニナッタ言ッテ、ドッチガ本當ノ犯人ナンダ、元ト拵ヘタ干雲霖等ガ、警察カラ言ヘバ眞犯人ダト言フ、憲兵隊ノ調査ニ依ルト云フト、瓦房店ノ商總會長等ガ悉ク密輸入團デアリマス、常識ヲ以テシテモ分ルデヤアリマセヌカ、自分ノ管轄ニアル所ノ其鐵道ガ、五日間ニ互ッテ夜間進行スル貨車ガ、ヤハリ此空轉ヲサセテ、其間ニ密輸入シタル所ノ品物ヲ皆降ロサスノデアアル、其事ガ健全ナル帝國ノ名譽アル、代表スル警察ニ於テ檢學ガ出來ナイトハ何事デアアル、一日一回出來タナラ、犯人ガ逃亡シタト言ヘバ、是ハ已ムヲ得ナイガ、五日間ニ互ッテ連續シタ所ノ繼續犯デアアル、是ガ分ラヌト云フコトハ、ドウ致シマシテモ私共ハ考ヘ及ブ所デハゴザイマセヌ、是等ノ問題ヲ明ニシテ置カナケレバナラヌ、要スルニ當時ハ此行政權ヲ、關東廳ヲ廢止シテ對滿——所謂軍部ニ之ヲ收メルト云フ時分ニ擧ッタ當時ノコトデアリマスルカラ、軍部ノ調査サレタコトガ事實デアアルノカ、警察署長ガ——高田檢事取扱ヲ任命サレタ外務省ガ間違ッテ居ルノカ、又是ハ司法權ノ發動ニ依ッテ調べニ行ッタケレドモ、自分ガ警察權ヲ持タナイカラ、此處デ遂ニ警察官吏ヲ逮捕スルコト能ハザルニ至ッタ、是ガ我が日本現代ニ於ケル司法警察官ト檢事トノ對立デ、將來ニ於ケル改革シナケレバナラヌ根本モ外地ト同ジデアリマス、司法大臣、司法省ハ此點ヲ餘程御考ニナラナケレバ、左様ナコトガ内地ニモ少クアリマセヌゾ、斯様ナコトデ我が日本ノ憲法、我が日本ノ司法權、我が日本ノ行政權ノ確保ト統一ハ、何ニ依ッテ爲スコトガ出來得ルノデアリマセウカ、私共ハ外地ニ於キマスル今ヤ我が日本ノ内容ハ、國民ノ生活ハ、實ニ此小サキ磯敷島ニ詰込マラレテ生活スルコト能ハズ、一人ノ「バン」ヲ七人、十人デ争ッテ居ル日本帝國ノ現狀デアリマセヌカ、此時ニ當リマシテ外地ニ於ケル所ノ政治、外地ニ於ケル所ノ行政、司法權ガ斯様ナコトデ、信賴シテ吾々ガ行ケルコトガ出來マセウカ、此點ヲ外務大臣、拓務大臣等ハ、又本件ニ關聯致シマシテ、幾分軍部モ關係ガアリマスガ、本件ハ憲兵隊ノ擧ゲタモノガ是カ、警察ノモノガ是カ、外務省ガ任命サレタ高田檢事取扱ノ行動ガ是カ、其間ニ於ケル明確ナル答辯ヲ煩シテ、國民ノ疑惑ヲ一掃致シタイト存ジマス、次ハ特別會計、大藏省專賣局ニ關スルモノデアリマス、專賣局ハ先程申上ゲマシタヤウニ永年ニ互ッテ非常ナ弊害ガアル、煙



草ノ買入、今度モ煙草ヲ捲ク紙ヲ買入ノ爲ニ、ヤハリ豫備金支出ヲ致シテ居リマスルシ、又鹽ノ過剰生産ニ依ッテ、豫算ニ不足ヲ生ジタカラト云フコトデ、緊急缺クベカラザル所ニ流用スル所ノ豫備金ヲ流用シテ居ル是ハ私共議會政治ノ上ニ於ケル缺點、缺陷ハ茲ニアツタコトヲ申シテ居ツタコトハ數年デゴザイマス、丁度專賣局ノ豫算ガ二百万圓見積ラレテ居ッテ、ソレヲ其一文モ殘サズニ、ソックリ取ッテシマツテ、サウシテ鹽ハ、私ハ一昨年ノ本議場ニ於キマシテ、即チ大藏省ノ專賣局ガ滿洲鹽ヲ安ク買ウテ、其間ニ不正ガアル、而モ鹽ヲ回送スル回鹽株式會社ト云フモノガアル、アノ當時不景氣デ、何レノ會社デモ五分以上ノ配當ハ政府モ禁ジ、爲スコト能ハザルニ拘ラズ、回鹽會社ダケハ二割乃至三割ノ配當ヲシテ居ル、政府ハ此鹽ヲ運ブダケノモノデアリマシテ、此間ニ不自然ナル支出ヲ爲シテ、其當時モ豫備金ヲ支出シタカラ、本員ハ斯様ナコトハ斷ジテ許スベキモノデナイト申上ダタ答デアリマス、然ルニ今又年月ヲ多ク經ザルノニ、又再ビ斯ウ云フコトガアツテ、此二百万圓ト云フ金、貴重ナル國民ノ膏血ヲ何ニ依ッテ使ハレタカ、鹽ノ生産ガ足ラナカッタ、サウシテ鹽ハ日本ノ國內ニ於テ幾万、キロレノ剩餘ガアル、外地ニ出スモノガ幾ラト云フ計算ガ付イテ、年々豫算ニ依ッテ之ヲ取ッテ居ルノニ、二百万圓ト云フ所ノ鹽ノ生産費ハ莫大ナル量ニ上ルノデアリマス、此量ノ如キハ二箇年間使ヒ果シテモ、マダ使ヒ果セヌ程ノ鹽ヲ買込デ居ル、斯様ニシテ豫算ノ所謂流用、惡用ヲ致シマシテ、豫算ノ餘リニ付テ斯様ナコトヲスル、豫算ガ尙ホ餘ルノニ、豫備金ニマデ手ヲ付ケルト云フ如キハ、歴代ノ我が政府及ビ大藏當局ノ行政執行ノ上ニ於キマスル所ノ大ナル失態デアアル、大藏行政上ノ大ナル失態デアリマスカラ、是等ノ點ヲ能クオ互ガ改革ヲ爲ス所ノ途ヲ圖ルニアラザレバ、帝國議會ノ權能ノ問題ニ缺ケル所ガアルノデハナイカ、吾々ハ飽マデモ此點ヲ追究致シマシテ、大藏當局ニ伺ッテ、一大改革ヲ茲ニ叫バナケレバナラヌノデアリマス、次ニ海軍省、十年三月青森縣ノ東海面ニ於テ潜水艦伊號五十三號竝ニ六十三號ノ、此處デハ觸衝トナツテ居ル、吾々ハ衝突ト言ヒマスガ、觸衝ダカラ大シタコトハナイニ違ヒナイ、之ニ對シマシテ相當ナル豫備金支出ヲ爲サレテ居ルコト、續イテ本州東方海面激浪ニ遭遇シテ、驅逐艦夕霧ノ損傷ノ爲ニ費用ガ要ル、其結果是ニ於テ其金ヲ要求

スルノダト云フコトニナツテ居リマスガ、然ラバ此青森縣東海面ニ於ケル潜水艦五十三號ト六十號トノ其觸衝ノ程度、之ニ要シマシタ費用ノ實際ノ見積ヲ御伺シタイ、同年九月ノ東方海面激浪ニ遭遇シタ驅逐艦夕霧ノ損傷ノ程度、又是ハ激浪ノ爲ニ損傷ヲ來シタルデアアルカ、他ノ障礙物ト是ガ衝突ヲシテ、此莫大ナル豫算ヲ要求シナケレバナラヌ程ノ費用ガ入用ト相成ッタノデアアルカ、其邊ノ内容ヲ詳細ニ御示シアリタイト思ヒマス、又倫敦軍縮會議ニ對シマシテ、御承知ノ通り四十一萬餘圓ヲ要求シテ、是ガ悉ク費消サレテ居リマス、是亦豫備金ヨリ支出シテ居ル問題デアリマスルガ、此倫敦軍縮會議ノコトニ付テハ、今日日本員ハ彼此レ申シマセヌ、所謂國家ノ體面、國家ノ將來ヲ慮リマシテ何モ申シマセヌ、唯此四十一萬餘圓ノ中ニ、機密ニ屬スルモノガ幾何デアアルカト云フコトヲ、御示シテ願ヒタイト思フデアリマス、次ニハ外務省——拓務省ニモ多少關係ガアリマスガ、ヤハリ外地ノ網紀問題デアリマス、青島領事館ニ起リマシタ大不正事件、即チ是デアリマス、此點ニ付テ私ハヤハリ豫備金ヲ、即チ中華民國、滿洲ニ於ケル所ノ領事裁判事務ガ多イ爲ニ、莫大ナル御要求ニ相成ツテ居ル、此青島領事館ノ副領事ニ茂木藤次郎ト云フ者ガ居ツタ、此人ガ勤務中、官金ト公金ヲ合計シテ約四十二萬餘圓ヲ費消致シタル事件、此巨額ノ金ハ政府ノ言フ所デハ、昭和二年四月ヨリ十年五月ト仰セニナツテ居ルヤウデアアル、ケレドモ事實茂木某ハ昭和十五年時代カラ投機ニ手ヲ出シテ有ユル濫費ト、有ユル放漫ナル生活ヲシテ居ツタト云フコトヲ、本員等ハ之ヲ知ッテ居ル、假令政府ノ言ハレル昭和二一年カラ十年迄ダト致シマスルニシテモ、此莫大ナル官金公金ヲ費消致シマスルノニハ、數年間ニ互ル繼續犯デアリマス、其巨額ノ費消サレテ居ル事實ニ徴シマスレバ、其當時犯罪アリト認メルコトハ當然デアアル、ソレガ爲ニ歳出歳入上ニ莫大ナル支障ヲ來シテ居ルデハゴザイマセヌカ、其費消項目ハ主トシテ船舶出入港取扱手数料ヲ橫領シテ居ルコト、ソレカラ旅券査證料ヲ橫領シテ居ルコト、ソレカラ居留民團ヨリ納付ノ政府貸付金ニ對スル利息七年ト八年度分、約十三萬四千圓ヲ橫領シテ居ル、收入印紙ノ賣上代金、居留民團ニ交付スル所ノ青島小學校ヘノ補助金、或ハ對支文化事業特別會計ノ分ダケデモ八萬餘圓、其他デアアルノデゴザイマス、之ヲ合計致シマスルト、四十餘萬圓ノ巨額ニ上ル



ノデアリマスルガ、政府ノ言ニ從フモ、約八年間ノ繼續犯デアル筈デアリマス、此長キニ互リマスル大不正事件ガ、今日ニ至ル迄判明シナカッタト云フコトハ、是ハドウ云フコトデゴザイマスカ、此點ガ外地ニ於キマスル官紀モ、會計法モ全ク支離滅裂ダト——私ハ皆トハ申シマセヌ、先程申シマシタガ、是等ヲ見マシテモ實ニ驚クベキコトデハゴザイマセヌカ、内地ニモ固ヨリ斯様な例ハ少クアリマセヌガ、併シ外地ニ居ラレマスル官吏ハ僅カノ數デアリマシテ、斯様ナコトガアルト云フコトハ洵ニ遺憾ノ極ミデアリマス、然ラバ政府ハ斯ル監督上ノ無責任ガ誰ニ歸スルノデアリマスカ、外務大臣ニアルノカ、時ノ總領事ニアルノカ、其無責任ナ八年間ノ長キニ互ル所ノ、斯ウ云フ綱紀紊亂ヲ默認シテ、無視シテ、サウシテ帝國議會ニハ其報告ナクシテ、議會ヲ欺イタトモ言ヒ得ルコトデゴザイマセウ、是等ハ如何ニ相成ルモノデアリマスルカ、當時斯ル官金保管ノ責任ニアリマシタ者ハ誰デアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ、私ノ推定スル所ニ依レバ、當然總領事デナクテハナラナイ、今日ノ會計法ノ上カラ申シマシテモ、其出納官吏タル者ハ當然是ハ總領事デアアル、サウシテ茂木某ト云フモノハ會計補助官デアッタ、補助官ト言ヘバ分掌官吏デアリマスカラ、隨テ是ニ於テ、是ガ國家ノ官金及ビ公有物ヲ費消シタニ對スル、責任ノ歸屬點ヲ發見シナケレバナラヌコトニ相成ル、會計法ノ命ズル所ハ、全然御無視ニ相成ッテ、斯様ナコトヲ默認サレテ居ルノカ、法律アリト雖モ之ヲ眼中ニ置カズト致シマスルナラバ、國家ノ機構、國家ノ統制、何ニ依ッテ運用致スコトガ出來ルノデアリマセウカ、然ラバ何故ニ八年間、私ノ考デハ丁度十箇年間ニナリマスガ、此不正ガ判明セザルカト云フ所ニハ、共犯ガアルノデハナイカ、一人ノ領事官補デ以テ四十幾万圓ト云フ金ハ、容易ナラザルモノデアリマス、是ガ一人ノ力ニ於テドウシテ消費サレ、是ガ分ラズニ居ルカ、數人ノ或ハ共犯ナクンバ、斯ル犯罪繼續ヲスルコトハ斷ジテ出來ヌト思ヒマス、外務大臣ノ之ニ對セラレマスル御所見ヲ伺ヒタイト存ジマス、其後金員ノ辨償方法ハ如何ニ相成ッテ居リマスルカ、國家ニ損害ヲ掛ケタトナラバ、明ニ出納官ハ是ガ補償ノ責任ニ任ジテ居ルノデアリマス、其後國家ニ對スル補償ハ如何ニ相成ッテ居ルカ、其總領事ハ現在如何ナル所ノ如何ナル地位ニオ居デニナリマスカ、如何ナルコトヲ爲サレテ居ルカ、一切ノ

實情ヲ明答アリタイト思フノデアリマス、尙ホ御注意ニ申上ゲナケレバナラヌ、帝國議會トシテモ考ヘナケレバナラヌコトハ、會計法ノ法規ノ三十五條ニ依リマシテモ「出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ、出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ」ト命ゼラレテアリマス、其第三十六條ニハ、出納官吏其保管ニ係ル現金又ハ物品ノ亡失毀損シタルトキハ、善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計検査院ニ證明シテ、其責任解除ノ判決ヲ受クベシ、其判決アルニ非ラザレバ、如何ナルコトアルト雖モ、斷ジテ責任解除ノ途ニ出ヅルコトハ相成リマセヌ「其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス」トアルノデアリマス、今會計規則ニ依リマスルト、第三百三十二條ニ「出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル現金ノ出納保管ニ付單ニ自ラ事務ヲ執ラサルコトヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス」トアル、出納官吏デアリシ其當時ノ總領事タル者ハ、絕對ニ其責任ハ免ルル所ノ餘地ハアリマセヌ、又其百三十四條ニハ「各省大臣ハ出納官吏又ハ出納員ノ行為ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決前ト雖其ノ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ヲ命スルコトヲ得」トアリマスガ、之ニ對シテ外務大臣ハ如何ナル御處置ヲ今日マデ御執リニ相成ッタカヲ伺ヒタイ、又百三十六條「出納官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日又ハ轉免、死亡、退職其ノ他異動アリタルトキ所管大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ」トアリマシテ、絕對ニ毎年検査ヲシナケレバナラヌコトニ相成ッテ居ル、此検査ヲ毎年致シマシタナラバ、此十年間ニ互ル所ノ繼續犯ヲシテ、國家ニ莫大ナル損害ヲ掛ケルコトガ出來得ルモノデハゴザイマセヌ、此點ハ果シテ政府ハ嚴肅ニ法規ノ命ズル所ヲ行ッテ居ッタルデアアルカ、是等ノ點ニ於テ政府ノ所信ヲ行ハレテ居ッタルバ、一通ハ即チ其立會ウタ所ノ現職官ニ——一枚ハ検査ヲ致シマシタ所ノ者ニ渡シ、一枚ハ時ノ主務大臣ニ向ッテ御送りシナケレバナラヌカラ、ソレハ毎年ノ報告書ハ外務省ニ現存シテアルト云フコトガ、當然ノ歸結ト思ヒマスルガ、是ガアリマスカドウカ、私共過般來——私ハ一口申上ゲマスガ、現外務大臣ヲ私ハ御責メスル譯デハゴザイマセヌ、過般ノ決算委員會ニ於キマシテモ、アナタニサウ云フコトヲ申シテ居リマス、併ナガ



ラ前任者ノシタコト、雖モ、現在國務大臣トシテ其席ニオ居デニナルカラニハ、全部ノ責任ヲ雙肩ニ擔フト云フコトハ當然ノ歸結デアリマス、又是ガ處置ニ付キマシテモ、當然ナル責任ガ茲ニ歸屬シナケレバナラヌコトハ、御諒承ニ相成ッテ居ル筈ダト思フ、是等ニ對シマシテ外務大臣ノ明快ナル御答辯ヲ煩シマシテ、サウシテ日本國民全體ガ相當ニ之ヲ認識シテ居ル問題デアリマスカラ、國民ガ此疑惑ヲ一掃スルコトガ出來マスルヤウナ途ヲ御執リニナルト云フコトガ、更始一新内閣ノ使命ナリト信ズルノデゴザイマス、昭和九年、昭和十年度支出ニ付テ御伺シタイコトガアリマス、豫算ニ内務省ガ非常ナ杜撰ナ御豫算ヲナサレタノデアルカ、驚クベキ項目ガアリマス、ソレハ軍事救護費ノ件デアリマスガ、當初豫算ヲ立テラル、ニ當リマシテハ、慎重精査ヲナサレテ、帝國議會ニ豫算ヲ御請求ニ相成ルノガ、議會ニ對スル時ノ政府ノ當然執ルベキ途デアアルノデゴザイマスガ、其當初豫算ハ百八十一萬餘圓ヲ議會ニ御請求ニ相成ッタモノト思ヒマス、政府ノ責任トシテ當然ノコトデアリマス、其百八十八萬圓ヲ濟ムモノニ對シテ、又百萬圓ト云フ此緊急已ムベカラザル豫備金ヲ御要求ニナッテ居ル、此點ハドレダケノ御見込違ヒデアッタノカ、ドウ云フ理由デ、是ダケノ、殆ド七割以上ノ増加ヲ來スト云フコトハ、内務當局當初ノ豫算編成ノ一大失態デアルノカ、或ハ又何等カノ非常ナル事件ノ結果、斯様ナコトガ招來シタノデアルカ、固ヨリ吾々ハ軍事救護費ノ支出ニ付キマシテハ、絕對ニ是ハ必要デアリマシテ、之ヲ阻ム者デモナケラネバ、邪魔ヲスル者デモアリマセヌ、此救護ヲ要シマスル所ノ國民ニ對シマシテハ、帝國ハ喜ンデ是ガ救護ノ任ニ當ルコトハ當然ナル義務デアリマス、唯當初豫算ノ査定ニ莫大ナル缺點ガアッタノデアルカ、其責任、是亦何人ガ御負ヒニナルノデアルカト云フコトヲ承ッテ置キタイ、其次ニハ第一豫備金支出中ニハ警察費連帶支辨費ト云フモノガアリマス、是ハ十年度末ノ三月二十九日デ、其年度ハ一日シカアリマセヌ、モウ餘ス所ノ其年度ハ一日シカナイノニ、莫大ナル豫算ヲドウシテ之ヲ御消化ニ相成ッタカ、是ガ今マデノ我が日本ノ政府ノドウモ非常ナ缺點デアリマス、明日一日シカナイ時ニ何百万ト云フ金ヲ取ル、ドレダケノ魔術ガアルカ知ラヌガ、其間ニドウシテ是ダケノ金ガ使ヘルカ、此點ハ豫算惡用ノ事實ノ例ト言ハナケレバナリマセヌ、之ニ關聯

致シマシテ思當ルコトハ、警察費ノ緊急要求ヤ増大ノ場合ニハ、多クハ已ムヲ得ナイコトデアリマセウ、併シ現在ノ如キ官權ノ濫用、人權ノ蹂躪、續イテ暴行脅迫ヲ助長スルガ如キ警察費ノ増大ニハ、斷ジテ反對シナケレバナラナイ、是等ノ人權蹂躪、憲法無視、選舉干涉ノ不行爲ニ付テハ、特別議會ニ於テ、モウ既ニ内務大臣其他ノ方々ハ十分ニ御認識ニ相成ッテ居ルコトト思ヒマス、併シ私ハ此處デ、不穩文書其他ノ取締法案ノ行惱ミモ、是ハ議會ノ罪ニアラズシテ、今日マデ政府官憲ガ法ノ惡用曲解ヲシテ來タ結果ノ產物デアッテ、其罪ハ斷ジテ政府ニアルト言ハナケレバナリマセヌ、本員ガ人權蹂躪、暴行脅迫ヲ助長スル爲ニハ、其警察費ノ増大ヲ來シテハ相成ラヌ、嚴禁スベキモノダト今申シマシタガ、然ラバ其一例ト致シマシテ茲ニ申上ゲマス、澤山申上ゲレバ時間ガアリマセヌカラ、一例トシテ、今日マデ選舉法違反取締ニ關スル官權ノ濫用ニ付テハ、各先輩諸公ヨリ有ユル事實ヲ摘發サレマシテ、之ヲ御述ベニナリマシタガ、私ハマダ其中ニ現レテ居ラヌ一ツノ例ヲ申上ゲテ、内務大臣、司法大臣、總理大臣等ノ御反省ノ基礎ニ致シテ見タイト存ズルモノデアリマス、又現在此帝國議會デ官權濫用、人權蹂躪ノ聲高キ時ニ於テ、マダ其聲ガ高イノニ、事實ニ於テ地方ニ於テハ、今日今モ毆ラレツ、アル事實ヲ私ハ見テ居ル、帝國議會ヲ侮辱スル是ヨリ甚シキモノハゴザイマス、實ニ恐怖地獄ヲ今日出現シテ居ルノデゴザイマス、此點ハ何レ私ハ別箇ノ機會ニ於テ政府ニ御問致シタイト云フ考デ此處ニハ申シマセヌ、一ツノ實例ト申シマスノハ、昨年ノ四月畏クモ滿洲國皇帝陛下我國ヲ御訪問ニ相成リ、其御京都市ヘ御訪問ノ榮ヲ賜ッタノデゴザイマス、其前ニ於テ警察ハ萬一ノ事アッテハト、有ユル方面ノ人々ヲ多數檢束致シタノデアリマス、其中二年二十一歳ノ白面ノ書生鰐淵清寅ナルモノガゴザイマシタ、此者ハ正業ヲ持ッテ、或ル有數ナル製本屋ニ數年間印刷工トシテ勤メ、熟練工ノ一人デアリマス、此者ガ色々ナ疑惑ヲ受ケテ、遂ニ京都市西陣警察署ニ引張ラレタノデアリマス、其拷問ノ仕方ハ此處デ申上ゲルノモ帝國ノ恥辱トシテ、私ハ御控ヘ申シマス、今日徳川專制政治デハゴザイマセヌ、畏クモ英邁ニ涉ラセラル、天皇陛下ヲ戴キ奉リ、今日日本國民ノ總テハ陛下ノ忠良ナル赤子デゴザイマス、此者ニ對シテ何等法ノ據ルベキモノナキニ拷問ヲ致シ



テ、有ユル毆打、有ユル苦シミ、有ユル所ノ方法ヲ用ヒテ、遂ニ四月四日午後七時死ニ至ラシメタ  
 事實ガアル、之ヲ致シマシタ者ハ時ノ警部補田中、又之ニ加擔致シタル者モ數人アツタ筈デアリ  
 マス、其田中文一郎ガ主トナツテ數人ト共ニ遂ニ撲殺シタノデアリマス、是等ハ今回ノ選舉ニモ  
 斯様ナ例ガ少クナイコトハ、過般來ノ議場ニ於テ相當ニ論議サレテ居リマス、併シ是ハ選舉ニハ  
 關係ハアリマセヌ、王道政治、仁政ヲ以テ御臨ミアラセラル、滿洲國皇帝陛下御來臨ニ當リマシ  
 テ、其下ニ於テ斯ノ如キコトノ行ハレタト云フコトヲ見ル時ニ、吾々今日日本國民ハ何ノ顔アッ  
 テ之ニ相對スルコトガ出來マセウ、斯ルコトヲ私共ガ今日ニ見ルコトハ、實ニ恐ルベキモノデア  
 リマシテ、而モ是等ノコトヲ爲シタ所ノ署長ガ、管理監督ノ任ニアル署長ガ、今ニ其任ニアッテ恬  
 トシテ其責任ヲ顧ミル所ガナイト云フコトニナルナラバ、日本ノ官界ノ綱紀ノ紊亂、官紀ノ紊  
 亂、實ニ驚クベキモノガアルト國民ハ思ウデアリマセウ、是等ニ對シテ内務及司法大臣ハ如何ナ  
 ル御感ジヲ御持チニナルカ、此恐ルベキ此世ナガラノ活地獄ヲドウシテ救済ヲスルカト云フ具  
 體案ヲ示スニ非レバ、吾々ト致シマシテ、國民トシテ安心シテ今日ノ政務ヲ託スルコトハ出來ナ  
 イ、之ニ對スル確固タル御所見ヲ兩相ヨリ承リタイノデアリマス、茲ニ一言簡單ニ申加ヘテ置キ  
 タイノハ、法律ハ如何ナル規定ガアリマシテモ、我が日本ノ國民ハ忠良ナル帝國ノ國民デアリマ  
 ス、其ノ 陛下ノ赤子デアリマスノニ向ツテ、官憲ガ多クヲ罪人ノ如クニ認識スル態度ハ、遺憾千  
 萬ノ極デハゴザイマスマイカ、我が憲法御發布ノ御勅語ノ中ニモ「朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマ  
 ヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ」云々ト仰セラレタ、又御勅諭ノ中ニハ「朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良  
 ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ」ト仰セニナツテ居リマス、明治大帝御登極ノ砌御降シ給ウタ御  
 製ノ中ニモ「罪アラバ我ヲ罪セヨ天ツ神民ハ朕ガ生ミシ子ナレバ」ト仰セ出サレテ居ル、又一ツ  
 ニハ「降ルニツケ、照ルニツケテモ思カナ水田ニ立テル賤ハ如何ニト」大御心ヲ國民ノ日常ニマ  
 デ御馳セニナツテ居ルノデアリマス、憲法ノ上ニ於キマシテハ即チ「法律ニ依ルニ非スシテ逮捕  
 監禁審問處刑ヲ受クルコトナシ」ト保障セラレテ居ル、是レ明治大帝ノ大御心デアリマス、今日  
 ノ官憲ガ憲法ヲ輕視シ、之ヲ無視スルノハ、明治大帝ニ對シ奉リ叛逆者ト言ハレテモ辯解ノ辭ハ

ナカラウト思フ、同時ニ之ヲ助長致シマスルコトハ、皇室ニ對シマスル念慮ガ薄クナルノデハナ  
 イカト云フコトヲ國民ハ疑フノデハナイカ、官吏タル者ハ此 陛下ノ大御心ヲ體シテ、信ヲ盡  
 シ、實ヲ盡サナクテハナラヌ、其犯人ヲ檢舉シテ之ヲ自白セシメルノニハ、昔ノ大岡裁キノ如キ  
 モノヲ警官ニ能ク讀マシテ、又司法當局モ能ク之ヲ御覽セラレテ、今日ノアナタ方ノ裁キヲ爲サ  
 ル上ノ至寶ト爲サレタイ、私共マダ申上ゲタイコトハ多クアリマスガ、一方ニ於テ莫大ナル豫備  
 金、國民ノ膏血ヲ取ツテ置イテ、サウシテソレヲ以テ斯ノ如キコトニ相成ルトスルナラバ、我が日  
 本ノ民心ノ惡化ハ其處カラ發シテ參リマス、警察ニ行ツタ者デ罪ナキ者デモ反感ヲ起シテ、今ニ  
 見ロト云フ心ヲ茲ニ懷カシメルコトハ、日本ノ國民精神惡化ノ根源モ此點ニ於テ製造スルデハ  
 ナイカト云フ威ヲ國民ニ懷カスニ至ルノデアリマス、之ハ餘程御考ニナラナケレバナラヌ、即チ  
 政ハ——大臣ヤ政府委員ガ貴キニ居ツテ貧シキヲ忘ル、ト云フコトハ、治國平天下ノ要諦デハゴ  
 ザイマセヌカラ、此邊ヲ能ク御翫味下サツテ本員ノ此質問ニ對シテ、國民ノ疑惑ヲ一掃スルニ足  
 ルベキ、現内閣ヲ信賴スルニ足ルベキ、明快ナル御答辯アランコトヲ御願致シマシテ、私ノ質問  
 ハ是デ打切りマス

有田外務大臣ノ應答

只今ノ御質問ニ對シテ答辯致シマス、瓦房店ノ警察署ノ警官ノコトニ付キマシテハ、取調べマシ  
 タ所、營口領事館警察ニ於キマシテハ、一昨年以來關係者八名及ビ警察官三名ニ對シテ、訊問取  
 調ヲ繼續致シマシタガ、何レモ事實ヲ否定シテ居リマスノミナラズ、本件唯一ノ證據トナルベキ  
 滿人ノ自白モ信ヲ置キ難イ狀況デアリマシテ、犯罪ノ證據ガ十分デナカッタ爲ニ、昨年ノ十月二十  
 一日不起訴處分ニ付スルコトトナツタノデアリマス、又之ニ關聯スルト稱セラレテ居リマス所ノ  
 滿人ノ姜學敏外二名ハ、普蘭店ニ住居ヲ有シテ居リマシタ爲ニ、瓦房店警察署ニ於キマシテ之ヲ  
 檢舉シ、關東州官廳ニ引渡サレ、地方法院ニ於キマシテ取調べマシタケレドモ、是亦證據不十分  
 ニテ釋放サレタト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、次ニ倫敦會議ノ費用ノ機密費ハ幾許デ